

一般国道23号中勢道路（10工区）建設事業に伴う

替田遺跡(第1・2次)発掘調査報告

2008（平成20）年3月

三重県埋蔵文化財センター

序

三重県の県庁所在地である津市は、伊勢湾や鈴鹿山脈の豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれ、人々の歴史とともに豊かな文化遺産が培われてきました。特に安濃川流域には、弥生時代の中心集落である納所遺跡や、6世紀から7世紀の古墳400基以上からなる長谷山古墳群などがあり、当時の文化の一端をうかがい知ることができます。

今回報告する替田遺跡は、一般国道23号中勢道路建設に伴い遺跡の現状保存が困難な部分について、緊急の発掘調査を実施して記録保存を行った遺跡です。調査の結果、弥生時代の竪穴住居や土坑、平安時代末から鎌倉時代初めの掘立柱建物など、多数の遺構、膨大な量の遺物が見つかり、貴重な調査成果を得ることができました。

開発が進み、私たちの生活が豊かで便利になることは喜ばしいことではありますが、古くからこの地に生活していた人々が残した文化財を保存し、活用していくことも大切です。このような文化財を現代に生きる人々、とりわけ未来を背負う子供たちに広く知っていただき、文化力豊かな地域の創造に役立てていただけることを切望いたします。

最後に調査にあたりまして多大なるご協力をいただきました関係諸機関ならびに地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

三重県埋蔵文化財センター
所長 吉水康夫

例　　言

- 1　本書は三重県津市南河路字替田ほかに所在する替田遺跡（A～D地区）の報告書である。
- 2　調査は、三重県教育委員会が国土交通省中部地方整備局（平成13年1月の省庁再編までは建設省中部地方建設局——以下略）の委託を受け、平成8年度にA・B・D地区の調査を、平成9年度にC・D地区の調査を実施した。また、整理・報告書作成業務は、平成8年度から断続的に進めてきた。現地調査ならびに報告書作成にかかる費用は全額国土交通省中部地方整備局の負担による。
- 3　調査の体制は下記のとおりである。
 - ・調査主体　三重県教育委員会
 - ・調査担当　三重県埋蔵文化財センター
 - ・調査協力　津市教育委員会
　　　　　　鈴鹿市教育委員会
 - ・現場作業　社団法人中部建設協会
- 4　現地調査は、平成8年度にA・B・D地区を池端清行・水橋公恵が、平成9年度にはC・D地区を水橋公恵・筒井昭仁・西村美幸が担当して実施した。
- 5　本書作成にかかる報文執筆は、IV　自然科学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社が行い、それ以外は上村安生が行った。遺物の写真撮影は原田恵理子が行い、遺物写真図版を作成した。遺構写真図版作成は野鳥美沙子が担当した。
- 6　室内整理については、市川嘉子・太田浩子・森川絹代・鈴木　妙・黒川敬子・蒔田やよい・新田智子・山口香代・北岡佳代子・西山実公子・野田摩耶の協力を得た。
- 7　発掘調査ならびに整理・報告書作成にあたっては、青木哲哉（立命館大学）に御指導・御教示を賜った。記して感謝の意を表したい。（敬称略、所属は当時）
- 8　替田遺跡については、既に『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報』IX・X（三重県埋蔵文化財センター　1997・1998）、『中勢道路ニュース』No.29・32にその調査途中の概要を報告しているが、本書をもって正式報告とする。
- 9　本書で報告した記録類および出土品は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　　例

＜地図類＞

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1：25,000地形図、津市都市計画図である。
- 2 これらの地図類は、国土地理院発行地形図を除き、国土調査法の日本測地系による座標第VI系で表現されているものであるため、平成14年4月から施行されている世界測地系には対応していない。
- 3 挿図の方位はすべて座標北で示している。なお、真北は座標北の西偏0度16分、磁北は座標北の西偏6度40分である。

＜遺構類＞

- 4 当報告書での遺構番号は、三重県埋蔵文化財センター調査の替田遺跡第3～8次調査の番号との混乱をさけるため4桁の番号となっている。
- 5 遺構等の断面図で、平面図の相当位置に矢印があるものは、立面図となっている。
- 6 遺構番号の頭には、見た目の性格によって、以下の略番号を付けている。
堅穴住居：S H　掘立柱建物：S B　土坑：S K　井戸：S E　溝：S D
柱列：S A　　道路：S R

＜遺物類＞

- 7 当報告での遺物実測図類は実物の1／4を基本としている。それ以外の縮尺のものについては、その都度指示している。
- 8 遺物観察表は、以下の要領で記載している。
報告番号……………当報告書での挿図掲載番号である。
実測番号……………実測段階の登録番号である。
器種……………遺物の器種を示す。
出土地区……………調査時に設定した4m方眼の地点を示す。
出土遺構……………出土した遺構や層位を示す。
法量(cm)……………遺物の法量を示す。(口)は口縁部径、(底)は底部径、(器高)は高さを示す。
土錐などは重さを示した。
調整・技法の特徴……………主な特徴を外面(外:)・内面(内:)で示した。
胎土……………小石等の混和材を除いた素地の緻密さを「密～粗」で区分した。
焼成……………良・不良で示した。
色調……………その遺物の代表となる色調を記載した。表記は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(23版 日本色研事業株式会社1967年)を基準とした色調を表現した。
残存……………遺物の残存度を示した。
備考……………その他、遺物の特徴となる事項を記した。

＜写真図版＞

- 9 挿図と写真図版の遺物番号は、それぞれの遺跡毎の報告書番号と対応している。
- 10 遺物の写真図版は、特に断らない限り縮尺不同である。

本文目次

I	前言	1
	第1節 調査の契機と経過	1
	第2節 調査の体制	1
	第3節 調査の経過	2
	第4節 調査の方法	2
	第5節 整理作業の方法	4
II	位置と環境	5
	第1節 地理的環境	5
	第2節 歴史的環境	5
III	遺構と遺物	9
	第1節 A地区の調査	9
	第2節 B地区の調査	9
	第3節 C地区の調査	12
	第4節 D地区の調査	12
IV	自然科学分析 パリノ・サーヴェイ株式会社	103
V	まとめ	125

挿図目次

第1図 調査区配置図	3
第2図 遺跡地形図	6
第3図 替田遺跡と周辺の主要遺跡	7
第4図 替田遺跡弥生時代遺構配置図	14
第5図 A地区土層断面図	15
第6図 A地区出土遺物実測図1	16
第7図 A6地区下層トレンチ土層断面図	16
第8図 A3～A6 B地区南端平面図	17～18
第9図 B地区東壁土層断面図	19
第10図 B地区北壁・C地区拡張部南壁土層断面図 C地区拡張部地震痕跡	20
第11図 SH1173・1179・1184実測図	21
第12図 SH1186・SH1196実測図	22
第13図 SH1186焼失家屋炭化材出土状況図	23
第14図 SB1227・1230・1232・1233実測図	24
第15図 SB1228・1229・1231実測図	25
第16図 SB1234・1235実測図	26
第17図 SK1120・1124・1125・1127 平面図、土層断面図・見通し図	27
第18図 SK1142・1146・1211 平面図、土層断面図・見通し図	28
第19図 SK1212平面図、土層断面図・見通し図	29
第20図 SK1210平面図、土層断面図・見通し図	30
第21図 SK1132・1185・1136 平面図、土層断面図・見通し図	31
第22図 SK1188・1139 平面図、土層断面図・見通し図	32
第23図 SK1209・1220・1222・1223 平面図、土層断面図・見通し図	33
第24図 SK1165・1194・1189 平面図、土層断面図・見通し図	34
第25図 SK1206・1147 平面図、土層断面図・見通し図	35
第26図 SK1151・1207・1190 平面図、土層断面図・見通し図	36
第27図 SE1150・SK1197 平面図、土層断面図・見通し図	37
第28図 SD1112・SK1208 平面図、土層断面図・見通し図	38
第29図 B地区出土遺物実測図1	39
第30図 B地区出土遺物実測図2	40
第31図 B地区出土遺物実測図3	41
第32図 B地区出土遺物実測図4	42
第33図 B地区出土遺物実測図5	43
第34図 B地区出土遺物実測図6	44
第35図 B地区出土遺物実測図7	45
第36図 B地区出土遺物実測図8	46
第37図 B地区出土遺物実測図9	47
第38図 B地区出土遺物実測図10	48
第39図 B地区出土遺物実測図11	49
第40図 B地区出土遺物実測図12	50
第41図 B地区出土遺物実測図13	51
第42図 B地区出土遺物実測図14	52
第43図 B地区出土遺物実測図15	53
第44図 B地区出土遺物実測図16	54
第45図 B地区出土遺物実測図17	55
第46図 B地区出土遺物実測図18	56
第47図 B地区出土遺物実測図19	57
第48図 B地区出土遺物実測図20	58
第49図 B地区出土遺物実測図21	59
第50図 C・D地区東壁土層断面図	60
第51図 SB1252、SD1237・1238・1239 平面図、土層断面図	61
第52図 SD1244木杭出土状況図	62
第53図 SD1236・1244・1248 平面図、土層断面図	63
第54図 C地区出土遺物実測図1	64
第55図 SK1240平面図、土層断面図	64
第56図 C地区出土遺物実測図2	65
第57図 C地区出土遺物実測図3	66
第58図 C地区出土遺物実測図4	67
第59図 C地区出土遺物実測図5	68
第60図 C地区出土遺物実測図6	69
第61図 D1地区（下層）北壁土層断面図、 SB1280・1281実測図	70
第62図 SB1282・1283、SA1311実測図	71
第63図 SB1284・1285・1286・1287・1288 実測図	72

第64図	SB1289・1290・1291実測図	73
第65図	SB1293・1294・1310実測図	74
第66図	SR1312、SB1278 平面図、土層断面図	75
第67図	SE1262平面図、土層断面図	76
第68図	SE1301・1302・1279 平面図、土層断面図・見通し図	77
第69図	D 1・D 2地区下層平面図	78
第70図	D地区出土遺物実測図1	79
第71図	D地区出土遺物実測図2	80
第72図	D地区出土遺物実測図3	81
第73図	D地区出土遺物実測図4	82
第74図	D地区出土遺物実測図5	83
第75図	D地区出土遺物実測図6	84
第76図	D地区出土遺物実測図7	85
第77図	D地区出土遺物実測図8	86
第78図	D地区出土遺物実測図9	87
第79図	B地区出土遺物(石製品)実測図	88
第80図	B地区出土遺物(石製品)実測図	89
第81図	B地区出土遺物(石製品)実測図	90
第82図	B地区出土遺物(石製品)実測図	91
第83図	B地区出土遺物(石製品)実測図	92
第84図	C・D地区出土遺物(石製品)実測図	93
第85図	B地区出土遺物(木製品)実測図	94
第86図	B・C地区出土遺物(木製品)実測図	95
第87図	C地区出土遺物(木製品)実測図	96
第88図	D地区出土遺物(木製品)実測図	97
第89図	D地区出土遺物(木製品)実測図	98
第90図	D地区出土遺物(木製品)実測図	99
第91図	D地区出土遺物(木製品)実測図	100
第92図	B地区出土遺物実測図22	101
第93図	B地区出土遺物実測図23	102
第94図	弥生時代中期土器 器種分類	126
第95図	B地区平面図	付図
第96図	C・D地区平面図	付図

表 目 次

第1表	地区別遺構一覧表	49
第2～6表	遺構一覧表(1～5)	119～123
第7表	掘立柱建物一覧表	124
第8表	弥生時代中期出土遺物一覧表	127
第9～37表	出土遺物観察表(土器)	129～157
第38表	出土遺物観察表(鉄製品)	157
第39・40表	出土遺物観察表(石製品)	158・159
第41・42表	出土遺物観察表(木製品)	160・161

写 真 図 版 目 次

図版1	B地区全景 C地区全景	
図版2	D地区全景 A1地区全景 A2地区全景 A4地区全景 A5地区全景	
図版3	A6地区全景 D2地区下層全景 D地区下層全景 D地区遠景	
図版4	SH1196 SH1186部材検出状況	
図版5	SH1196遺物出土状況	
図版6	SH1186炭化材検出状況 SH1186完掘状況 SH1173 SH1179 SH1184、SK1185・1188	
図版7	SB1227 SB1230 SB1228 SB1229 SB1231 SB1232 SB1233 SB1234	
図版8	SB1235 SK1120 SK1125 SK1127 SK1124 SK1142 SK1146	
図版9	SK1147 SK1145・1146・1147完掘状況 SK1211 SK1212 SK1210 SK1136 SK1132 SK1139	
図版10	SK1209 SK1222・1223 SK1165 SK1194 SK1189 SK1151 SK1206 SK1206・1207完掘状況	
図版11	SK1190 SK1197 SK1208 SK1122・1123 SK1131 SK1143 SK1144 SK1148	
図版12	SK1149 SK1170・1171 SK1181 SK1185 SK1188 SK1192 SK1193 SK1200	
図版13	SK1204 SD1115遺物出土状況 SD1115 SD1112 SD1214	
図版14	SE1150遺物出土状況 SE1150遺物出土状況近景 SE1150作業風景 SE1150完掘状況 SE1113半截状況	
図版15	SB1252 SK1240 SK1246 SD1239 SD1236	
図版16	SD1244 D地区北半部掘立柱建物群	

- 図版17 SB1280 SB1281 SB1282 SA1311 SB1283
図版18 SB1284・1285 SB1287・1288 SB1289
SB1290・1291 SB1293 SB1294 SB1310
SB1278
図版19 SE1262半截状況 SE1262 SE1279 SE1301
SE1253 SE1257 SK1254 SD1276
図版20 SD1273・1274 SD1295
遺物図版（出土遺物）
図版21 6.14.288.32.33.37.38.40
図版22 41.41底部.43.47.50.51.52.53
図版23 57.60.61.65.68.73.76.77
図版24 80.80口縁部.88.89.106.109.118.130
図版25 127口縁部.127.128.128体部.131.133.133体部.135
図版26 138.143.144.147.150底部.152.153.154
図版27 155.156.157.160.161外面.161内面.164.171
図版28 172.173.175.176.177.178.179.180
図版29 181.182.183.184.185.187.189.190
図版30 196.197.198.199.201.202.203.204
図版31 206.208.210.211.212.213.215.219
図版32 220.222.224.227.229.232.230.234
図版33 235.236.239.239杯部、脚部接合状況
240.241.244.245体部内面
図版34 247.248.250.251.252.253.254.255
図版35 256.257.258.259.265.266.269.272
図版36 279.284.286.287.290.291.292.295
図版37 294.294底部.296.297.298.299.300.301
図版38 306.307.308.309.310表面.310裏面.315.316.317
図版39 318.319.321.325.328.330.358.359
図版40 364.365.366.367.368.370.371.372
図版41 374.375.398.400.401.402.406.408
図版42 409.410.410下から.411.418.422.425.437
図版43 447.459.462.466.472.480.482.483
図版44 486.491.503.507.508.510.511.514
図版45 516.524.530.541.553.601表面.601裏面.621.656
図版46 664.670.678.681.695.697.704.707
図版47 709.713.727.728.752.754.758.759
図版48 761.764.765.766.768.771.773.777
図版49 780.782.792.795.796.798.799.801
図版50 802.815.817.820.832.838.838底部.837
図版51 839.840.841.843.851.852.854.861
図版52 864.865.868.875.880.885.889.892
図版53 894.895.899.905.912.915.916.927
図版54 932.934.935.940.942.951.984.1009
図版55 1002・964・1001・978・980.1007・1008.
1019.1017.1010・1011・967・1012・973
図版56 966・977・974・963・975・1000・976・969.
997・1018・979・962・998・968・995・996・999
図版57 土錘 緑釉陶器
図版58 木製品

I 前 言

第1節 調査の契機と経過

中勢道路は、鈴鹿市玉垣町から松阪市小津町に至る延長33.8kmの一般国道23号中勢バイパスの一環である。県内の3市を通り、国道23号の交通集中の緩和とバイパス周辺の適切な土地利用の誘導を図り、三重県中勢地区の経済発展に寄与することを目的に計画されたものである。

この計画地内に所在する埋蔵文化財については、昭和58年に計画路線内の分布調査を行い、建設省中部地方建設局（当時）と三重県教育委員会が埋蔵文化財の取扱について協議を行った結果、現状保存の困難な遺跡については事前に発掘調査を行い、記録保存をすることとなった。

現地調査は、昭和63年度に開始した。国土交通省中部地方整備局（平成12年までは建設省中部地方建設局）から三重県が委託を受け、三重県埋蔵文化財センター（昭和63年度は三重県教育委員会）が調査を担当している。調査にあたっては、「県教育委員会・市町村教育委員会人事交流要綱」に基づき、津市教育委員会（昭和63年度～平成11年度）と鈴鹿市教育委員会（平成7年度～平成9年度）から派遣職員を得た。また、現地作業については調査の円滑化を期して、建設省中部地方建設局が社団法人中部建設協会に委託している。調査事業の実施にあたっては、建設省中部地方建設局・三重県・社団法人中部建設協会の三者で昭和63年4月8日付け「埋蔵文化財発掘調査協定書」を締結し事業を推進した。その後、事業計画の進展に合わせて、建設省中部地方建設局・三重県・社団法人中部建設協会の三者が平成3年10月31日付けで「変更協定書（第1回）」を、平成5年9月7日付けで「変更協定書（第2回）」を、平成10年3月31日付けで「変更協定書（第3回）」を締結し、道路建設事業との調整を図った。また、平成11年3月31日付けで、改めて6・8～10・13・14の各工区を対象とした「埋蔵文化財発掘調査協定書」（平成11年4月1日～平成16年3月31日）を締結し、平成11年度以降の事業を推進した。

さらに、平成16年3月31日付けで「変更協定書（第1回）」を、平成18年3月30日付けで「変更協定書（第2回）」を締結し、三者体制は終了した。平成18年度以降は現地作業を含めた委託契約書が中部地方整備局と三重県で締結され、事業を推進している。

第2節 調査の体制

調査主体は三重県教育委員会であり、調査担当は昭和63年度が三重県教育委員会文化課、平成元年度からは、三重県埋蔵文化財センターである。本書に所収した替田遺跡については、平成元年度に第一次調査を行い、平成8～9年度に本調査を実施した。その後隨時、出土遺物の整理を進め、平成18～19年度に報告書作成を行い、19年度に刊行した。その体制は以下のとおりである。

（平成元年度）

主幹兼調査第二課長 山澤義貴

第三係長 浅生悦生

（津市教育委員会から派遣）

主事 増田安生・森川幸雄

主事 村木一弥

（津市教育委員会から派遣）

臨時調査員 竹内英昭・油田秀紀

室内整理員 市川嘉子・畠ひろ子・小坂規美子

堀さや子・奥山晃代

（平成8年度）

主幹兼調査第二課長 山田猛

第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功・山本義浩

技師 水橋公恵

主事 池端清行・米山浩之

（津市教育委員会より派遣）

主事 筒井昭仁（鈴鹿市教育委員会より派遣）

調査補助員 井早智代・杉崎淳子・坂下真弓

田中美穂・池野香代・森崎豊・下畑典正

室内整理員 市川嘉子・黒川敬子・太田浩子

森川絹代・鈴木妙・蒔田やよい・新田智子

(平成9年度)

主幹兼調査第二課長 山田猛

主査兼第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功

技師 西村美幸・水橋公恵

主事 池端清行・米山浩之

(津市教育委員会より派遣)

主事 筒井昭仁(鈴鹿市教育委員会より派遣)

調査補助員 田中美穂・池野香代・酒井巳紀子

坂下真弓・下畑典正

室内整理員 市川嘉子・黒川敬子・太田浩子

森川絹代・鈴木妙・蒔田やよい・新田智子

(平成18年度)

調査研究II課長 田村陽一

主査 上村安生・大塚匡基

主事 深尾太・石井康晴

技師 原田恵理子・水谷豊・角正芳浩

土木技師 岡田実

臨時技術補助員 才木薰・豊田祥三

室内整理員 黒川敬子・太田浩子・森川絹代・

北岡佳代子・山口香代・西山実公子・野田摩耶・

中西千鶴・浜崎佳代・堀さや子

(平成19年度)

調査研究II課長 田村陽一

主幹 上村安生

主査 蘭部英幸

主事 深尾太・石井康晴

技師 原田恵理子・水谷豊・角正芳浩・

野鳥美沙子

臨時技術補助員 才木薰・小林俊之

室内整理員 黒川敬子・太田浩子・森川絹代・

北岡佳代子・山口香代・西山実公子・中西千鶴・

浜崎佳代・中村敬子・小倉靖子

第3節 調査の経過

1 経過概要

替田遺跡では、分布調査の結果を受けて平成元年に第一次調査を実施した。調査は、20m間隔で打たれた道路のセンター杭を基準に、その両側（替田遺跡付近ではほぼ南北に道路が通るため、西側と東

側となる）に4m×4mの試掘坑を設定することを基本（一部センター杭の場所で設定）として行った。その結果、溝・柱穴・土坑等の遺構や弥生土器・土師器・須恵器・山茶碗等の遺物を検出した。この時点で、弥生時代から中世の複合遺跡であると考え、8,600m²を本調査対象とした。

本調査は平成8年度から開始した。平成8年度はA地区820m²（平成8年5月7日～7月10日）、B地区3,000m²（平成8年7月3日～平成9年1月8日）、D地区2,800m²（平成8年10月25日～平成9年3月5日）、平成9年度はC地区2,420m²（平成9年7月3日～12月4日）、D-1下層地区550m²（平成9年5月19日～7月3日）、D-2地区1,240m²（平成9年11月28日～平成10年1月13日）の調査を行ったが、D-1区は平成8年度に調査を行ったD区の下層を一部調査したものであり、D-2区の内訳は上層720m²・下層520m²である。

2 文化財保護法等にかかる諸通知

当遺跡発掘調査にかかる関係法令の諸通知は、以下により行っている。

- 文化財保護法第98条の2第1項（文化庁長官あて）
平成8年4月2日付け教文第1294号（県教育長通知）

- 遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（津警察署長あて）

A・B・D地区

平成9年4月11日付け教文第6-41号（県教育長通知）

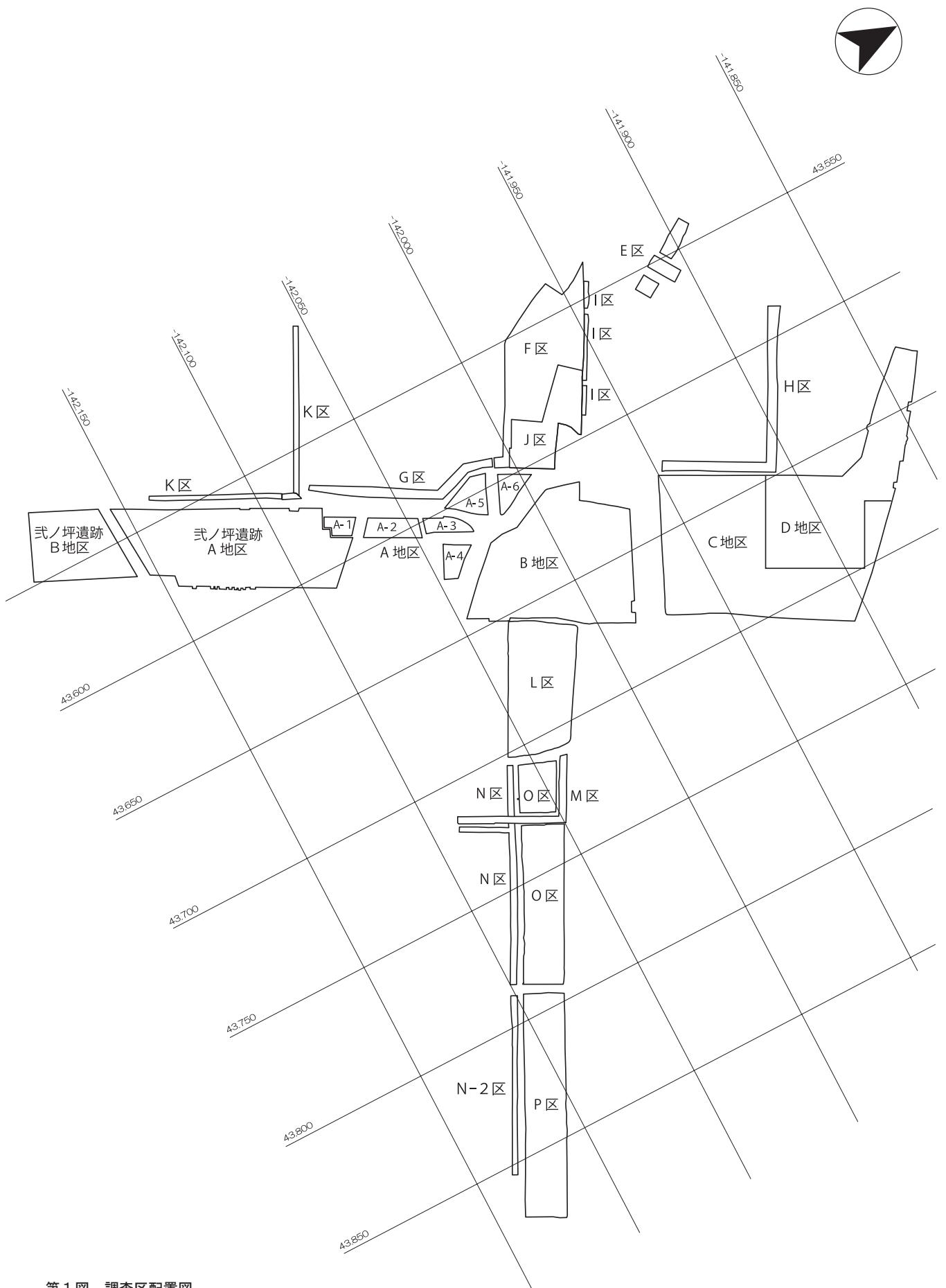
C・D地区

平成10年3月17日付け教文第6-101号（県教育長通知）

第4節 調査の方法

1 地区設定

調査にあたっては、調査区内に4m方眼で区切り、小地区（グリッド）を設定した。従来は国土座標を基準として設定していたが、センター杭を基準として設定する方法に変更した。また、替田遺跡のように南北に調査区が長い場合、従来のように南北にア



第1図 調査区配置図

ルファベットを与えると足らなくなるため、西から東へアルファベットを、北から南へ数字を与える方法に変更した。各北西角を小地区（グリッド）名称とする方法には変更はない。

2 遺構カード・遺構略測図

三重県では遺構カードを作成している。これは前述の小地区（グリッド）毎に作成するもので、遺構検出後、掘削するまでに記入し、遺構の重複関係、埋土の色調・状態などを明示している。また、この遺構カードを基にして縮尺100分の1の略測図を作成した。

3 遺構番号

調査時における遺構番号は、各調査区およびD地区では上層・下層において1つの遺跡であるにも関わらず、相互に関連無く付与されている。つまり、A～D地区およびD地区（下層）は、それぞれが1から遺構番号が付与されている。したがって、本書においては、遺構番号を全地区対象とした通し番号に変更することとし、既刊の「替田遺跡（第3次）」三重県埋蔵文化財調査報告223『神戸遺跡（第2次）・替田遺跡（第3次）発掘調査報告～三重県津市南河路所在～』2001年3月において遺構番号が1から振られているため、本書が対象とする遺構については、遺構番号を101から割り振ることとし、作業を進めた。その後、三重県埋蔵文化財調査報告281『替田遺跡（第5～8次）発掘調査報告』2007年3月が本書より先に刊行されることとなり、さらなる遺構番号の混乱が生じるおそれがあったため、101から割り振った遺構番号の前に1をつけ1101と4桁の番号で再度振り直した。調査時の遺構番号と対照できるように遺構番号対照表を示しておく。中勢道路の調査だけでなく、県公共事業による調査も何年にもわたって実施され、遺構番号の付け方になんら調整がおこなわれなかつたため混乱を招く結果となった。今後の教訓としたい。柱穴については、前述の小地区毎の通し番号をつけている。

4 写真撮影

遺構の写真撮影は原則として6×9判を、補助的に35ミリカメラを使用し、いずれもモノクロ・カラー pojで撮影した。フィルムは、いずれの判でもKODAK T-MAX100、KODAK E100Sを使用した。

遺物の写真撮影は6×9判（モノクロ）で撮影した。使用したカメラはTOYO VIEW G IIである。使用したフィルムはKODAK T-MAX100である。

5 遺構実測

遺物出土状況実測図・土層断面図については縮尺10分の1あるいは20分の1手書き実測を行った。

遺構実測図はA地区、D地区下層は手書き実測を行ったがその他は航空写真測量を行った。遺構実測図の基準点は旧国土座標に基づいている。

第5節 整理作業の方法

調査で出土した土器類は調査現場で取り上げ後、速やかに整理所で洗浄、乾燥、接合等の1次整理が行われている。1次整理作業後、遺物の選別作業を行い、遺物実測を行った。実測図が完成した遺物は、報告書作成のためのレイアウトを作成し、報告書番号順に遺物整理箱に保管している。遺物実測を行わなかったものは、出土遺構ごと、包含層等はグリッドごとにまとめ、遺物整理箱に番号を付し、保管・管理作業を進めている。

木製品については、調査現場で取り上げ後、速やかに整理所で洗浄し、水漬けで保管し、実測が可能なものは実測を行った。写真撮影等を済ませた後、保存処理作業を進めた。

発掘調査に関する資料類は、図面（平面図・土層断面図など）、遺構カード、調査日誌、写真類などがある。また、整理段階で作成された遺物実測図、遺物写真などがある。これらは所定の番号を付け、当センターにて保管している。

また、自然科学分析結果についても、同様の記録類として保管している。

II 位置と環境

第1節 地理的環境

鈴鹿山脈の錫杖ヶ岳付近に源を発する安濃川は、津市北河路町、南河路あたりで大きく北東から東に向を変え、沖積平野をさらに蛇行しながら島崎町付近で伊勢湾に注ぎ込む。替田遺跡(1)はその安濃川が大きく屈曲する南河路集落の南西、標高6.6~7mの自然堤防およびそれに続く微高地上に位置する。

替田遺跡の西側には安濃川から派生し、岩田川へ注ぐ三泗川がある。この川は普段は大きな流路ではないが、大雨の際には安濃川下流の津城下町を洪水から護るために、安濃川の水を岩田川へ排水する機能を負っており、三泗川沿いの水田部は洪水時には水没するような低地となっている。

今回の調査区は、この三泗川の左岸にあって行政区上は津市南河路字替田、又口、八反田にまたがっている。

第2節 歴史的環境

替田遺跡周辺の歴史を安濃川下流域の沖積地を中心概要を述べる。

縄文時代には安濃川左岸の松ノ木遺跡^①(11)で、晚期の河道と共に同じ時期の堅穴住居が確認されている。また、蔵田遺跡^②(12)では晩期末葉の土坑が確認されている。

弥生時代になると安濃川下流左岸の自然堤防上に納所遺跡^③(7)が出現する。替田遺跡からは1.5kmほど下流となる。納所遺跡では既に弥生時代前期の自然河道から各種道具類をはじめとする木製品も多数出土している。このことは、水稻耕作に基盤を置く弥生文化が当地域への波及当初から基本的な生活用具類を装備した状態で伝播していることを示している。納所遺跡は中期に最盛期を迎える、各種原材や未成品も出土するなど伊勢湾西岸域を代表する弥生集落として、物資流通の核となつたいわゆる拠点遺跡として機能したとみられる。ただし、後期を迎える頃には急速に衰退し、流路程度しか明瞭な遺構が

確認出来ないようになる。

前期の集落は沖積部だけでなく丘陵部にも進出しており、納所遺跡の出現より遅れるが半田丘陵の上村遺跡^④(15)でも多数の前期の弥生土器が出土している。

中期になると遺跡数はさらに増大し、替田遺跡や式ノ坪遺跡^⑤(2)で遺構が確認されているほか、安濃川左岸の沖積部では松ノ木遺跡や森山東遺跡^⑥(10)など多数の遺跡が確認されている。

中期後葉には丘陵部への遺跡形成がさらに進展し、長岡丘陵には長遺跡^⑦(8)や山籠遺跡^⑧(9)など狭い範囲に多数の堅穴住居が集中して営まれた集落が出現する。

後期の遺跡は岩田川右岸の半田丘陵で柳谷遺跡^⑨(33)、大ヶ瀬B遺跡^⑩(34)、尺目遺跡^⑪(35)などのほか、方形台状墓が確認された大ヶ瀬弥生墳墓^⑫(36)、方形周溝墓が確認された高松C遺跡^⑬(16)がある。

半田丘陵から北側に延びた支脈にあたる神戸集落南東の木の根地区には、神戸銅鐸出土地(21)がある。大正6年(1917)に磨き砂採掘の運搬路をひらいたときに発見したものである。近畿式で外縁紐2式である。また、そこから約2km北西にあたる野田集落付近からは三遠式で突線紐3式の銅鐸が江戸時代に出土している。

安濃川流域の最古の古墳群は、岩田川水系になるが片田志袋町の坂本山古墳群^⑭(23)である。6号墳の墳麗から出土した土師器の年代をもとに4世紀代頃の古墳群とされている。

替田遺跡の周辺では、半田丘陵に前方後円墳や群集墳が集まっている、前方後円墳の鎌切1号墳をはじめとする鎌切・稻葉古墳群(28)などがある。

集落としては大規模な遺跡はみられず、県道部分での替田遺跡の調査成果でも土坑や井戸がわずかに見つかっているにすぎない。

古代には安濃川流域の大部分は安濃郡に属していたが、郡衙に相当するような遺跡は見つかっていない。

安濃川流域の古代の集落は、宮ノ前遺跡、蔵田遺



第2図 遺跡地形図 (1 : 3,000)



- | | | |
|----------|-------------|--------------------|
| 1 替田遺跡 | 11 松ノ木遺跡 | 21 神戸銅鐸出土地 |
| 2 武ノ坪遺跡 | 12 蔵田遺跡 | 22 野田銅鐸出土地(詳細位置不明) |
| 3 里前遺跡 | 13 位田遺跡 | 23 坂本山古墳群 |
| 4 惣作遺跡 | 14 梁瀬遺跡 | 24 平田古墳群 |
| 5 神戸遺跡 | 15 上村遺跡 | 25 長谷山古墳群 |
| 6 立花堂遺跡 | 16 高松C遺跡 | 26 殿村1号墳 |
| 7 納所遺跡 | 17 安濃津遺跡群 | 27 君ヶ口古墳 |
| 8 長遺跡 | 18 高茶屋大垣内遺跡 | 28 鎌切・稻葉古墳群 |
| 9 山籠遺跡 | 19 亀井遺跡 | 29 池ノ谷古墳 |
| 10 森山東遺跡 | 20 淨土寺南遺跡 | 30 藤谷埴輪窯 |
| | | 31 久居古窯跡群 |
| | | 32 法ヶ広埴輪窯 |
| | | 33 柳谷遺跡 |
| | | 34 大ヶ瀬B遺跡 |
| | | 35 尺目遺跡 |
| | | 36 大ヶ瀬弥生墳墓 |

第3図 替田遺跡と周辺の主要遺跡 (1:50,000) 国土地理院 1:25,000 「津西部」「津東部」

跡、替田遺跡などで奈良時代までの集落が確認されおり、平安時代以降の集落は位田遺跡^⑯(13)、式ノ坪遺跡で確認されている。式ノ坪遺跡では条里プランに沿った平安時代前期の掘立柱建物などが確認されている。

中世以降については、替田遺跡をはじめ、遺構・遺物が確認された遺跡は多い。そのなかでも三泗川が岩田川に流れ込む合流点の北西側に位置する里前遺跡^⑰(3)は集落の中心域と想定される部分はほとんど調査が行われていないが、三泗川沿いの調査区からは未使用を含む大量の墨書をされた山茶椀が出土しており、安濃津^⑲(安濃津遺跡群・17)からあがった荷を再び集める集散地遺跡との評価が与えられている。

また、元徳元年(1329)の「安東郡專當沙汰文」^⑳には、「鳥加部」等の当該地の神田が記されており、替田遺跡の北方である納所町から北河路町一帯が伊勢神宮の神田になっていたことが考えられている。

〔註〕

①三重県埋蔵文化財センター「松ノ木遺跡」『松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』1993

②三重県埋蔵文化財センター『蔵田遺跡発掘調査報告』1999

③三重県教育委員会『納所遺跡—遺構と遺物—』1980

④津市教育委員会『上村遺跡発掘調査報告』1972

⑤三重県埋蔵文化財センター『式ノ坪遺跡発掘調査報告』2005

⑥三重県埋蔵文化財センター「森山東遺跡」『松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』1993

⑦三重県埋蔵文化財センター『長遺跡発掘調査報告』2000

⑧三重県埋蔵文化財センター「山籠遺跡」『大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』1995

⑨津市教育委員会『野田遺跡群発掘調査報告』1974

⑩前掲⑨文献

⑪津市教育委員会『尺目遺跡発掘調査報告』1975

⑫三重県教育委員会「大ヶ瀬遺跡」『近畿自動車道埋蔵文化財調査報告 I』1973

⑬津市埋蔵文化財センター「高松C遺跡発掘調査報告」『津市埋蔵文化財センタ一年報』3 1999

⑭津市教育委員会『坂本山古墳群・坂本山中世墓群』1970

⑮三重県埋蔵文化財センター『位田遺跡発掘調査報告』1999

⑯三重県埋蔵文化財センター『里前遺跡発掘調査報告』2002

三重県埋蔵文化財センター『里前遺跡（第2次）発掘調査報告』

2005

⑰三重県埋蔵文化財センター『安濃津』 1997

⑲群書類從第22卷

III 遺構と遺物

中勢道路の建設に伴う替田遺跡の発掘調査は前言で述べたとおり、大きく分けてA地区からD地区の4地区で実施した。小地区(グリッド)の設定は西から東にアルファベットを、北から南へ数字を与える方法で全調査区を統一しておこなった。調査時における遺構番号は各調査区において相互に関連なく付与されており混乱を招くため、本書における遺構番号は全調査区を対象とした通し番号に変更した。既に出土遺物への遺構名注記は調査時点の番号が付与されて収蔵されているため、遺構一覧表を参照のうえ新旧番号の対照を行う必要がある。

本稿での記述は簡潔に行い、遺構の規模や遺物の法量などは遺構一覧表および遺物観察表にまとめ、重複する記述はなるべく省略した。以下、調査区ごとに記述を行う。

第1節 A地区の調査

1 概要

水路と農道が複雑に入り組んでいるため、南端のA-1区から北端のA-6区まで6つの小地区に分けて調査を行った。A-1区からA-3区までは遺構が検出されず、遺物包含層の下に厚い砂の堆積層が確認された。砂層の厚さは2m以上で湧水が激しく底の確認はできなかつたが、規模の大きい自然流水路の痕跡と思われる。

2 遺構

A-4区からA-6区までの3地区で9条の溝を検出した。このうち、A-5区で検出したSD1102は第4次調査で検出したSD711に繋がる古墳時代後期の溝である。A-6区で検出したSD1104は第5次調査のSD116に繋がる溝で、本調査区では弥生時代中期の遺物が出土している。SD1108は5次調査のSD120に繋がる。どちらの調査区でも遺構の時期は特定出来ない。A-6区の下層で確認されたSD1109は第5次調査で検出された自然流路SD117の延長と想定される。A-6区では調査区の南壁部分とG44グリッド付近に設定した下層確認トレンチのみ

で確認を行い、全体の掘削は行っていないため、規模等不確定である。このほか、A-6区では平安時代後期から鎌倉時代初頭の溝SD1106などが検出されている。

A地区では竪穴住居や掘立柱建物、土坑などの遺構は検出されず、替田遺跡全体からみても集落の南端部に位置し、遺構が希薄であると判断される。さらに自然流路によって南に位置する式ノ坪遺跡と画されている。

3 遺物

遺構出土の遺物はSD1104から弥生土器甕(1)、SD1106から須恵器杯(2)、SD1102から須恵器杯(3)、土師器皿(4)が出土している。(1)以外は埋土中の混入である。その他、遺物包含層出土遺物には古墳時代後期の須恵器杯・甕(5~7・9)、土師器高杯(10)、奈良時代の須恵器長頸壺(8)、平安時代の灰釉陶器碗(11)、土師器清郷型鍋(13)、鎌倉時代の陶器壺・山茶碗・小皿(12・14~20)、土錘(21~23)、近世の泥人形(24)など様々な時代のものがある。

第2節 B地区の調査

1 概要

竪穴住居5棟、掘立柱建物9棟、土坑74基、溝29条、井戸4基を検出した。このうち、竪穴住居と土坑は時期不明のものを除き、すべて弥生時代中期の遺構である。弥生時代の時期区分については、「弥生土器編年概観」『三重県史』資料編考古1の区分^①により記述する。

調査は基本的な層位をI層耕作土、II層、III層を遺物包含層として進め、遺物ラベルにもII層あるいはIII層と記されている。II層は第9回東壁土層断面図の2~4'・19、III層は9~13・20が相当する。

2 遺構

a 弥生時代

中期前葉を弥生時代II期、中葉を弥生時代III期と区分した。(以下、II期、III期とする)

中期の竪穴住居5棟のうち、SH1179はII期、そ

の他はⅢ期である。住居の平面形態は円形(S H1173・1184・1196)と方形(S H1179・1186)のものが混在している。深さは15cmほどで残存状況はよくない。S H1179・1186は床面に炉の痕跡の焼土が残る。S H1186は炭化した住居構築材を伴う焼失家屋である。分析の結果、ブナ科に属する強度が高い材質を有する木材が選択されて使われていることが判明した。炭化材の分析結果についてはIV 自然科学分析を参照されたい。S H1196は、概報の記述では主柱穴が8個確認されているという報告がなされているが、住居内で確認できる柱穴のうちどれを示すのか記録が残されていない。また、これらの柱穴が、竪穴住居の埋土掘削後に検出されたものか、掘削以前に重複して確認されたものかも記録が残らないため検証ができない。よって主柱穴については不明とせざるをえない。

竪穴住居は調査区の東側に集中しているが、隣接する第6次調査のL区でも弥生時代中期の竪穴住居が6棟検出されており、これらを含めて住居域としてのまとまりがみられる。

土坑は74基検出している。弥生時代Ⅱ期が9基、Ⅲ期が42基、Ⅱ期かⅢ期か判断できないものが14基、古墳時代前期が2基、時期不明が7基であり、弥生時代中期のものが大半である。

弥生時代の土坑の形態は溝状の細長いもの(S K1111・1124など)、長楕円形(S K1126・1146など)、長方形(S K1190・1194など)があり様々である。規模は約半数が長径1m～2m、溝状のものでは長さ6mを超えるものがある。

今回の調査ではこれらの土坑の機能として、墓の可能性も考慮し、弥生時代Ⅲ期の土坑SK1189・1194・1209・1211についてリン酸含量とカルシウム含量の分析を行った。リン酸含量については、いわゆる天然賦存量より多いという結果を得ているがカルシウム含量については、天然賦存量の範囲内との結果が出ており、ヒトを含む動物遺体埋納による富化の可能性が指摘されている。詳細な分析結果についてはIV自然科学分析を参照されたい。

b 古墳時代

この時期の遺構は掘立柱建物SB1227、土坑SK1197・1208、井戸SE1150・1191、溝SD1115があ

る。掘立柱建物は調査区北西隅で検出したもので、東西2間(5.2m)、南北3間(5.3m)の建物と推定される。井戸SE1150は埋没途中で一括廃棄された土師器壺・甕・高杯が出土している。SD1115は調査区の中央で南北に延び南端では西方向に直角に曲がり、北端でもやや開くが西方向に曲がる溝である。

c 平安時代

この時期の遺構は井戸2基、溝7条がある。井戸はいずれも平面形態が楕円形の素掘である。SE1113・1202は出土遺物からどちらも11世紀前半に埋没している。溝7条のうち、SD1168・1169は80cmほどの間隔をおいて並行する10世紀前半の溝である。また、調査区北東隅にあるSD1214は重複関係からこれら2条の溝より古いが、ほぼ同時期の溝である。調査区西側で南北に続くSD1112は旧河道で弥生時代中期・古墳時代前期の一定量の遺物を含んでいるが11世紀前半の遺物がみられることからこの時期の遺構とした。ただし、層位的に明確な分層により遺物をとりあげているわけではない。現場作業日誌には溝の底から灰釉陶器が出土との記述もみられる。

d 鎌倉時代

掘立柱建物8棟、溝5条がある。いずれも平安時代末期から鎌倉時代初めの遺構である。掘立柱建物は調査区内に点在し、棟方向や規模等の規則性はみられない。溝5条のうち、SD1177・1183は調査区の東側で約12mの間隔を置いて並行する溝、SD1153・1158は調査区の南側で約8mの間隔を置いて並行する溝である。

e 時期不明の遺構

土坑7基、溝17条がある。細片の出土遺物しかなく時期が特定できないものである。

3 遺物

a 弥生時代

出土遺物の大半は中期中葉Ⅲ期のもので前葉Ⅱ期のものは少ない。また、後葉のⅣ期の遺物はみられない。Ⅱ期の遺物は古いものⅡ-1期と新しいものⅡ-2期に分かれる。

Ⅱ-1期の遺物には竪穴住居SH1179出土の太頸壺(33)や甕(35)などがある。33の頸部には櫛描直線文による文様帶がみられる。石製品はSH1179から

は石鏃(962～964)、扁平片刃石斧(965)が出土している。

II-2期の遺物には太頸壺SK1124出土(37)・SK1134出土(88)・SK1143出土(60・61)などがある。いずれも口縁部内面に瘤状突起を貼り付けるが60の突起が丸く、やや内側に貼り付けられるのに対して他の突起は細長い形状で内面の端に貼り付けられる。ハケ調整甕は口縁部端面に刻み目のあるSK1124出土(40・41)、さらに口縁部内面にも刻み目を施すSK1120出土(28)・SK1172出土(95)、刻み目をまったく施さないSK1149出土(69・70)などがある。大形の遠賀川系鉢にはSK1120出土(30)がある。石製品はSK1143から敲石(989)が出土している。

III期の遺物の大半はIII-1期のもので今回の調査で主体をなす時期である。

太頸壺は頸部が太く短くなる傾向がみられ、SK1142出土(50)・SK1223出土(90)がある。口縁部内面に瘤状突起のある太頸壺にはSK1142出土(53)・SK1138出土(89)がある。この時期の壺の体部文様には、ハケ調整の後、複帶構成の櫛描直線文を施し、その上に弧状文・波状文・直線文などを重ねて、直線文帯の上下端にヘラ描沈線文を加え、最後に文様帯の間をヘラミガキするものがみられる。SK1222の単純口縁細頸壺(128)は直線文帯に波状文が重ねられている。また、SK1200出土(139)やSK1147出土(133)など、頸部及び体部の文様帯が直線文ではなく縄文で構成されるものが替田遺跡の資料には顕著にみられる。このほか壺にはSK1212出土(75)やSH1184出土(91)などの広口壺やSK1142から出土している太くて長い頸部を持つ広口壺(54)がある。甕はハケ調整甕が主体であるが今回の調査で唯一SK1142出土(55)は二枚貝による条痕調整のものである。また、SK1210出土(81)やSH1173出土(97)の甕は口縁部に押圧痕がみられる。遠賀川系鉢の存続はII期まで、小形の半球状の鉢(1102)がSK1210から出土している。石製品はSH1173から石鏃(966)、扁平片刃石斧(967)、SK1127から石鏃(974)、SK1223から石鏃(976)、SH1186から大型蛤刃石斧(984)など出土している。

III-2期～3期の遺物は多くはない。太頸壺は頸部文様帯が消失し、2条のヘラ描沈線がみられるも

のがSK1204出土(106)、SK1206出土(131)、SK1192出土(140)資料にある。細頸壺は受口状口縁のものでSH1196出土(118)は縦方向のハケ調整の後、3条のヘラ描沈線を施す。SH1196出土の細頸壺には口縁部端部外面に櫛描波状文を施す(1117・1118)などもある。SK1165出土(137)は頸部に櫛描き直線文帯が3条施される。甕は前代同様ハケ調整甕で、SH1196出土(1122)は口縁部内面に波状文が施される。SH1196出土の高杯(127)は内外面ヘラミガキを施し、鍔状の口縁部の内側を加飾する。SH1196出土大形の遠賀川系鉢(119)はこの時期まで残らないと考えている。出土状況を確認したところ、堅穴住居が埋まつてから掘られた遺構埋土の上層から出土している。そのほかにも床面からかなり浮いた状態で出土している遺物もある。写真図版5にいくつかの出土状況が推定できる写真を掲載した。SH1196からは石鏃(968・969)、大型蛤刃石斧(970)、扁平片刃石斧(973)が出土している。

b 古墳時代

古墳時代前期の遺物がSE1150埋没過程で一括廃棄された状態で広口壺(176～179)、直口壺(182～184)、内彎口縁壺(181)、小形鉢(180)、く字状口縁甕(185)、S字状口縁台付甕(以下S字甕)(186～198)、器台(199)、小形器台(200～202)、脚付き土器(203)が出土している。S字甕はC類^②に相当し、SE1150は4世紀前半以降に埋没したと考えられる。このほかこの時期の遺物は遺物包含層である第III層抽出資料があり、いわゆる柳ヶ坪形壺(210)がみられる。また、旧河道SD1112抽出資料の中にはSE1150より、やや新しい時期の遺物が含まれ高杯(269～278)や小形器台(280・281)、S字甕D類や宇田型甕(260～266)がある。替田遺跡第5次調査のSK103やSE105に近い時期である。このほかSD1112出土資料には古墳時代後期の土師器や須恵器が含まれる。

B地区の調査で出土した遺物のなかで特筆すべき遺物には石鉈(401)がある。全体の5分の1ほどの破片で、遺物包含層から出土している。県内での集落遺跡からの出土は珍しく、松阪市小津遺跡^③から出土している。また、管玉(330)がSD1161から出土している。出土状況からも混入したものと考えられる。

c 平安時代以降

まとめた遺物はS E1202から土師器皿(331～335)・杯(336)・甕(338)、土師質土器皿(339)、灰釉陶器椀(340・341)、木製品の曲物底板(1033)、棒状木製品(1032・1035・1036)、板材(1034)が出土している。11世紀前半の遺物である。S E1113出土の土師器椀(337)も同じ時期である。このほか、溝や包含層から土師器椀・杯・皿・甕、灰釉陶器などが出土している。特筆すべき遺物ではS D1112から石帶(310)が出土している。黒色で表面の研磨良好で光沢がある。垂孔をもたない巡方で裏面に装着用の孔が2孔一対で放射状に4カ所にあけられている。

第3節 C地区の調査

1 概要

掘立柱建物1棟、土坑7基、溝8条を検出した。そのほか、地震による褶曲も確認された。C地区は遺構・遺物とも少ないためまとめて記述する。

2 遺構と遺物

a 弥生時代

弥生時代の遺構は土坑2基、溝3条である。SK1240は弥生時代Ⅲ期の土坑である。概報では土壙墓や方形周溝墓の可能性を指摘しているが断定はしがたい。壺(425)、甕(426)が出土している。壺は全体に摩滅がはげしく直線文帯の上下端にヘラ描沈線文を加えた沈線のみが残っている。

SK1241はSK1240に隣接するほぼ円形の浅い土坑である。広口壺の口縁部(427)が出土している。溝は調査区を東西に横切るSD1239・1244と両者を結ぶSD1242がある。SD1239・1244は調査区の東側では溝の心々でほぼ4mの間隔で平行しているが西へいくほどSD1244が南にそれていき、西端では第52図のような杭列が見つかっている。SD1239からは受口状口縁の細頸壺(422)、甕(423・424)が出土している。SD1244からは口縁部内面に瘤状突起を貼り付ける太頸壺(418～420)、広口壺(417)、甕底部(421)、石小刀(1019)、木杭(1051～1066)が出土している。

b 古墳時代

古墳時代の遺構はSK1241の南にSK1250がある

のみである。S字状口縁台付甕C類の口縁部破片(428)が出土している。

c 平安時代以降

平安時代後期の遺構にはSK1246・SD1248がある。SK1246からは土師質土器皿(429)、土師器甕(430～433)、灰釉陶器椀(434～437)、山茶椀(438)、木製品の鞘(1050)など11世紀代の遺物が出土している。また、SD1248は古墳時代の須恵器杯(440)や奈良時代の土師器蓋(439)なども含むが最終の埋没時期は土師器甕(454～456)、緑釉陶器皿(459)・灰釉陶器椀(462)などの遺物から11世紀代と考えられる。

後期から鎌倉時代初期にかけての遺構には南面に庇をもつ掘立柱建物SB1252がある。

調査区の南端の自然流路SD1236は、弥生時代中期、古墳時代、古代の様々な遺物が出土しているが、12世紀に入る陶器山茶椀・小皿が出土していることより鎌倉時代初頭にはほぼ埋没したと推定される。なお、埋没後も若干窪地になっていたため、上層からは近世までの遺物が出土した。

C地区の調査で出土した遺物のなかで特筆すべきものにはSD1236から出土した鎧帶(601)がある。銅製の巡方で2.7cm×2.5cmの大きさである。前述のように様々な時代の遺物が出土している溝のため、混入品であろう。なお、替田遺跡では石製の巡方(310)も出土している。

第4節 D地区の調査

1 概要

D地区は2年にわたって調査を行っているため、あらためて整理しておく。まず、平成8年度にD地区の調査を行い、平安時代後期から鎌倉時代初期の掘立柱建物15棟、塀1列、土坑5基、溝10条、井戸3基、道路状遺構1列を検出した。平成9年度はD地区の下層の一部をD-1下層地区として調査を行い、弥生時代後期の溝1条、古墳時代の土坑2基、溝2条を検出した。また、D地区の東側の側道部分をD-2地区として調査を行い平安時代後期から鎌倉時代初期の掘立柱建物1棟、溝2条、井戸1基を検出した。さらにこのD-2地区も下層の調査を行い古墳時代の溝2条、奈良時代の井戸2基、時期不明

の土坑1基、溝1条を検出した。以下、遺構と遺物について各地区をまとめて記述する。

2 遺構と遺物

a 弥生時代

弥生時代の遺構は後期の溝S D1299がD-1地区下層で検出されている。高杯(656)が出土している。石槍(1017)もトレンチ出土であるがS D1299から出土の可能性が高い。

b 古墳時代

古墳時代の遺構はD-1地区下層からD-2地区下層まで続くS D1295がある。出土した須恵器杯蓋(661など)・杯身(662など)から古墳時代後期には埋没している。S K1296・1297、S D1298もほぼ同じ時期と推定される。

c 奈良時代

奈良時代の遺構にはD-2地区下層で検出した井戸2基がある。S E1301・1302は重複しているがS E1301の方が古く、土師器杯(675)・甕(673)、須恵器杯蓋(674)が出土している。SE1301は木組の井戸で板材を縦方向に組み(1080~1082など)、横桟(1093・1097など)で止めている。横桟の木口は目違い柄で組んでいる^④。S E1302は素掘の井戸である。

d 平安時代から鎌倉時代

平安時代後期から鎌倉時代初期の遺構のうち掘立柱建物は16棟を検出している。S B1278がD-2地区の東隅で検出された以外はD地区の北側で見つかっている。西からS B1280~S B1288の一群は最低4回の建て替えが行われ、S B1289~S B1291の一群は2回、S B1293・1294・1310の一群は3回と同じ場所で建て替えを行っている。一番西側の一群はさらに北側と南側に分かれ、建物の棟方向が同じS B1280・1284の2棟、S B1282・1288の2棟はそれぞれ同時期に建っていた可能性がある。棟方向・規模等は一覧表を参照されたい。

土坑はD地区の掘立柱建物近辺で5基検出している。S K1254から土師器台付き皿(676)、S K1259から土師器甕(677)が出土している。土坑からの出土遺物はいずれも少ない。

井戸はD地区で3基、D-2地区で1基の計4基を検出した。S E1253・1257は素掘のほぼ円形の井戸である。S E1253からは山茶椀(726~728)、灰釉陶

器椀(729・730)、白磁椀(731)、土師器甕(732)が出土している。S E1257からは山茶椀(725)、青磁椀(724)が出土している。S E1262は底に曲物を2段据え(1069・1070)、その外側に幅約15cmの板材(1071~1075など)を2重に建て刺している。斎串(1076)が出土しているほか、埋土の上層から土師質土器小皿(678~714)・皿(716~723)、灰釉陶器椀(715)が出土している。D-2地区的S E1279は掘立柱建物S B1278の南側に位置しており、底に曲物(901)がある。

溝はD地区で11条、D-2地区で2条検出した。幅が狭く浅い溝でS D1260・1264など調査前の地割に一致する溝が多い。

道路状遺構S R1312はS D1273・1274を側溝とする道路幅1.6m前後の遺構である。調査区の西端では不整形な浅い小穴が並んでいる。調査時の状況が不明だが波板状凹凸遺構であろうか。この道路状遺構も調査前の地割りと一致する。

[註]

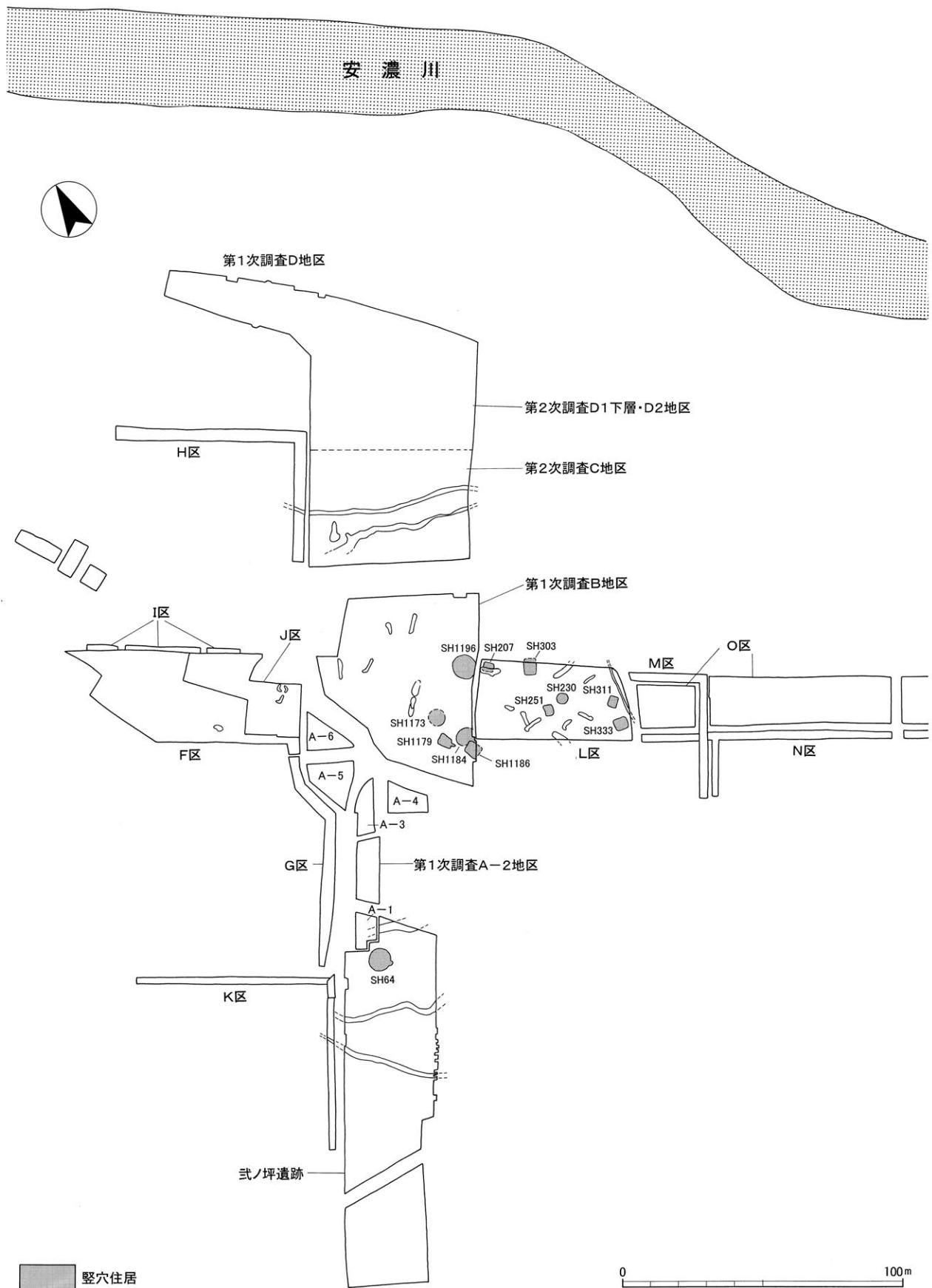
①上村安生「弥生土器編年概観」『三重県史』資料編 考古1

三重県 2005

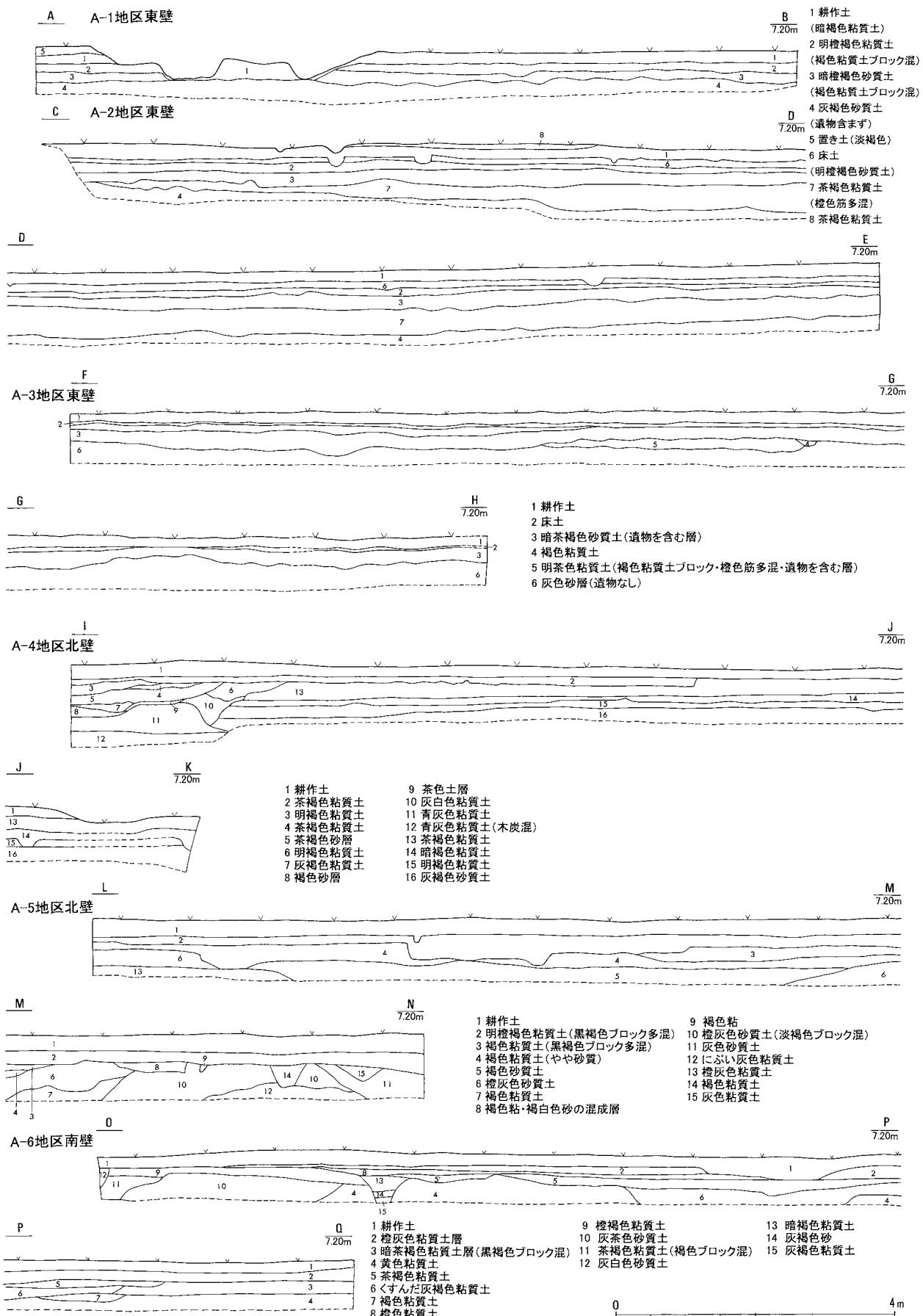
②赤塚次郎『廻間遺跡』(財) 愛知県埋蔵文化財センター 1990

③三重県埋蔵文化財センター『小津遺跡発掘調査報告』2007

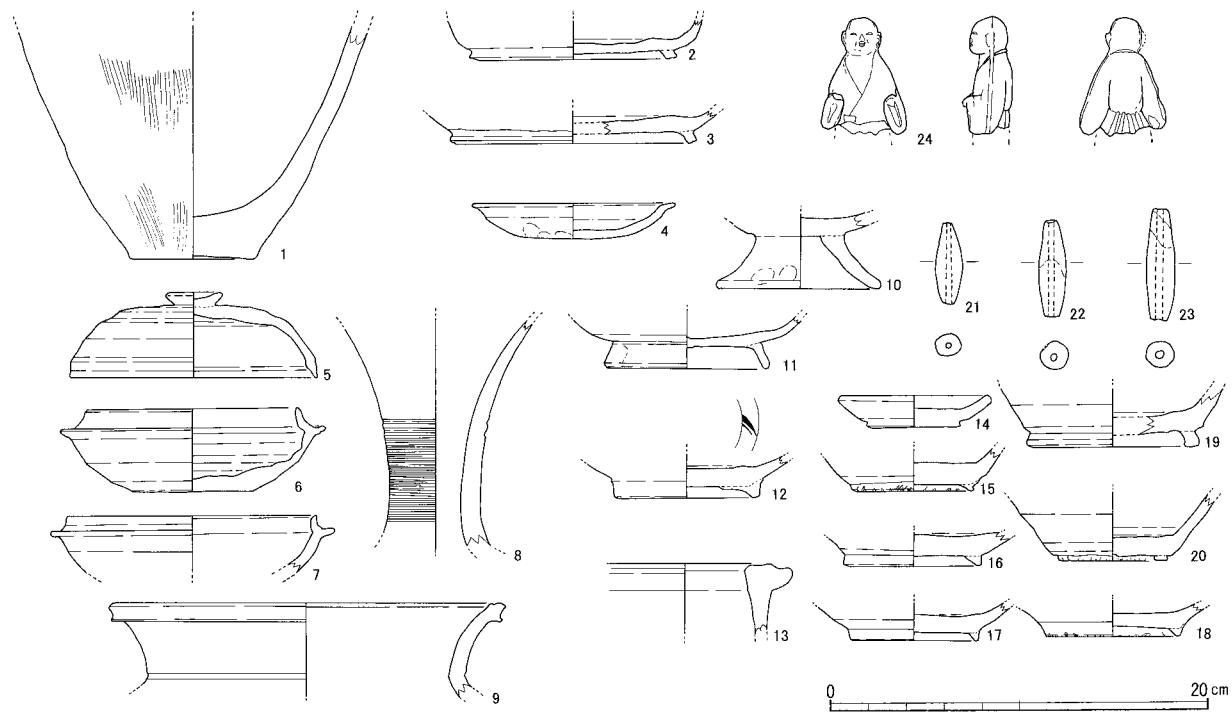
④宇野隆夫「井戸考」『史林』65巻5号 史学研究会1982



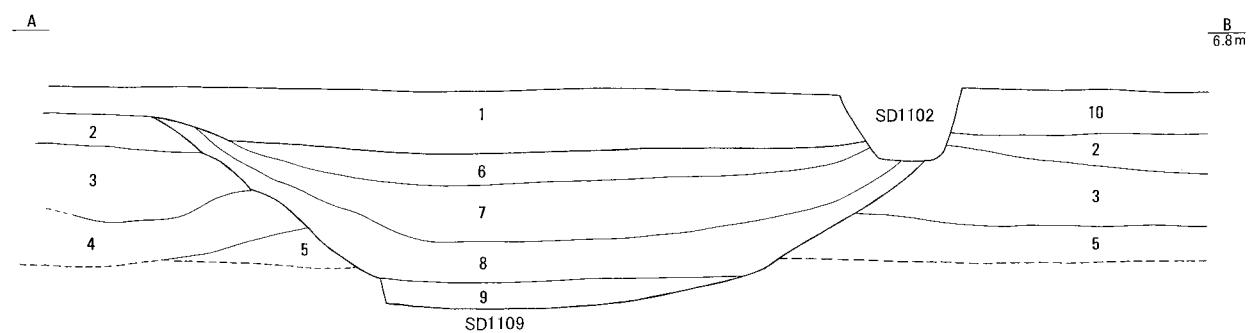
第4図 替田遺跡弥生時代遺構配置図 (1:2,000)



第5図 A地区 土層断面図 (1:80)

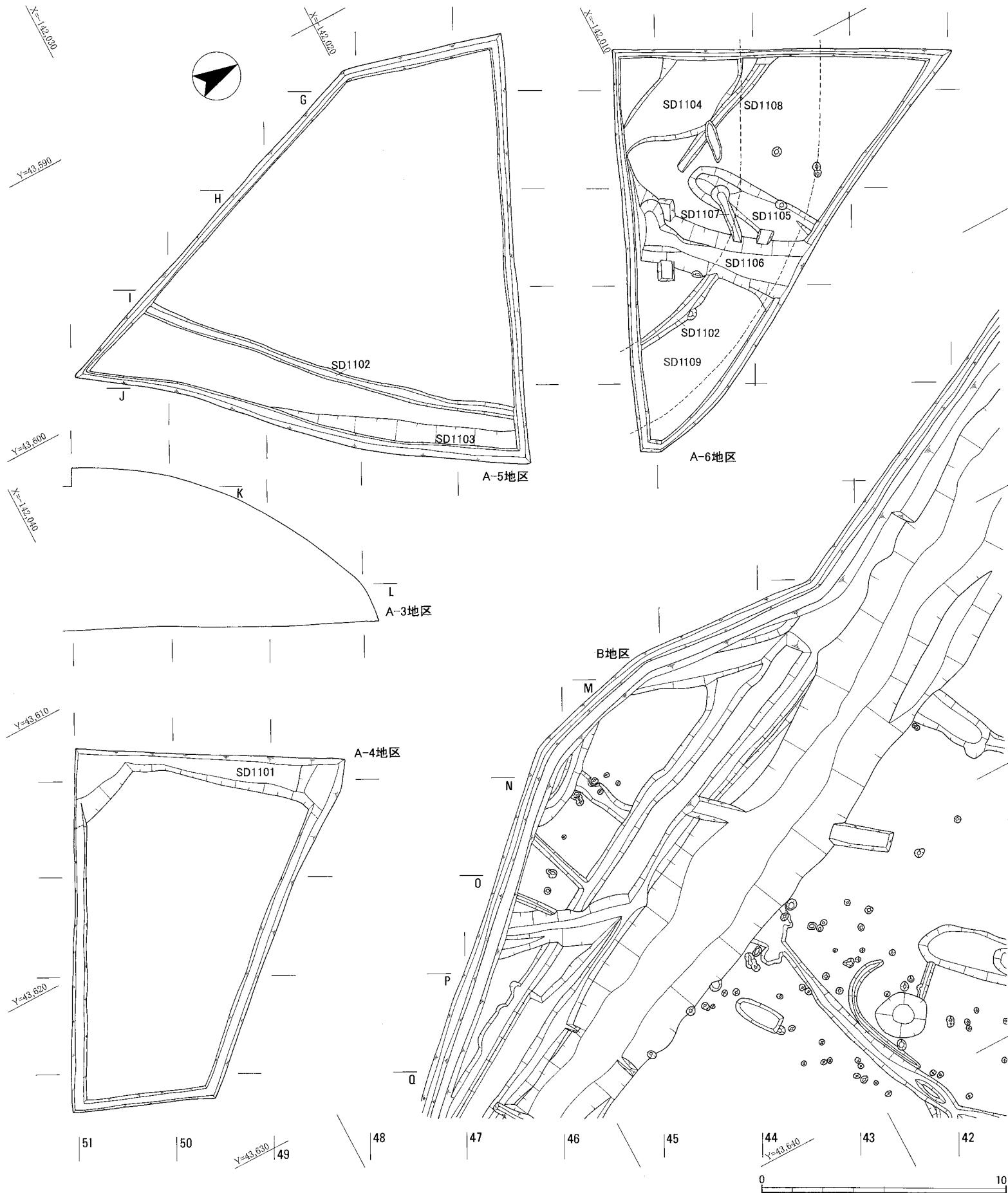


第6図 A地区出土遺物実測図 1 SD1104 (1); SD1106 (2); SD1102 (3, 4); 包 (5~24) (1:4)

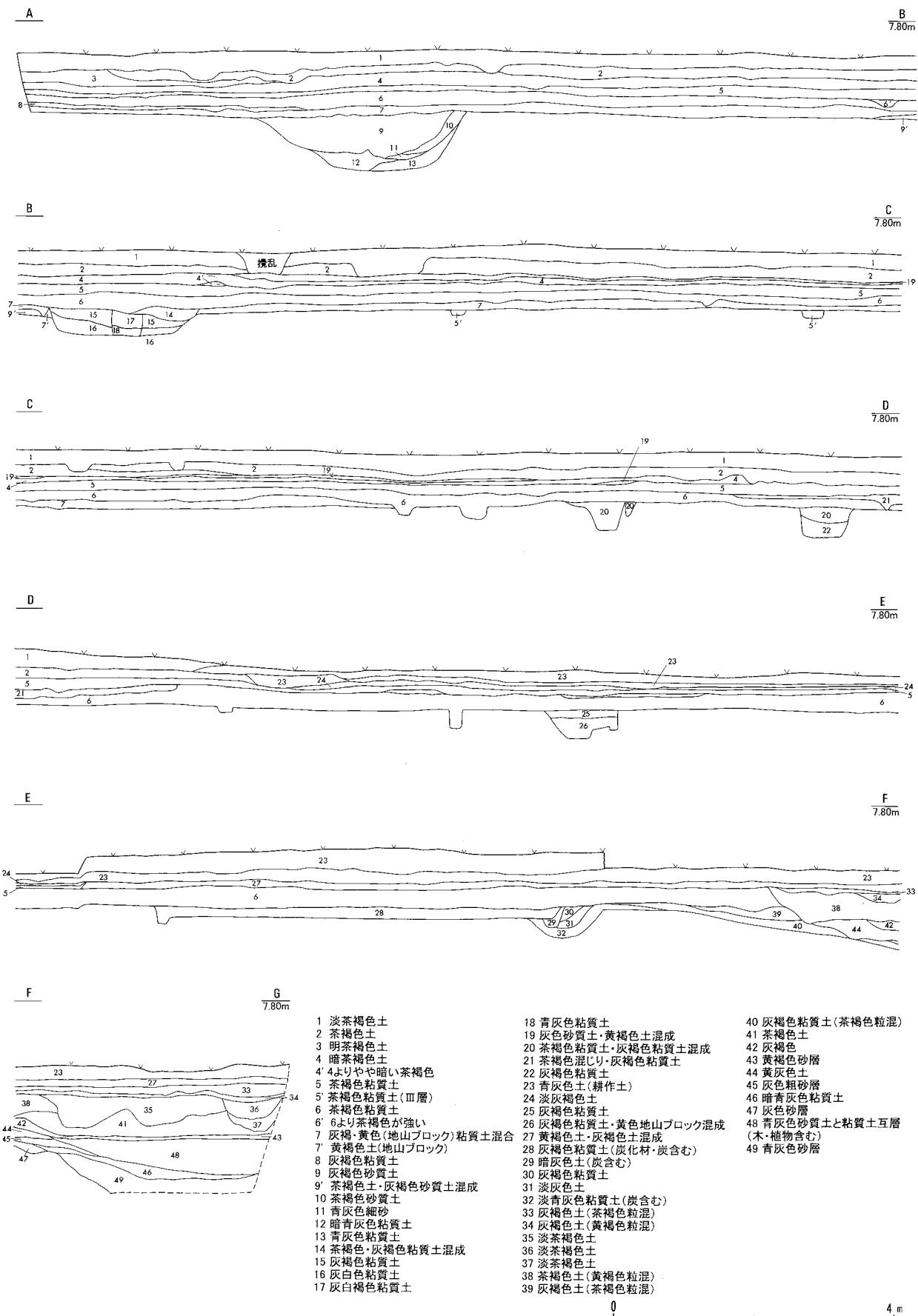


- 1 黄味がかった灰茶色粘質土と灰色砂質土の混成層
- 2 灰色粘質土
- 3 灰色粘質土(橙色筋入る)
- 4 3より暗い同系砂層
- 5 青灰色粘質シルト(非常にきめ細かい)
- 6 黄灰色粘質土と灰色砂質土の互層
- 7 黒灰色粘質土と暗灰色砂層の互層
- 8 褐色粘質土
- 9 灰色粘質土を少し含む灰色砂利層
- 10 黄色(クリーム色)粘質土

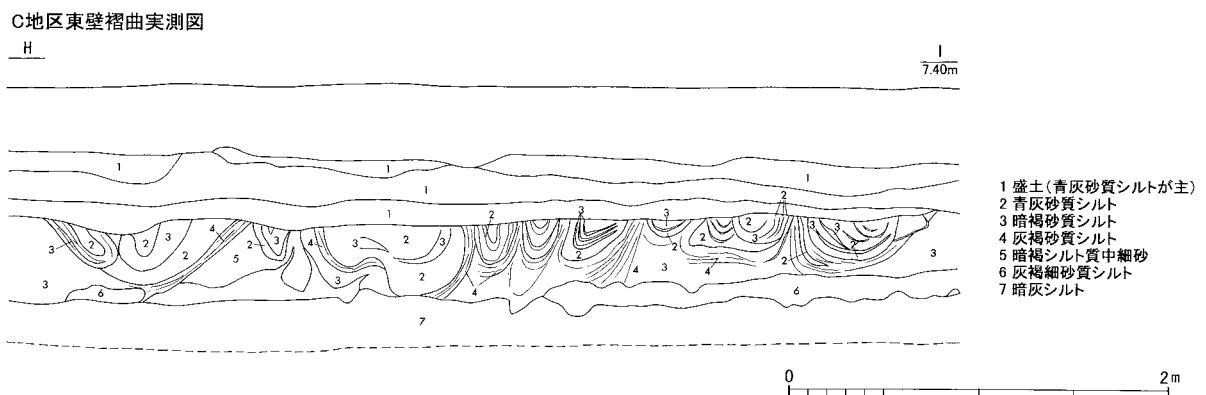
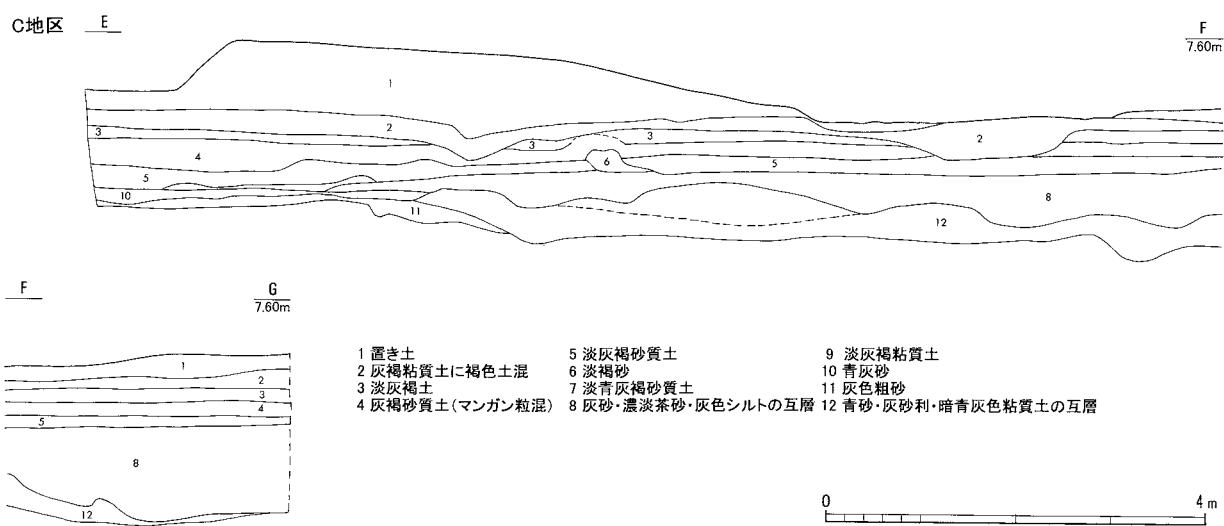
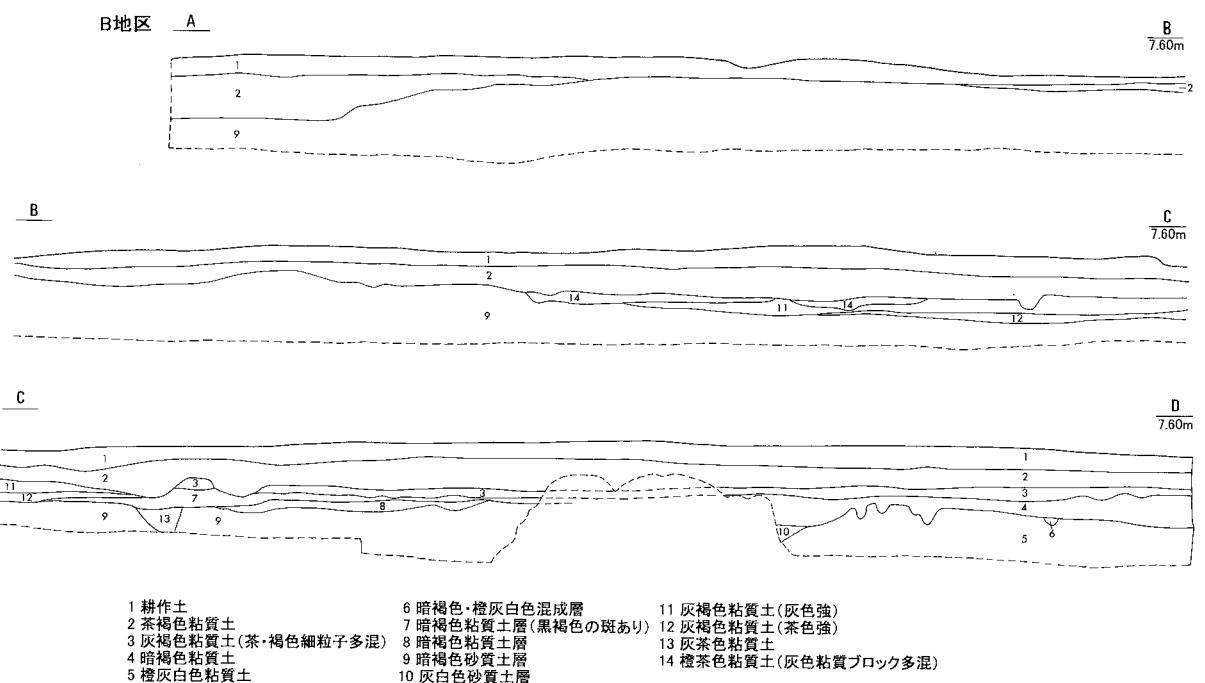
第7図 A 6地区下層トレンチ土層断面図 (1:40)



第8図 A 3～A 6 B地区南端平面図 (1:200)



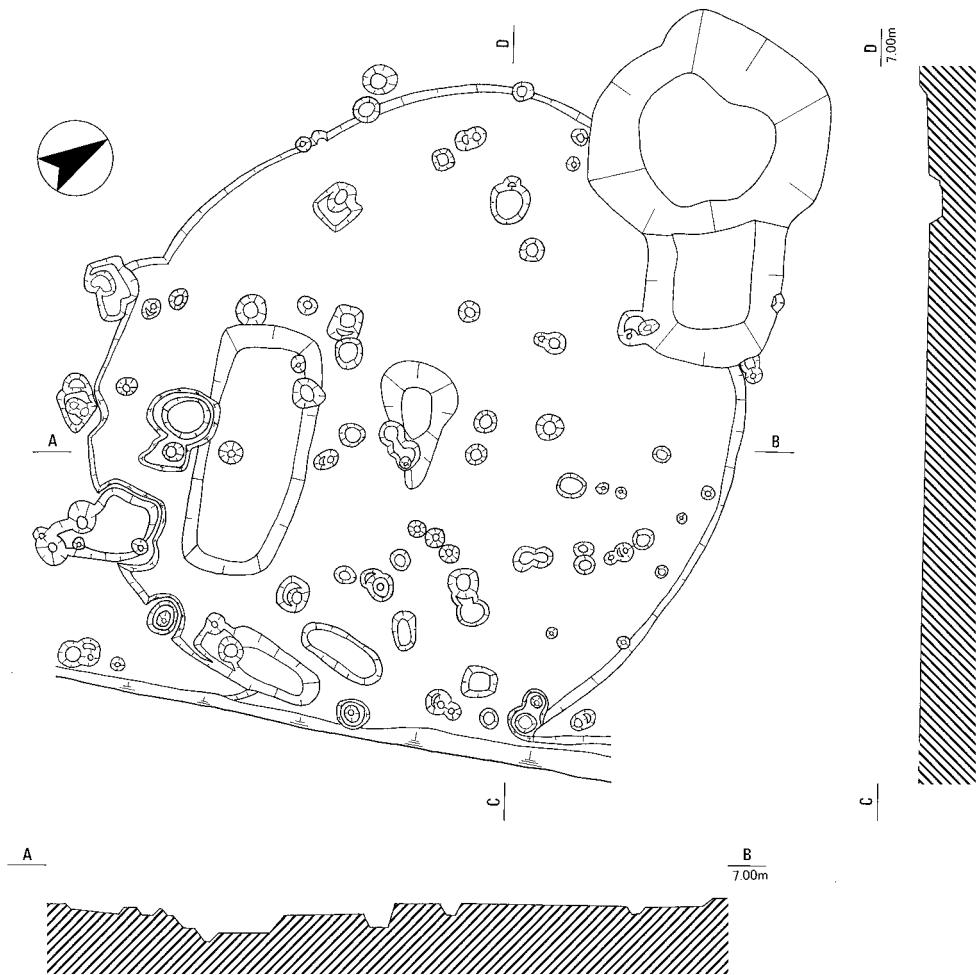
第9図 B地区東壁土層断面図 (1:80)



第10図 B地区北壁・C地区拡張部南壁土層断面図 (1:80) C地区拡張部地震痕跡 (1:40)



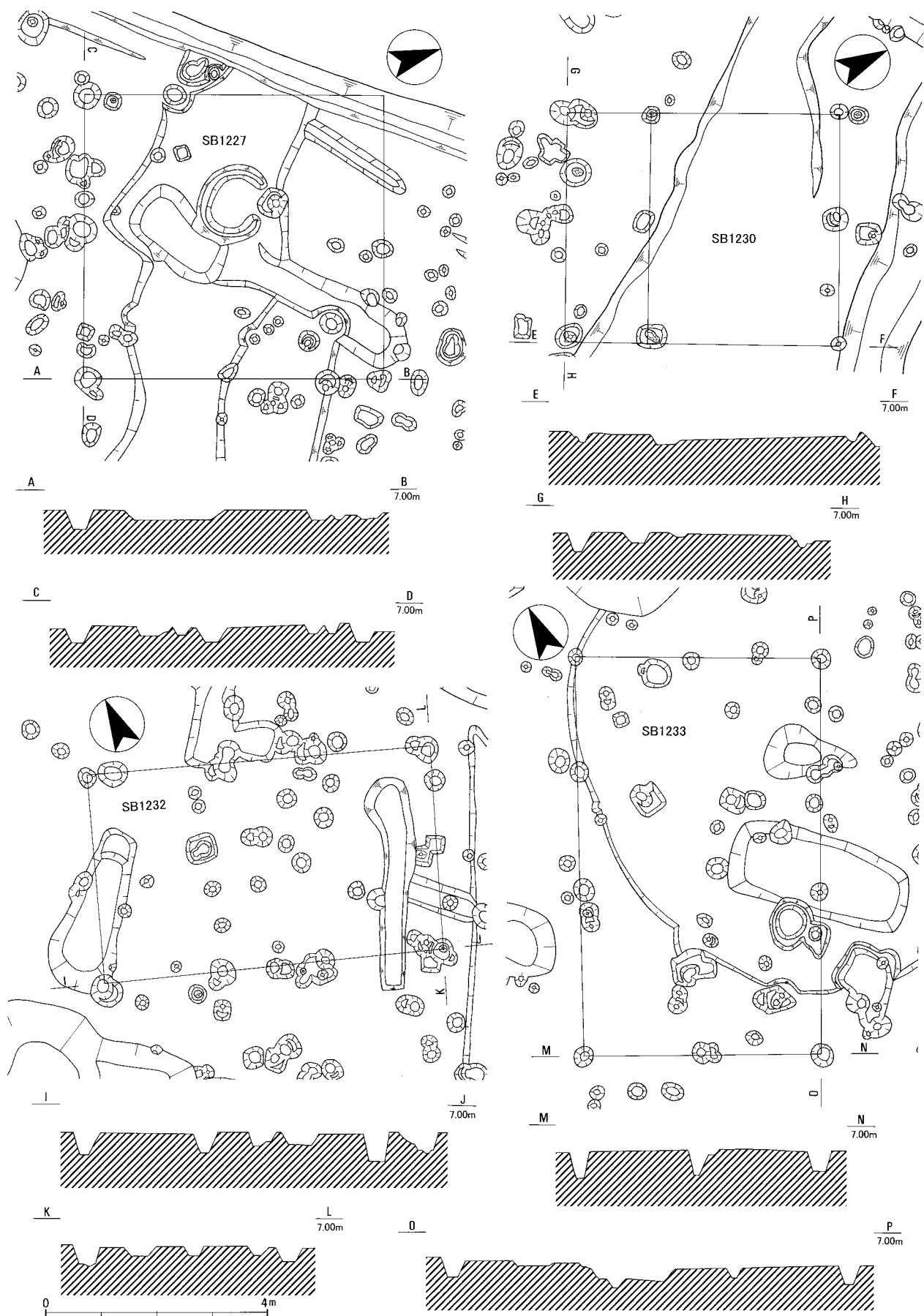
第11図 SH1173・1179・1184 実測図 (1 : 100)



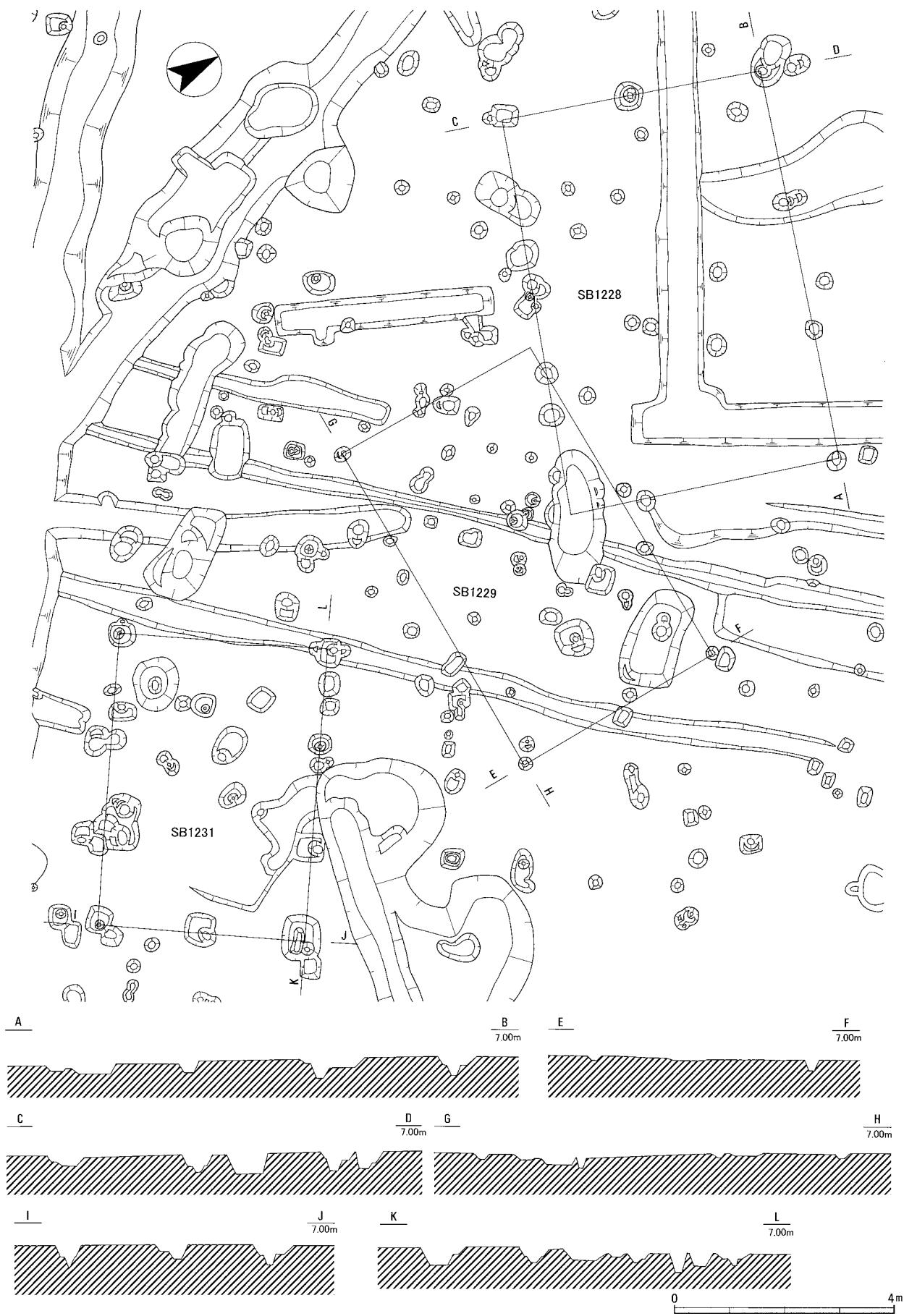
第12図 SH1186・SH1196 実測図 (1 : 100)



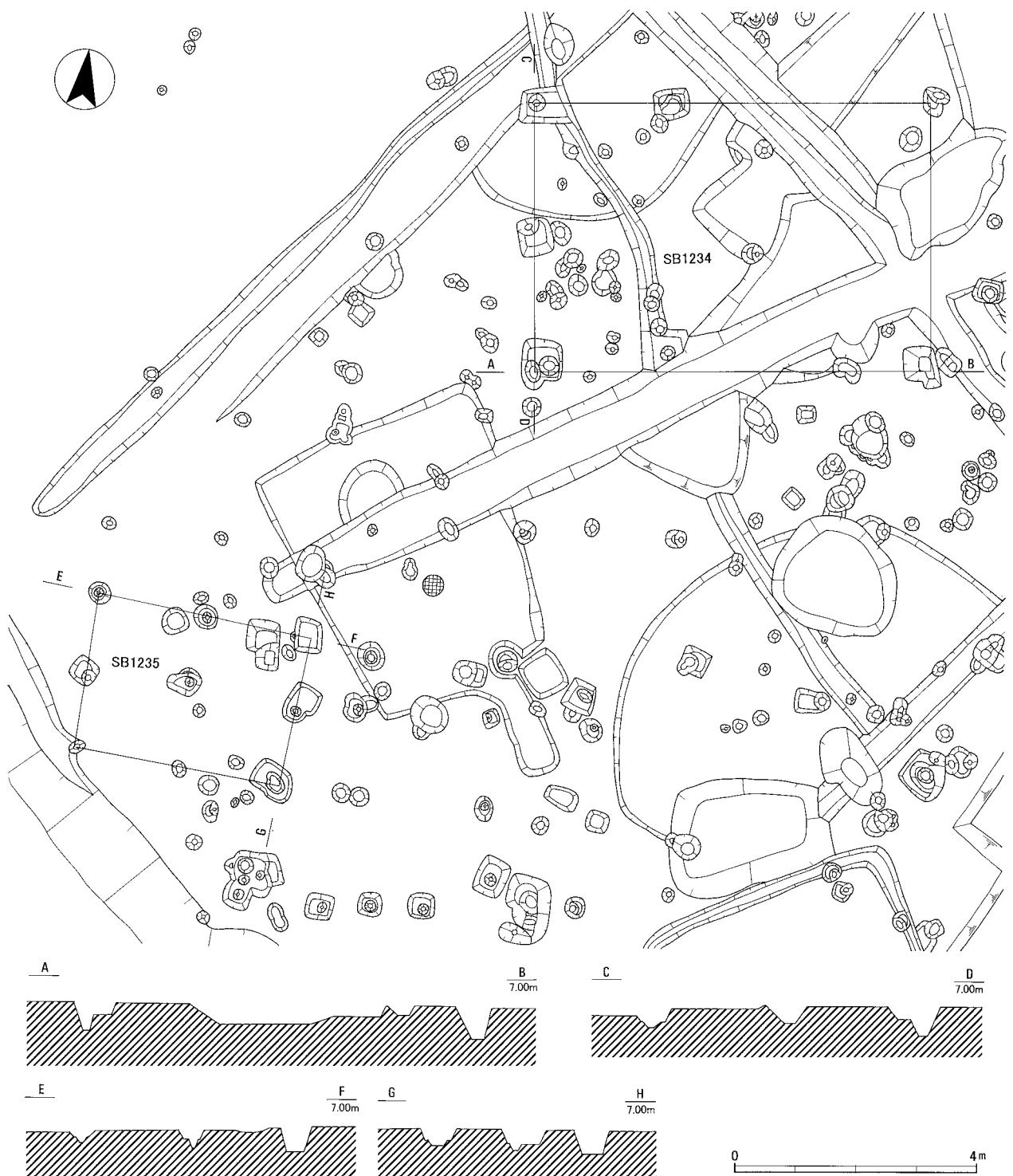
第13図 SH1186 焼失家屋炭化材出土状況図 (1:40)



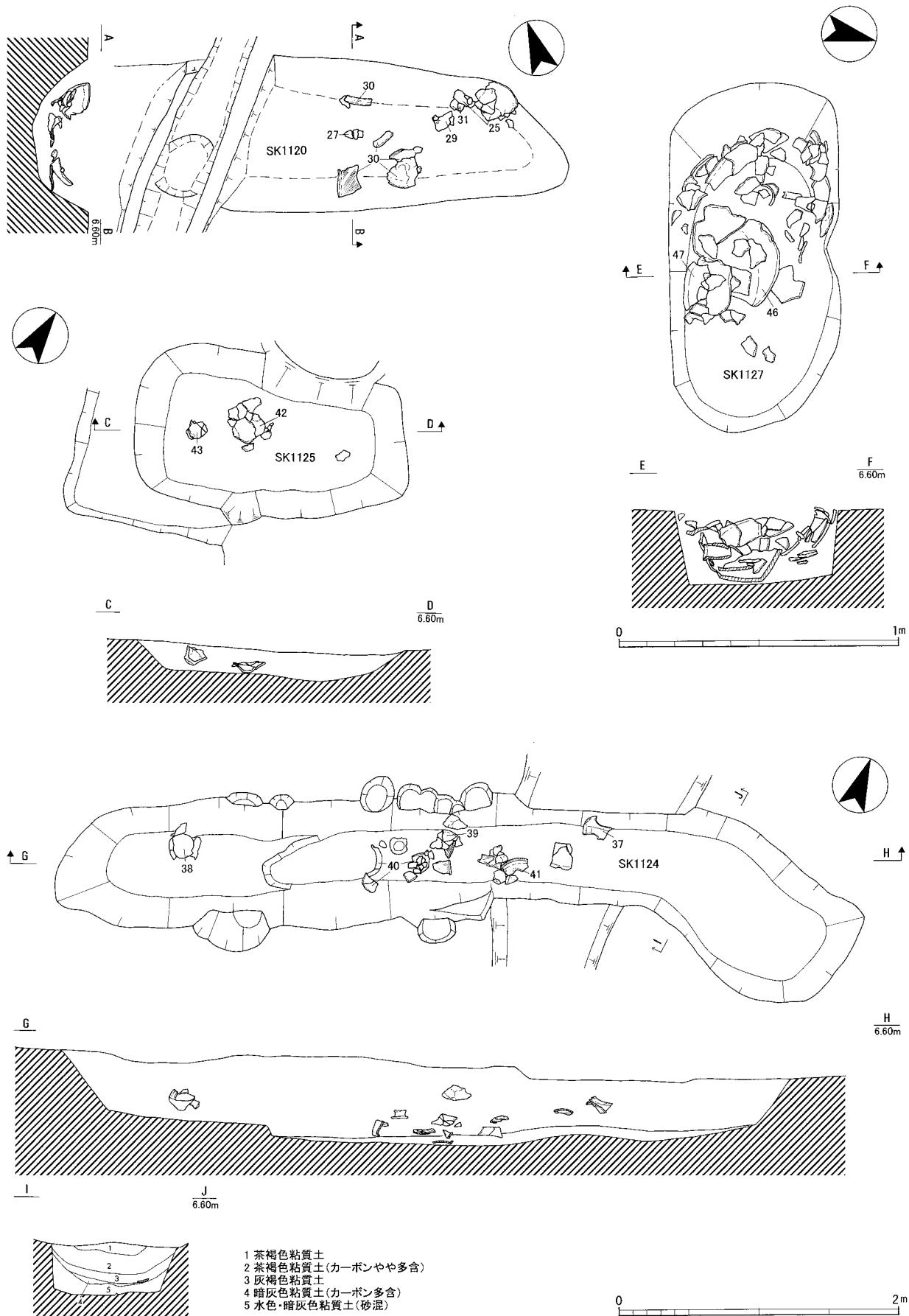
第14図 SB1227・1230・1232・1233 実測図 (1 : 100)



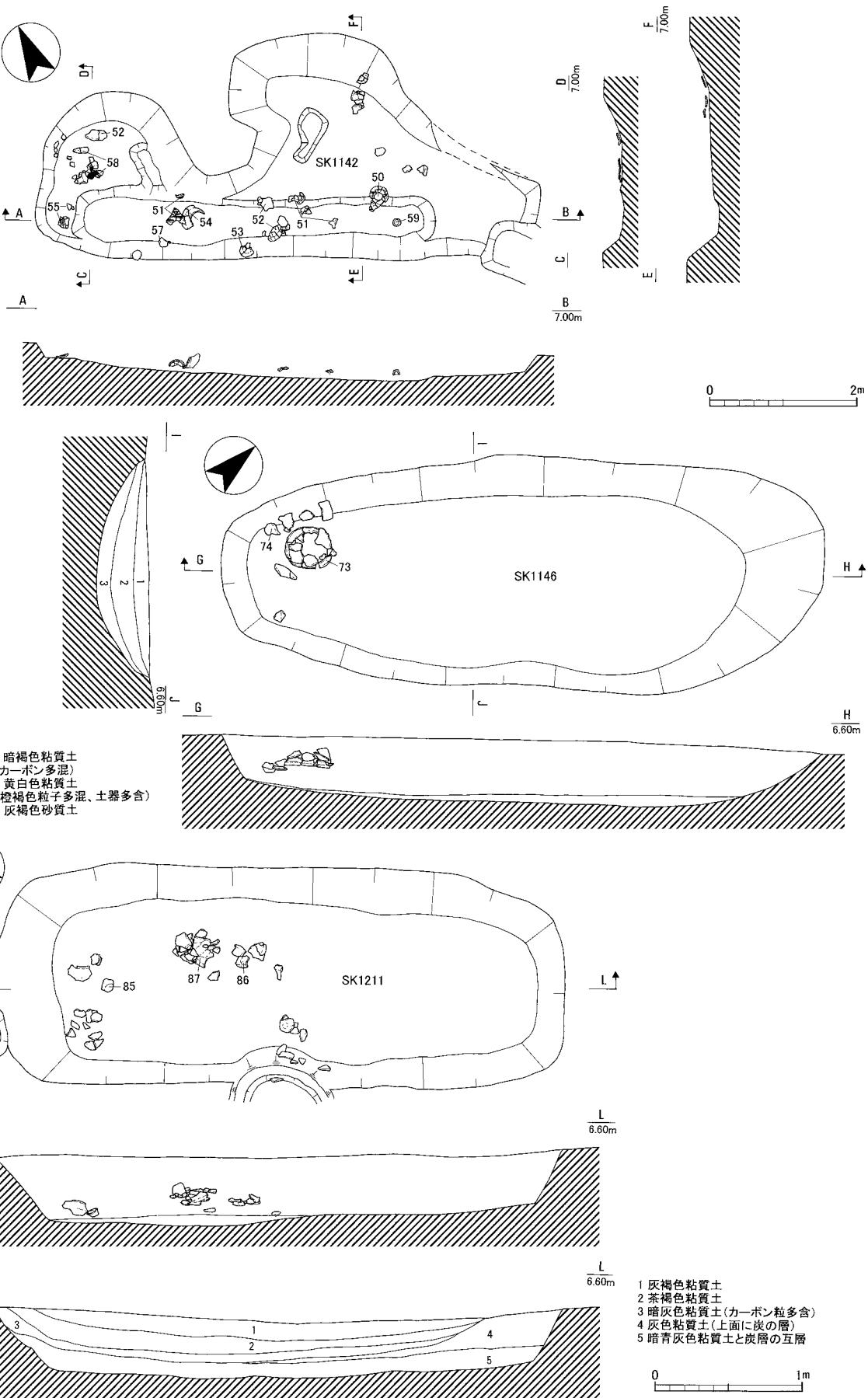
第15図 SB1228・1229・1231 実測図 (1 : 100)



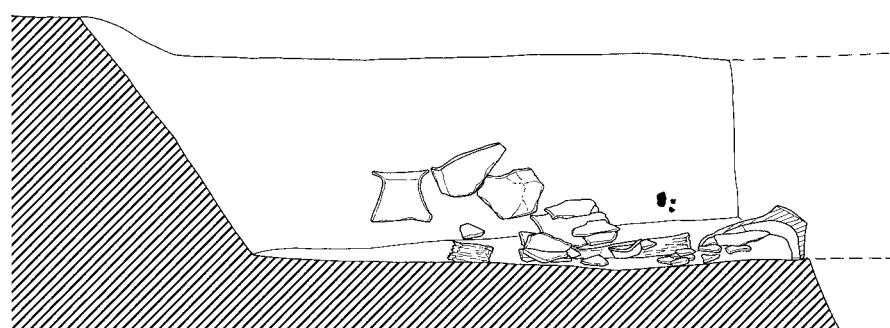
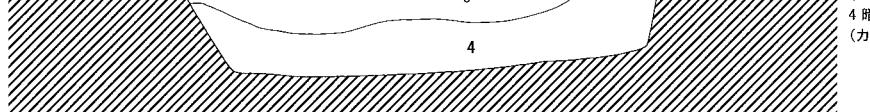
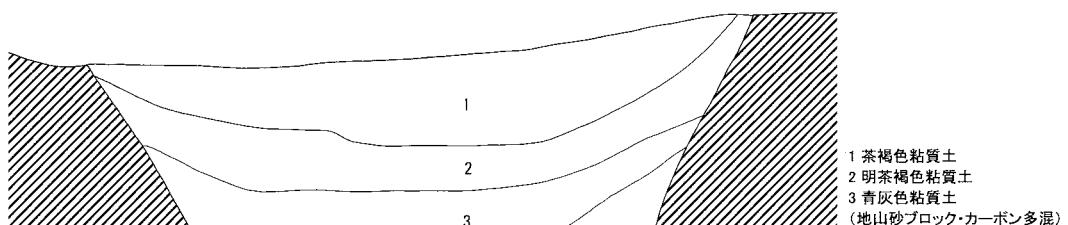
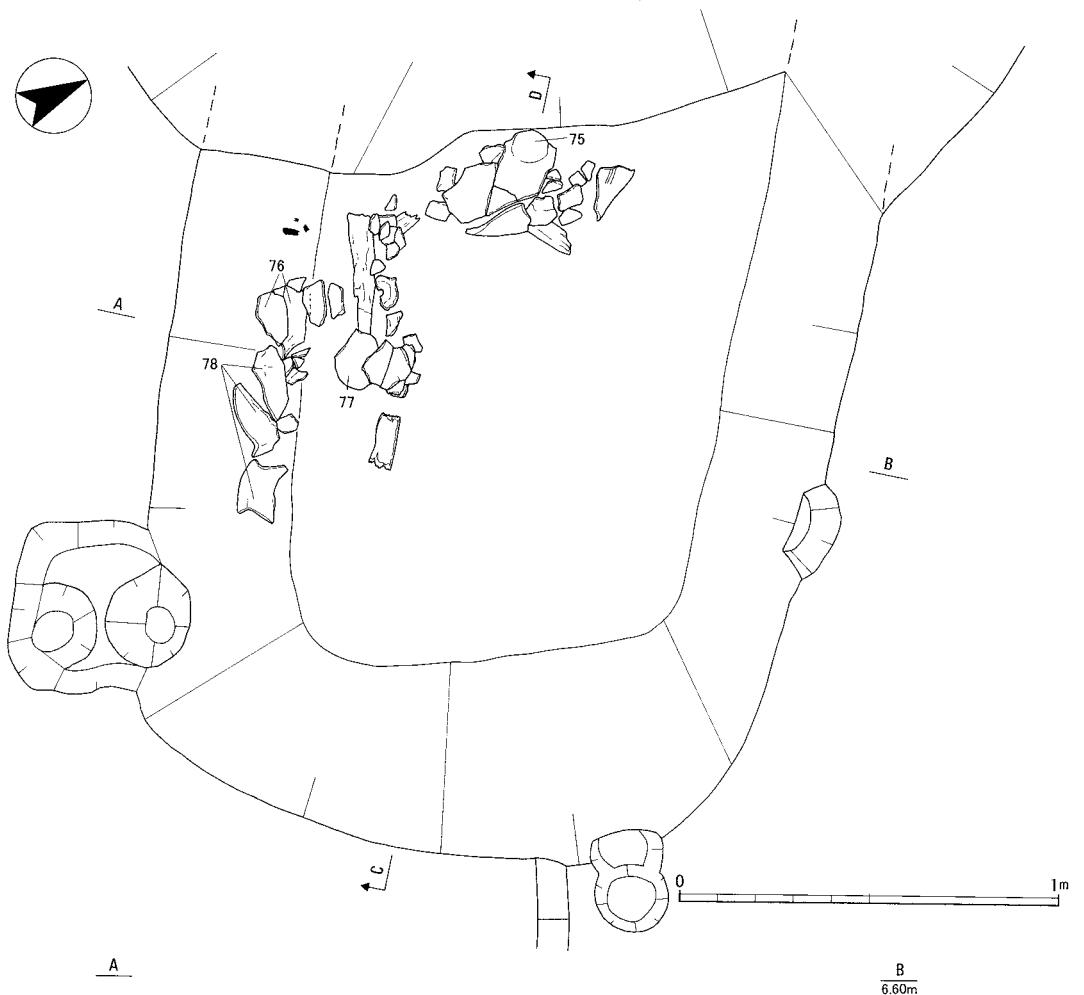
第16図 SB1234・1235 実測図 (1 : 100)



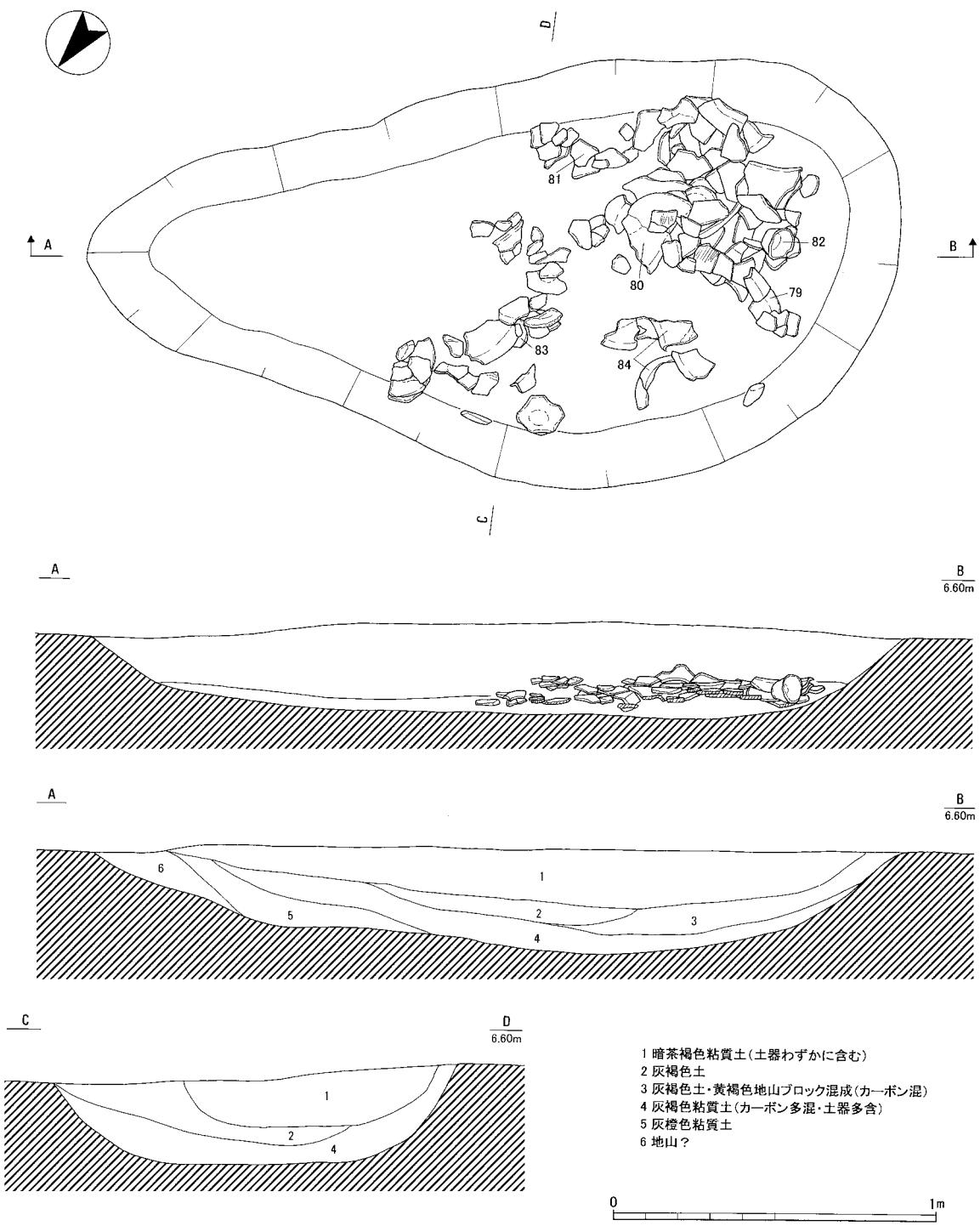
第17図 SK1120・1124・1125・1127 平面図、土層断面図・見通し図 (1:40、SK1127は1:20)



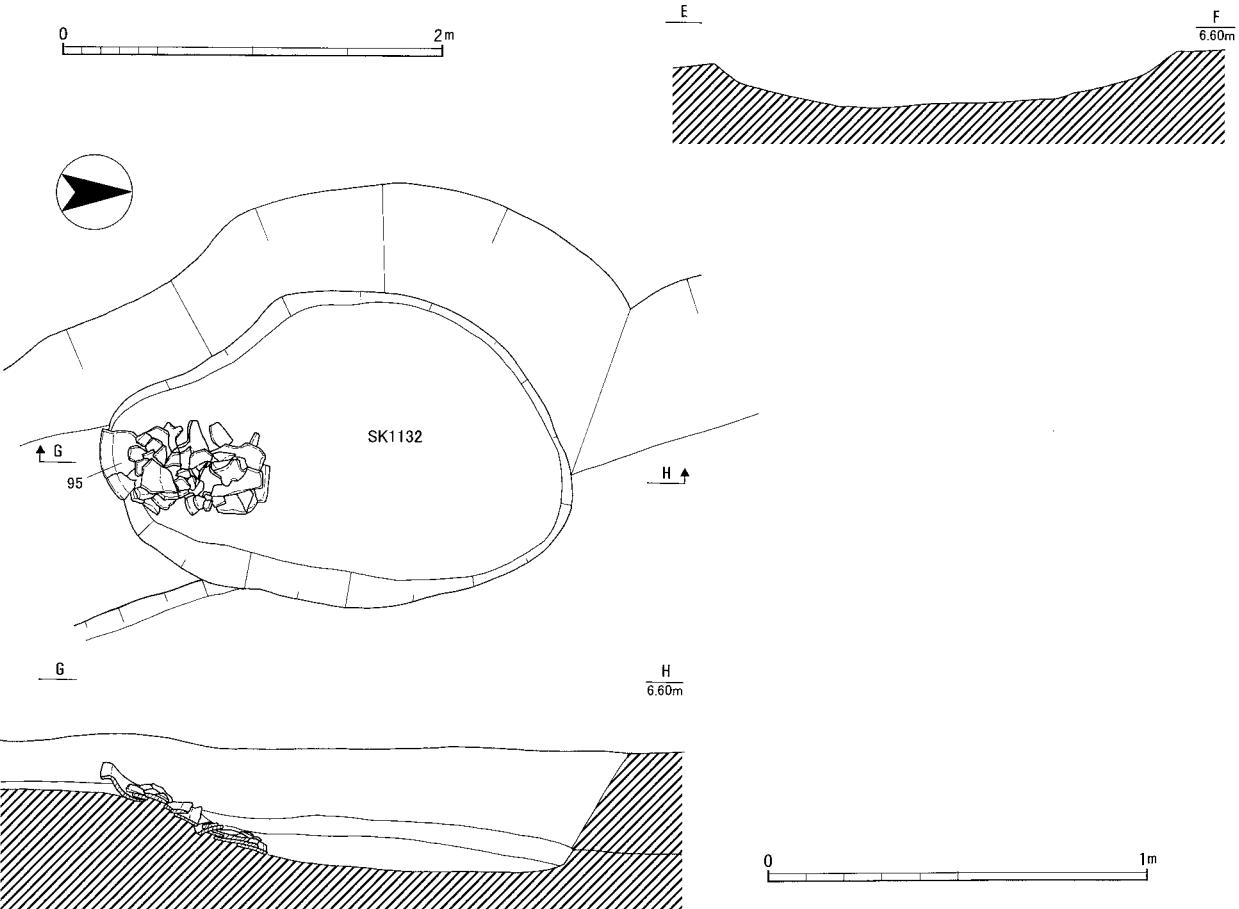
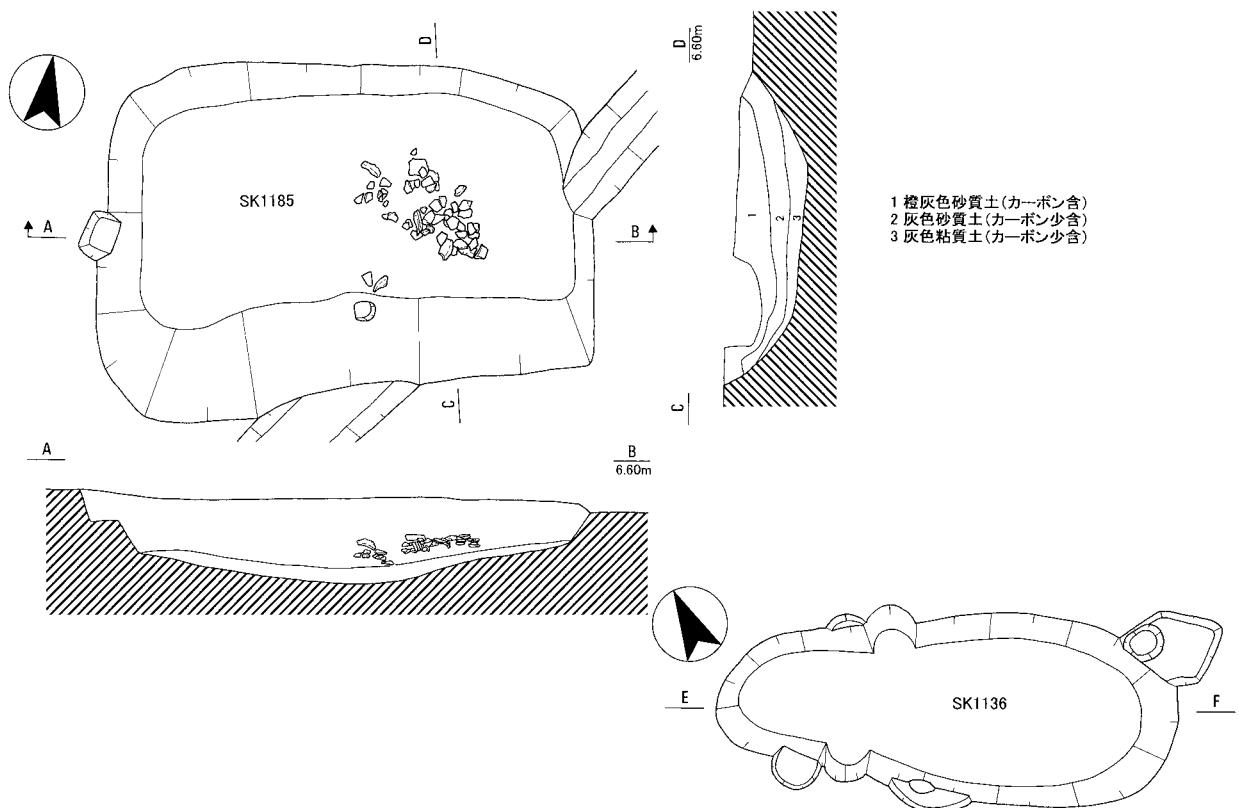
第18図 SK1142・1146・1211 平面図、土層断面図・見通し図 (1:40、SK1142は1:80)



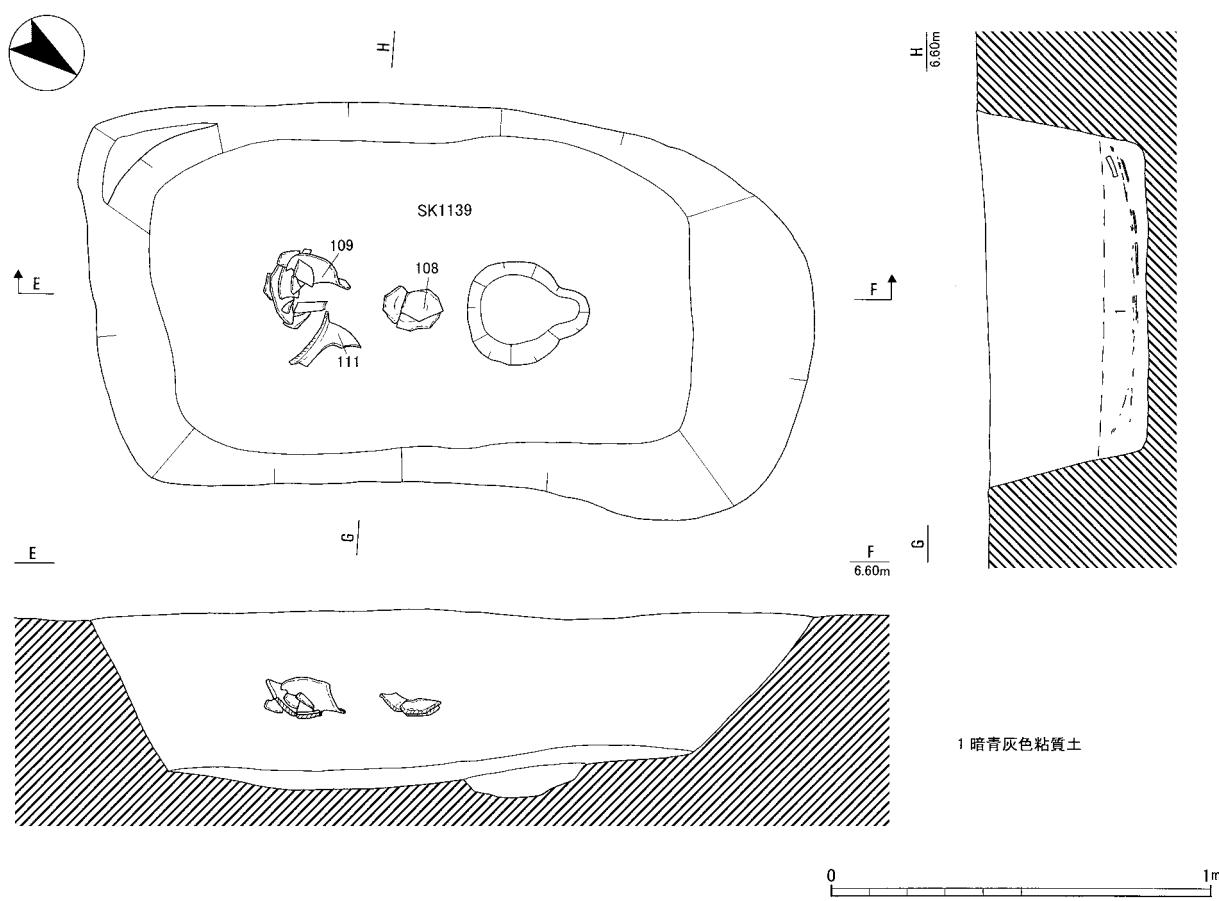
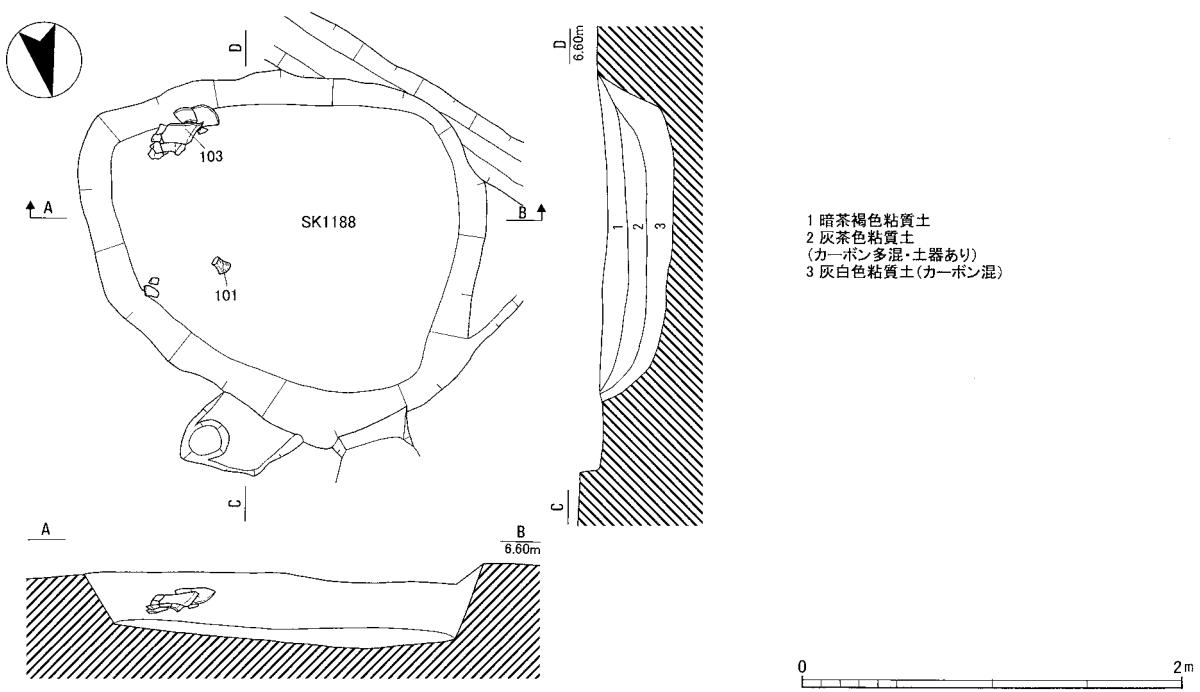
第19図 SK1212 平面図、土層断面図・見通し図 (1 : 20)



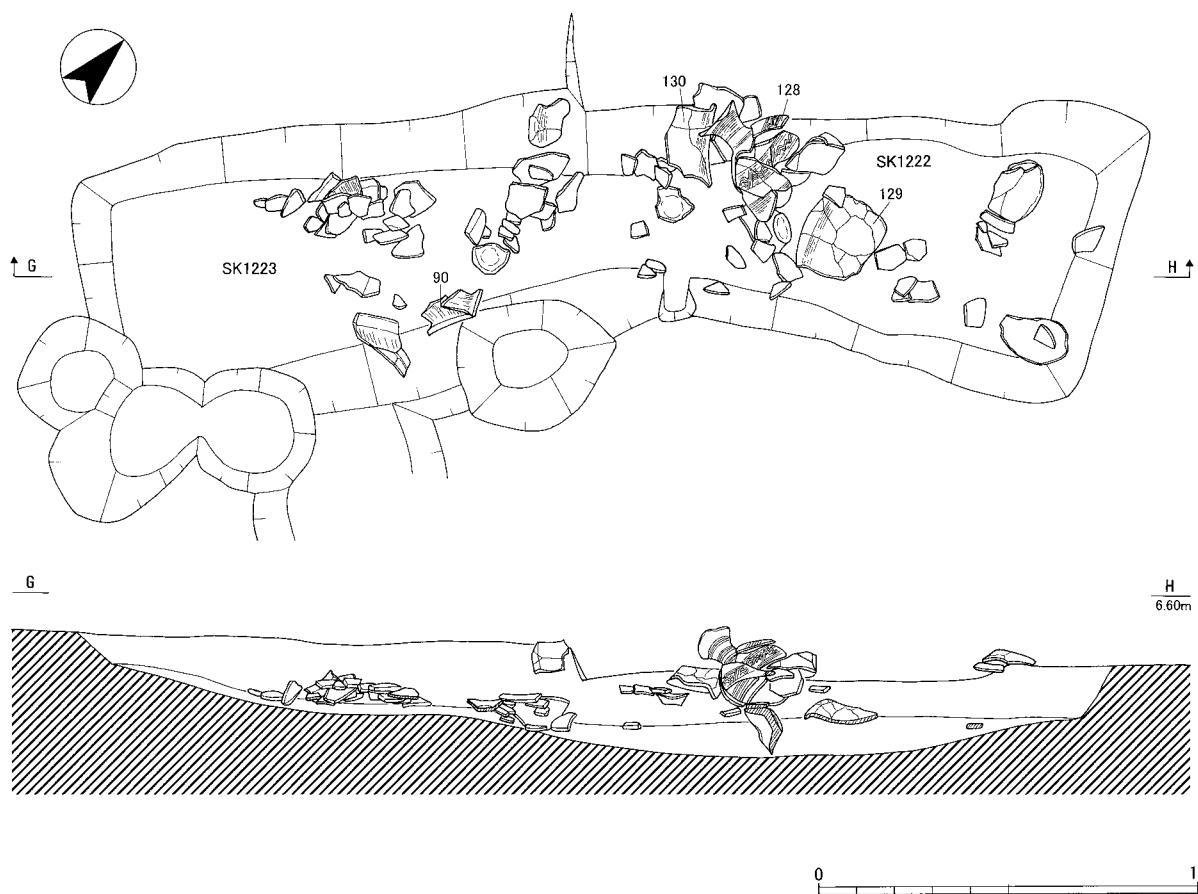
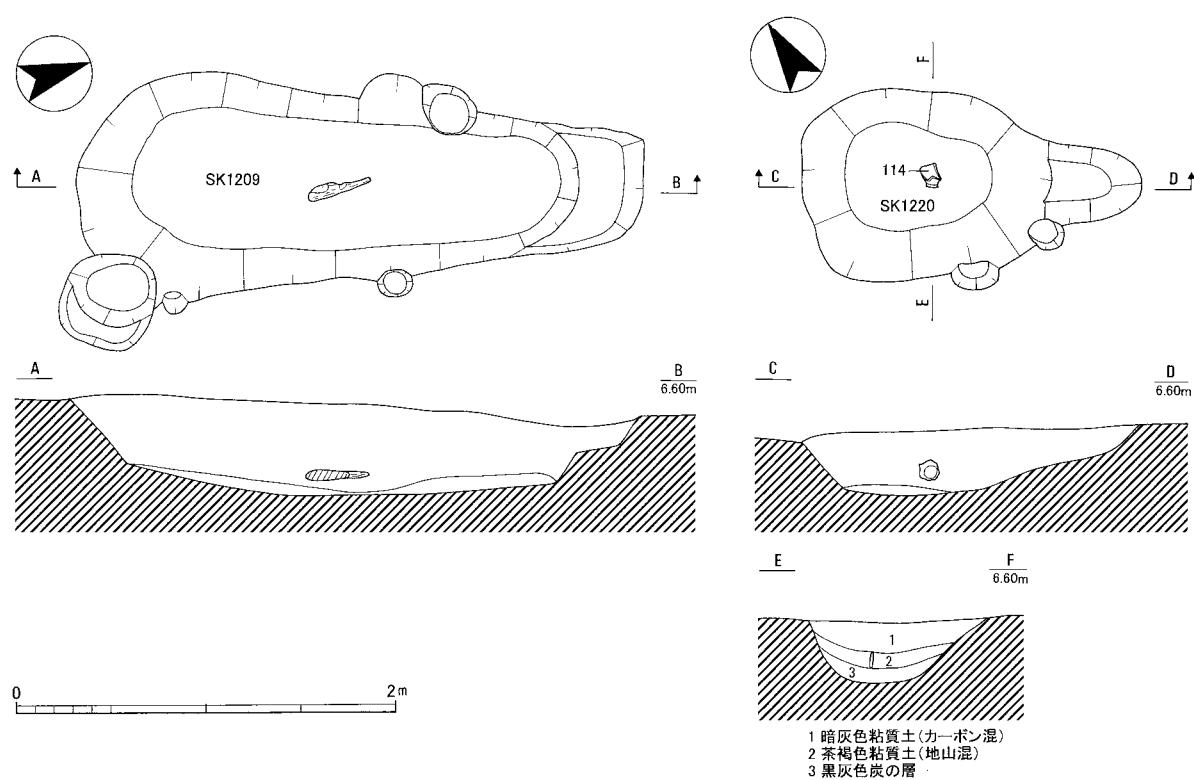
第20図 SK1210 平面図、土層断面図・見通し図 (1 : 20)



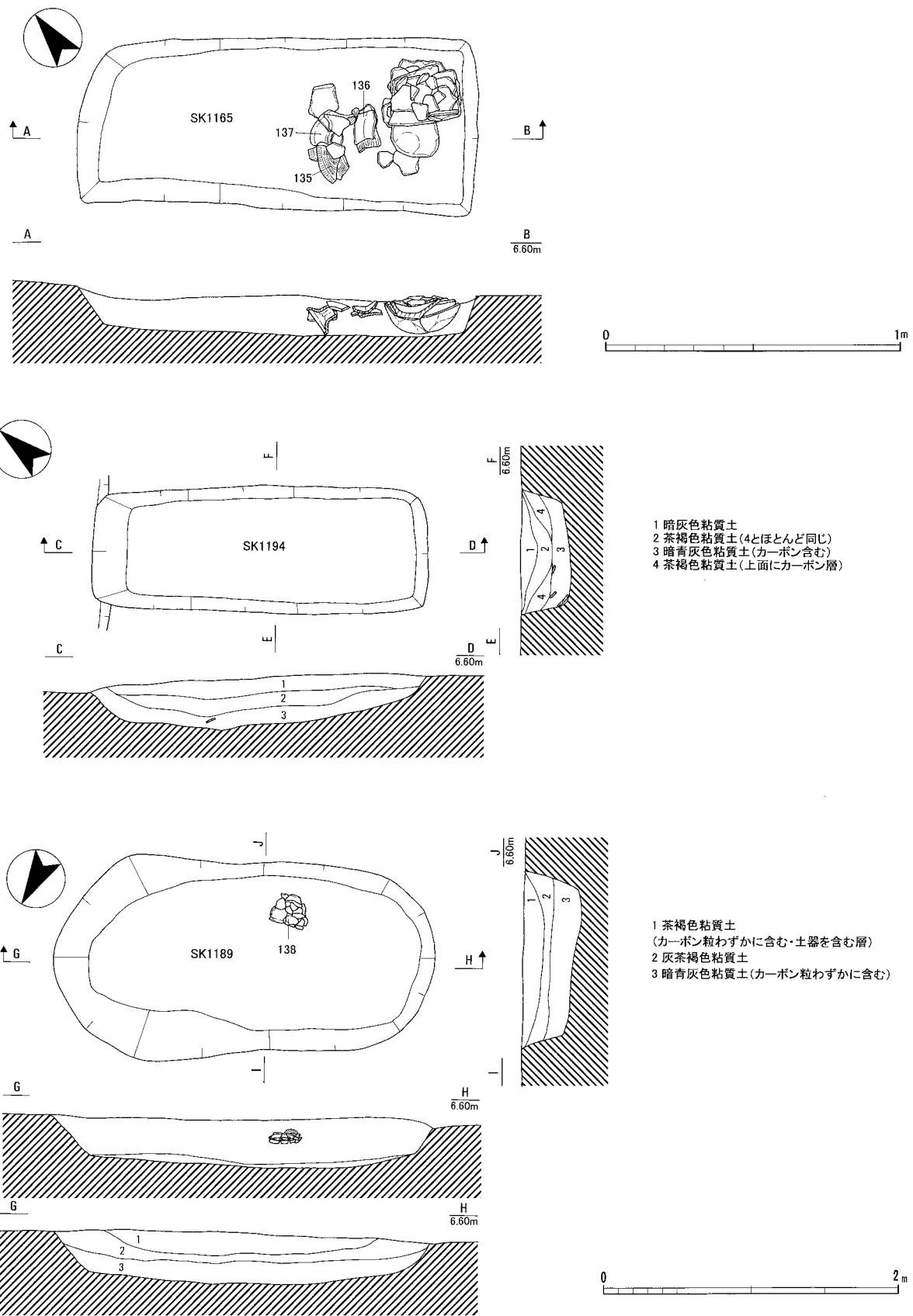
第21図 SK1132・1185・1136 平面図、土層断面図・見通し図 (1:40、SK1132は1:20)



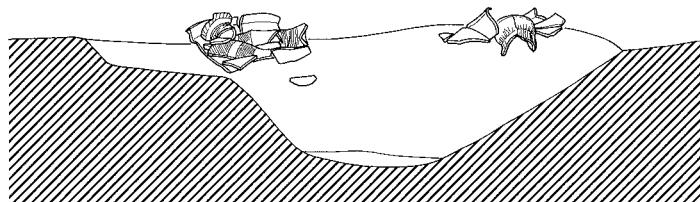
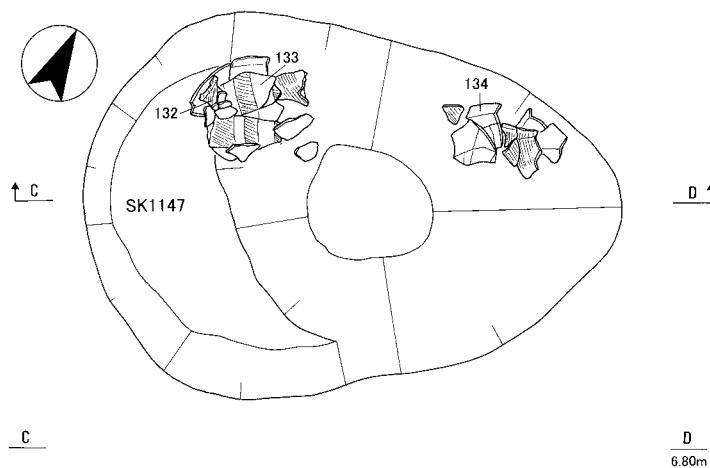
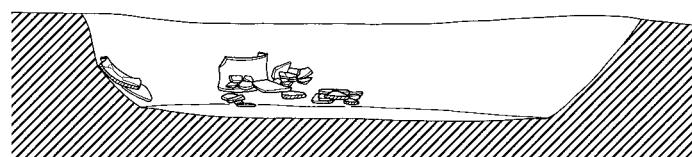
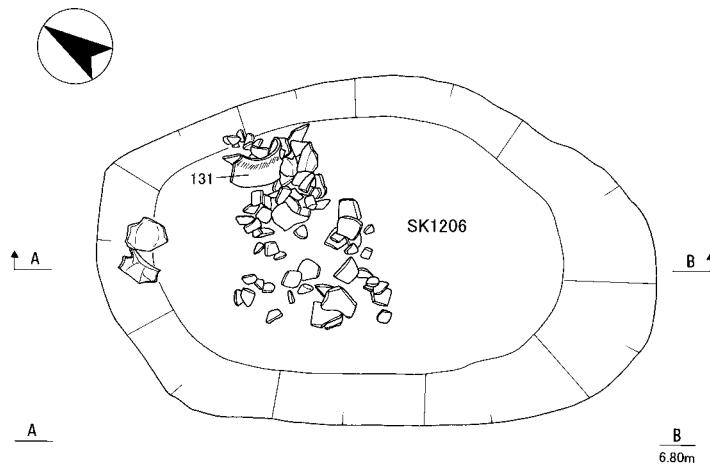
第22図 SK1188・1139 平面図、土層断面図・見通し図 (SK1188 1:40, SK1139 1:20)



第23図 SK1209・1220・1222・1223 平面図、土層断面図・見通し図 (SK1209、1220 1:40、他は1:20)

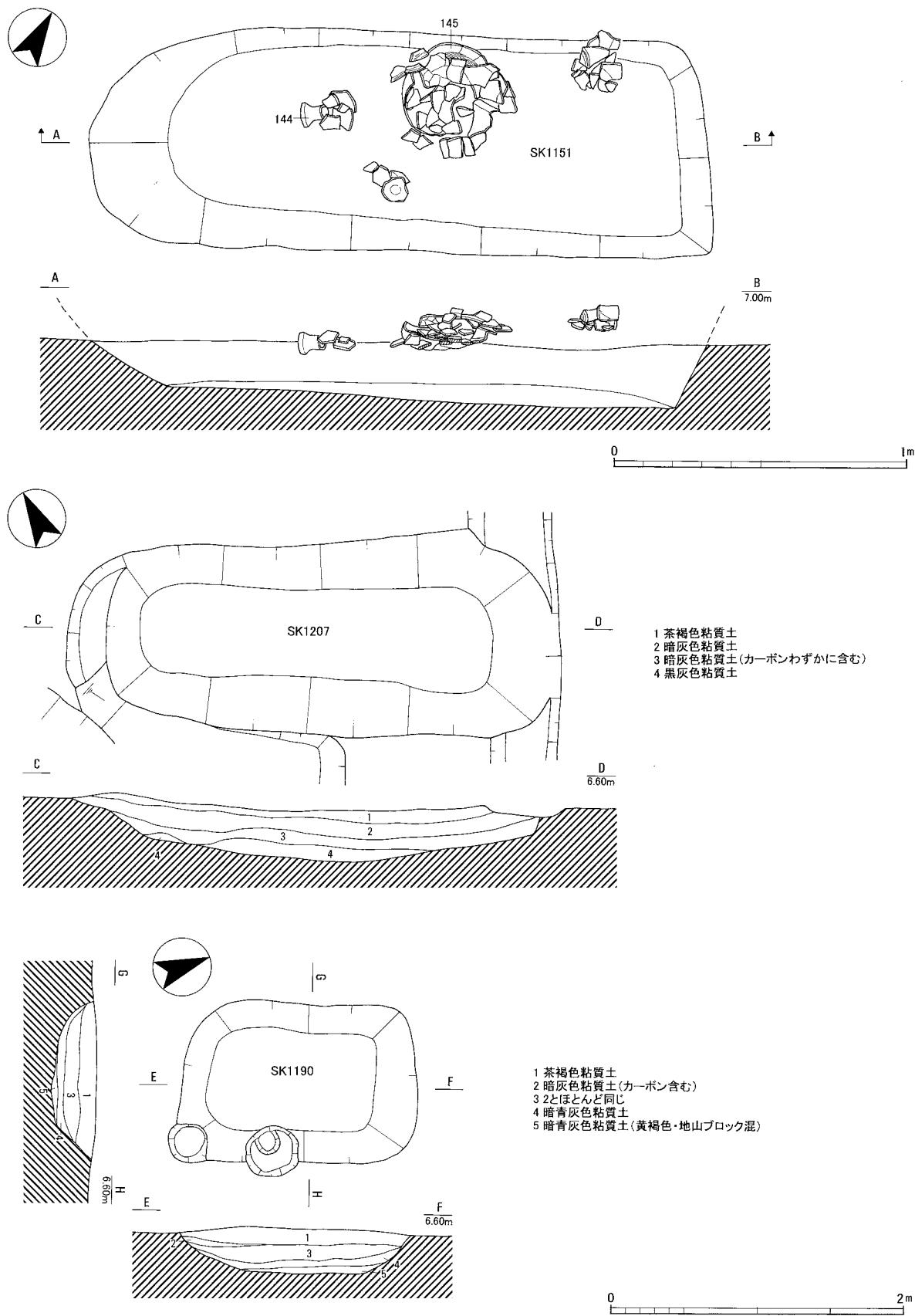


第24図 SK1165・1194・1189 平面図、土層断面図・見通し図 (1:40、SK1165は1:20)

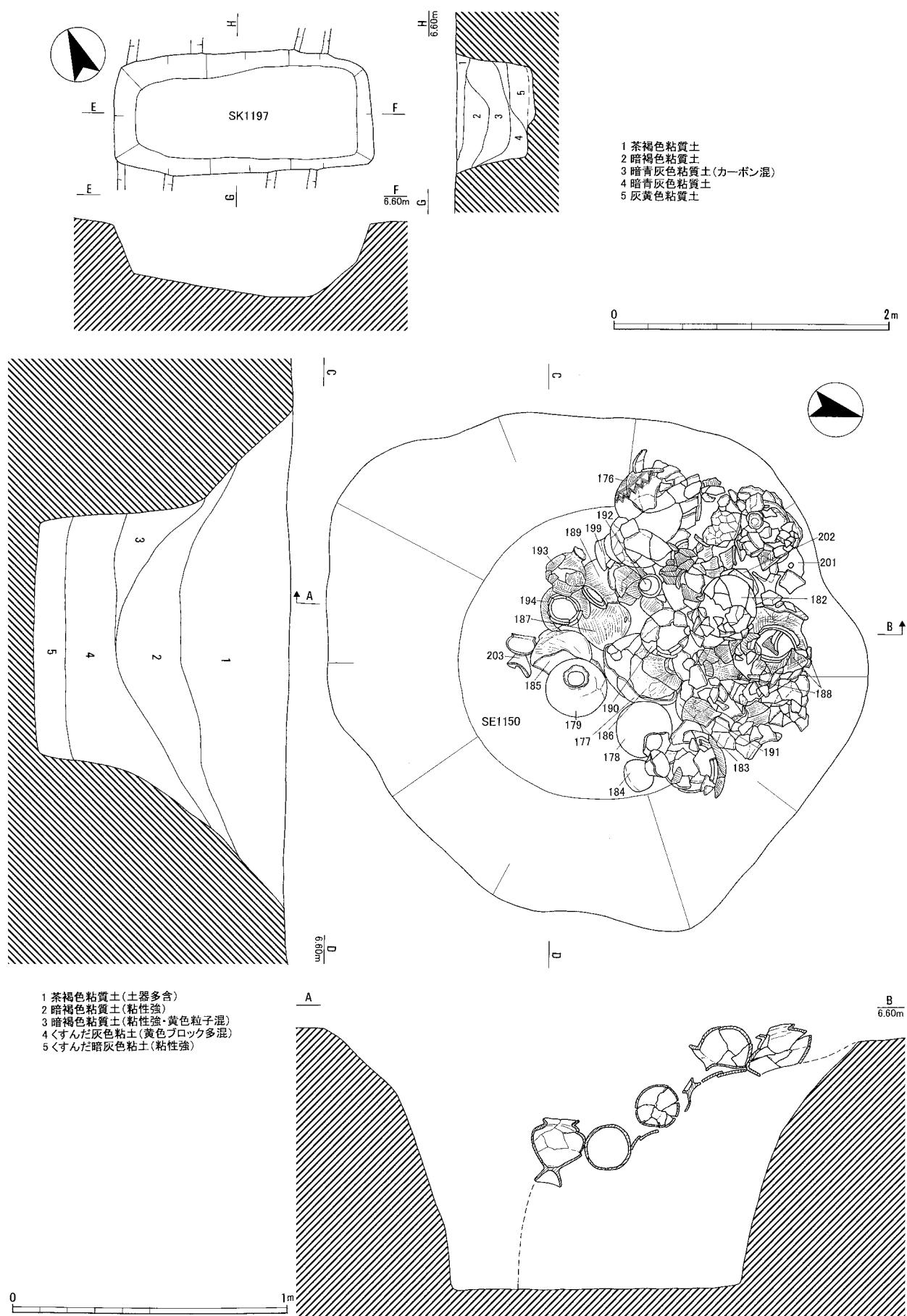


0 1m

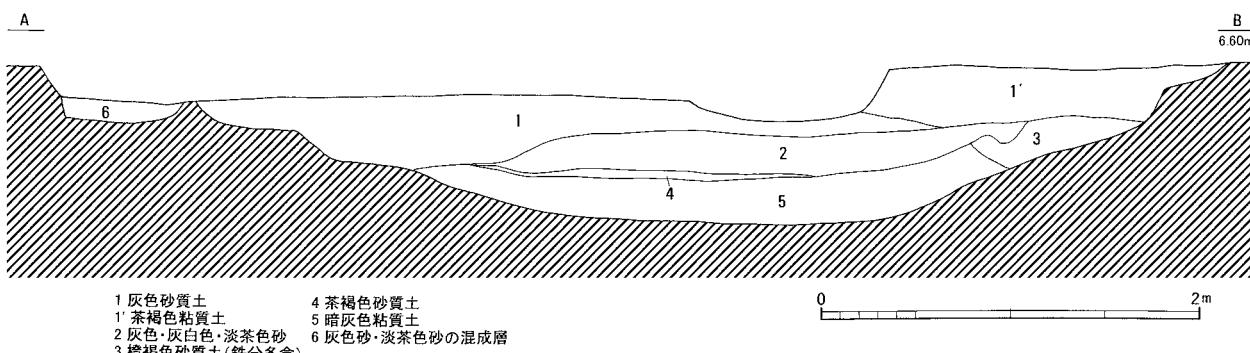
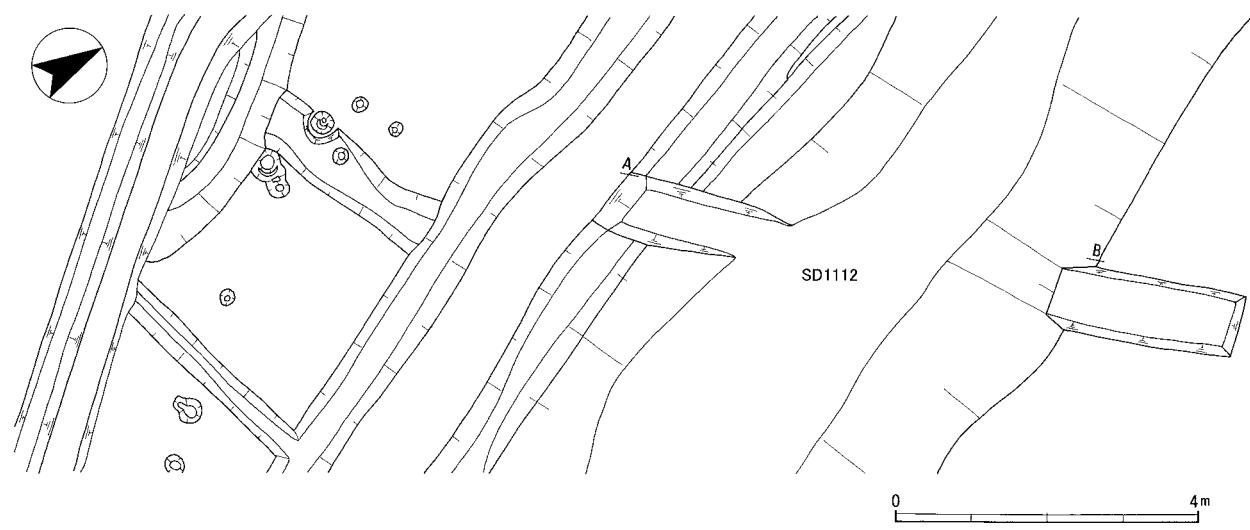
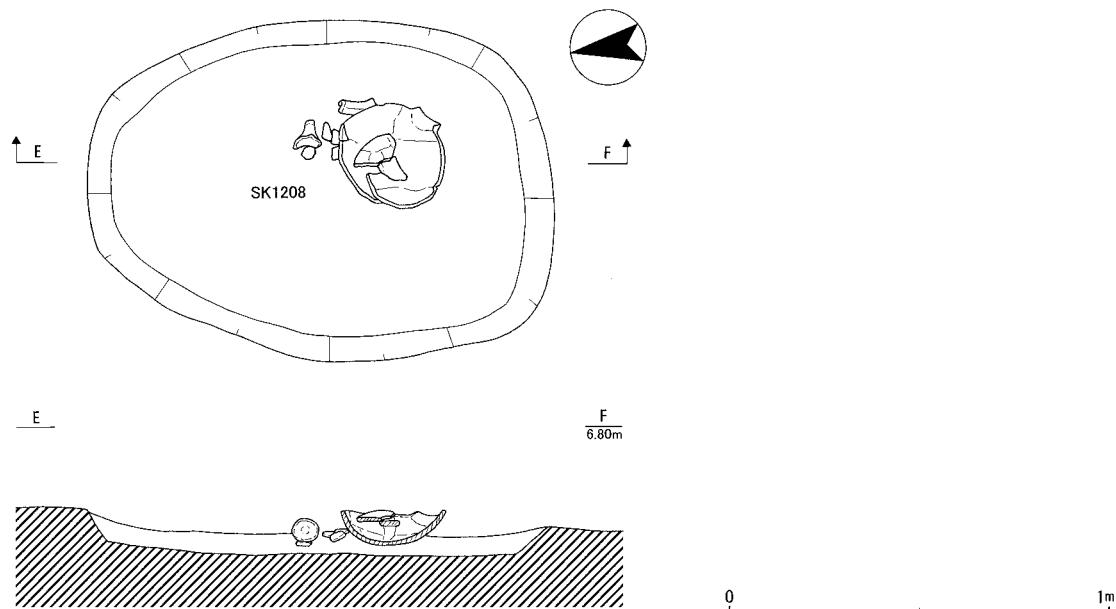
第25図 SK1206・1147 平面図、土層断面図・見通し図 (1:20)



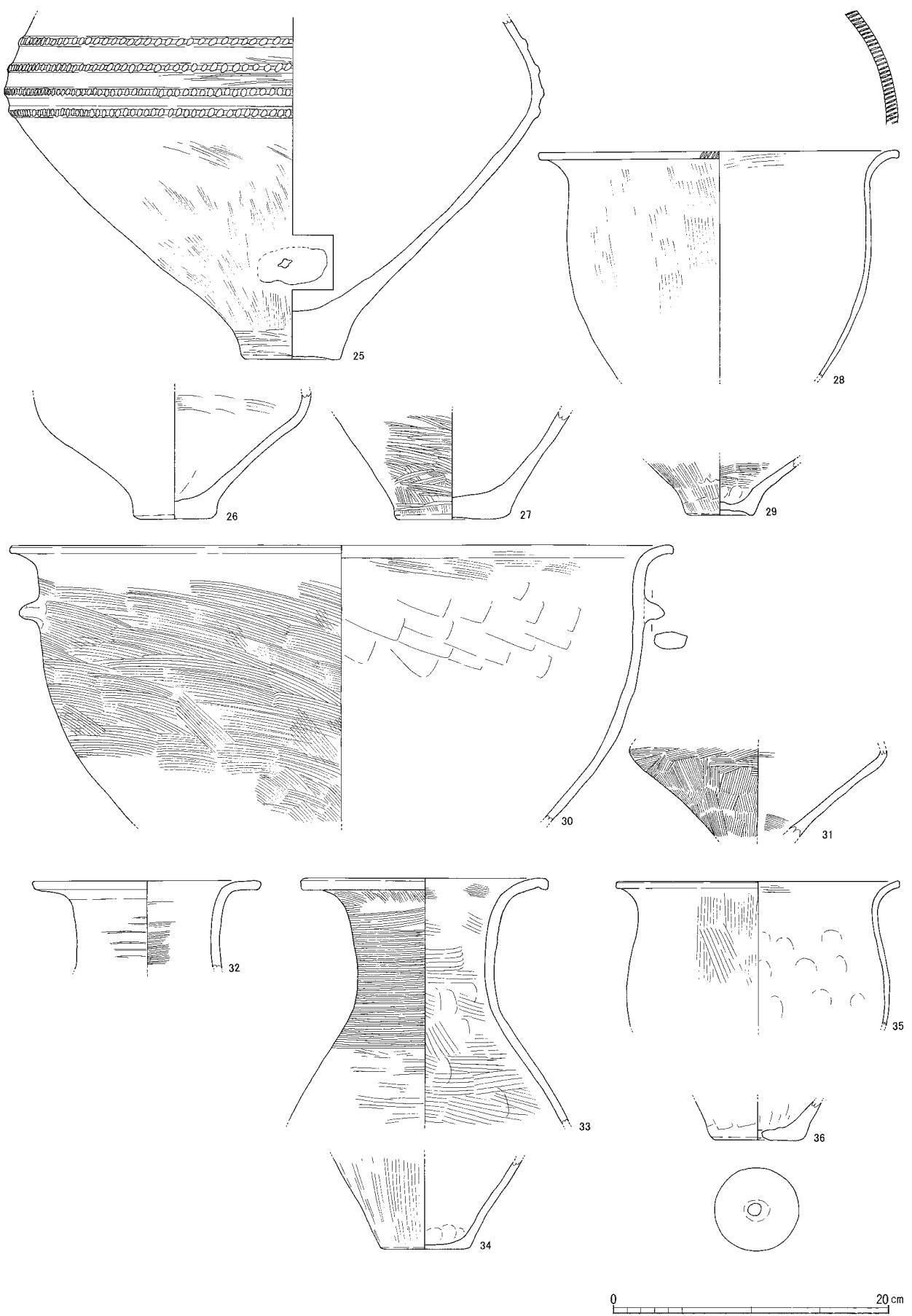
第26図 SK1151・1207・1190 平面図、土層断面図・見通し図 (1:40、SK1151は1:20)



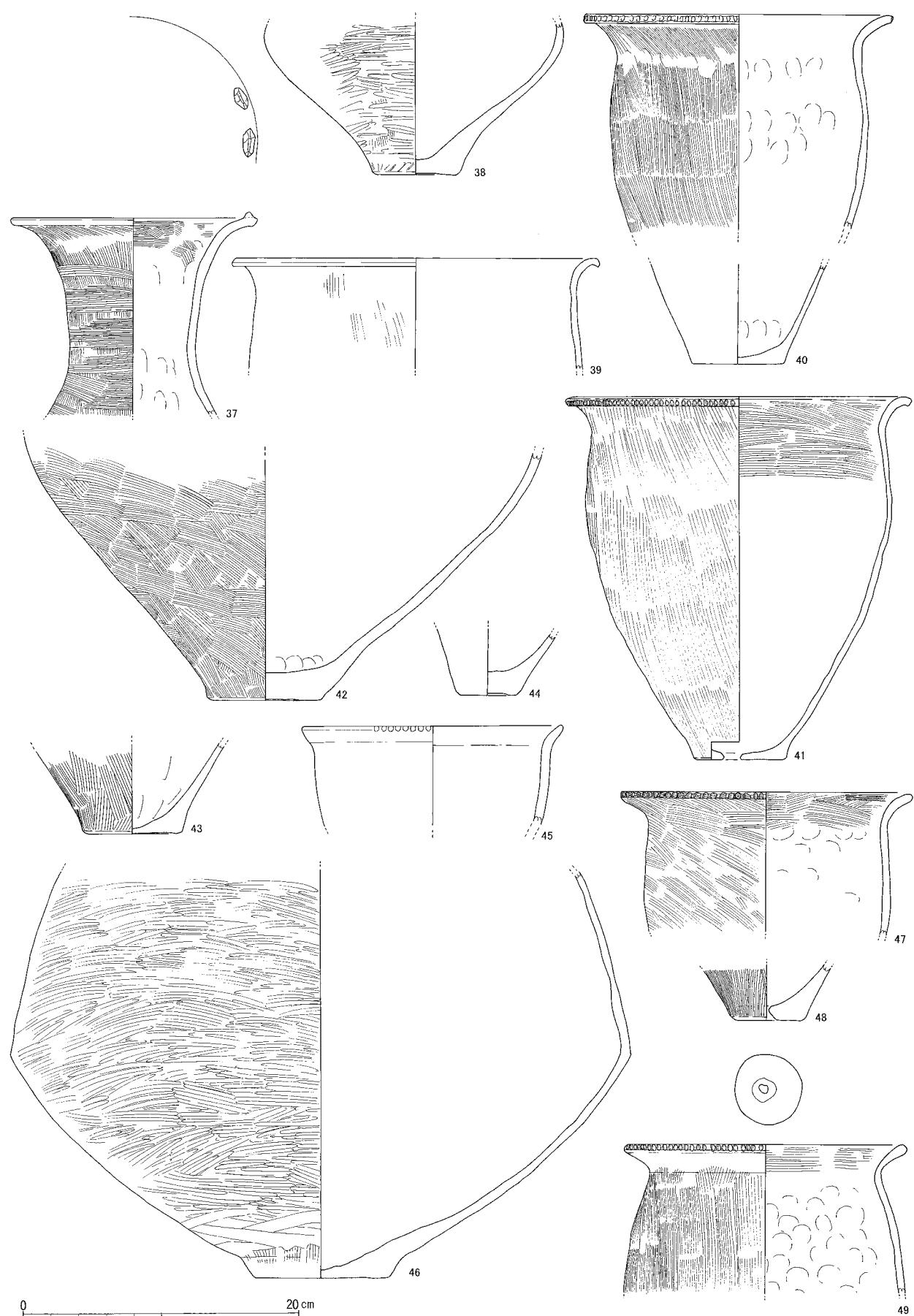
第27図 SE1150・SK1197 平面図、土層断面図・見通し図 (SE1150 1:20、SK1197 1:40)



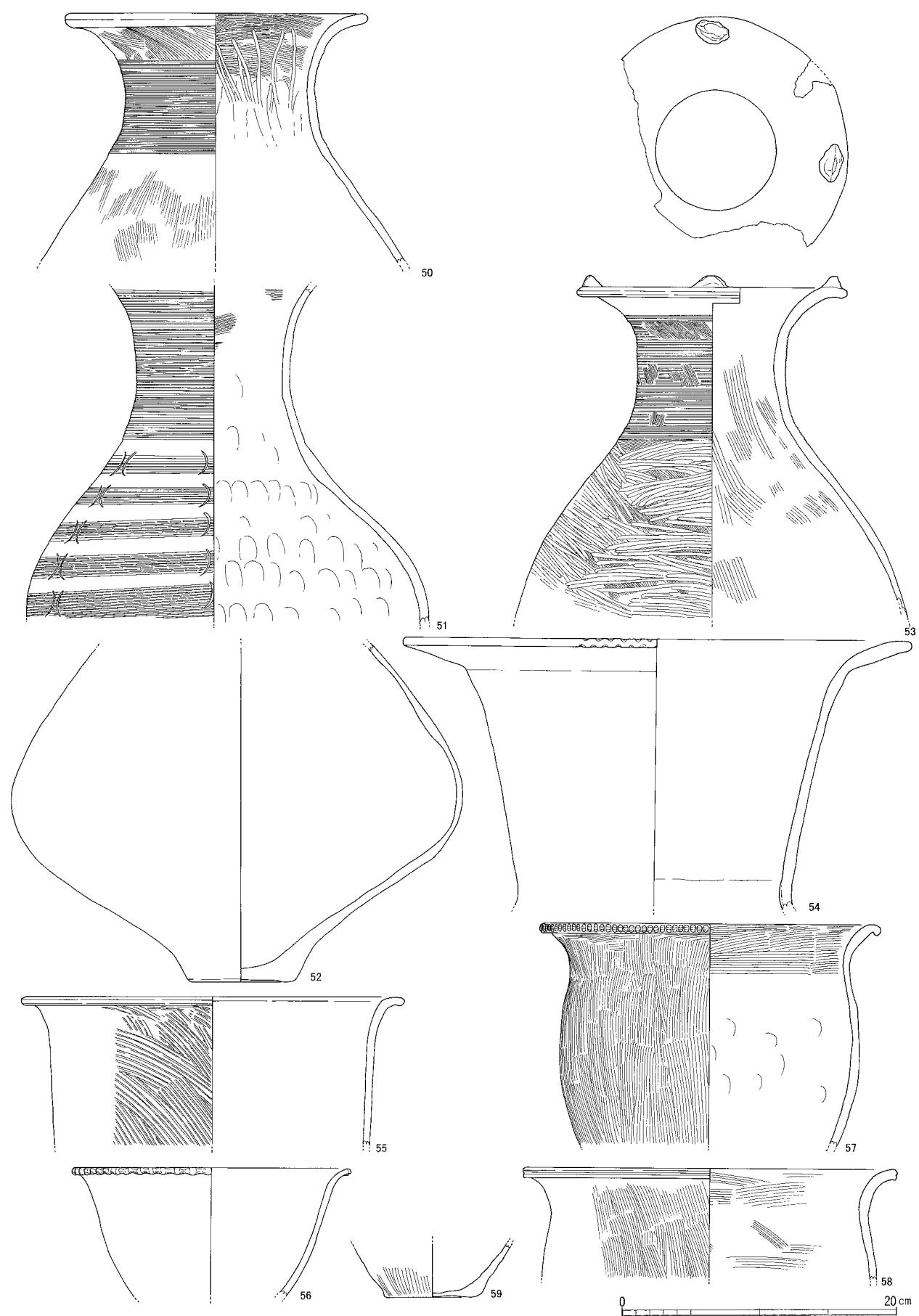
第28図 SD1112・SK1208 平面図、土層断面図・見通し図 (SD1112 平面図1:100・断面図 1:40、SK1208 1:20)



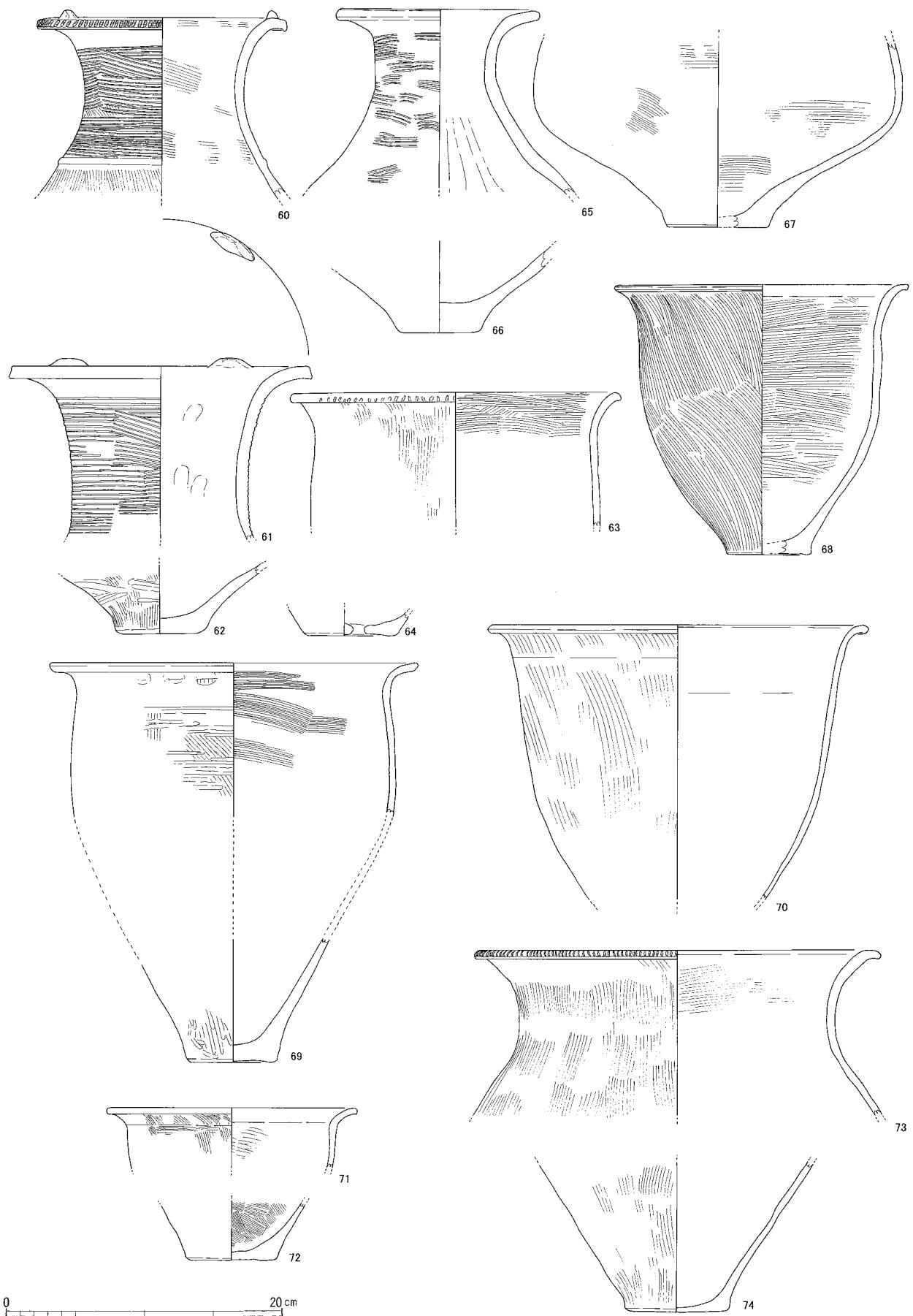
第29図 B地区出土遺物実測図 1 SK1120 (25~31) ; SK1131 (32) ; SH1179 (33~36) (1 : 4)



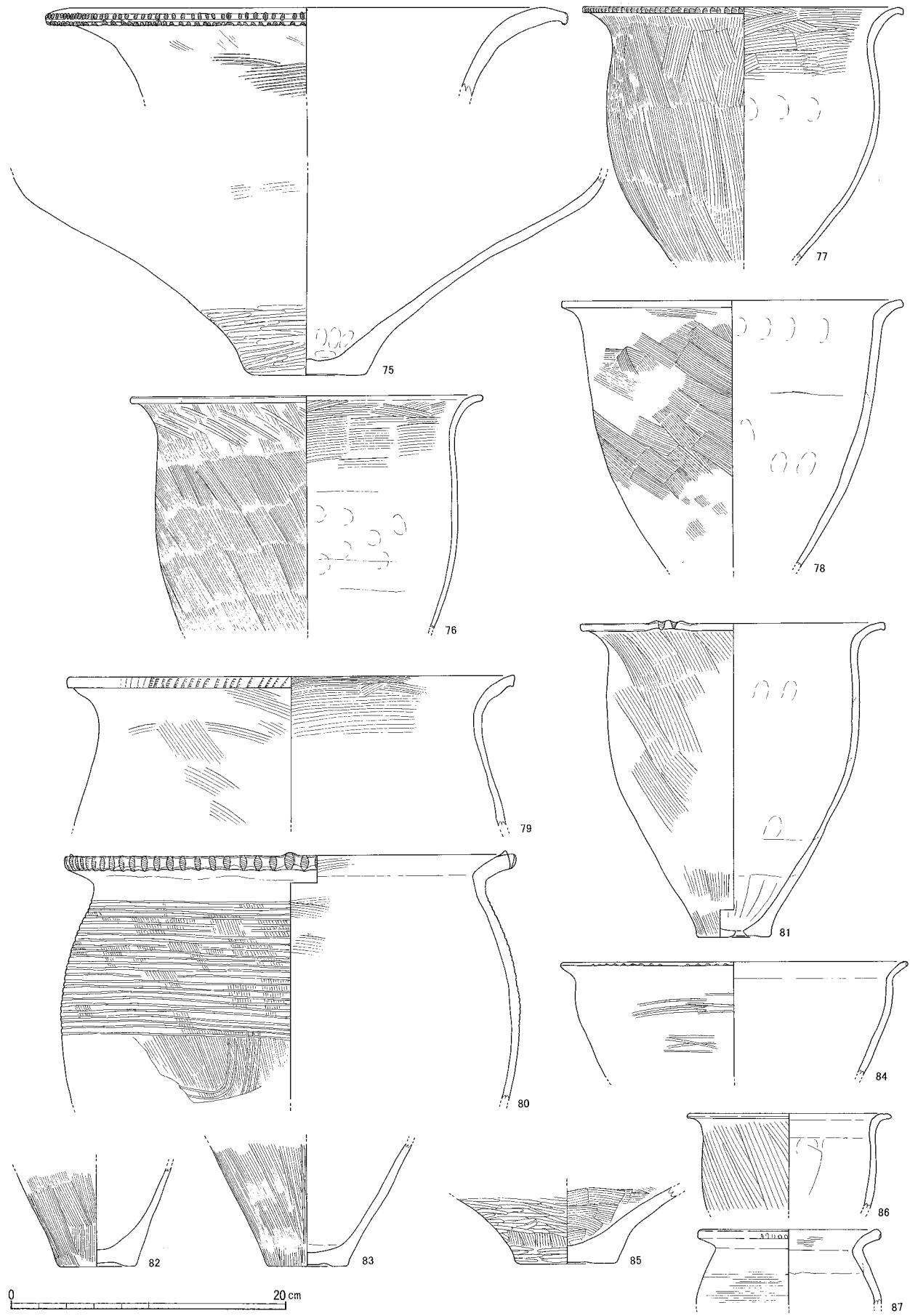
第30図 B地区出土遺物実測図2 SK1124 (37~41) ; SK1125 (42~45) ; SK1127 (46~48) ; SK1126 (49) (1 : 4)



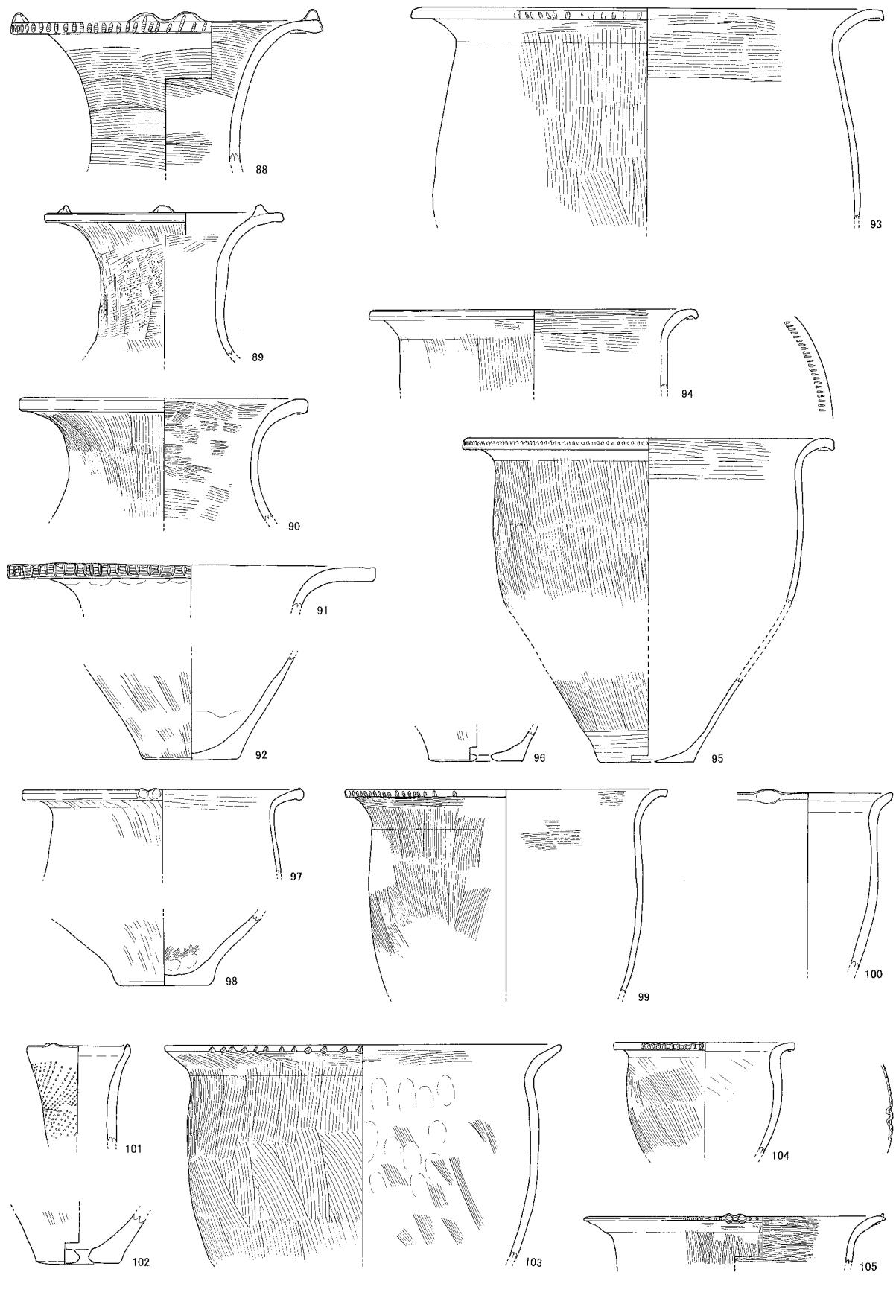
第31図 B地区出土遺物実測図3 SK1142 (50~59) (1:4)



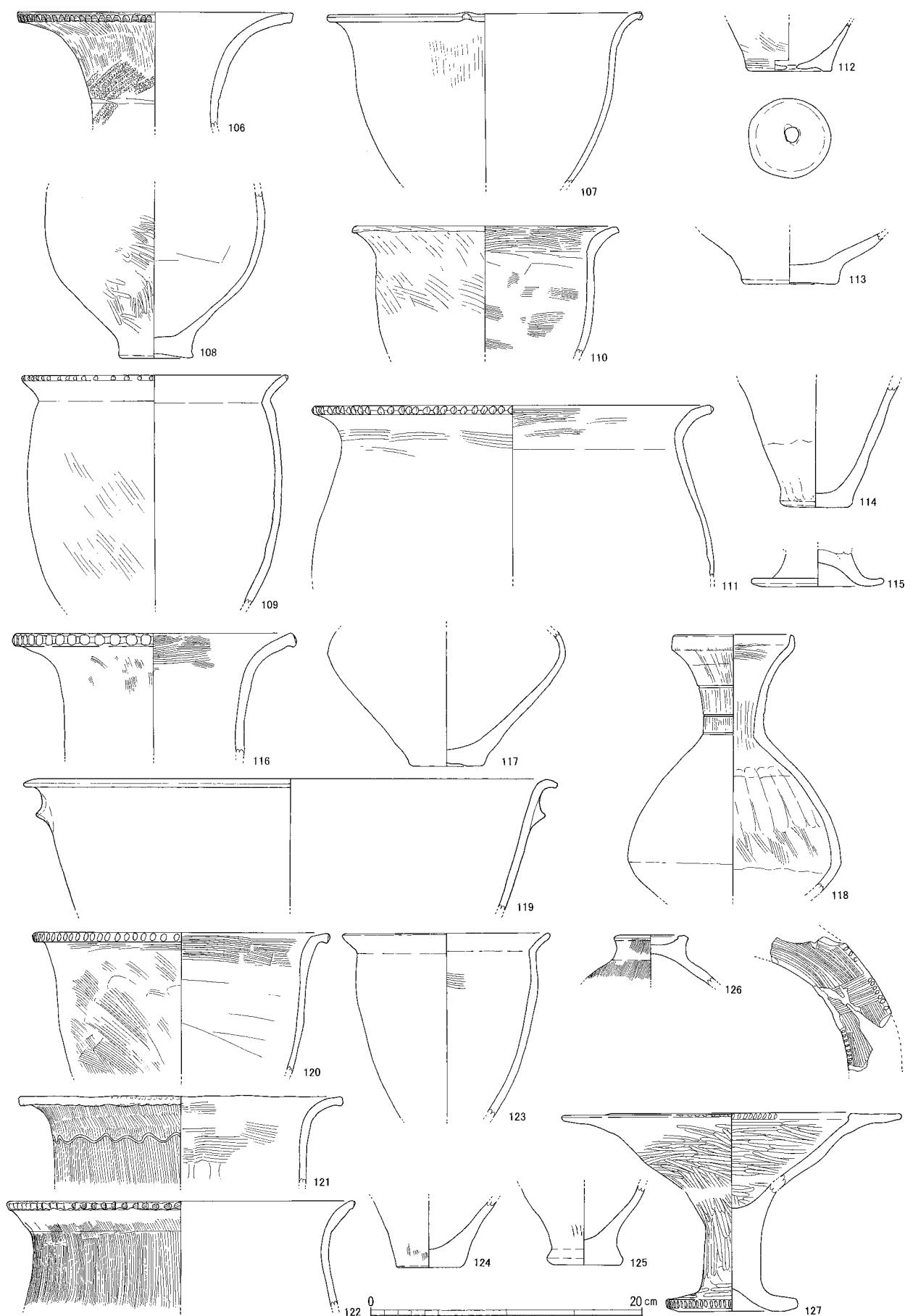
第32図 B地区出土遺物実測図4 SK1143 (60~64) ; SK1144 (65~68) ; SK1149 (69・70) ; SK1148 (71・72) ; SK1146 (73・74)
(1:4)



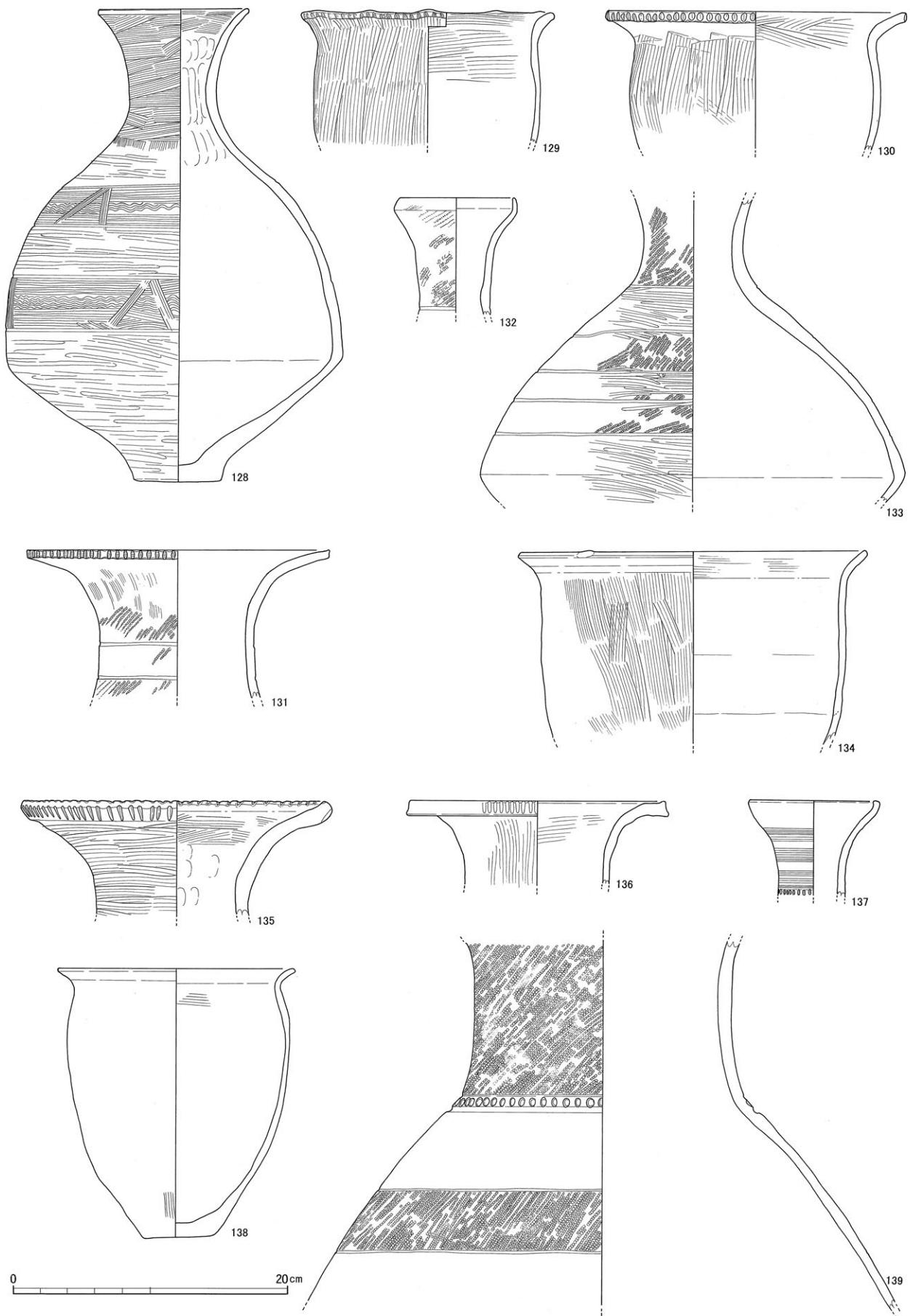
第33図 B地区出土遺物実測図5 SK1212 (75~78) ; SK1210 (79~84) ; SK1211 (85~87) (1 : 4)



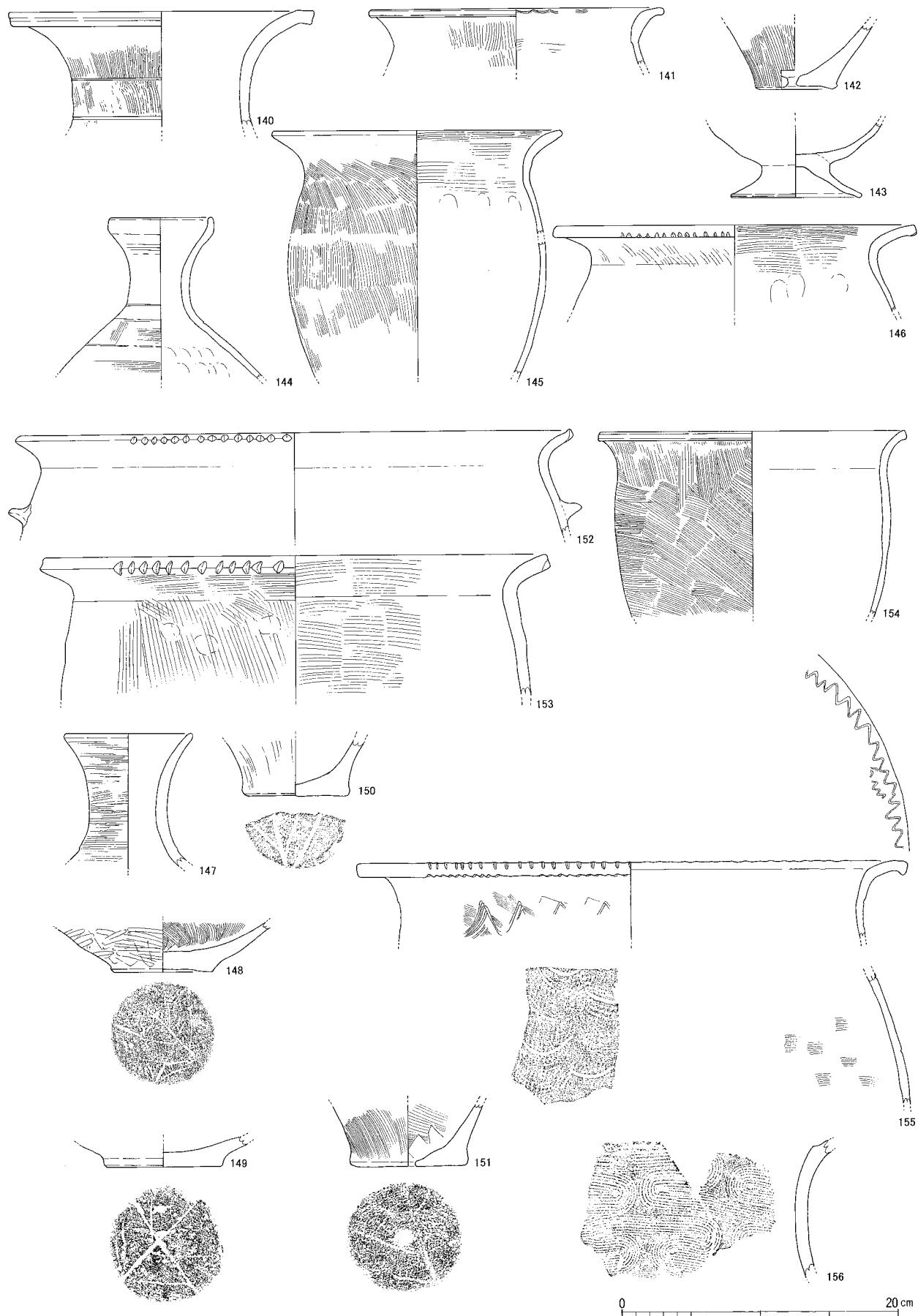
第34図 B地区出土遺物実測図 6 SK1134 (88) ; SK1138 (89) ; SK1223 (90) ; SH1184 (91・92) ; SK1136 (93) ; SK1187 (94) ; SK1132・1172 (95) ; SK1172 (96) ; SH1173 (97~99) ; SK1126 (100) ; SK1188 (101~104) ; SK1170 (105) (1 : 4)



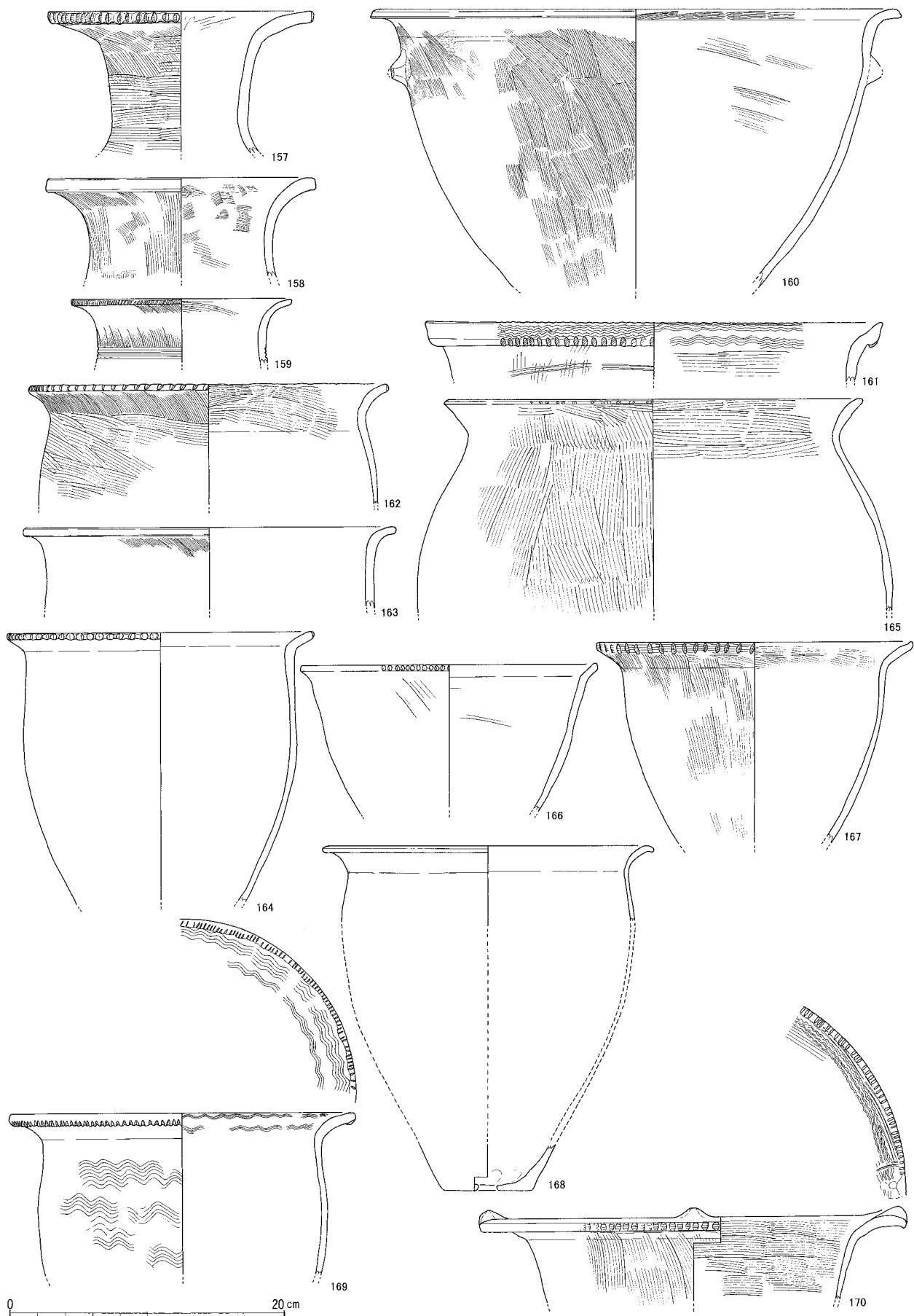
第35図 B地区出土遺物実測図 7 SK1204 (106・107) ; SK1139 (108~111) ; SK1209 (112・113) ; SK1220 (114) ; SK1145 (115) ; SH1196 (116~127) (1 : 4)



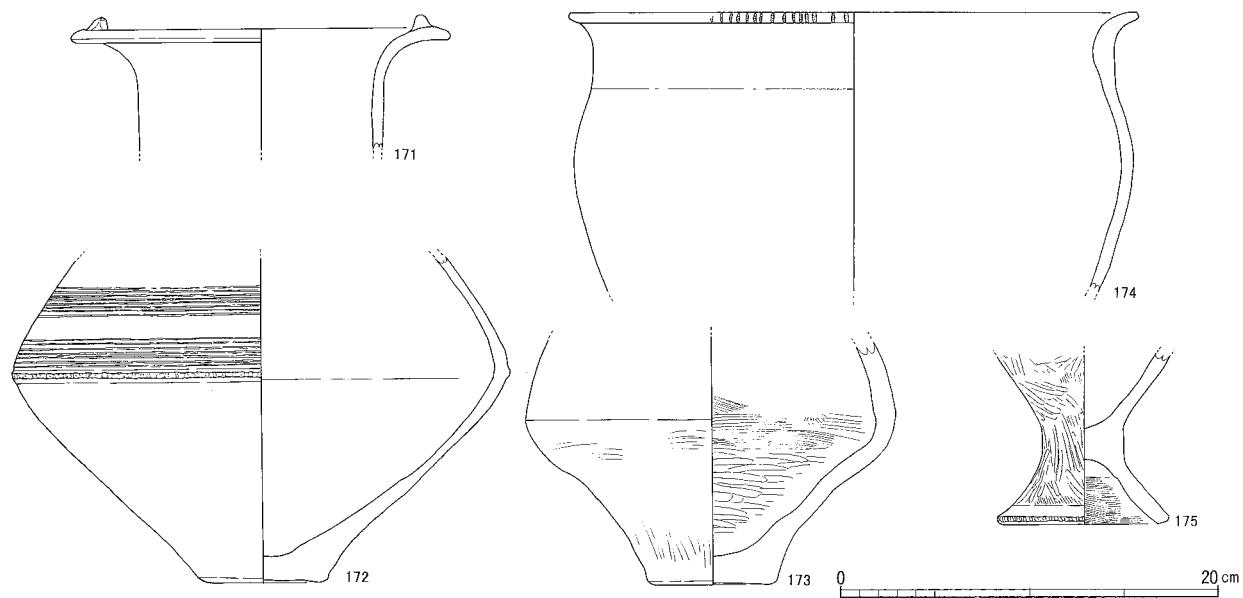
第36図 B地区出土遺物実測図 8 SK1222 (128~130); SK1206 (131); SK1147 (132~134); SK1165 (135~137); SK1189 (138); SK1200 (139) (1:4)



第37図 B地区出土遺物実測図 9 SK1192 (140~143); SK1151 (144~145); SK1193 (146); SD1112 (147・148・150・152~155); III層 (149・151・156) (1:4)



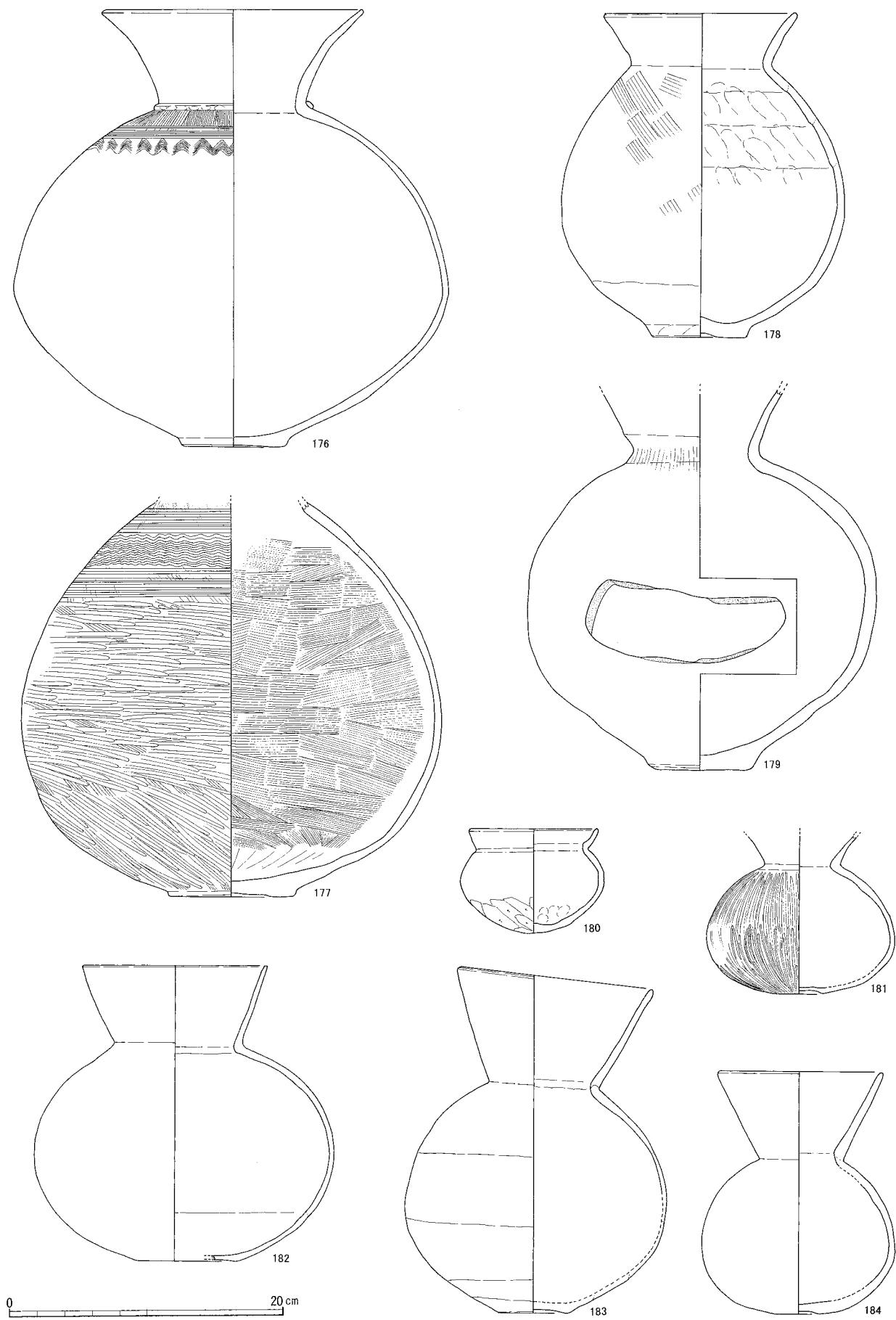
第38図 B地区出土遺物実測図10 第III層（157～170）（1:4）



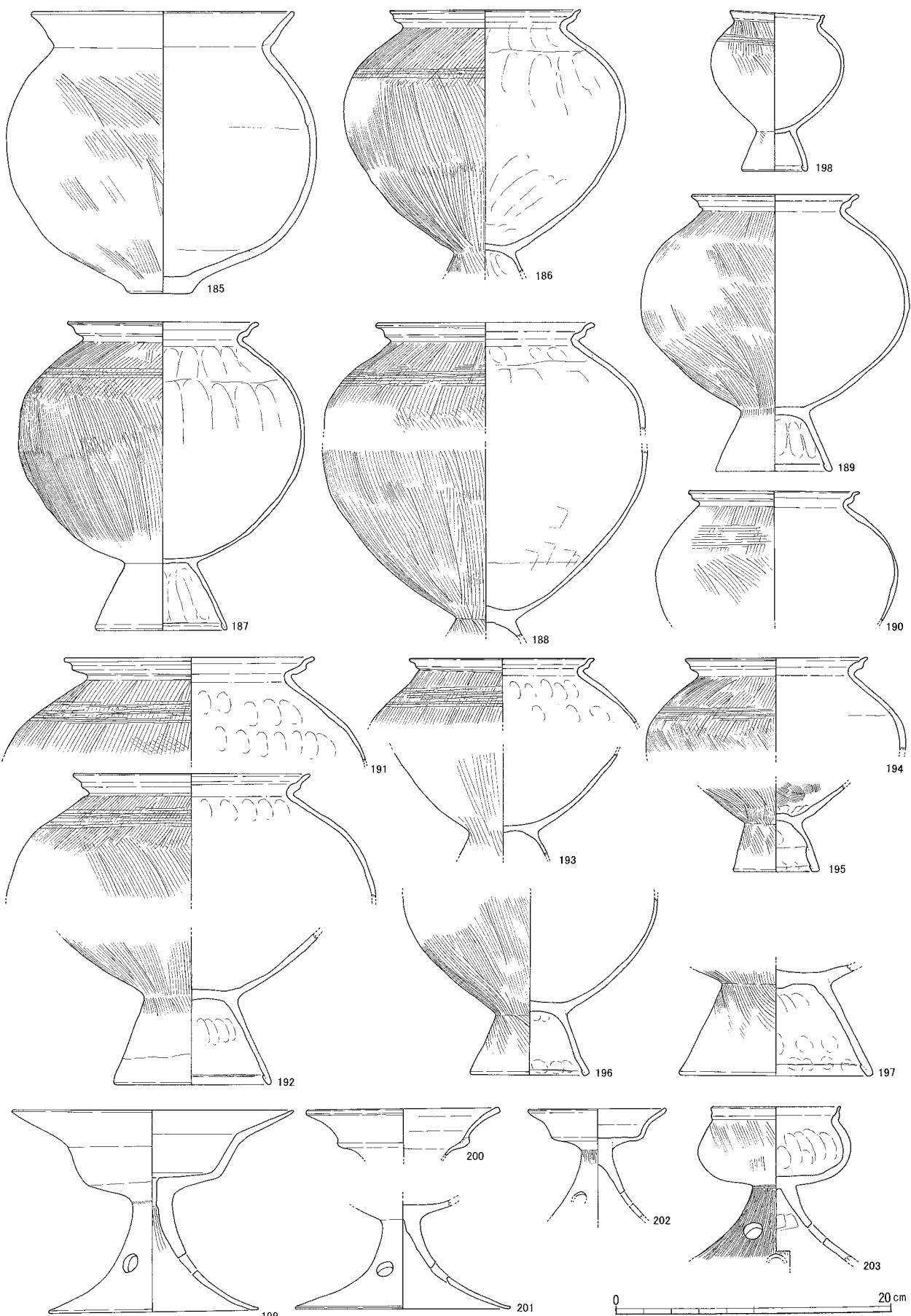
第39図 B地区出土遺物実測図11 包含層 (171~175) (1:4)

	SH	SB	SA	SK	SD	SE	SR	小計
A地区	弥生				1			1
	弥生中期				1			1
	古墳				1			1
	平安後期～鎌倉初期				1			1
	時期不明				5			5
小計		0	0	0	9	0	0	9
B地区	弥生Ⅱ期	1			9			10
	弥生Ⅲ期	4			42			46
	弥生中期				14			14
	古墳		1		2	1	2	6
	平安					7	2	9
	鎌倉					5		5
	平安後期～鎌倉初期		8					8
	時期不明				7	17		24
小計		5	9	0	74	30	4	122
C地区	弥生Ⅲ期				1	3		4
	弥生中期				1			1
	古墳				1			1
	平安後期				1	1		2
	平安後期～鎌倉初期		1					1
	時期不明				3	4		7
	小計	0	1	0	7	8	0	16
D地区	弥生後期					1		1
	古墳					2		2
	古墳以前				2	1		3
	奈良後期						2	2
	平安後期～鎌倉初期		16	1	5	13	4	40
	時期不明				1	1		2
小計		0	16	1	8	18	6	50
合計		5	26	1	89	65	10	197

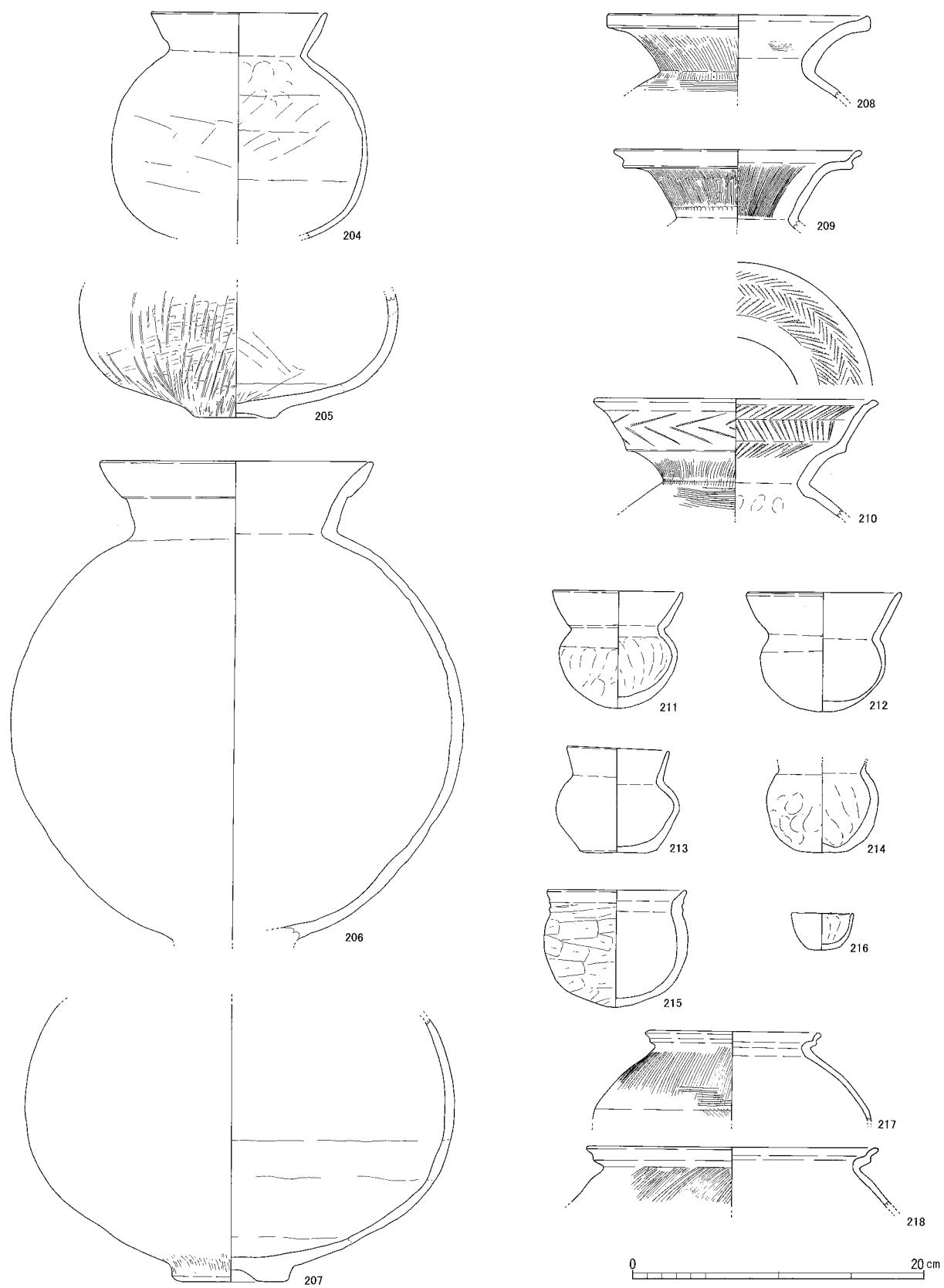
第1表 地区別遺構一覧表



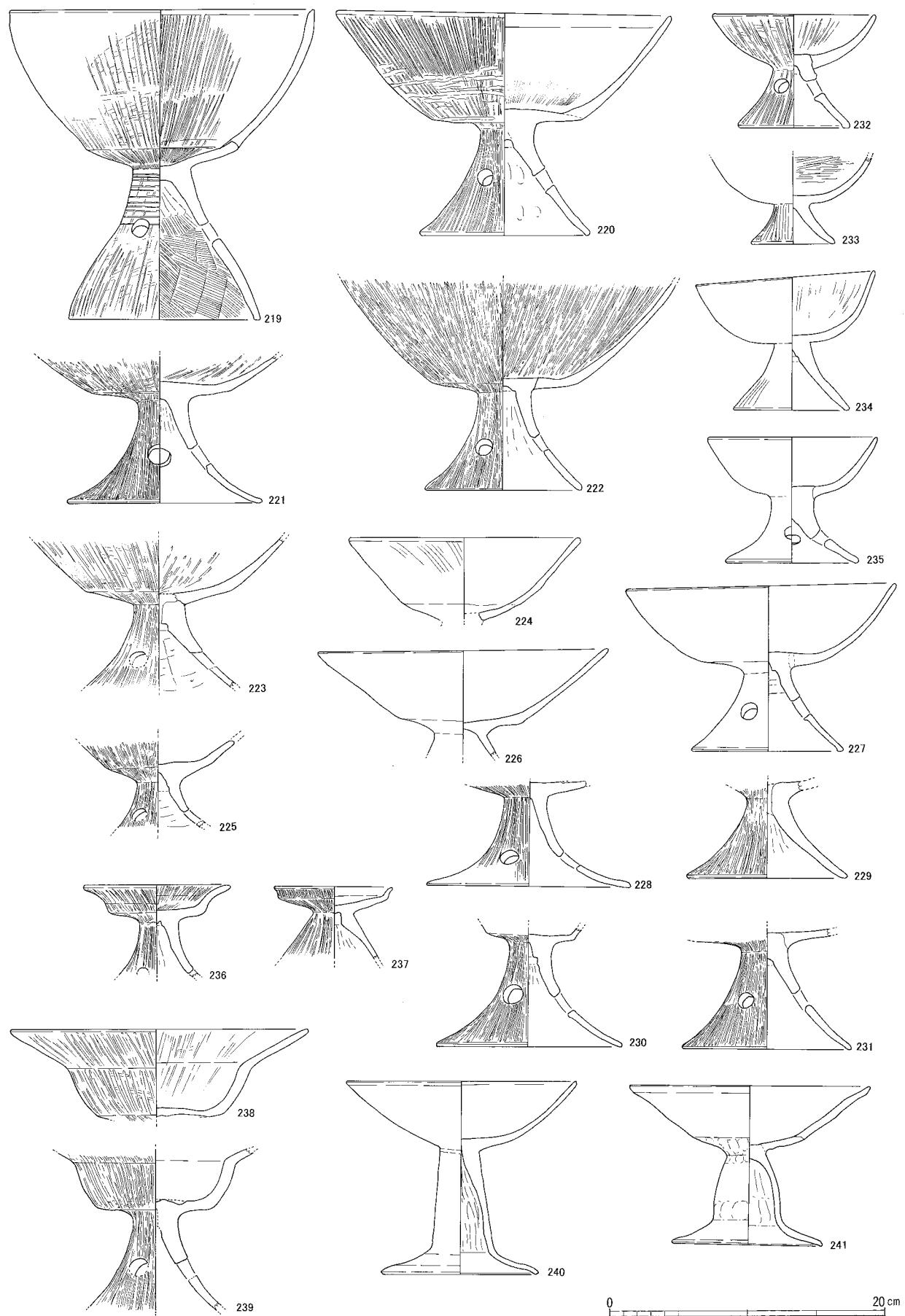
第40図 B地区出土遺物実測図12 SE1150 (176~184) (1:4)



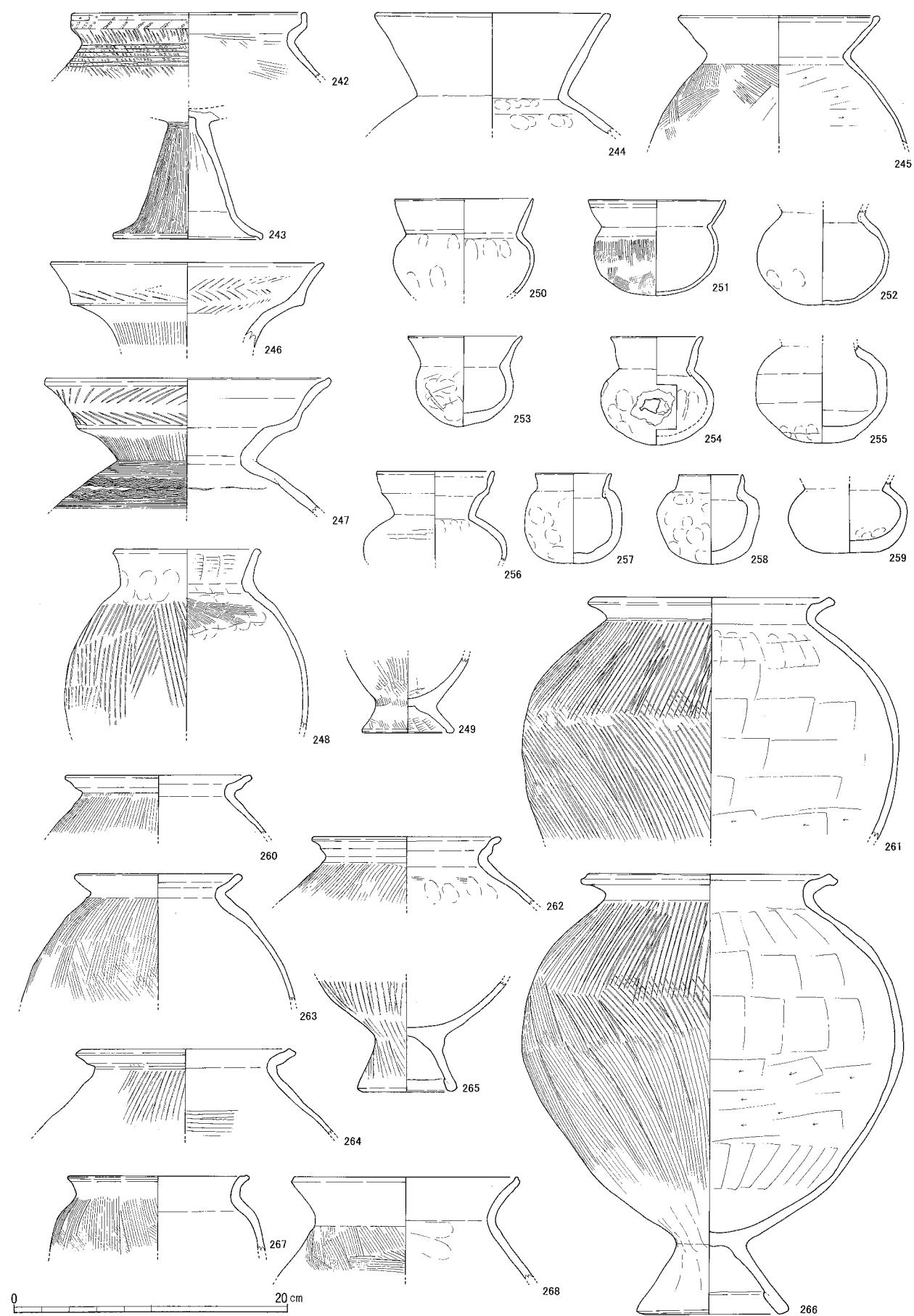
第41図 B地区出土遺物実測図13 SE1150 (185~203) (1:4)



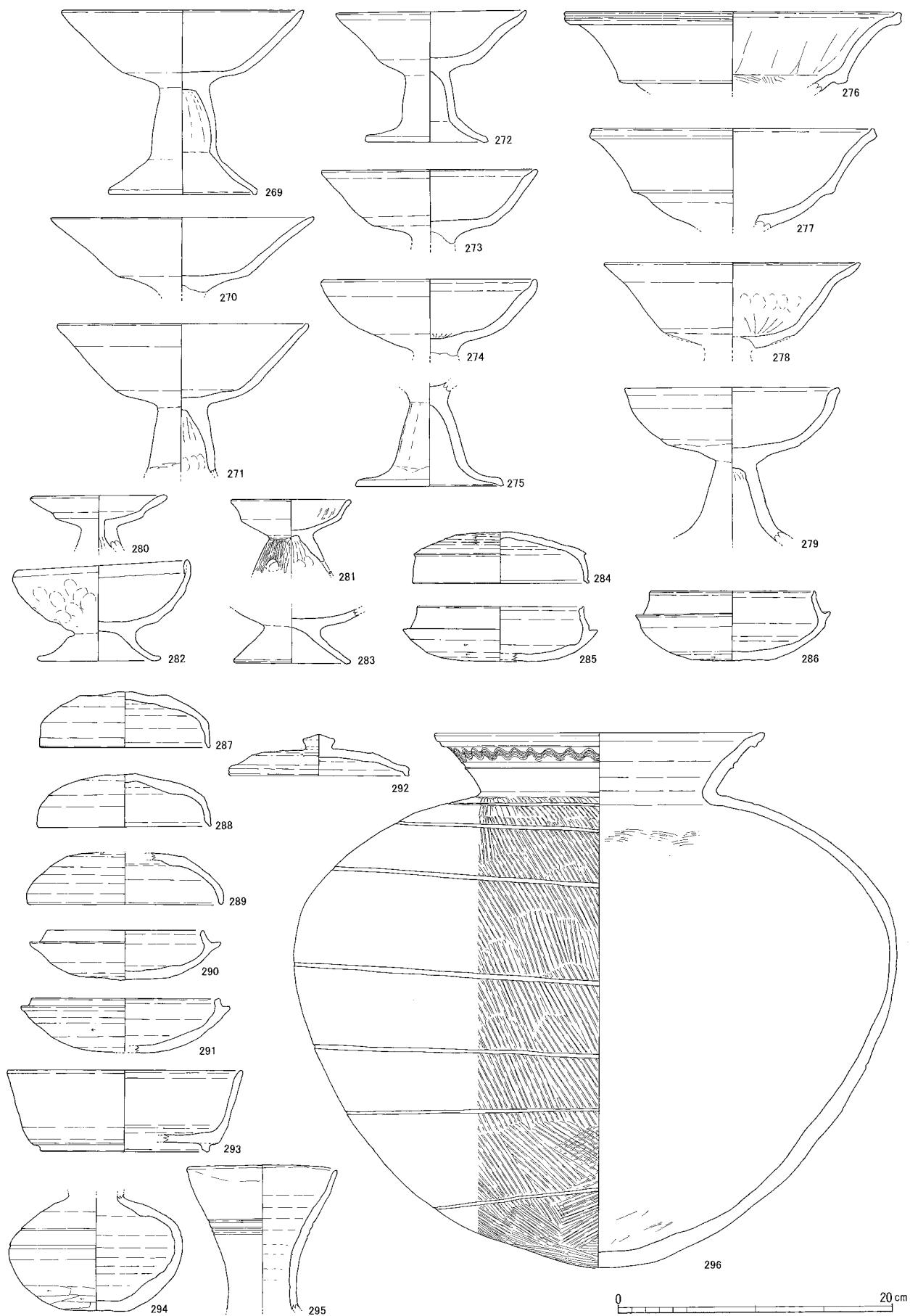
第42図 B地区出土遺物実測図14 第III層（204～218）（1:4）



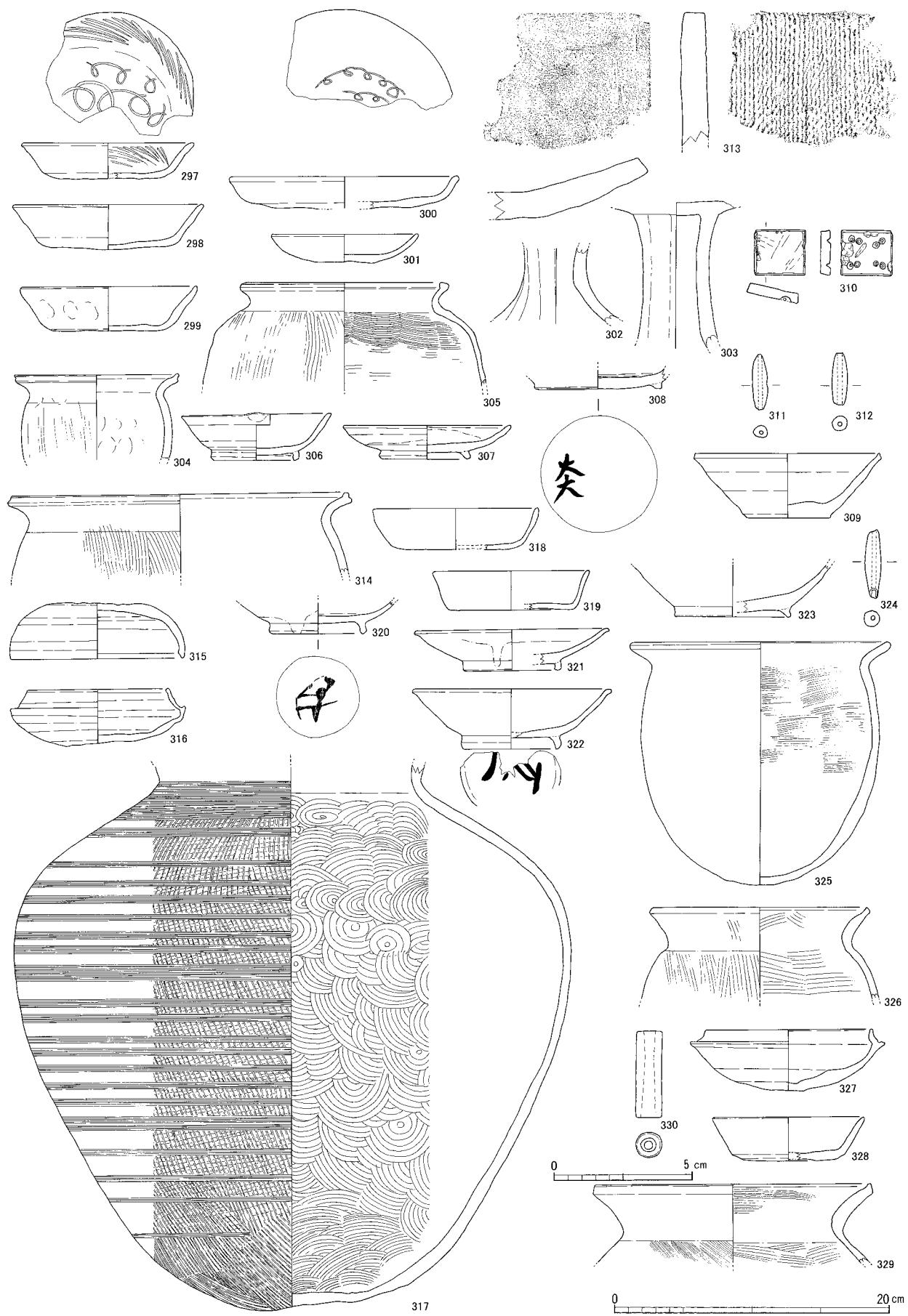
第43図 B地区出土遺物実測図15 第III層 (219~241) (1:4)



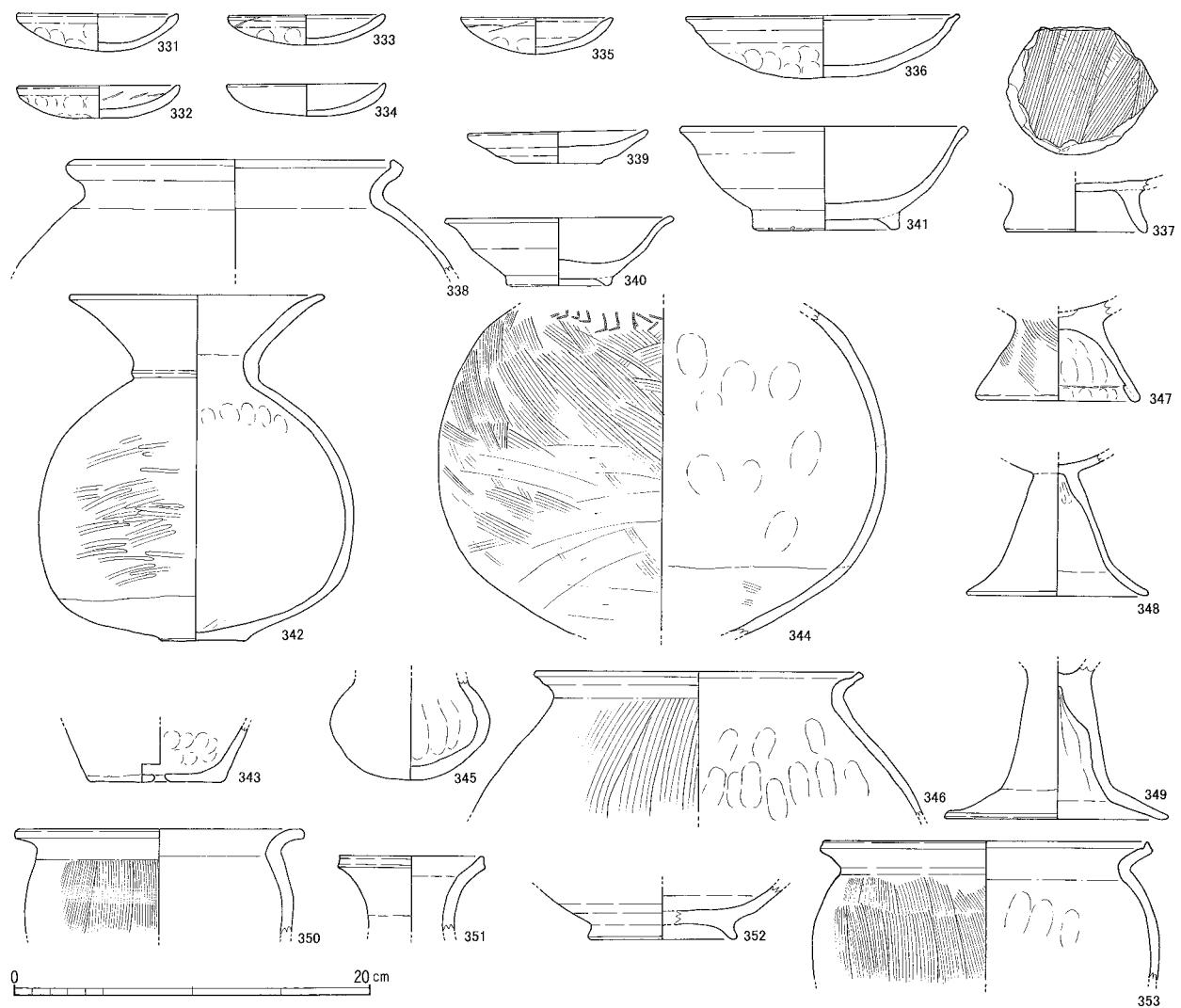
第44図 B地区出土遺物実測図16 SD1112 (242~268) (1:4)



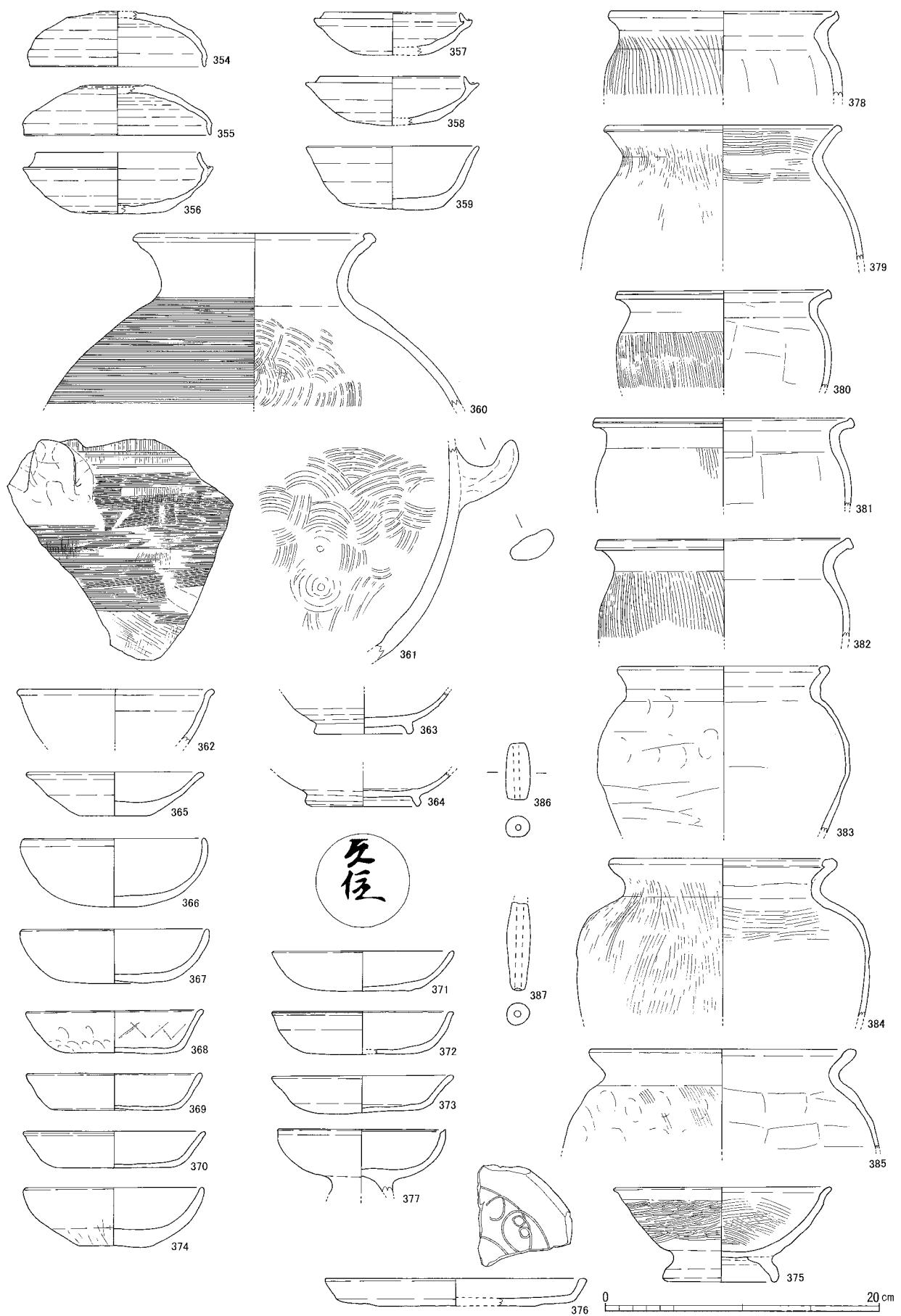
第45図 B地区出土遺物実測図17 SD1112 (269~296) (1:4)



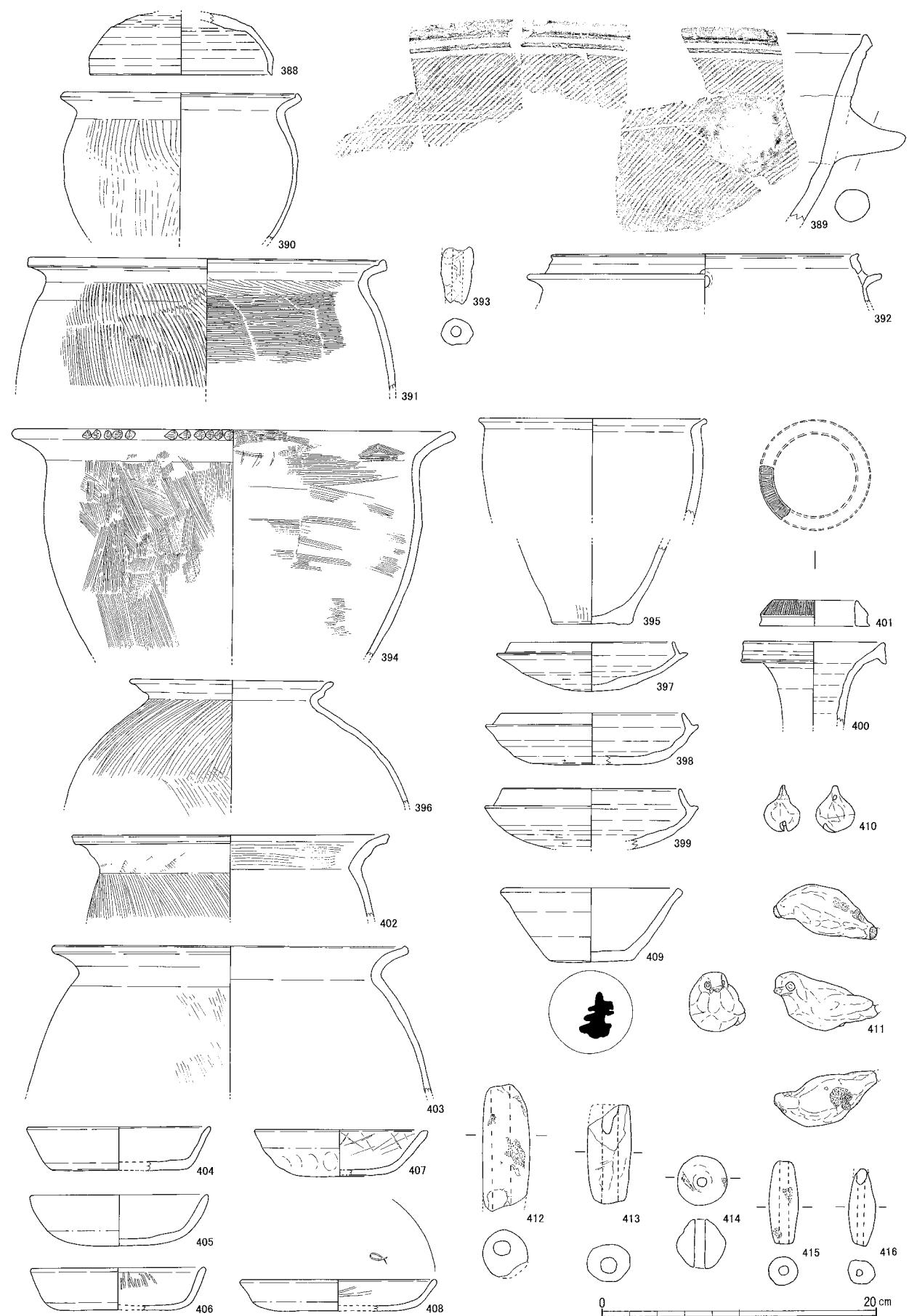
第46図 B地区出土遺物実測図18 SD1112 (297~313) ; SD1115 (314~317) ; SD1214 (318~322) ; SD1168 (323・324)
; SD1116 (325) ; SD1158 (326) ; SD1161 (327~330) 330 (1:2) 他は (1:4)



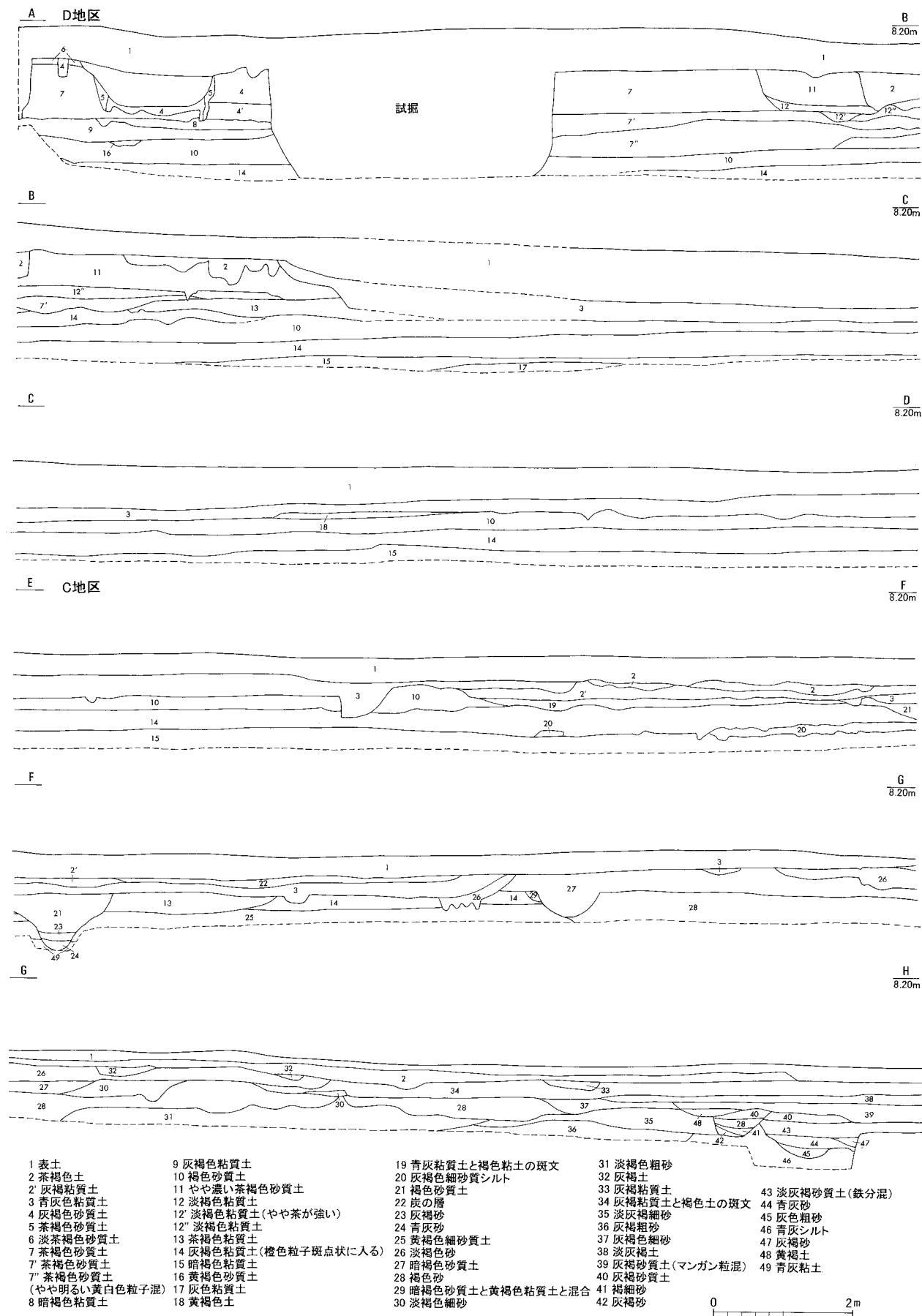
第47図 B地区出土遺物実測図19 SE1202 (331~336・338~341) ; SE1113 (337) ; Pit (342~353) (1 : 4)



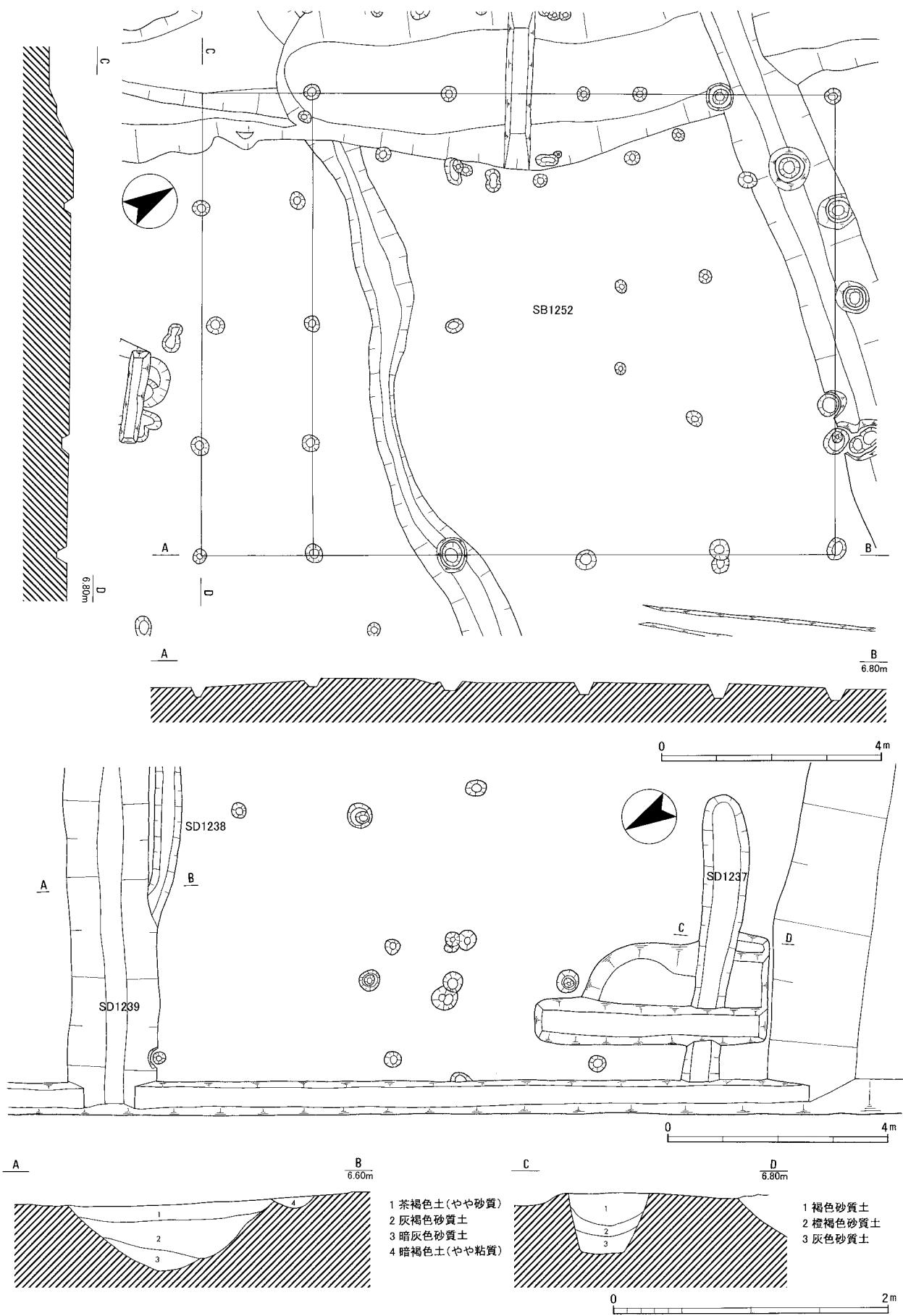
第48図 B地区出土遺物実測図20 第III層 (354~387) (1:4)



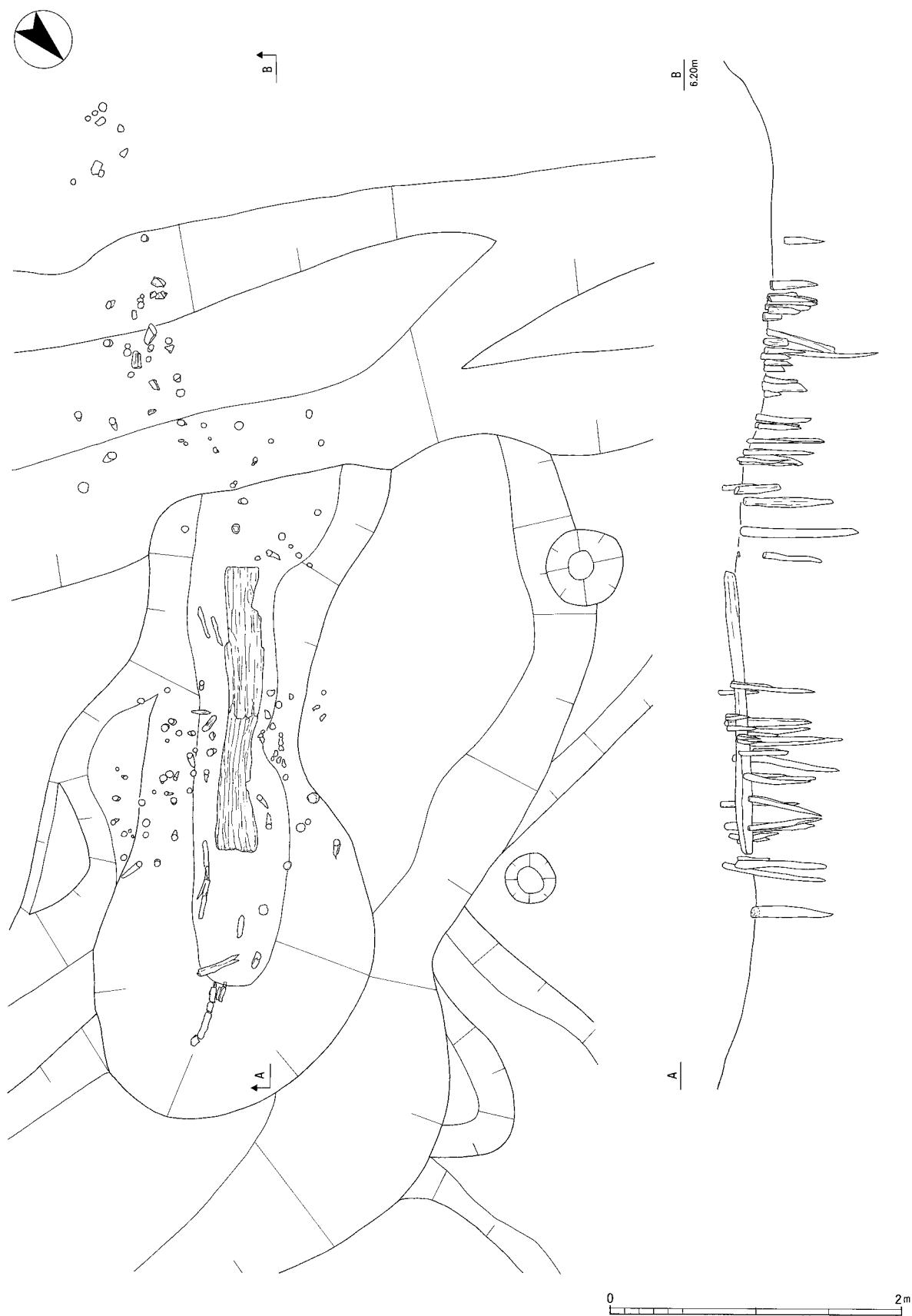
第49図 B地区出土遺物実測図21 第II層(388~393)；包含層(395~396・398~400・402~406・414~416)
；耕作土(394・401・409・412)；トレンチ(397・399・407・408)；試掘(410・411・413)(1:4)



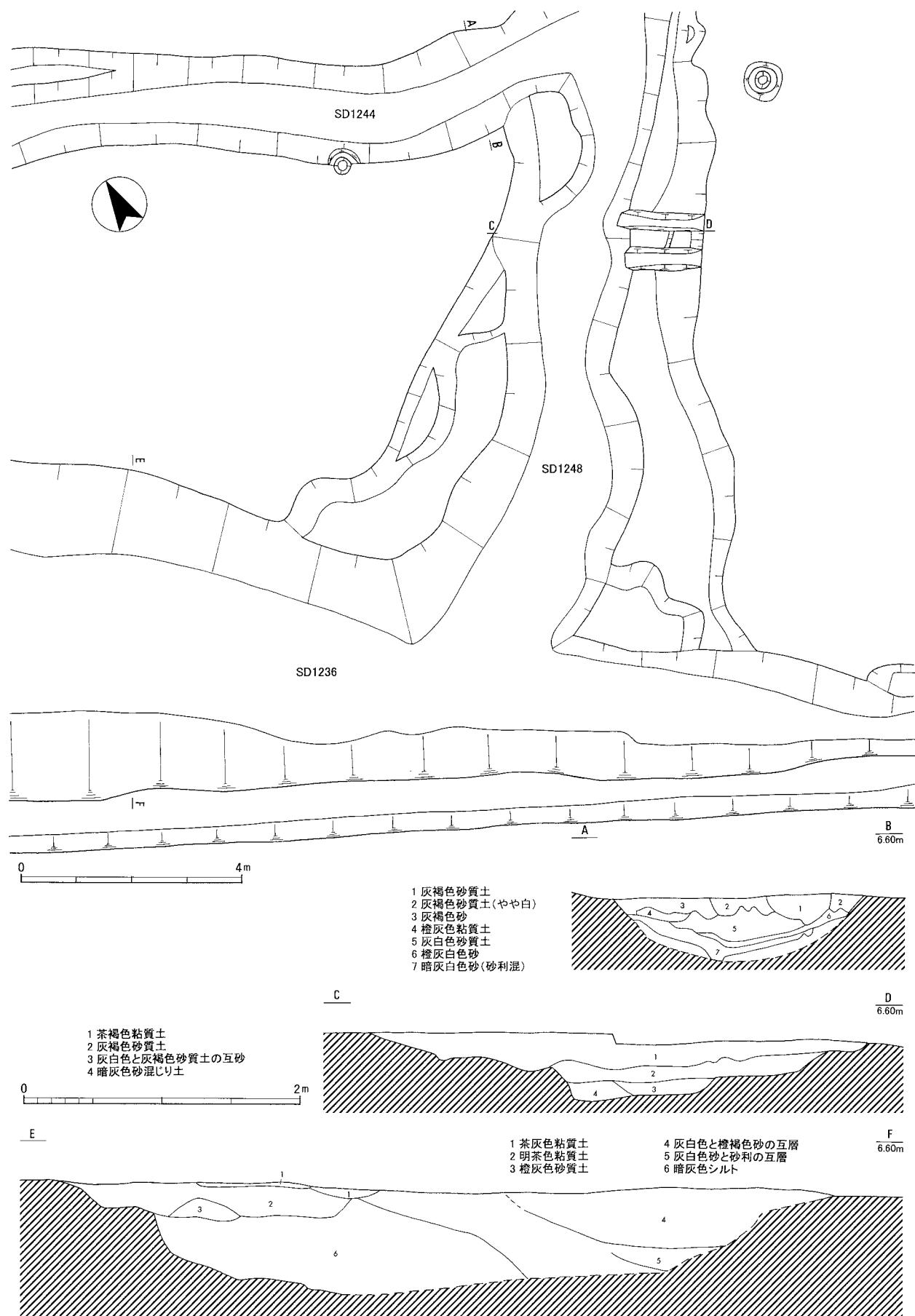
第50図 C・D地区 東壁土層断面図 (1:80)



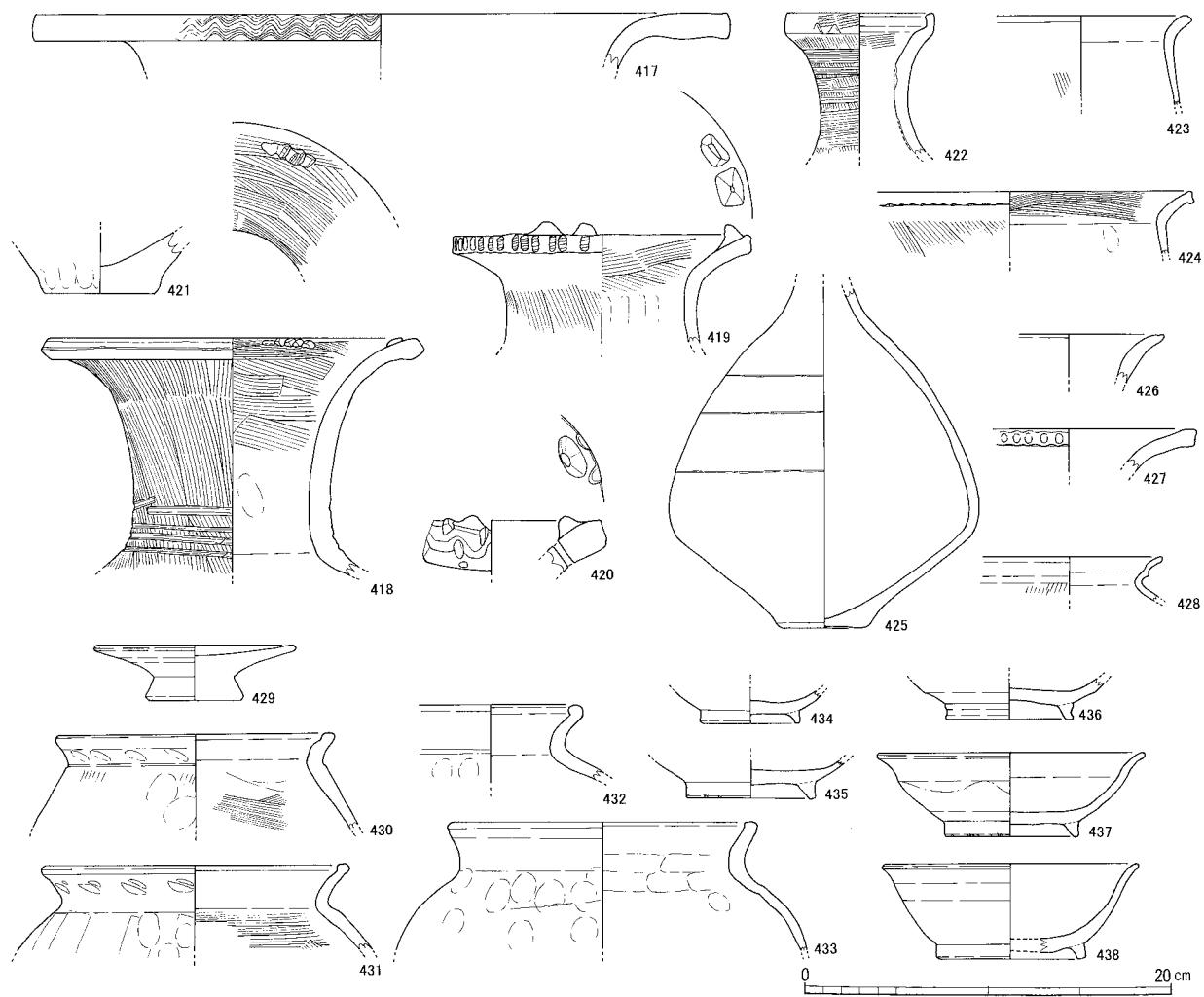
第51図 SB1252・SD1237・1238・1239 平面図、土層断面図（平面図1：100、SDの断面図1：40）



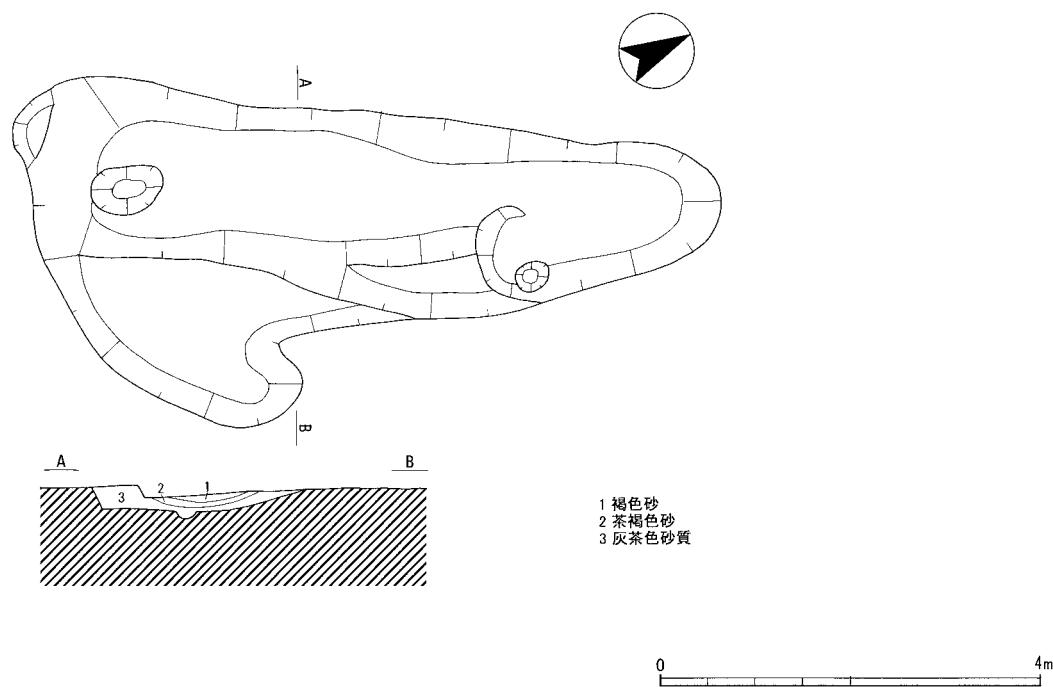
第52図 SD1244 木杭出土状況図 (1:40)



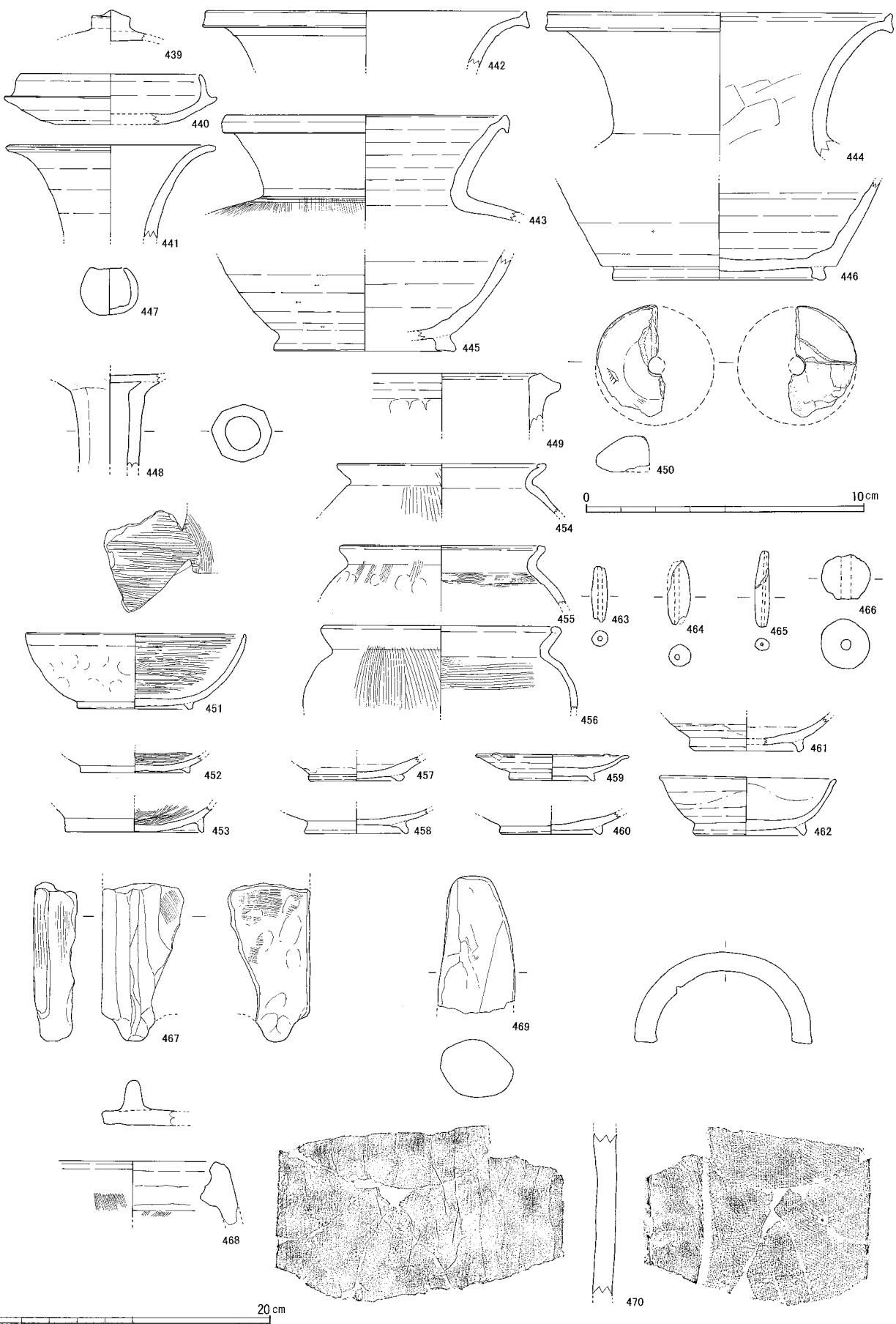
第53図 SD1236・1244・1248 平面図、土層断面図（平面図1:100、断面図1:40）



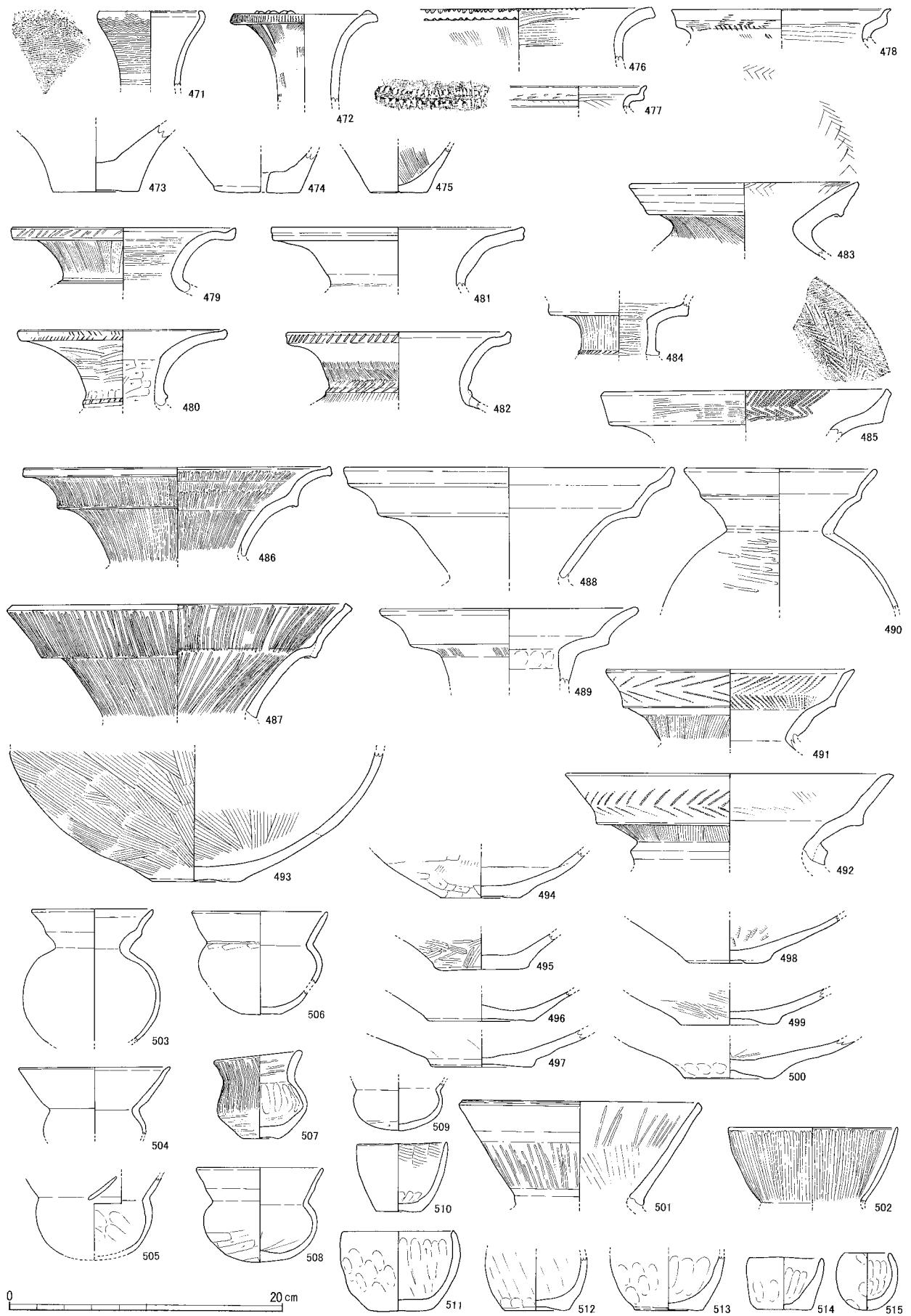
第54図 C地区出土遺物実測図 1 SD1244 (417~421) ; SD1239 (422~424) ; SK1240 (425・426) ; SK1241 (427) ; SK1250 (428) ; SK1246 (429~438) (1 : 4)



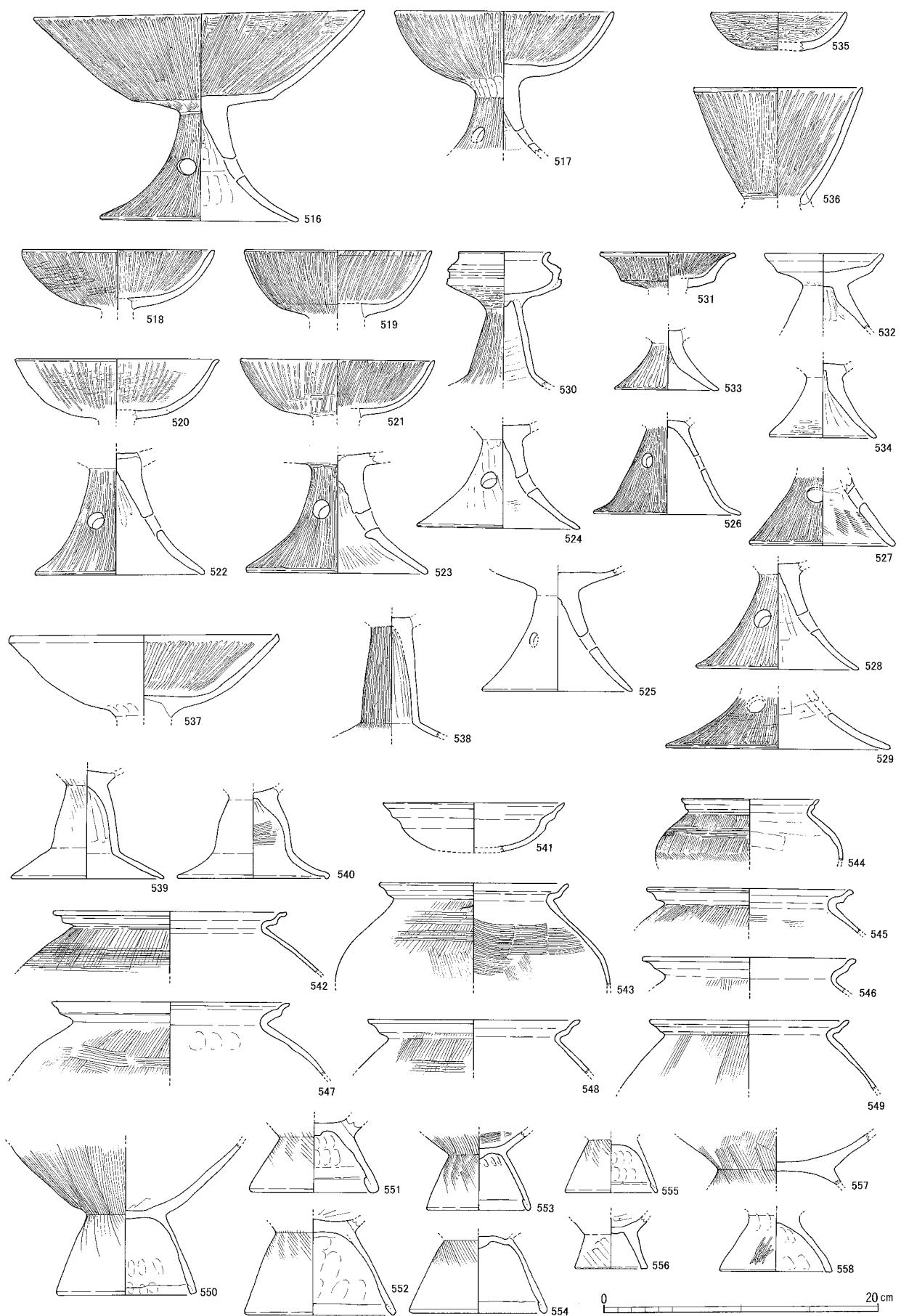
第55図 SK1240 平面図、土層断面図 (1 : 80)



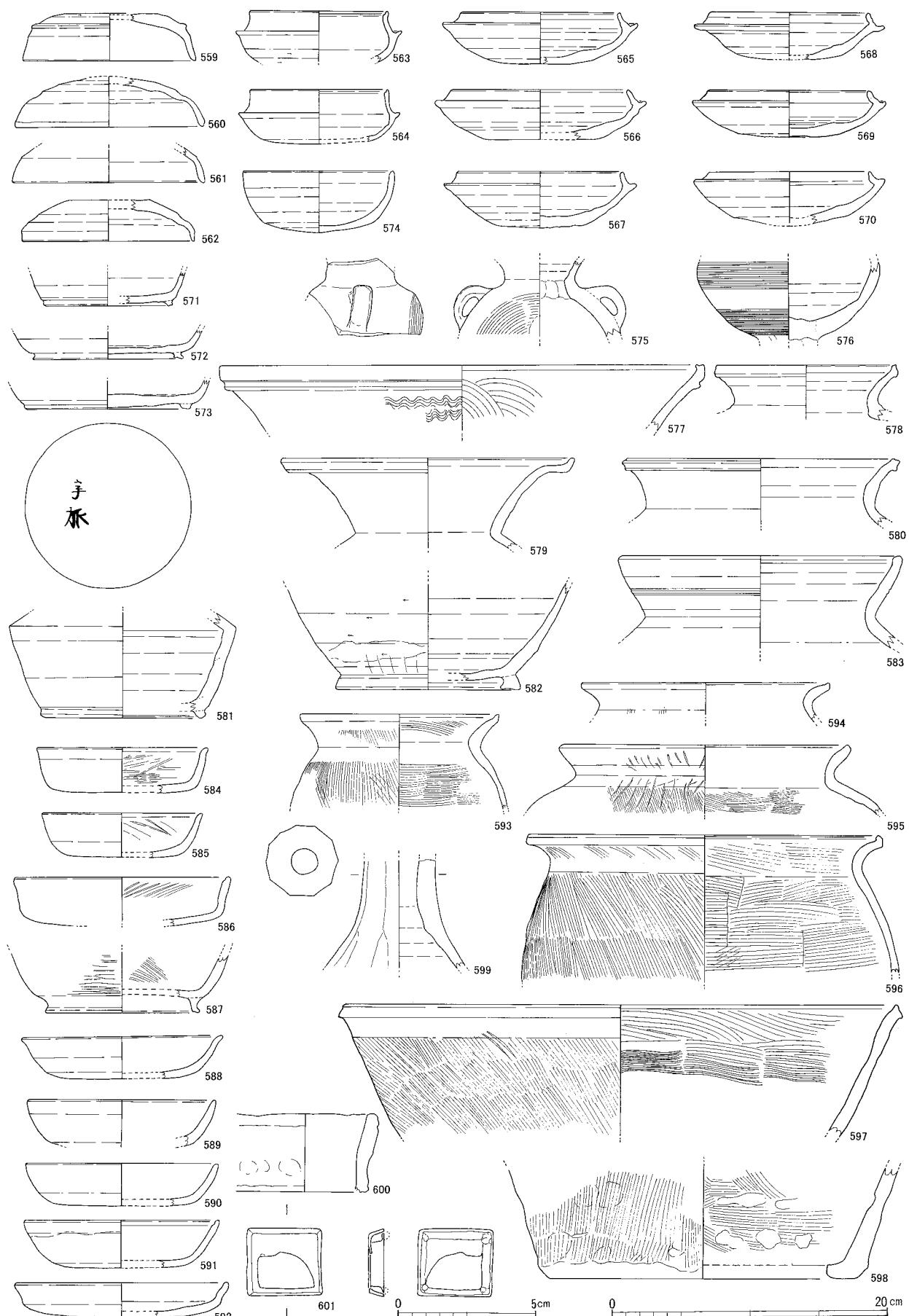
第56図 C地区出土遺物実測図2 SD1248 450 (1:2)、他は (1:4)



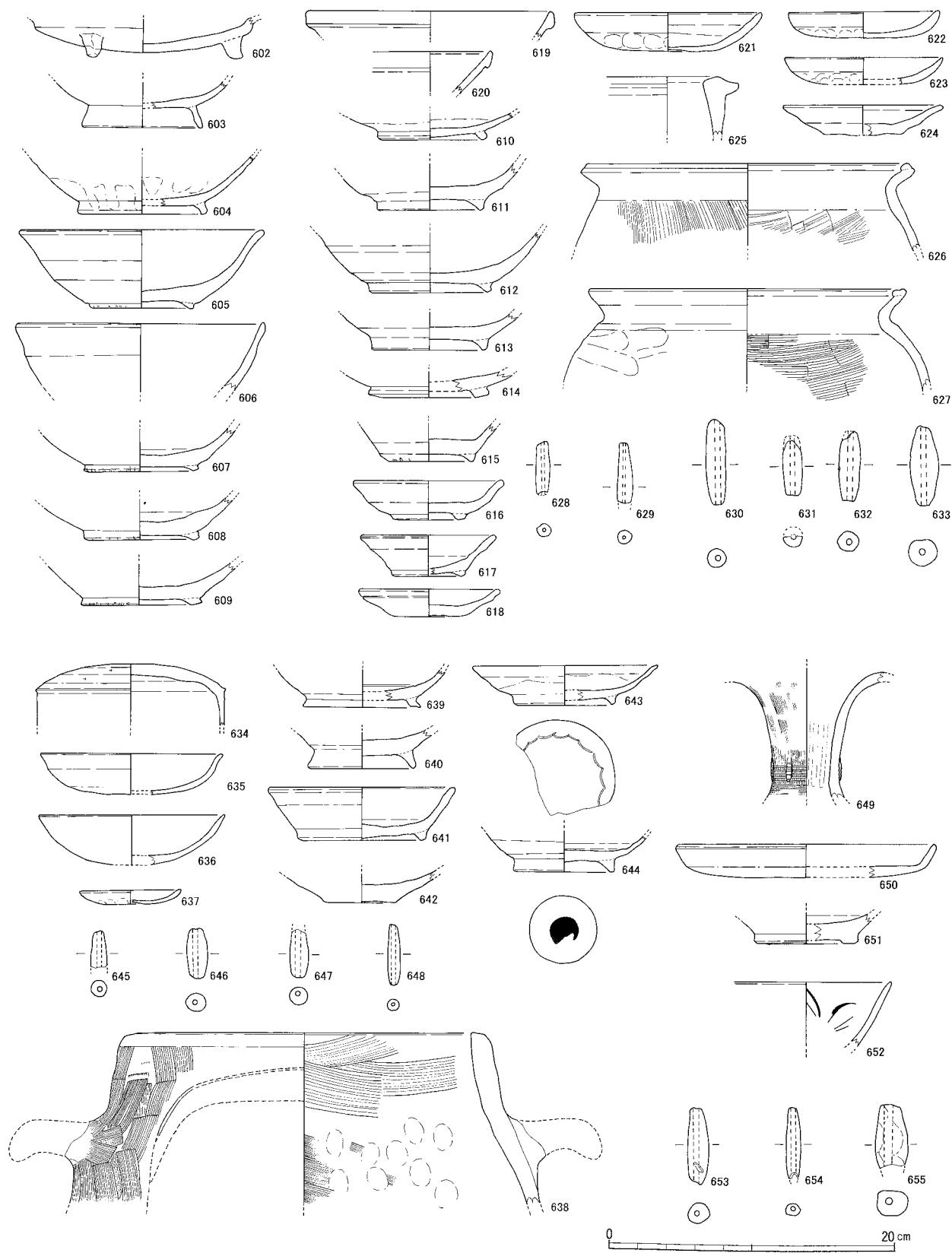
第57図 C地区出土遺物実測図3 SD1236 (471~515) (1:4)



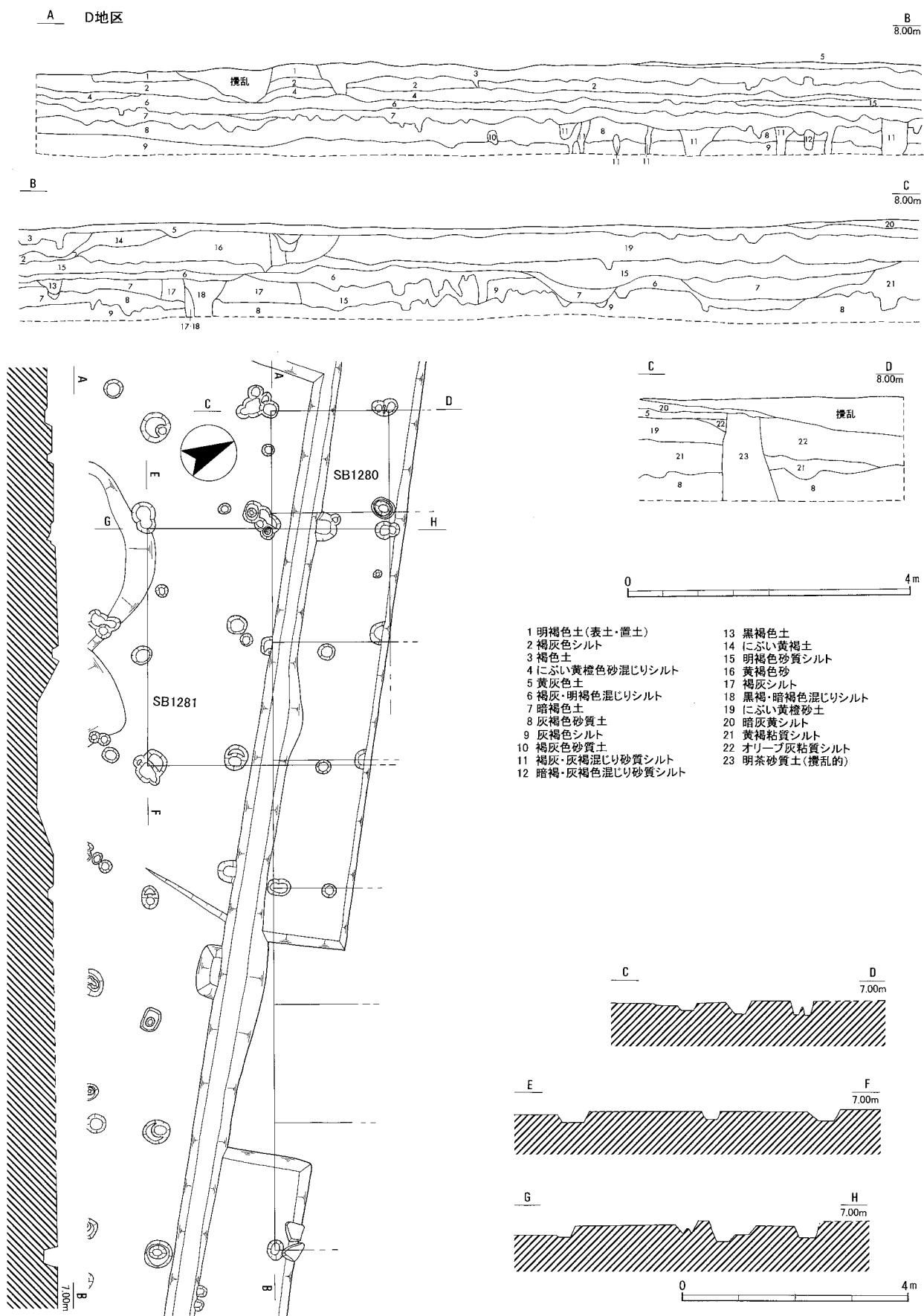
第58図 C地区出土遺物実測図4 SD1236 (516~558) (1:4)



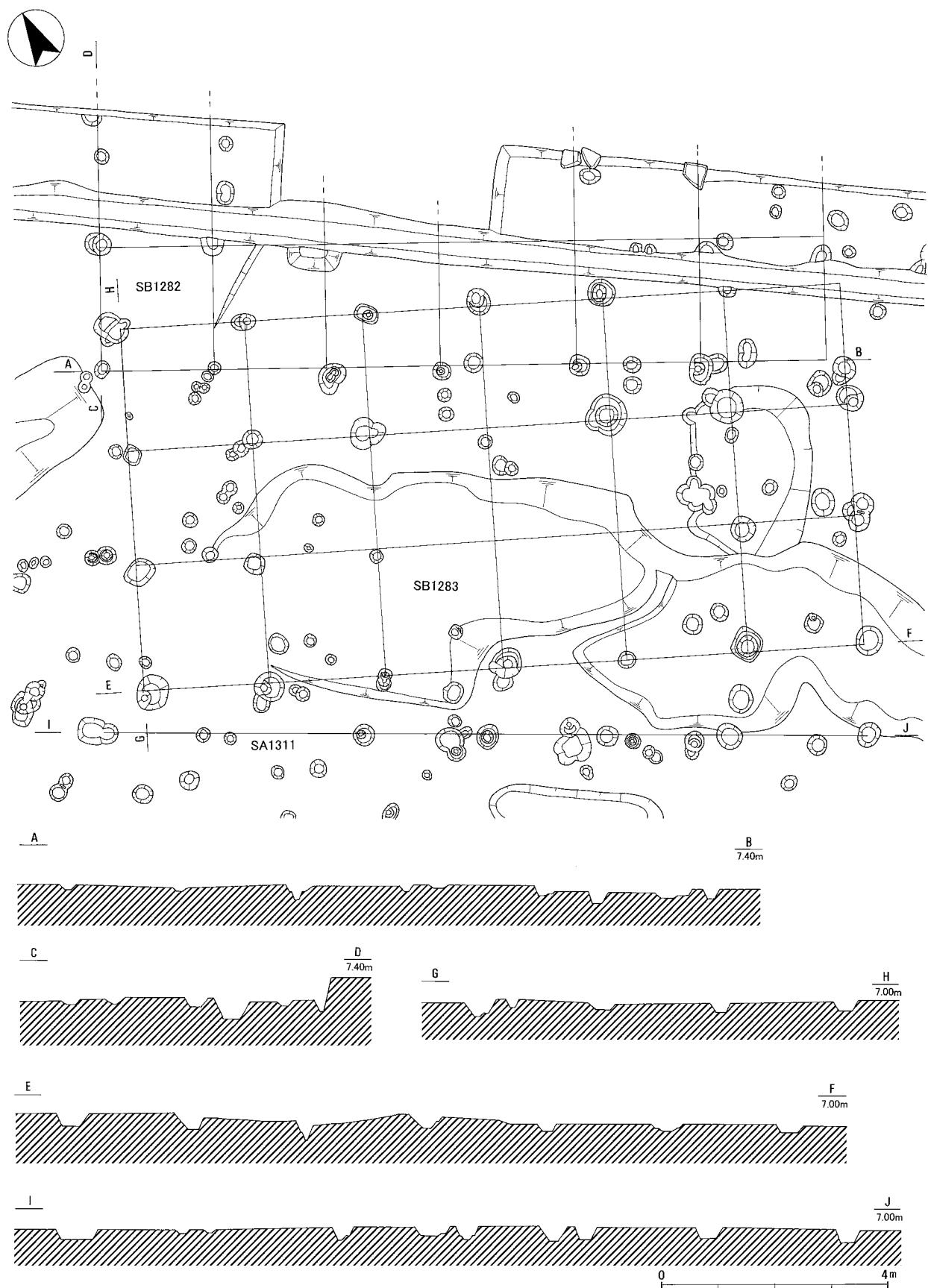
第59図 C地区出土遺物実測図5 SD1236 (559~601) 601 (1:2)、他は (1:4)



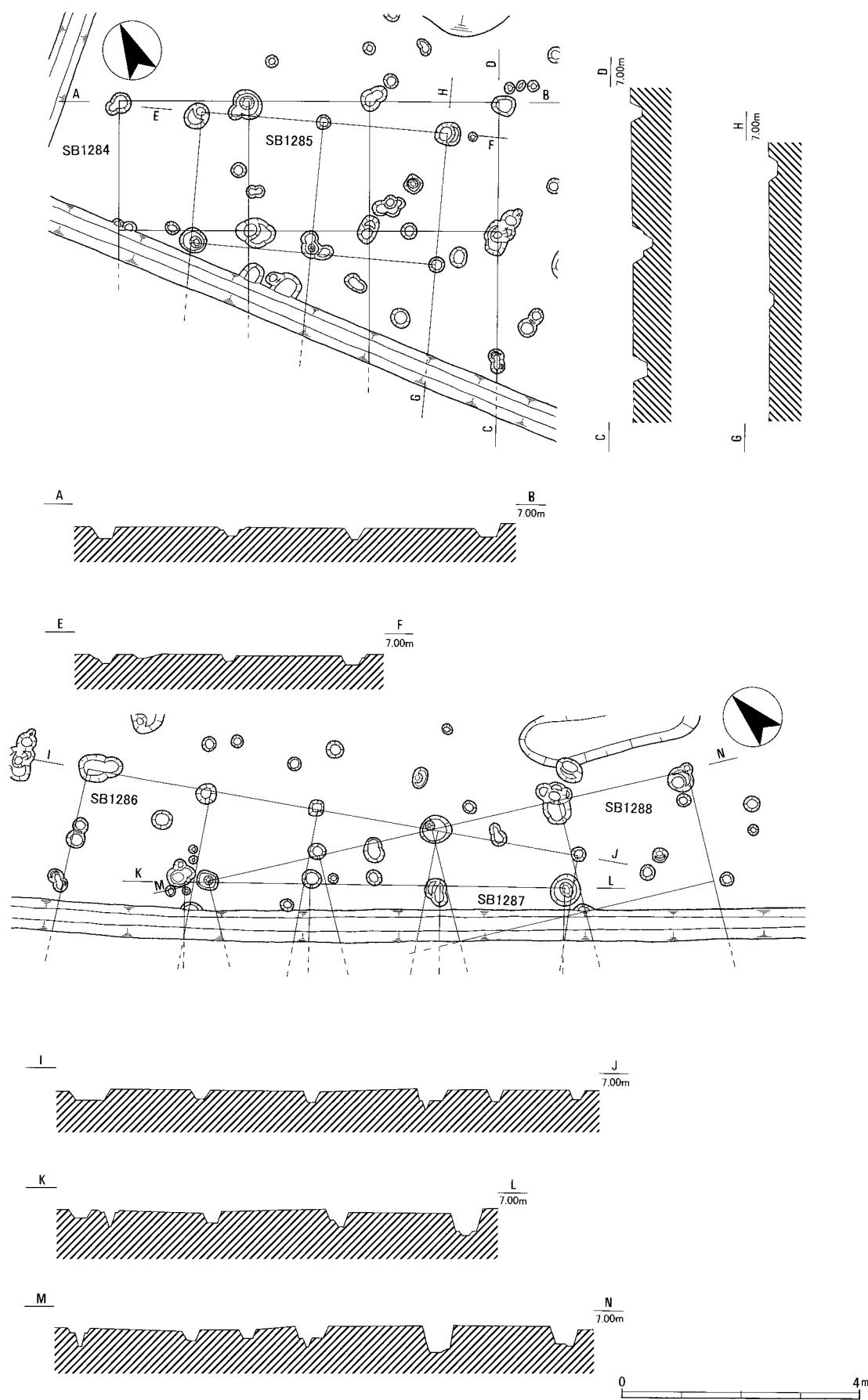
第60図 C地区出土遺物実測図6 SD1236 (602~633) 包含層 (634~655) (1:4)



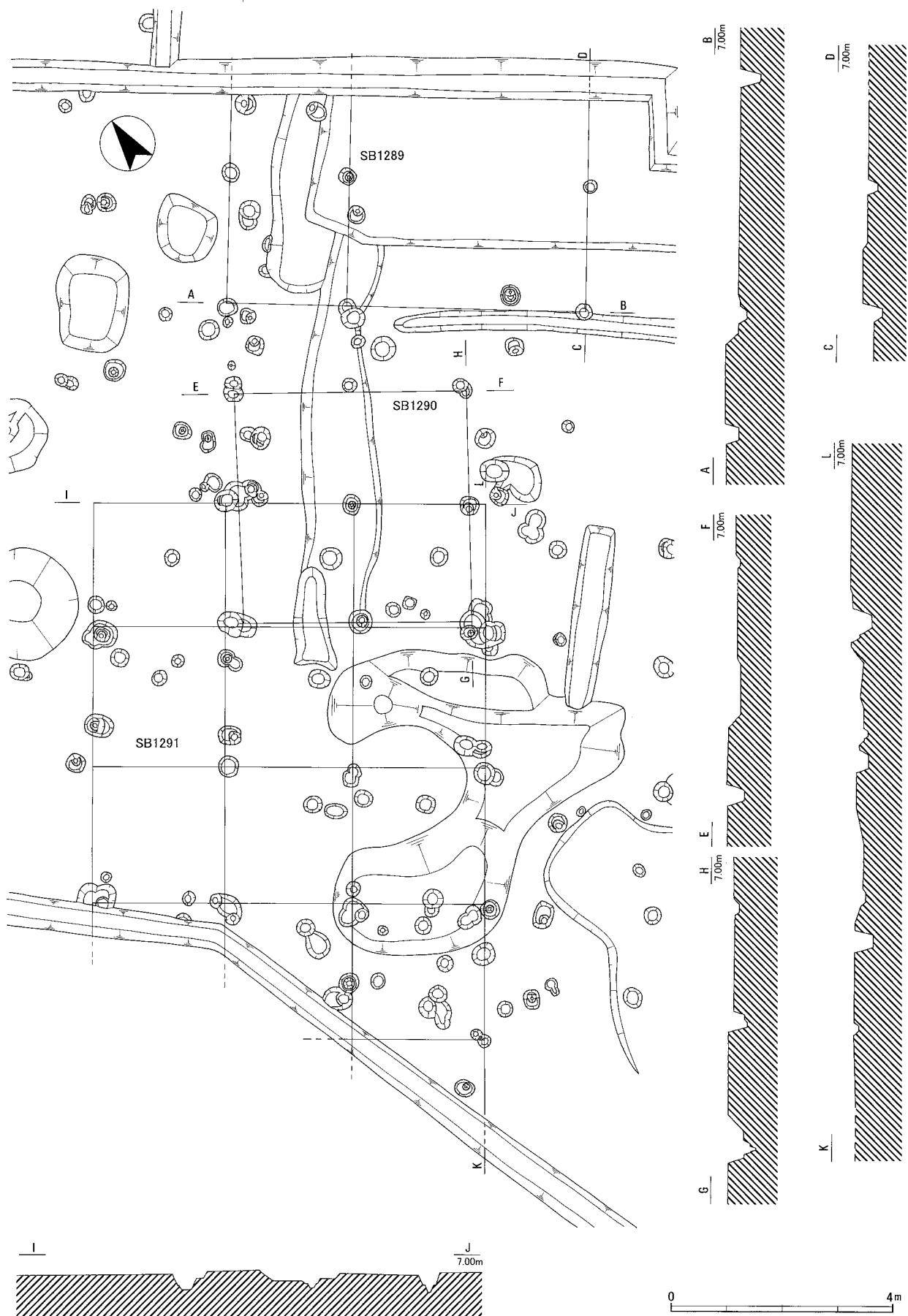
第61図 D 1地区(下層)北壁土層断面図(1:80)、SB1280・1281実測図(1:100)



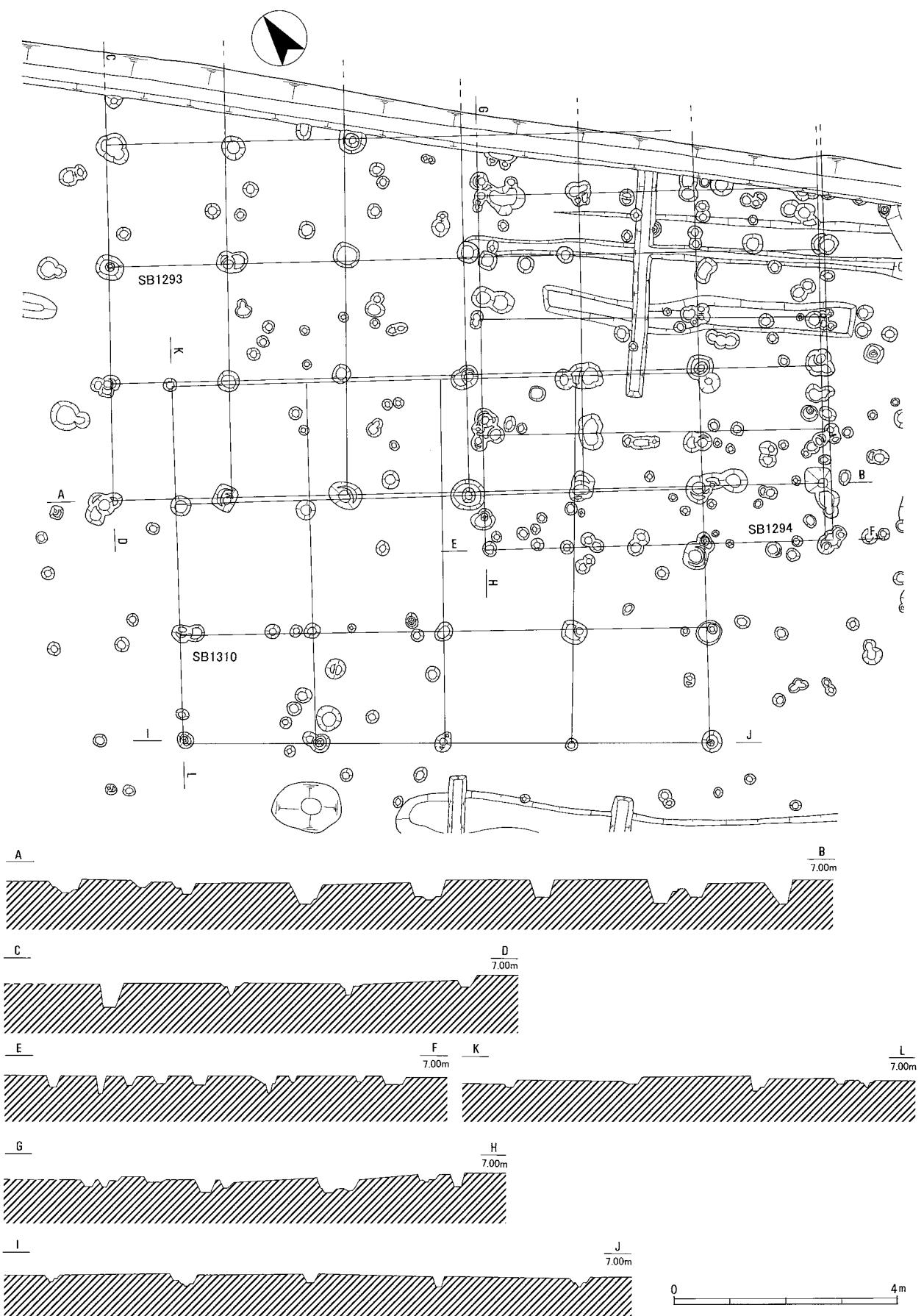
第62図 SB1282・1283、SA1311実測図 (1 : 100)



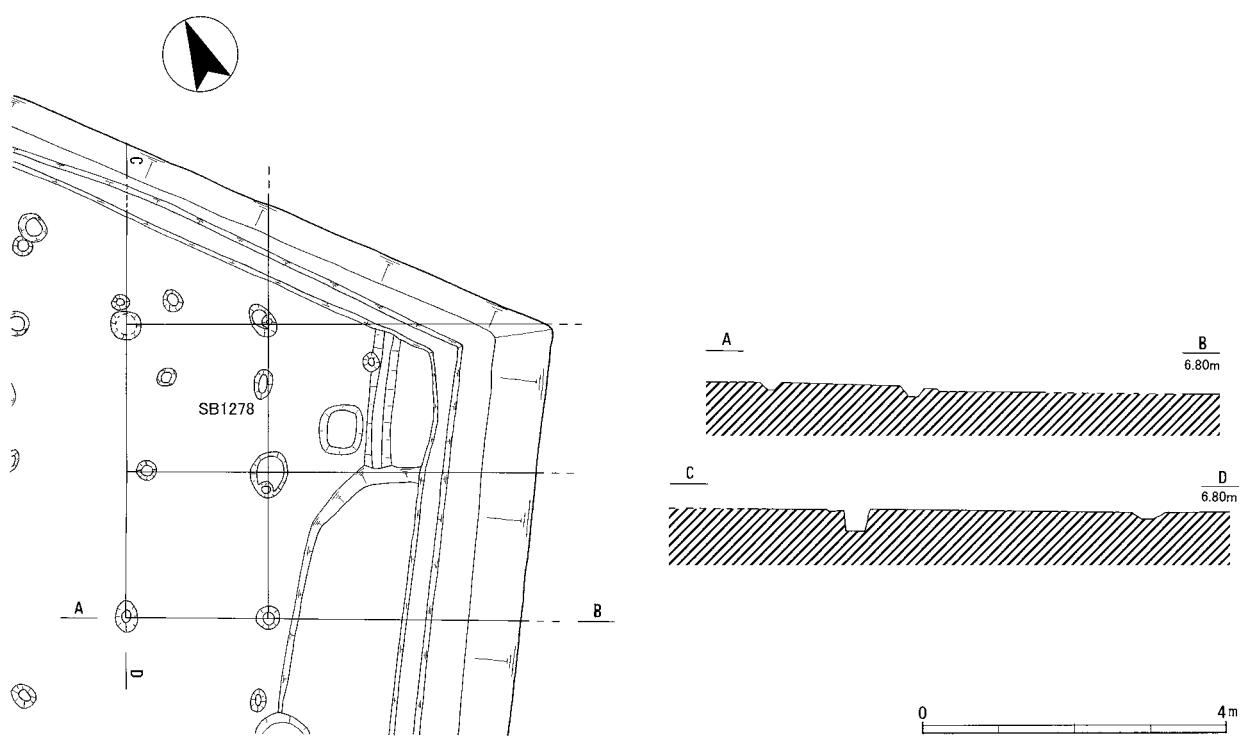
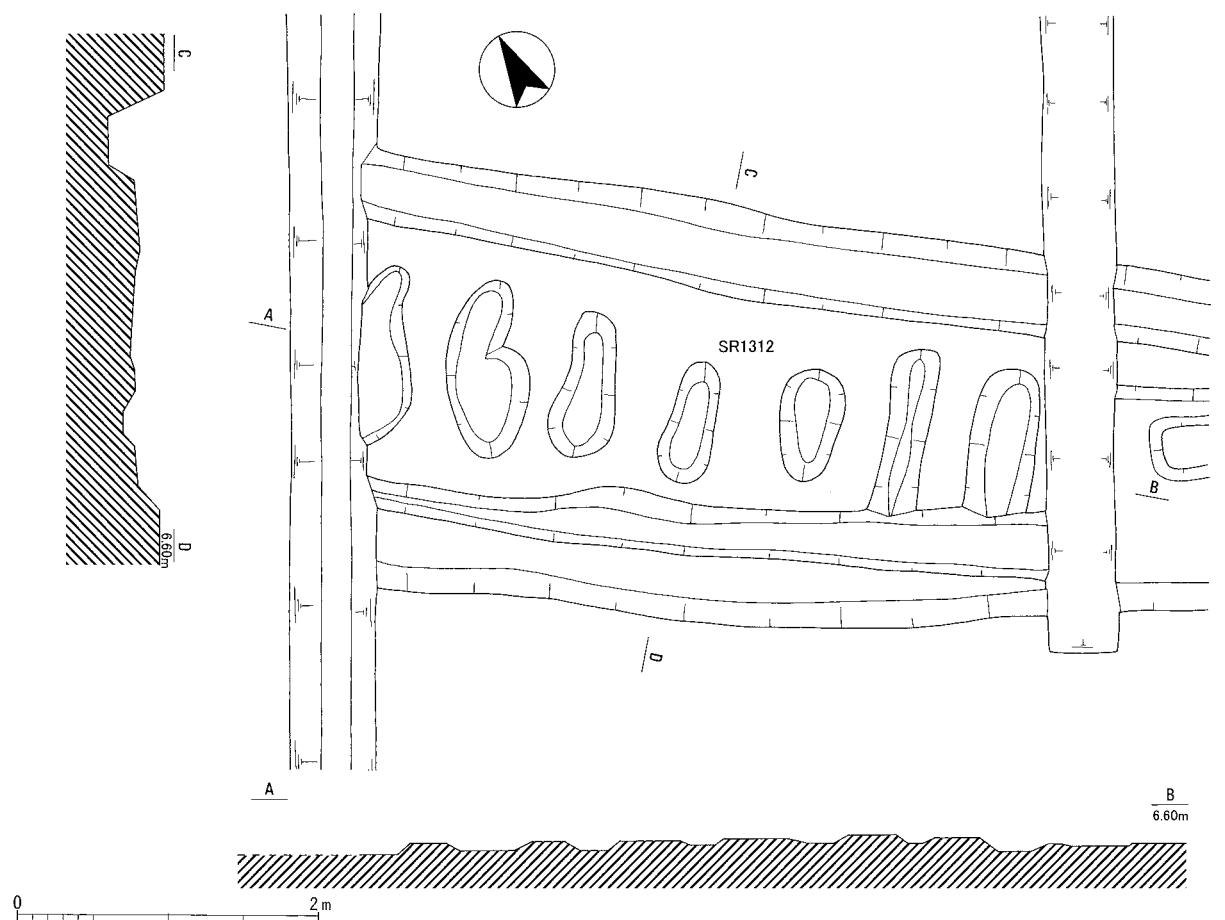
第63図 SB1284・1285・1286・1287・1288実測図 (1 : 100)



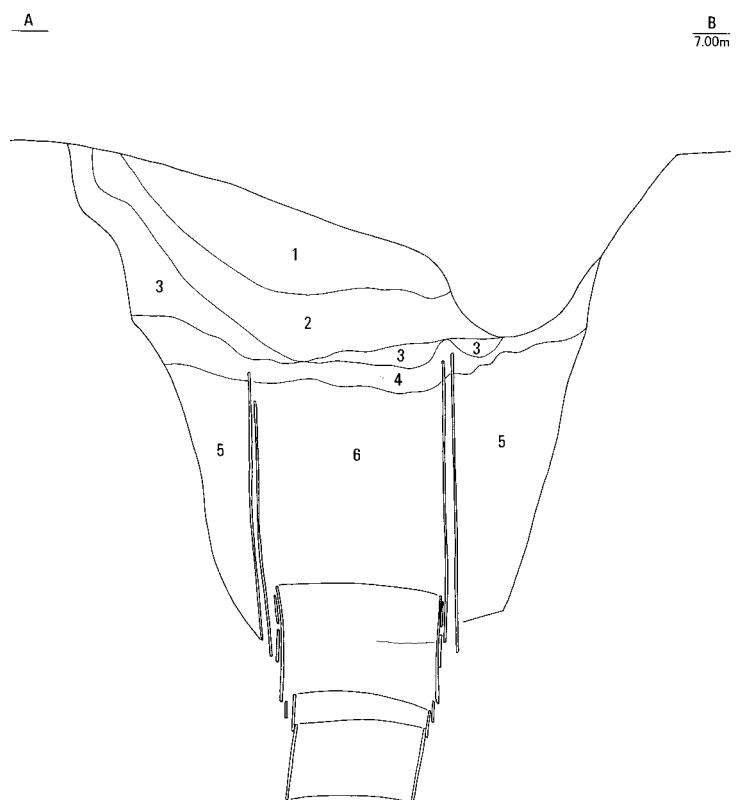
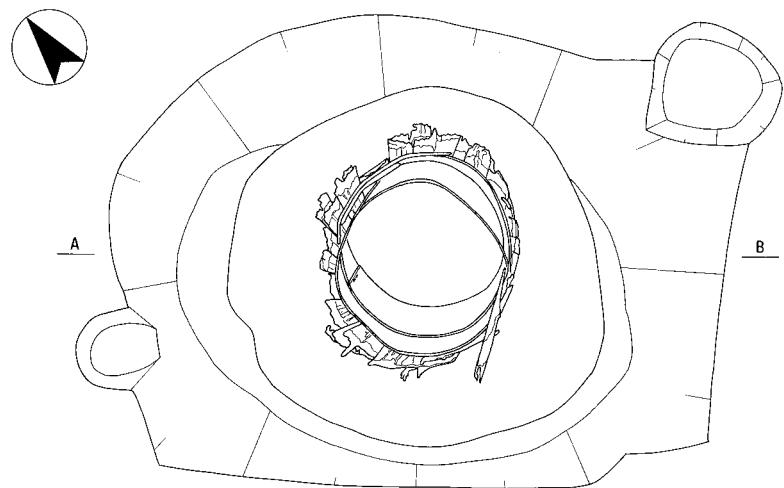
第64図 SB1289・1290・1291実測図 (1 : 100)



第65図 SB1293・1294・1310実測図 (1 : 100)



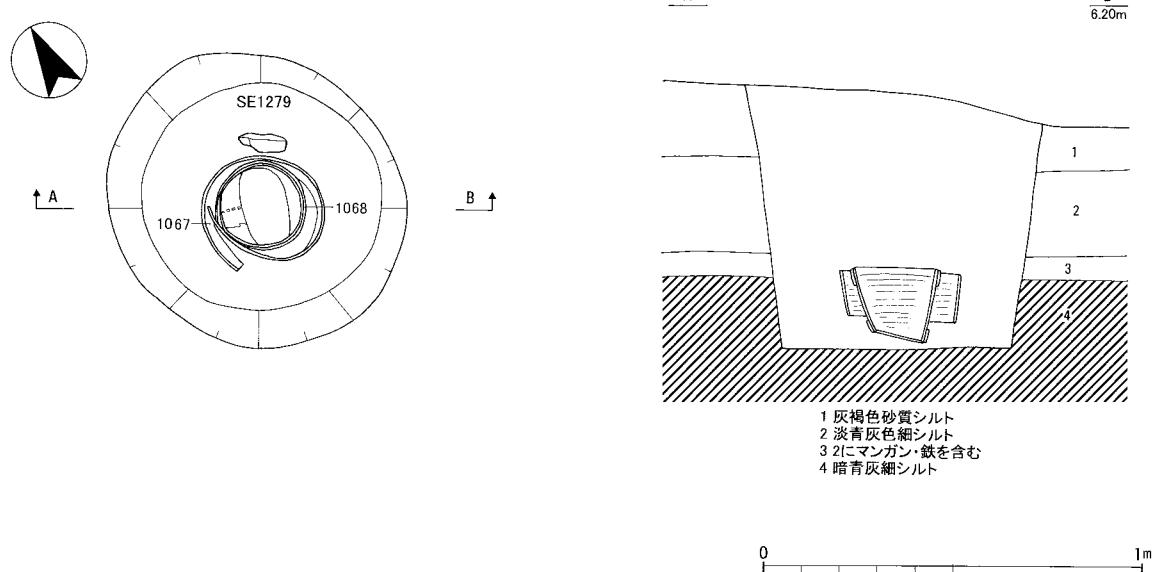
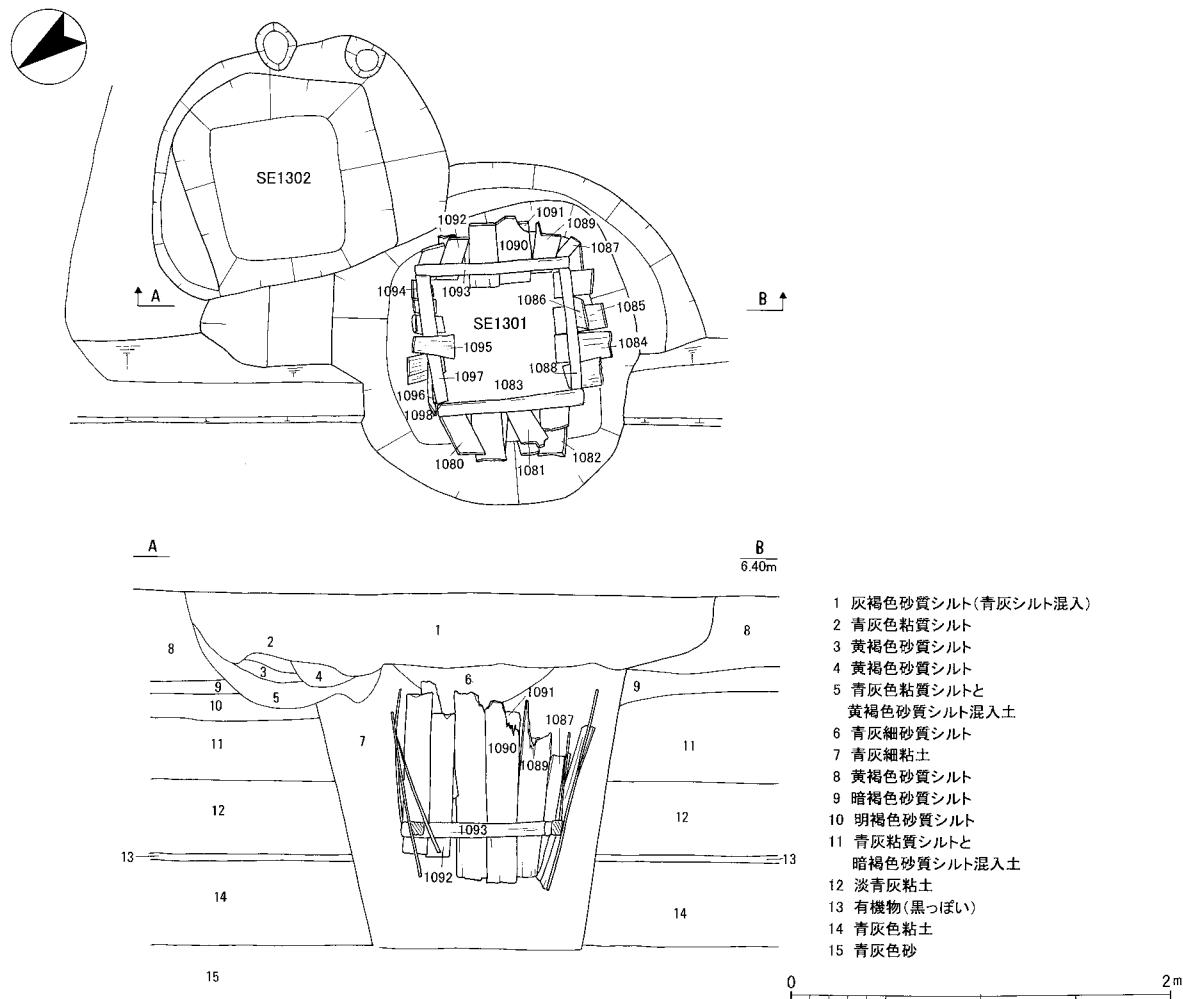
第66図 SR1312、SB1278 平面図、土層断面図 (SR1312 1:50、SB1278 1:100)



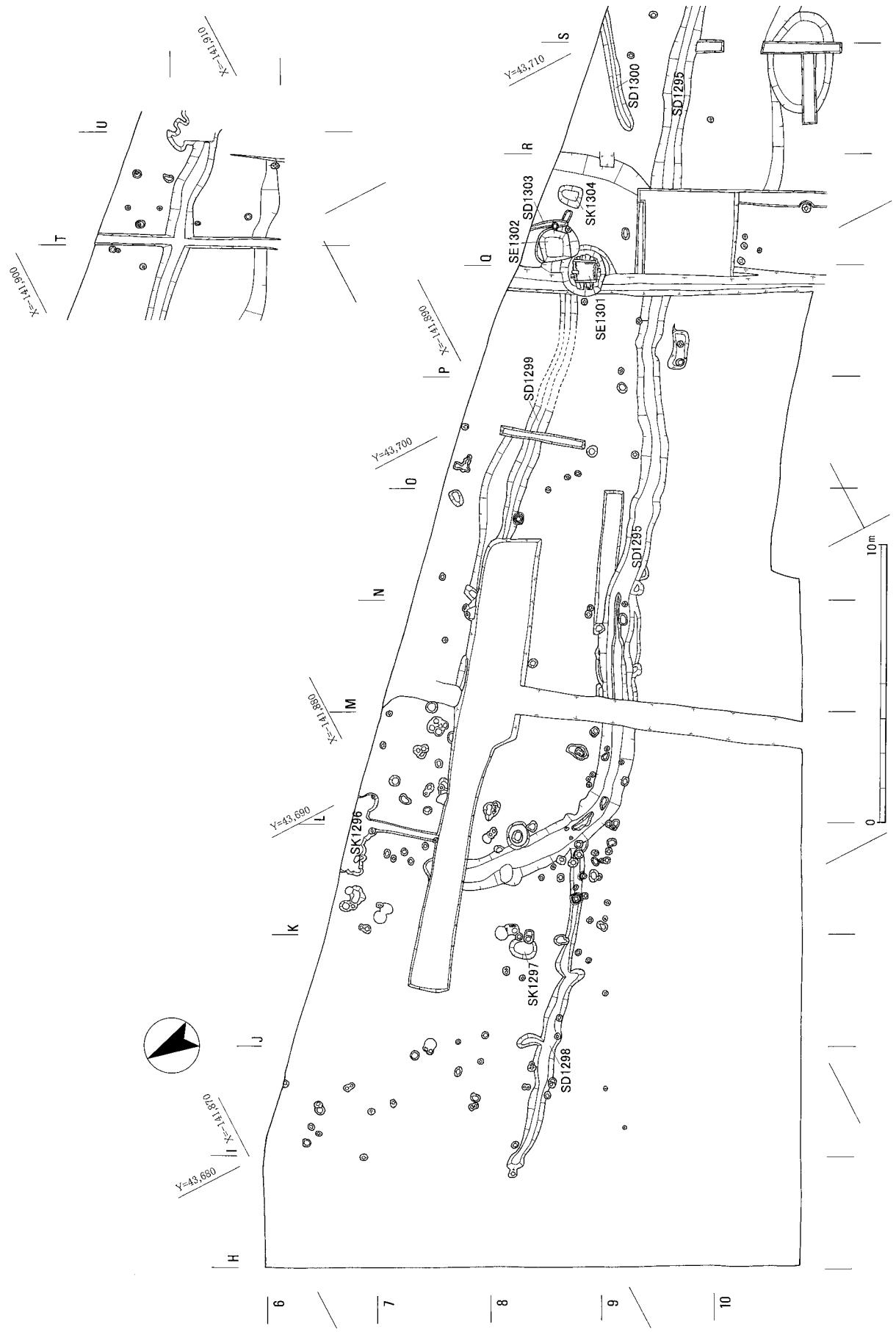
- 1 茶褐色粘質土(地山多く含み、やや砂っぽく明るい)
 - 2 茶褐色粘質土(地山少なく含む)
 - 3 明茶褐色粘質土(鉄分多くやや黄色っぽい)
 - 4 青灰白色砂質土(一部橙色)
 - 5 青灰色粘質土
 - 6 5と同じだが暗め、中央付近は暗青灰色を呈する



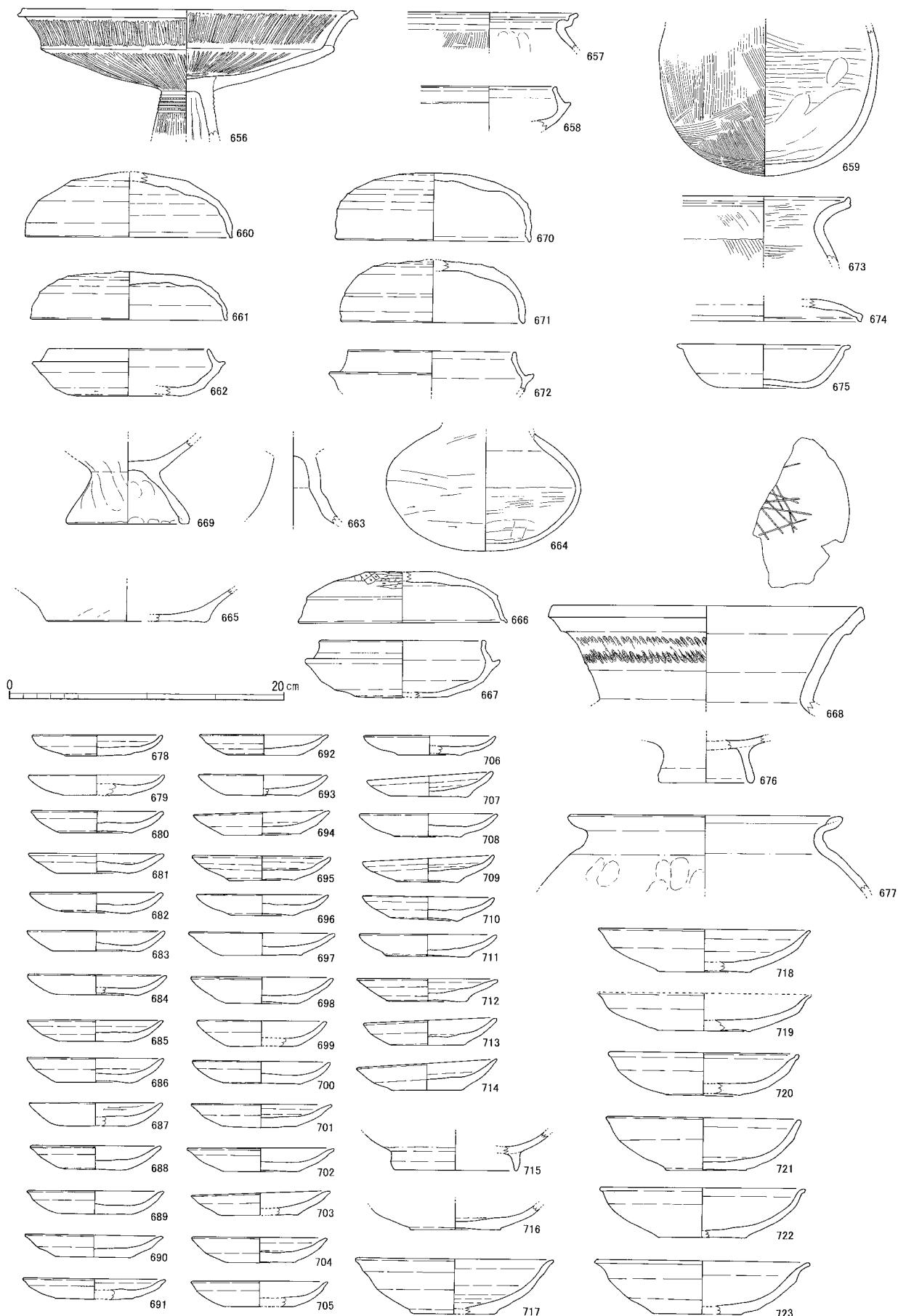
第67図 SE1262 平面図、土層断面図（1：20）



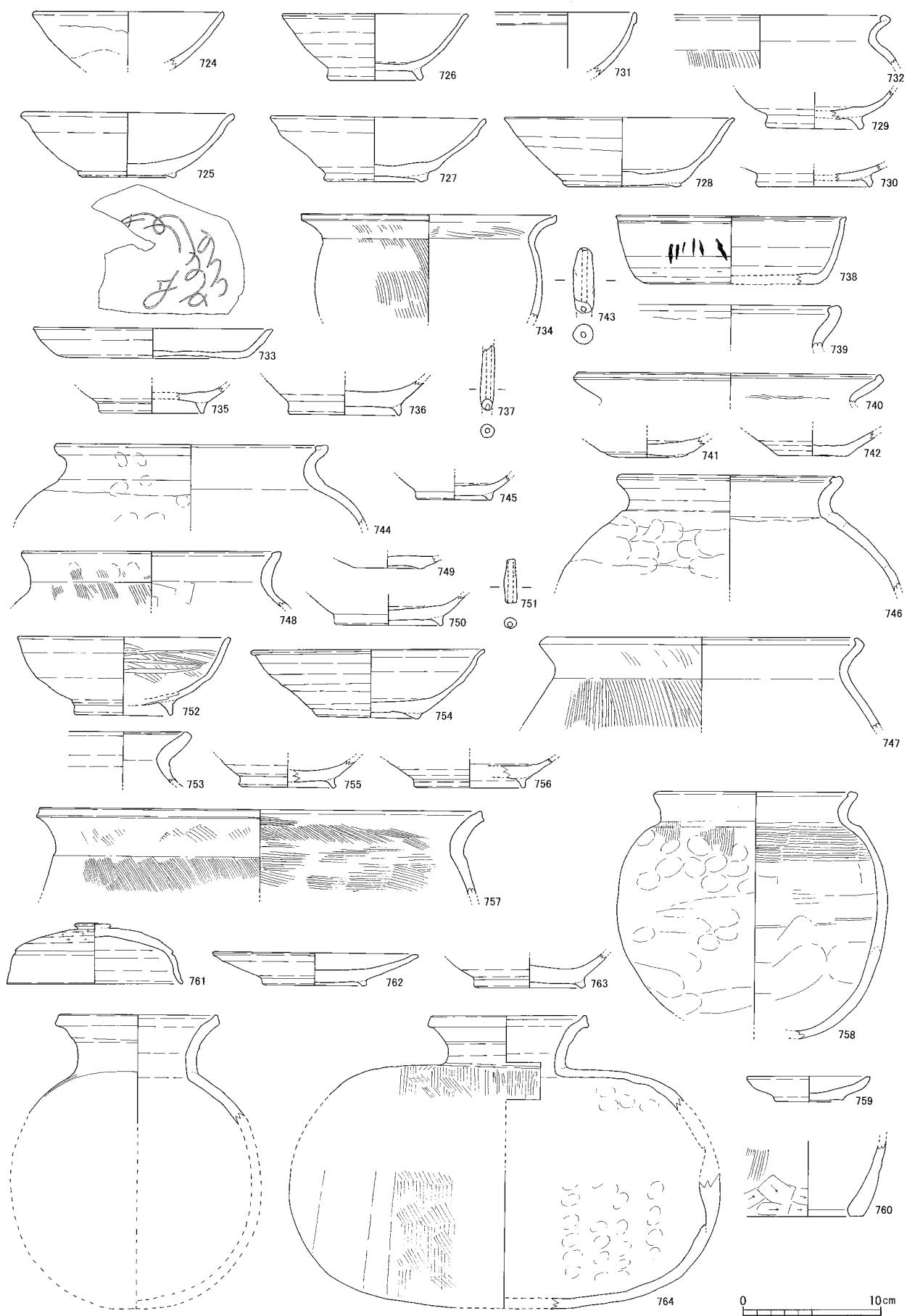
第68図 SE1301・1302・1279 平面図、土層断面図・見通し図 (1:40、SE1279は1:20)



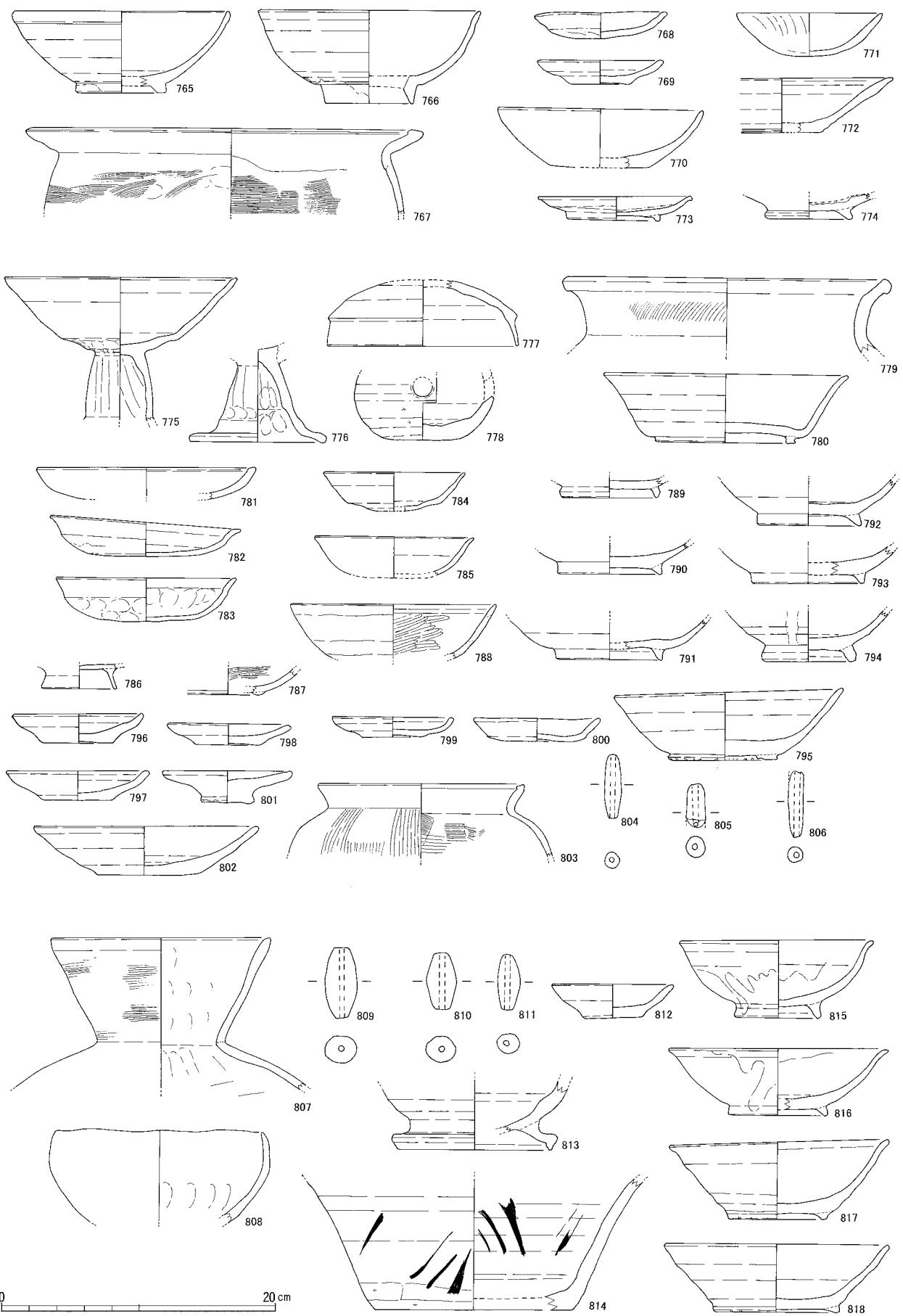
第69図 D1・D2地区下層平面図 (1:200)



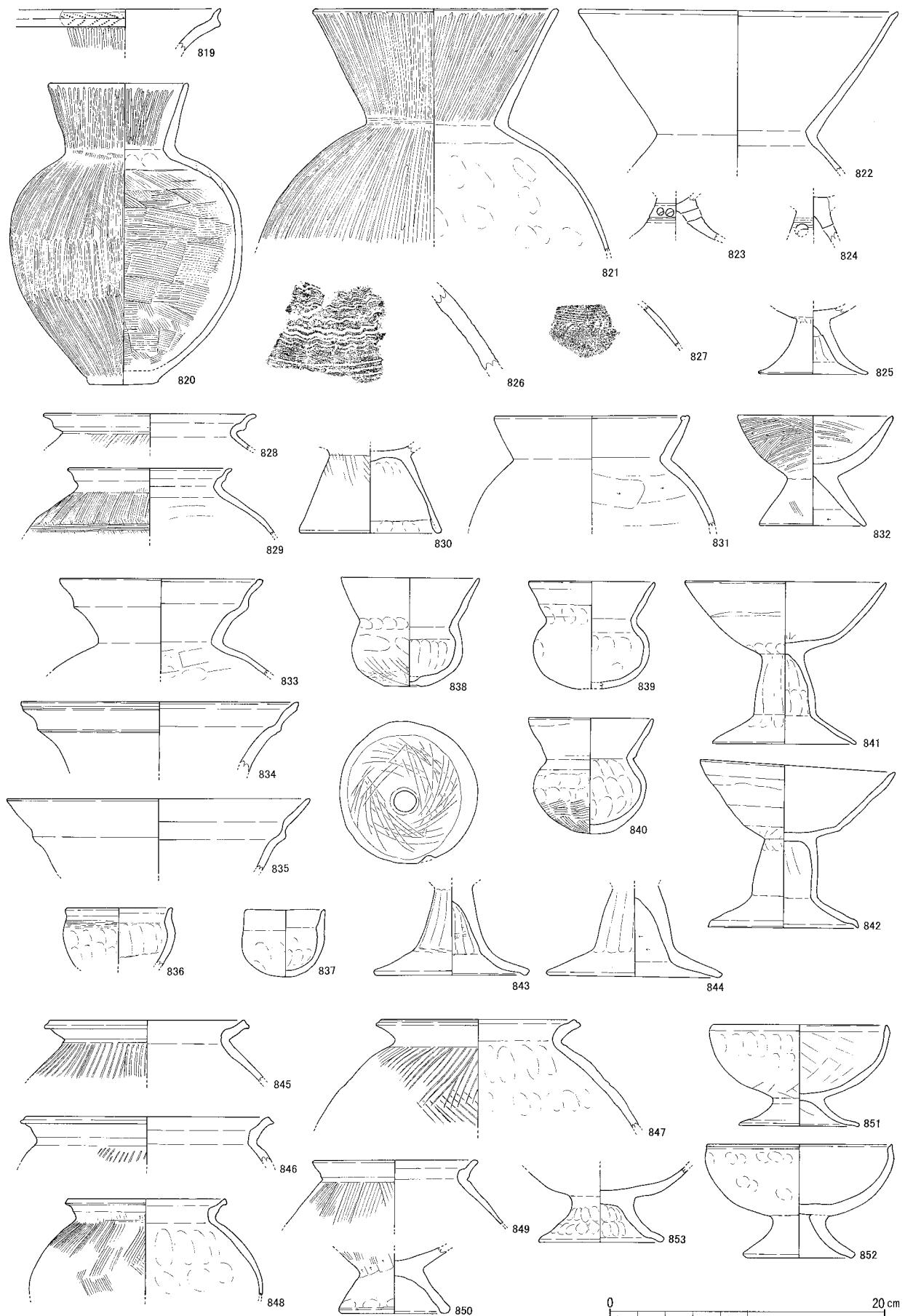
第70図 D地区出土遺物実測図 1 SD1299 (656) ; SE1302 (657~659) ; SD1295 (660~672) ; SE1301 (673~675) ; SK1254 (676) ; SK1259 (677) ; SE1262 (678~723) (1 : 4)



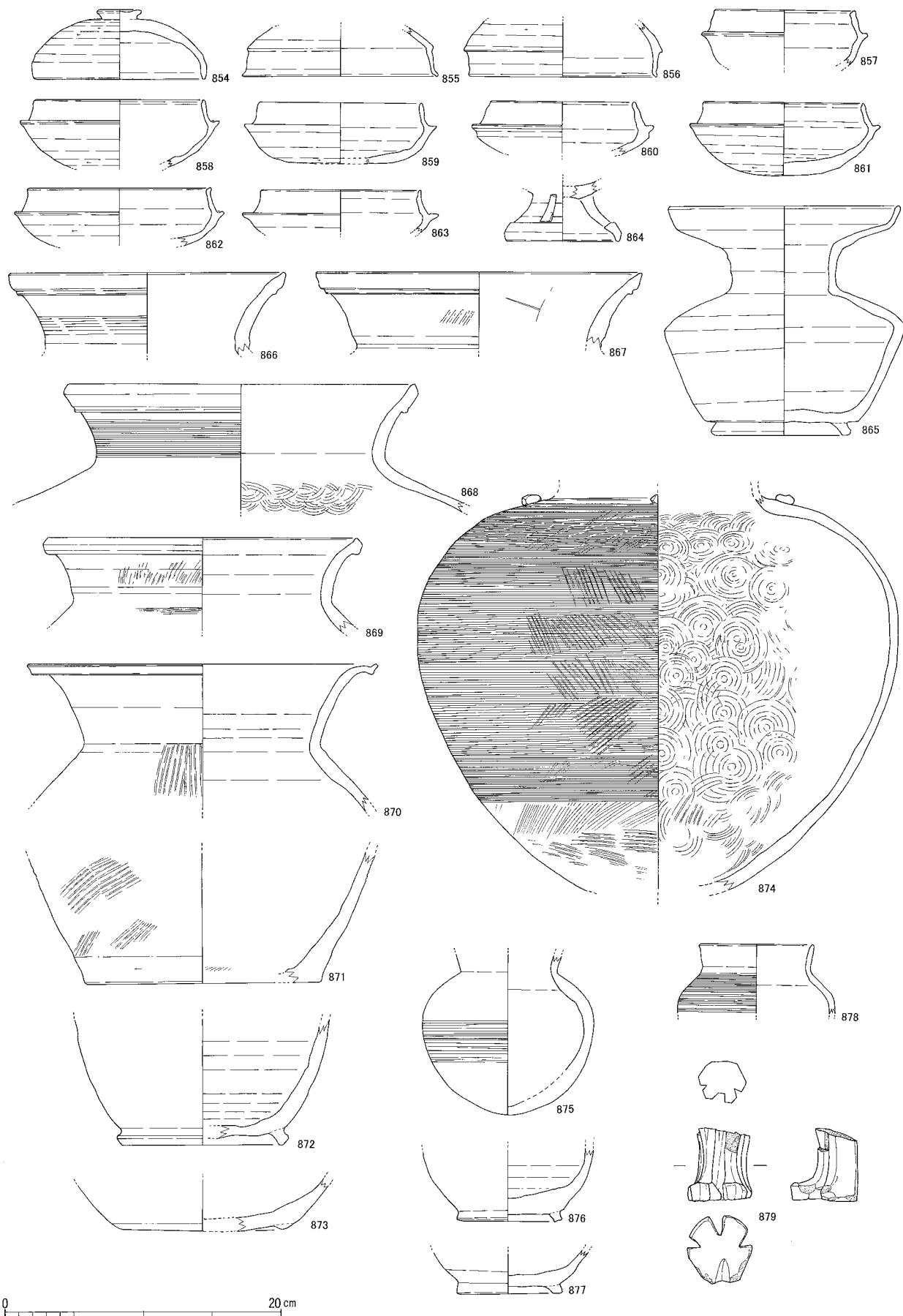
第71図 D地区出土遺物実測図2 SE1257 (724・725) ; SE1253 (726~732) ; SD1261 (733~737) ; SD1266 (738~743) ; SD1276 (744・745) ; SD1263 (746) ; SD1269 (747) ; SD1273 (748~750) ; SD1274 (751) ; SD1264 (752~756) ; 排水溝 (757~763) ; トレンチ (764) (1 : 4)



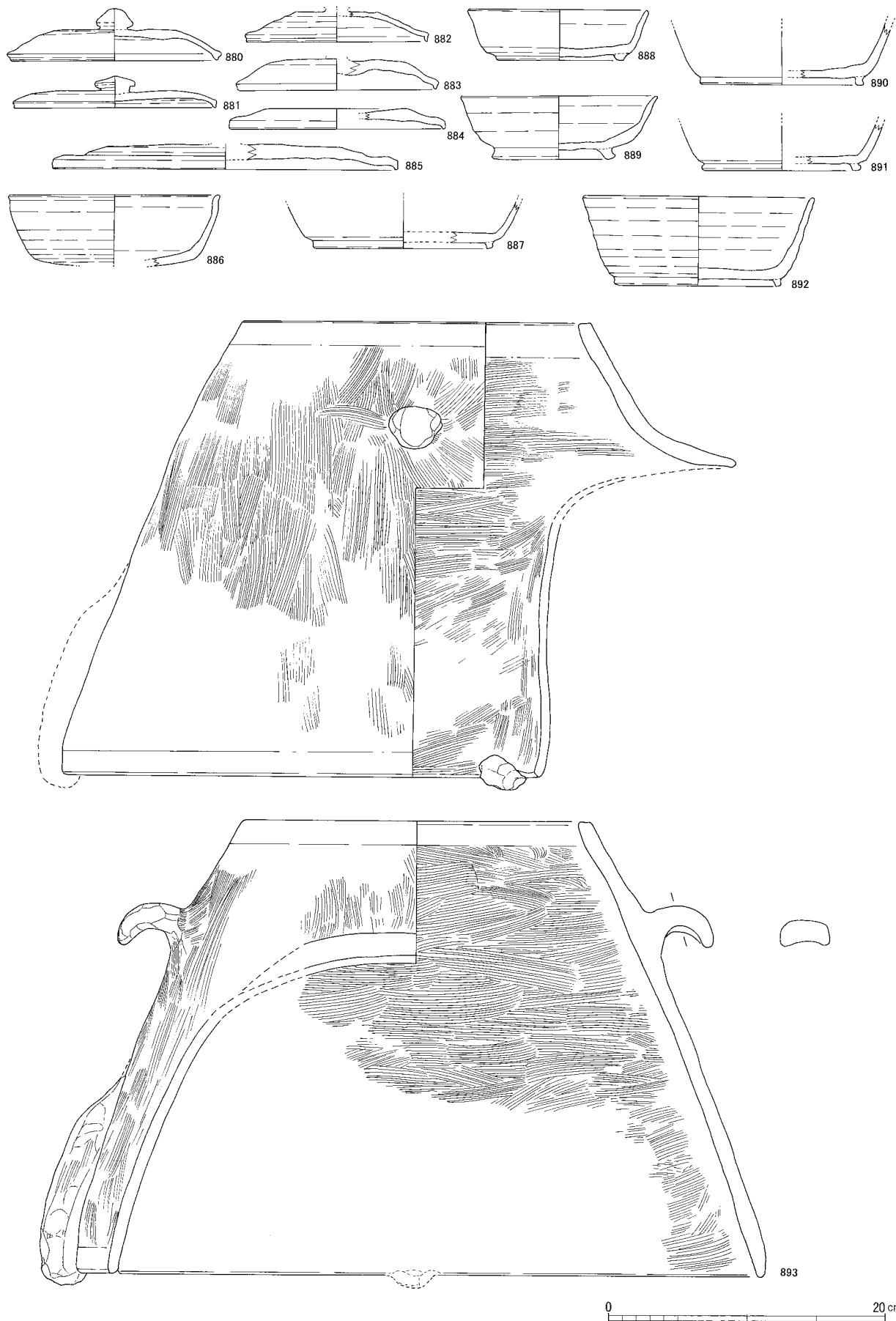
第72図 D地区出土遺物実測図3 SB1280 (765) ; SB1290 (766) ; SB1289 (767) ; SB1285 (768・769) ; SB1283 (770) ; SB1293 (771・772) ; SB1288 (773) ; SB1284 (774) ; Pit (775～806) ; 表土 (807～818) (1:4)



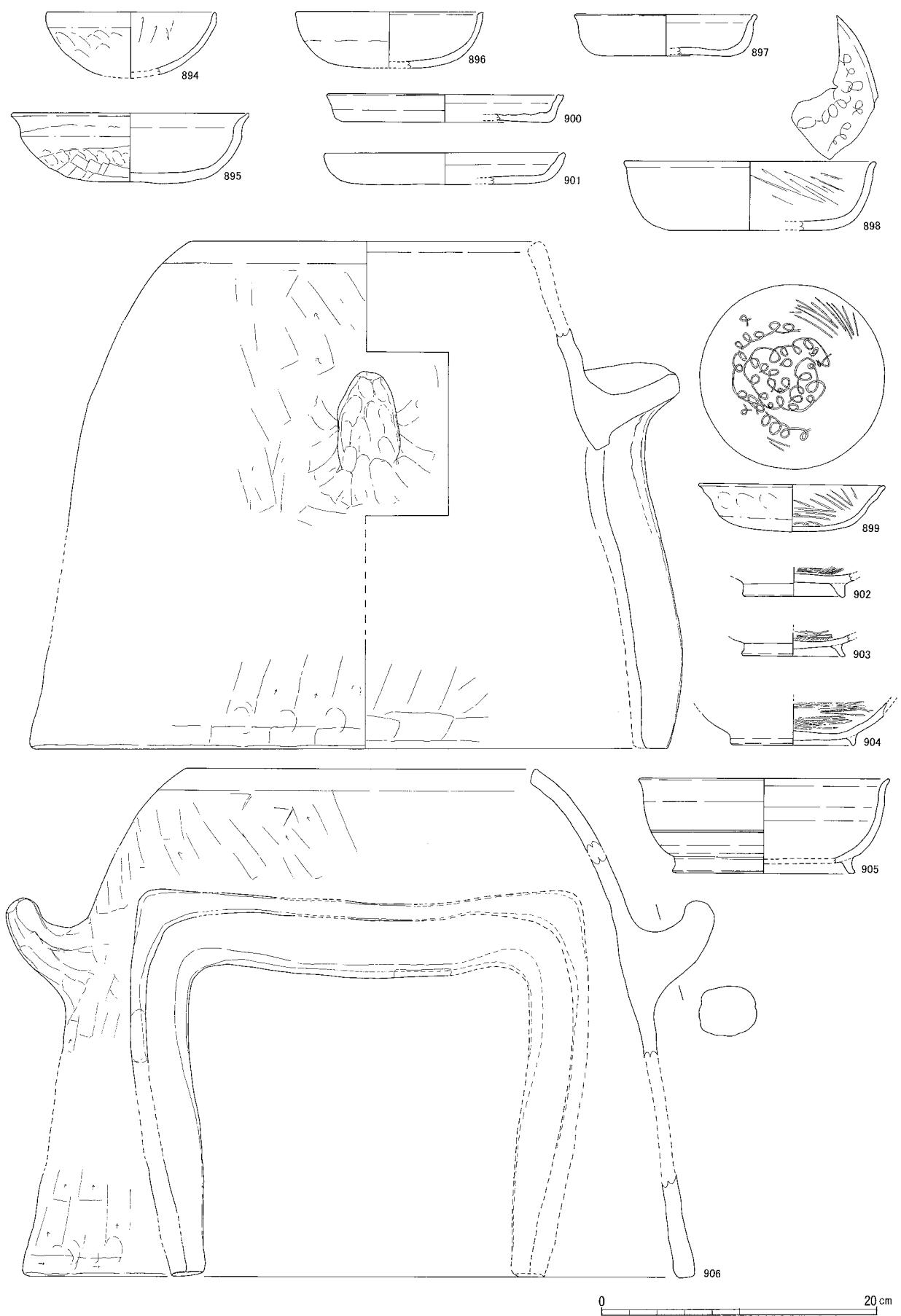
第73図 D地区出土遺物実測図4 包含層(819~853)(1:4)



第74図 D地区出土遺物実測図5 包含層 (854~879) (1:4)



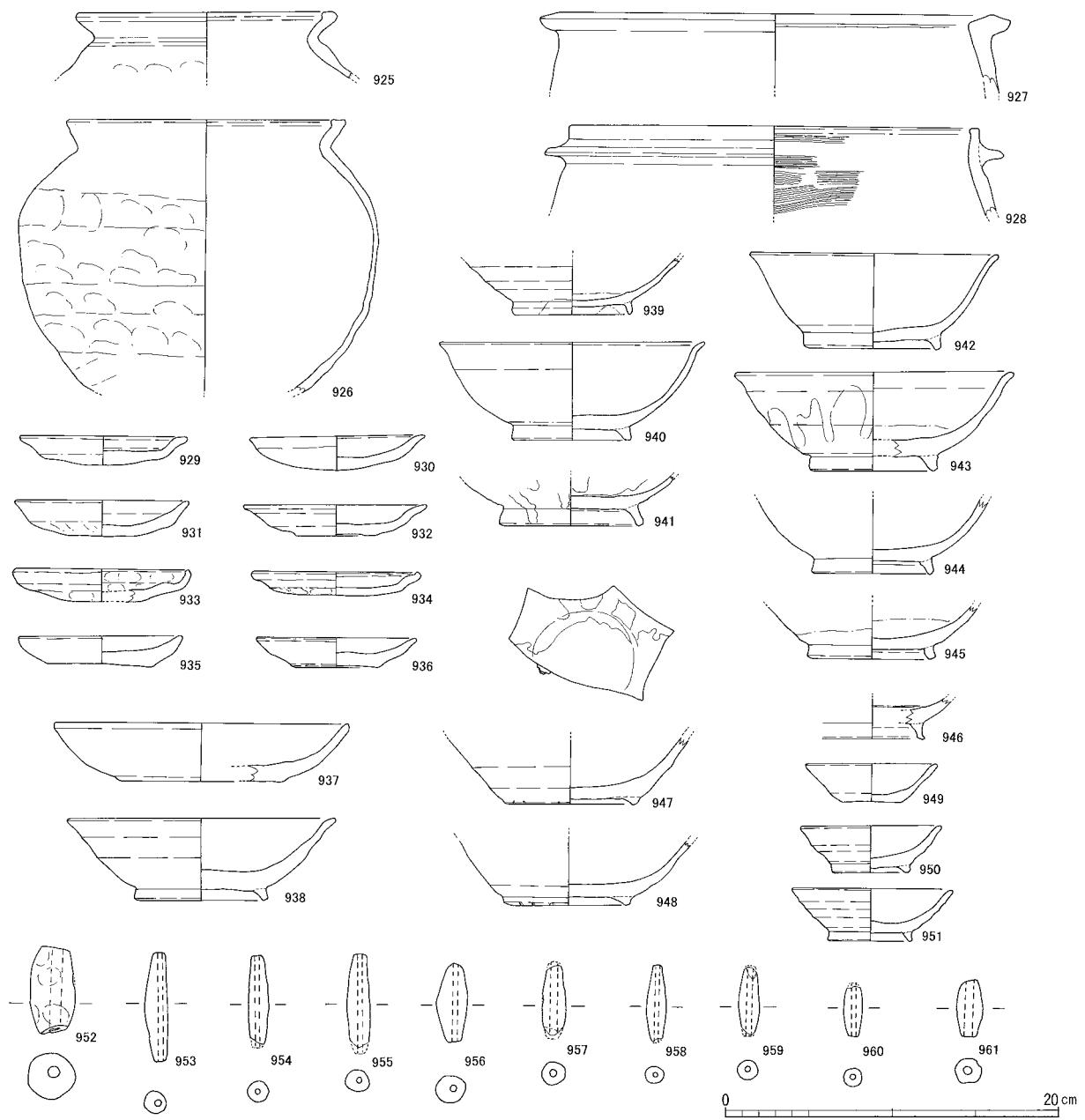
第75図 D地区出土遺物実測図6 包含層(880~893)(1:4)



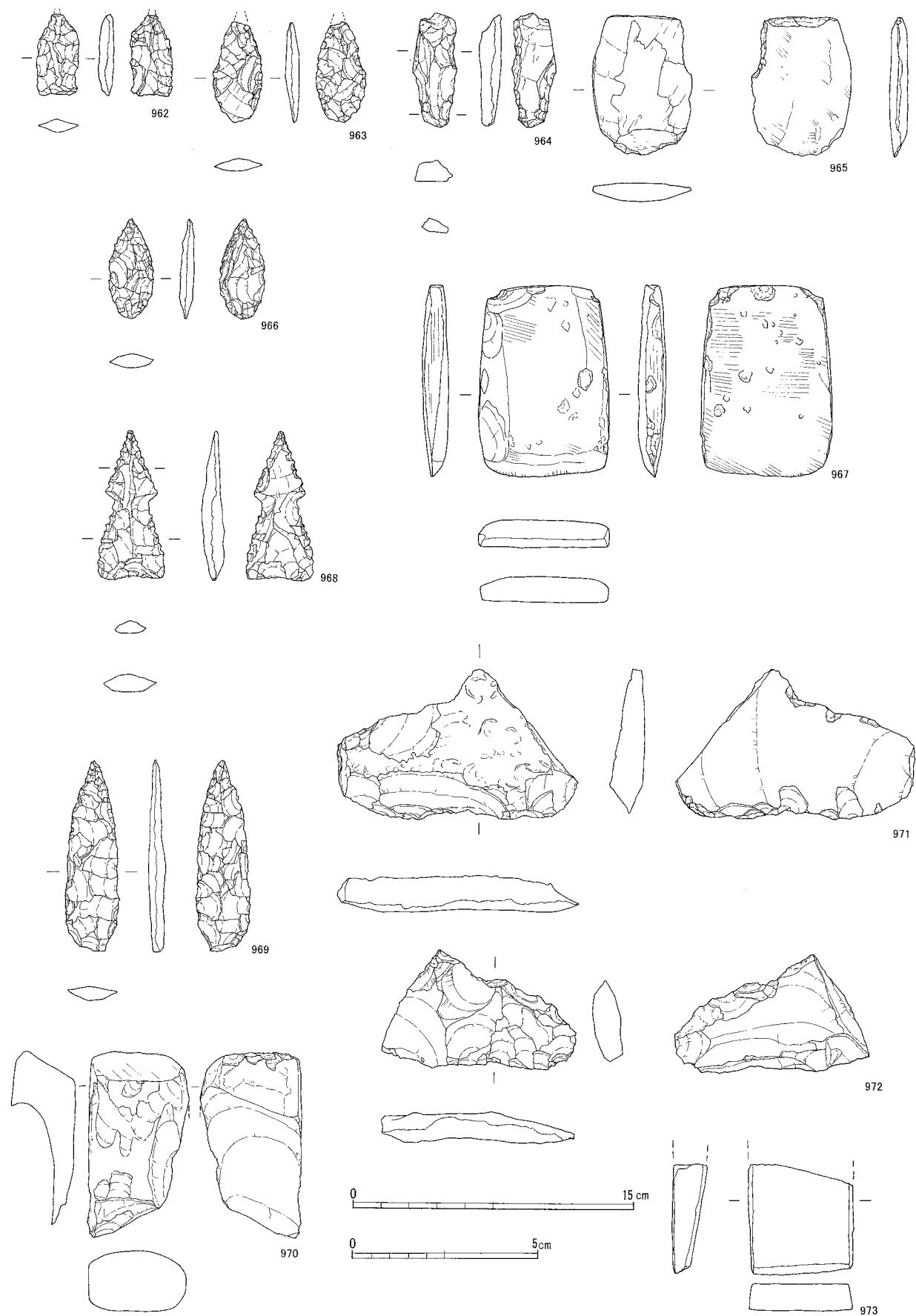
第76図 D地区出土遺物実測図7 包含層(894~906)(1:4)



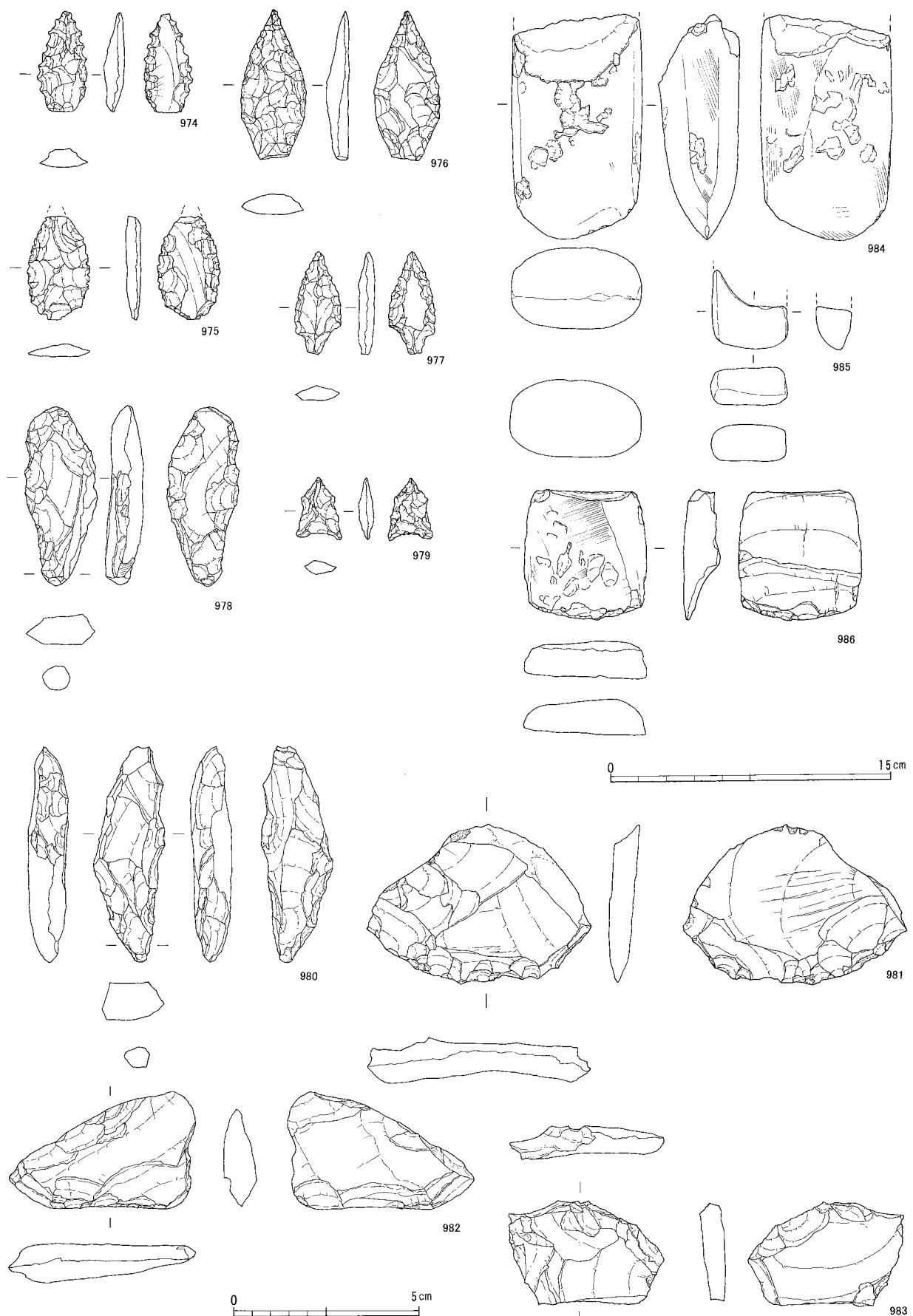
第77図 D地区出土遺物実測図8 包含層（907～924）(1:4)



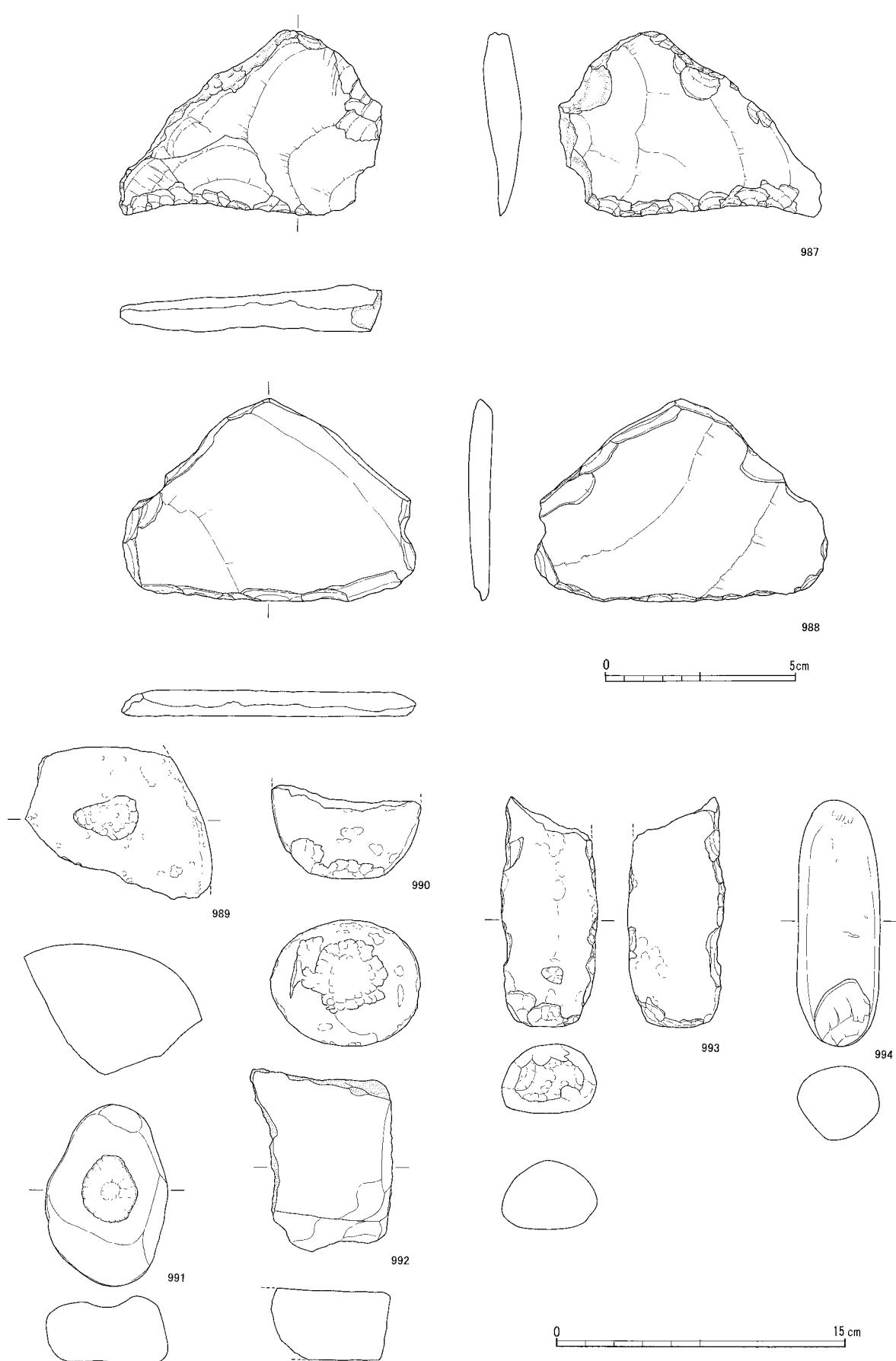
第78図 D地区出土遺物実測図9 包含層(925~961)(1:4)



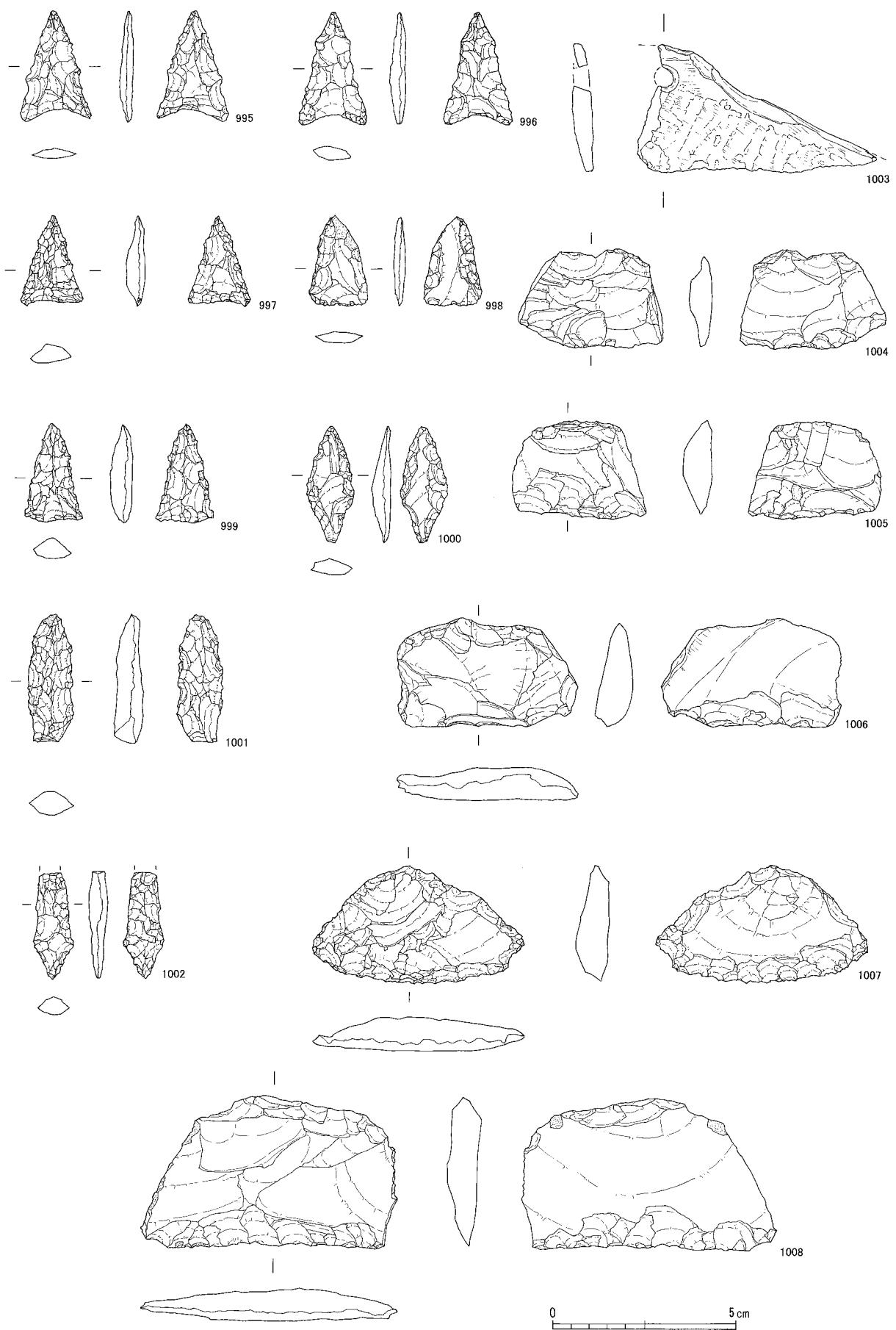
第79図 B地区出土遺物（石製品）実測図 SH1179 (962~965); SH1173 (966・967); SH1196 (968~973)
970 (1:3) 他は (2:3)



第80図 B地区出土遺物（石製品）実測図 SK1127 (974) ; SK1182 (975) ; SK1223 (976) ; SD1168 (977) ; SD1164 (978) ; SD1160 (979・980) ; SK1181 (981) ; SD1112 (982) ; SK1141 (983) ; SH1186 (984) ; SK1125 (985) ; 包含層 (986) 982・984～986 (1:3) 他は (2:3)



第81図 B地区出土遺物（石製品）実測図 SD1115（987）；SD1112（988・990～992・994）；SK1143（989）；SD1158（993）
987・988（2：3）他は（1：3）



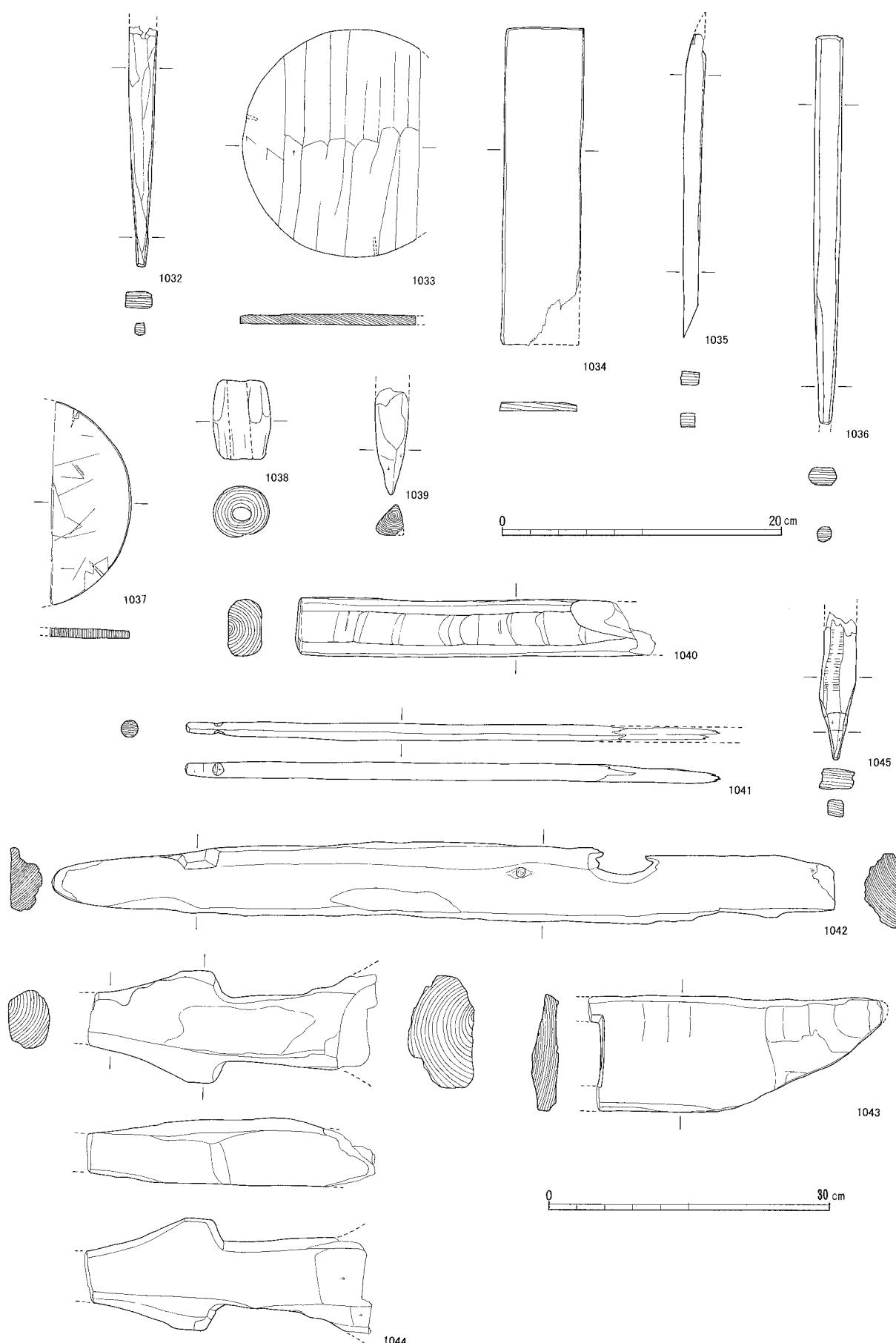
第82図 B地区出土遺物（石製品）実測図 第Ⅱ層（995・1007）；第Ⅱ～Ⅲ層間（1002）；第Ⅲ層（998～1000・1003～1006）
Pit（996・1008）；包含層（997・1001）（2：3）



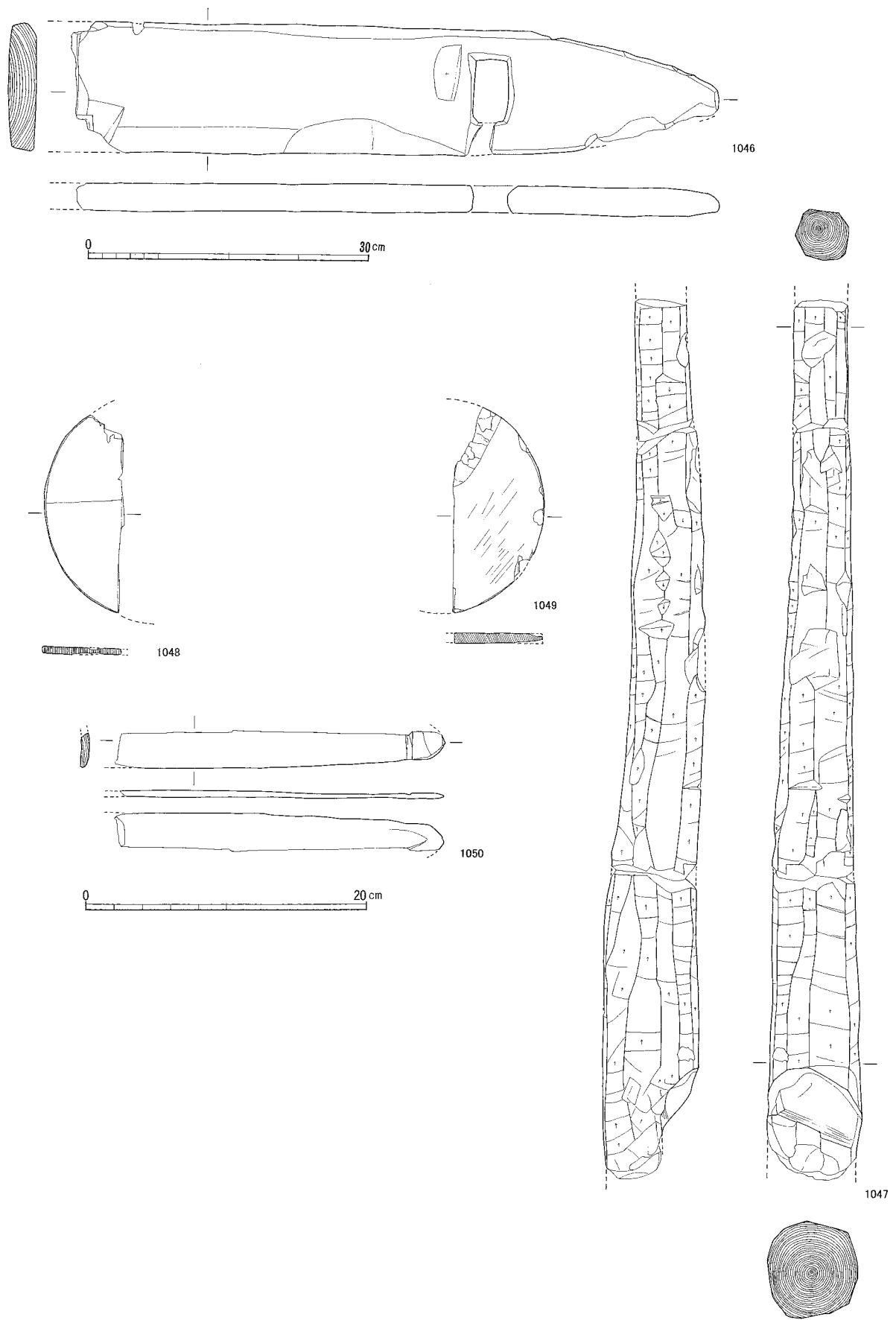
第83図 B地区出土遺物（石製品）実測図 第Ⅲ層（1009・1012・1014・1015）；Pit（1011）；耕作土（1010）
；第Ⅱ・Ⅲ層（1013）；第Ⅱ層（1016） 1011・1012（2：3）、他は（1：3）



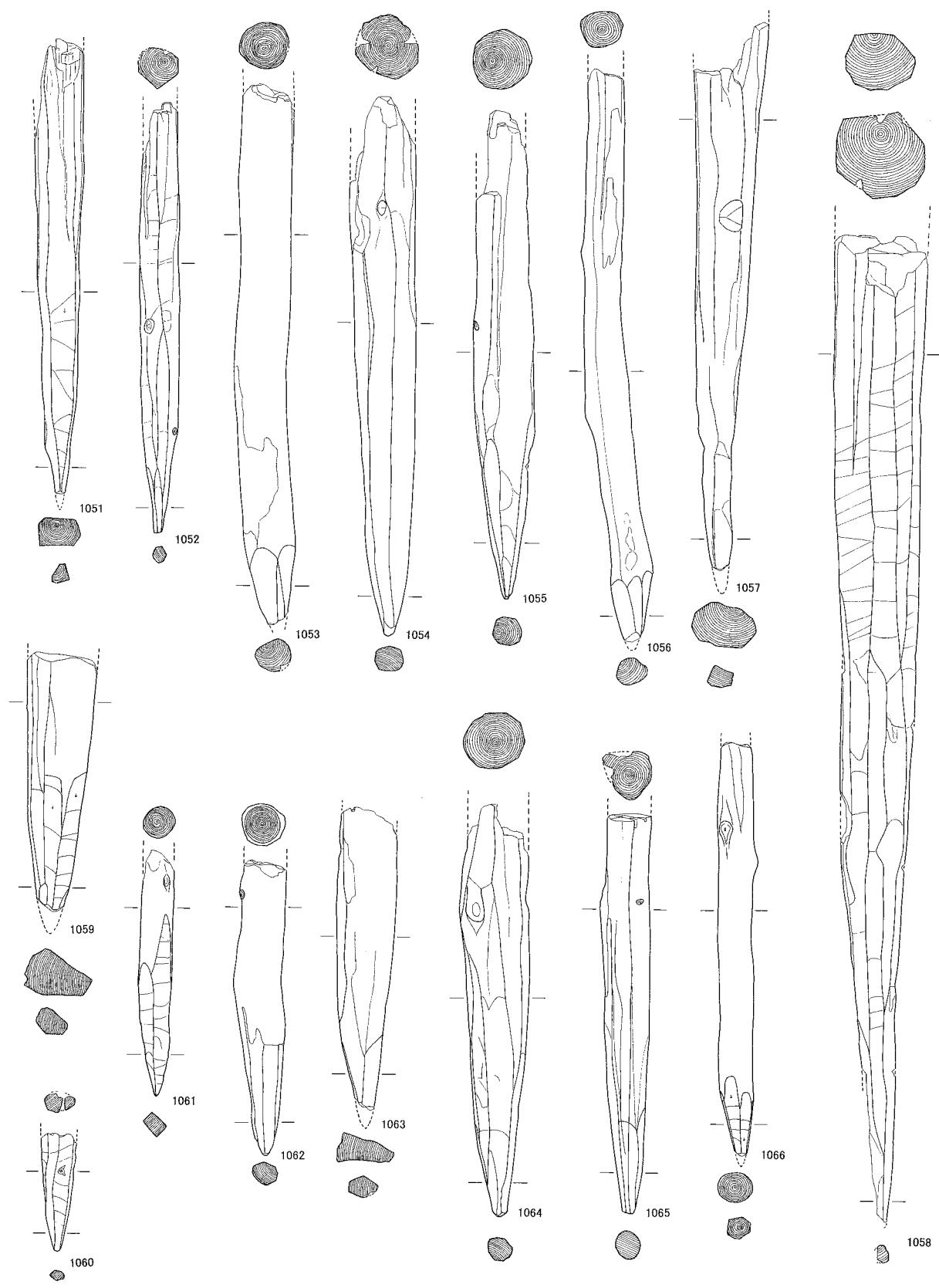
第84図 C・D地区出土遺物（石製品）実測図 C地区SD1236（1018・1020・1023・1025～1030）；SD1244（1019）
；表土（1022）、D地区下層表採（1017）；SD1261（1021）；SD1295（1024）
；包含層（1031） 1017～1019（2：3）、他は（1：3）



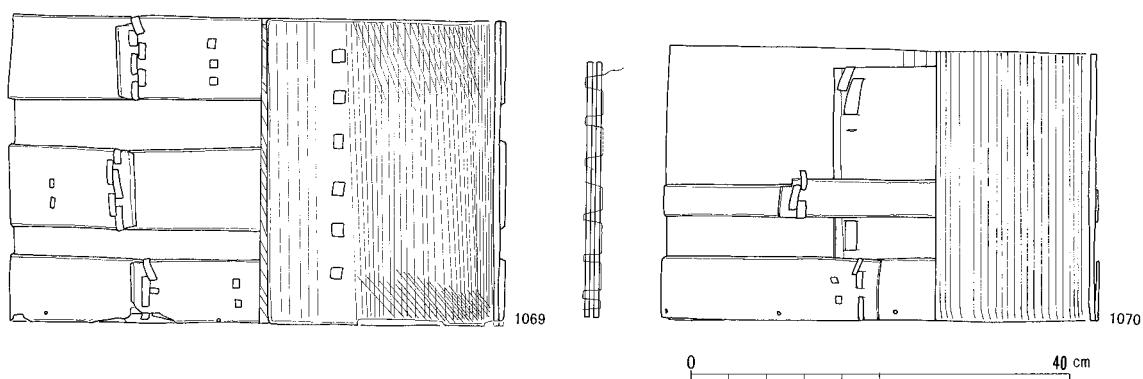
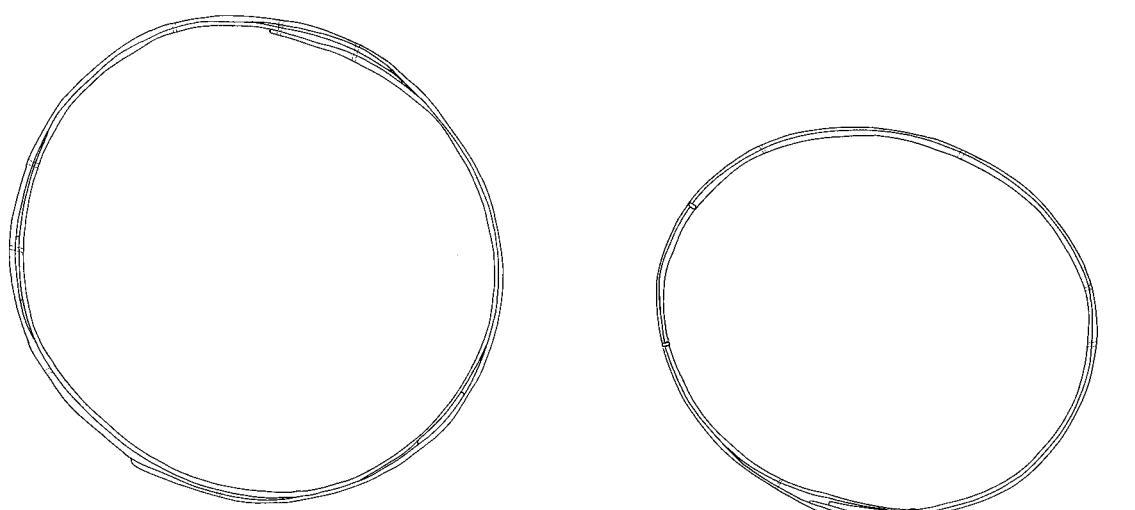
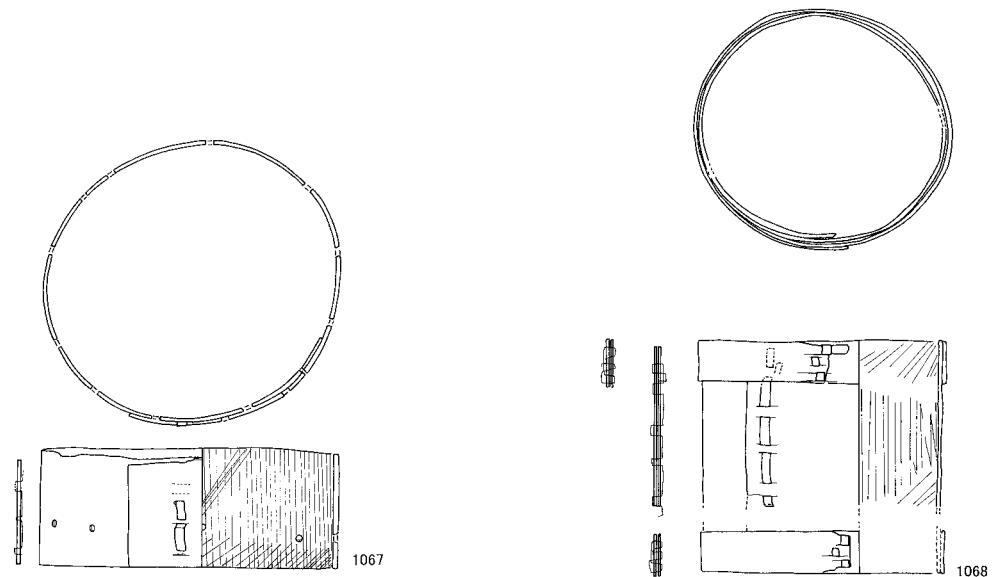
第85図 B地区出土遺物（木製品）実測図 SE1202 (1032~1036) ; SD1112 (1037~1040・1042・1043) ; SK1195 (1041) ; SK1212 (1044) ; 第Ⅲ層 (1045) 1042~1044 (1:6)、他は (1:4)



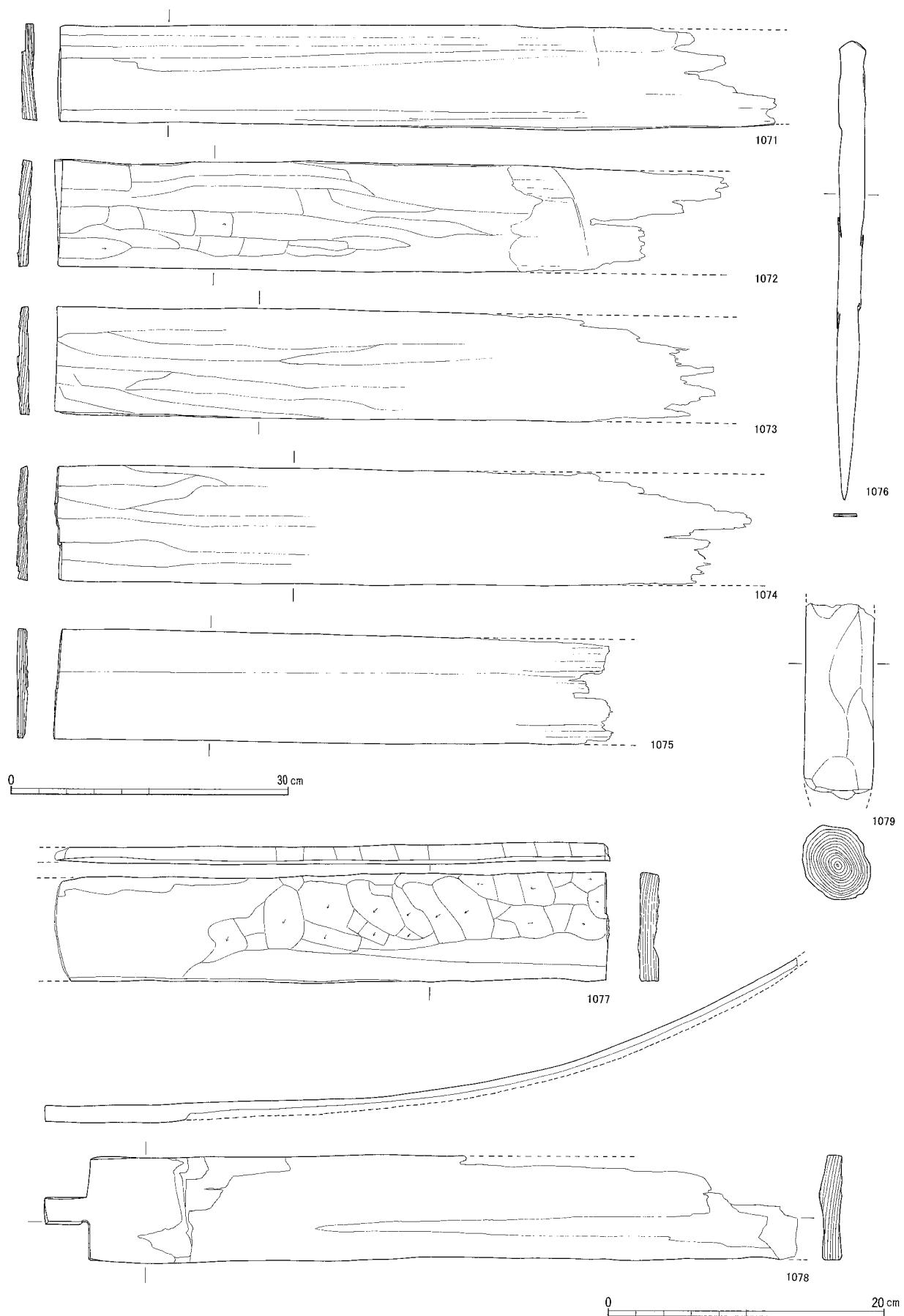
第86図 B・C地区出土遺物(木製品)実測図 B地区包含層(1046); SD1109(1047); C地区SD1248(1048); SD1236(1049); SK1246(1050) 1046・1047(1:6)、他は(1:4)



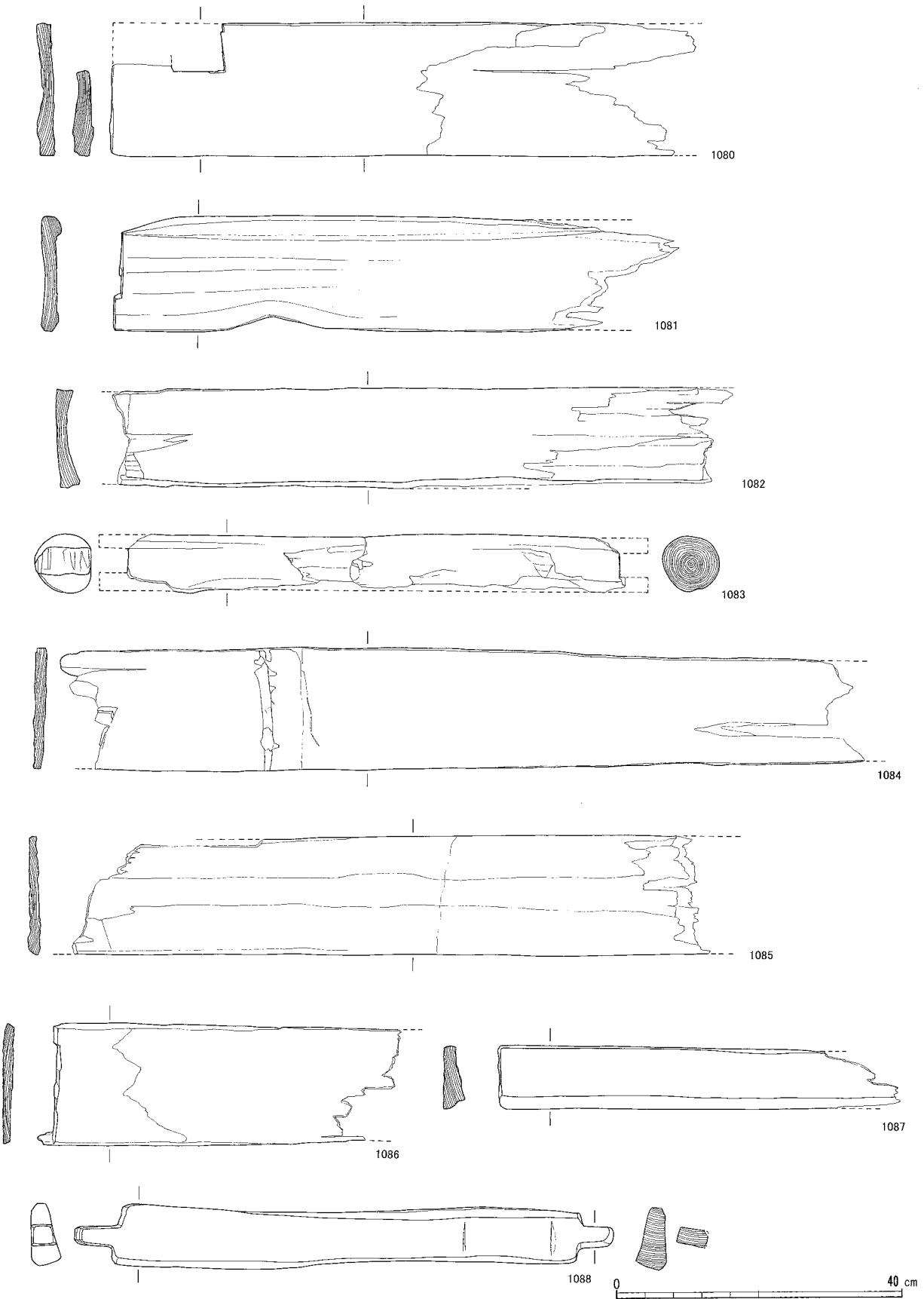
第87図 C地区出土遺物（木製品）実測図 SD1244 (1051~1066) (1 : 6)



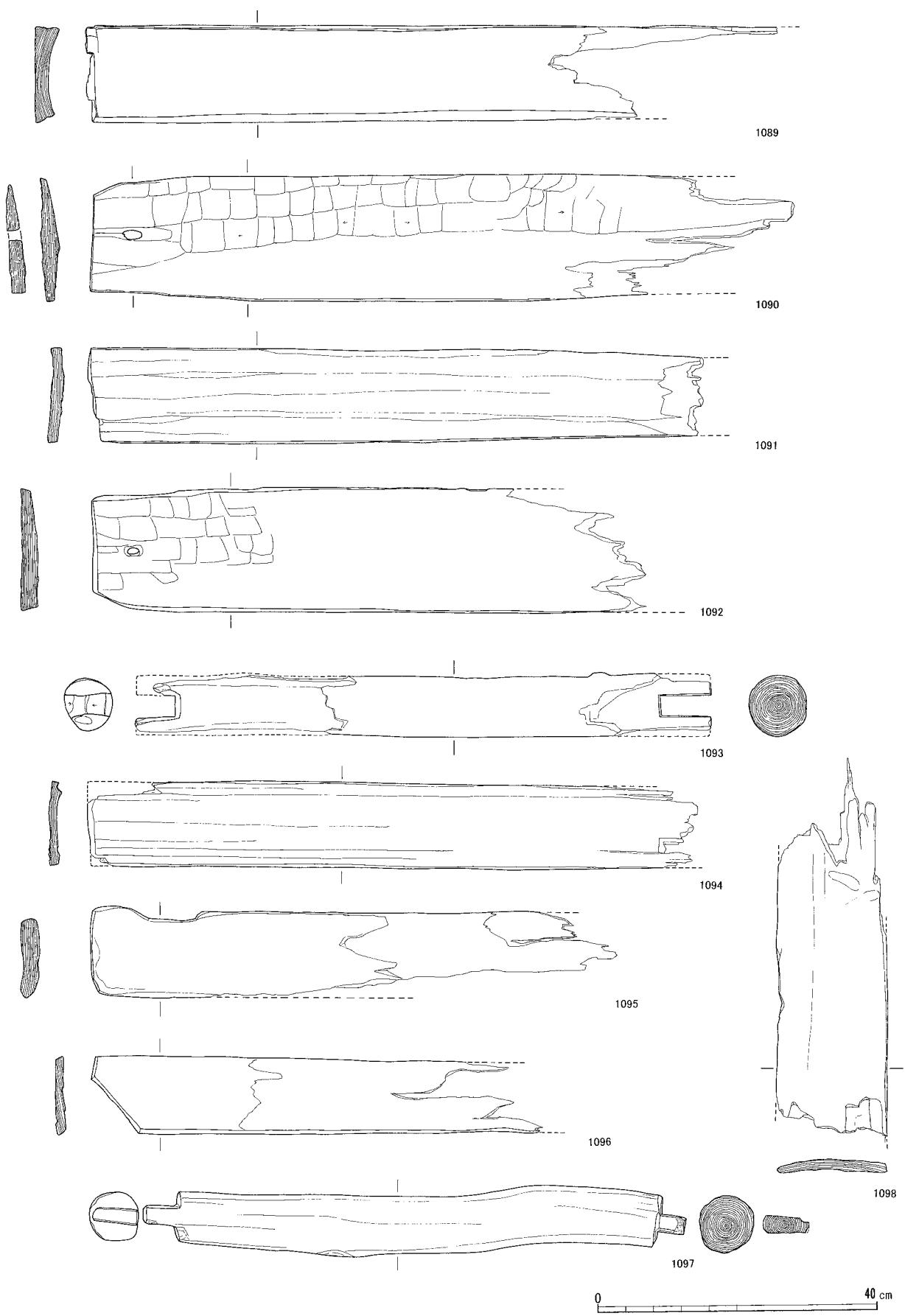
第88図 D地区出土遺物（木製品）実測図 SE1279（1067）；SE1128（1068）；SE1262（1069・1070）（1：8）



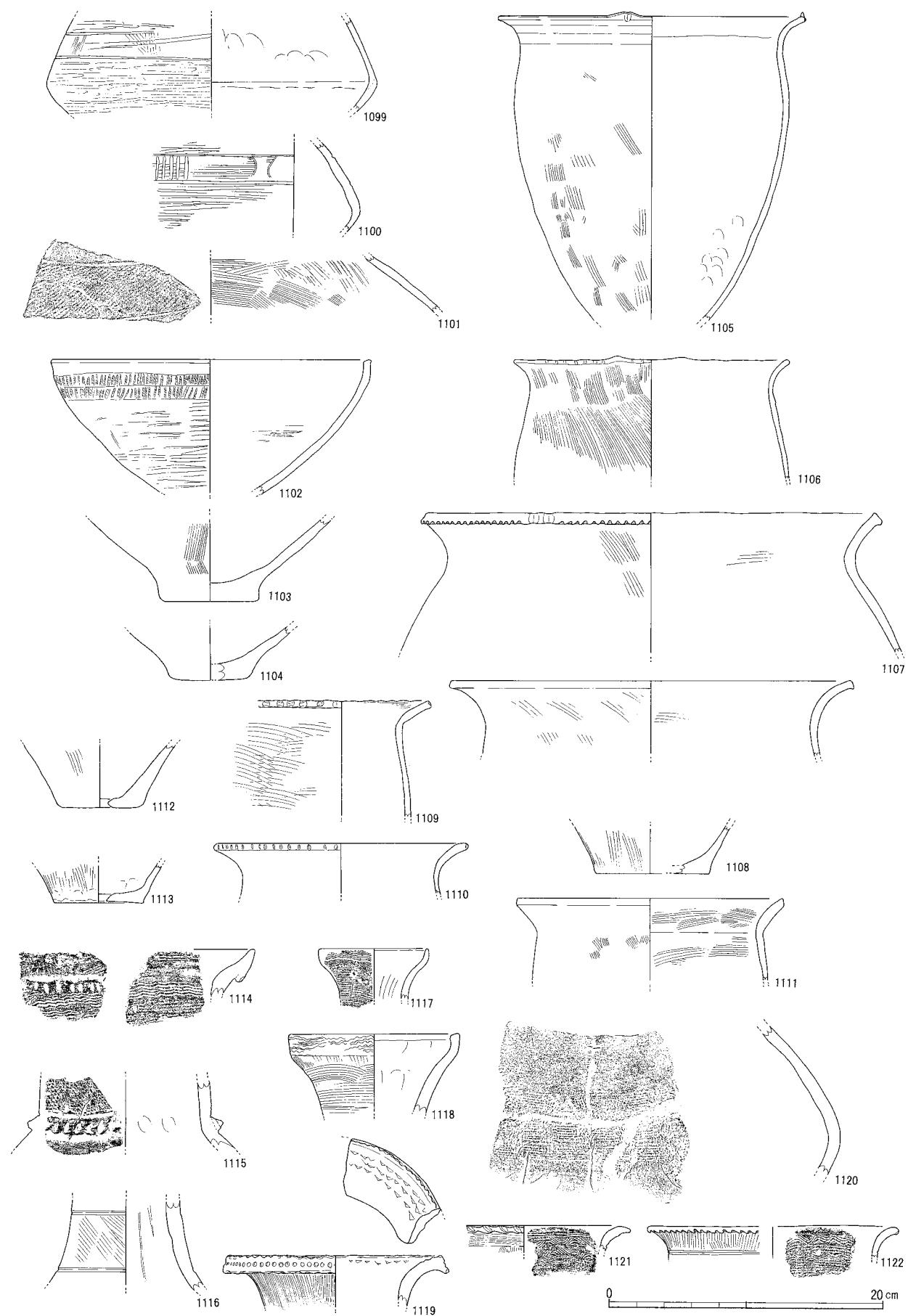
第89図 D地区出土遺物（木製品）実測図 SE1262（1071～1076）；SE1253（1077～1079） 1071～1075（1:6）、他は（1:4）



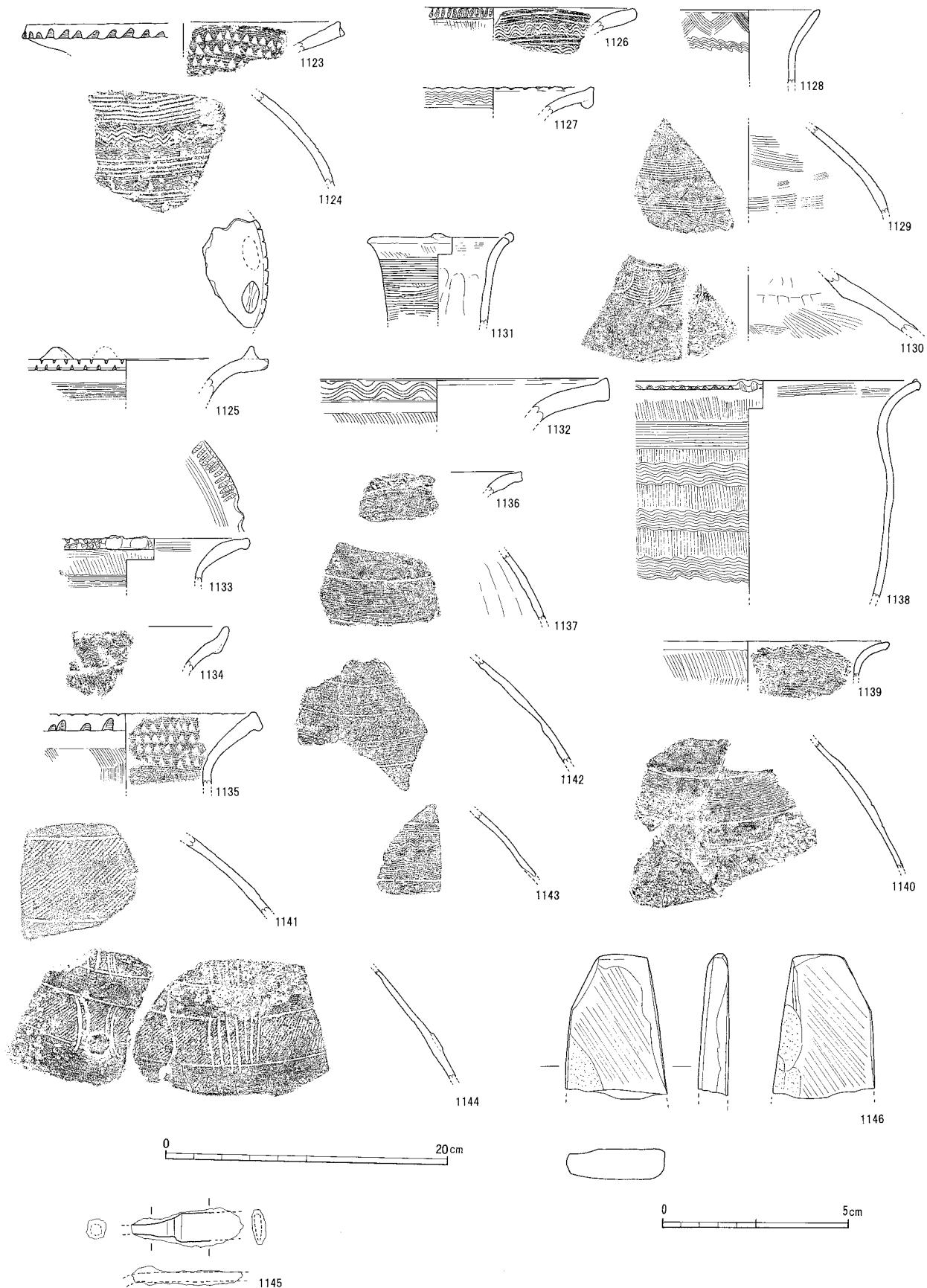
第90図 D地区出土遺物（木製品）実測図 SE1301 (1080~1088) (1:8)



第91図 D地区出土遺物（木製品）実測図 SE1301 (1089~1098) (1 : 8)



第92図 B地区出土遺物実測図22 SK1210 (1099~1113)、SH1196 (1114~1122) (1:4)



第93図 B地区出土遺物実測図23 SK1136 (1123・1124) ; SK1149 (1125・1127) ; SK1190 (1126) ; SK1213 (1128)
 ; SK1124 (1129・1130) ; SK1212 (1131) ; SK1211 (1132) ; SK1117 (1133)
 ; SH1186 (1134) ; Ⅲ層 (1135・1143・1144・1146) ; SK1223 (1136・1137)
 ; SK1123 (1138) ; SK1222 (1139・1140) ; SK1127 (1141) ; SK1211 (1242)
 ; SE1150 (1145) 1146 (2:3)、他は (1:4)

IV 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

替田遺跡では、遺体が埋納されたと考えられる土坑や炭化した住居構築材を伴う焼失家屋などの弥生時代の遺構が検出されている。また、古墳時代の遺構面より下位で検出された旧河道では、流木などの植物遺体が検出されている。

今回の分析調査では、以下に示す課題を設定し、自然科学分析を実施する。

I. 調査課題および分析項目

1. 年代の確認

SH1186および旧河道の年代を明らかにするために、SH1186から出土した炭化材3点、旧河道外に堆積したシルトと、旧河道内の泥炭、木材を対象として、放射性炭素年代測定を実施する。

2. 堆積環境の推定

旧河道の堆積環境を検討するため、珪藻分析を実施する。

3. 古植生の推定

泥炭などが堆積した時期の古植生を推定するため、土壤試料の花粉分析及び木材遺体の樹種同定を行う。

4. 炭化材の樹種

SH1186から出土した炭化材について樹種同定を行い、住居構築材の用材に関する資料を得る。

5. 土坑の内容物の検証

土坑に遺体が埋納された可能性について検証するために、各土坑の覆土を対象として土壤理化学分析を行う。分析項目は、遺体成分として多量に含有されるリン酸、カルシウム（骨の主成分）および腐植（有機物）の指標成分である有機炭素を選択した。

II. 年代の確認

1. 試料

試料は、SH1186から出土した炭化材3点（SH1186No.1,2,5）、B区で採取された土壤試料2点（腐植質シルト、泥炭）、B区旧河道内から採取された木材1点の合計6点である。

2. 方法

（1）前処理

試料は、生木・木炭・泥炭の3種類に分けられる。木炭は、乾燥、粉碎したものを水に入れて、浮上してきたものを除去した。次に水酸化ナトリウム溶液で煮沸した。室温まで冷却した後、水酸化ナトリウム溶液を傾斜法で除去した。除去した水酸化ナトリウム溶液の色が薄い褐色になるまで、この作業を繰返した。次に濃硝酸を加えて煮沸した。室温まで冷却した後、傾斜法により除去した。充分水で洗浄した後、乾燥して蒸し焼き（無酸素状態で400°Cに加熱）にした。蒸し焼きにした資料は、純酸素中で燃焼して二酸化炭素を発生させた。発生した二酸化炭素は捕集後、純粋な炭酸カルシウムとして回収した。

生木は、水でよく洗浄して表面の異物を取り除いた。乾燥、粉碎後水酸化ナトリウム溶液で煮沸した。室温まで冷却した後、水酸化ナトリウム溶液を傾斜法で除去した。除去した水酸化ナトリウム溶液の色が薄い褐色になるまで、この作業を繰返した。次に塩酸を加えて煮沸した。室温まで冷却した後、傾斜法により除去した。充分水で洗浄した後、乾燥して蒸し焼き（無酸素状態で400°Cに加熱）にした。蒸し焼きにした試料は、純酸素中で燃焼して二酸化炭素を発生させた。発生した二酸化炭素は捕集後、純粋な炭酸カルシウムとして回収した。

泥炭は、根などをピンセットで取り除いた。乾燥後、水に入れて、浮上してきたものを除去した。次に塩酸溶液で煮沸した。室温まで冷却した後、塩酸溶液を傾斜法で除去した。水で塩酸を充分洗浄した後、乾燥、粉碎して蒸し焼き（無酸素状態で400°Cに加熱）にした。蒸し焼きにした試料は、純酸素中で燃焼し発生した二酸化炭素を捕集して純粋な炭酸カルシウムとして回収した。

（2）測定試料の調製

前処理で得られた炭酸カルシウムから、真空状態で二酸化炭素、アセチレン、ベンゼンの順に合成した。最終的に得られた合成ベンゼン3ml（足りない場合は、市販の特級ベンゼンを足して3mlとした）

表1 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	年代値	誤差		Lab No.
			+	-	
B地区 深掘り腐植質シルト	土壤	4460 (2510 B.C.)	250	240	PAL-117
B地区 泥炭（下層旧河道間）	土壤	2340 (390 B.C.)	230	220	PAL-118
B地区 木片（下層旧河道間）	生木	2740 (790 B.C.)	230	230	PAL-119
SH1186 No.1	木炭	1920 (A.D. 30)	330	320	PAL-120
SH1186 No.2	木炭	1820 (A.D. 130)	760	700	PAL-121
SH1186 No.5	木炭	2110 (160 B.C.)	510	480	PAL-122

注. (1) 年代値 : 1,950年を基点とした値。

(2) 誤差 : 測定誤差 2σ を年代値に換算した値。

にシンチレイターを含むベンゼン 2 mlを加えたものを測定試料とした。

(3) 測定

測定は、一回の測定時間50分間を20回繰返し、計1,000分間行った。未知試料の他に、値が知られているスタンダード試料と自然計数を測定するブランク試料と一緒に測定した。

(4) 計算

放射性炭素の半減期として、LIBBYの半減期5,570年を使用した。

3. 結果

測定結果を表1に示す。旧河道から採取した試料は、ほぼ同一層準から採取された泥炭と木片が誤差範囲で年代値が一致する。一方、深掘り腐植質シルトでは、泥炭と木片よりも約2000年古い年代値が得られた。

SH1186から採取された3点の炭化材は、最大で290年の差があるものの、誤差範囲で全ての試料が一致する。

4. 考察

B地区旧河道から採取された試料は、泥炭が2340y.B.P.、木片が2740y.B.P.、深掘り腐植質シルトが4460y.B.P.であった。各時代時期の年代については、これまで行われてきた年代測定結果から推定されている（日本第四紀学会ほか, 1993）。それにしたがえば、旧河道の試料は縄文時代晚期～弥生時代前期に相当する。泥炭と木片はほぼ同じ場所から採取されており、年代値も誤差範囲で一致している。一方、深掘り腐植質シルトは、泥炭・木片とはやや

年代値が離れている。2点の土壤試料では、後述するように堆積環境も異なる。これらの点から、深掘り腐植質シルトが縄文時代中期頃に堆積し、その後河道が形成され、縄文時代晚期～弥生時代前期に泥炭が堆積したと推定される。一方、SH1186の各試料の年代測定結果は、弥生時代前期～中期に相当する。3点の試料間では最大290年の差があるが、その背景には樹齢等が考えられる。

III. 堆積環境の推定

1. 試料

試料は、年代測定試料と同一の、B地区深堀り腐植質シルトおよび泥炭の2点である。

2. 方法

試料を湿重で7 g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍を行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に、200個体以上同定・計数する。種の同定はK.Krammer and Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991b)、K.Krammer (1992)などを用いる。

同定結果は、海水生種、海水～汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指

表2 珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種	鹽分	pH	流水	泥炭
	鹽分	pH	流水					
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-hil	al-bi	1-ph	T	7	19		
Achnanthes inflata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	1		
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	1	-		
Achnanthes tropica Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1		
Amphora normanii Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	18	1		
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.)V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	10	10		
Aulacoseira granulata (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M, U	17	12		
Coccconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	9		
Coccconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	8		
Coccconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	3		
Craticula cuspidata (Kuetz.)D.G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	1		
Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O, T	3	2		
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	1		
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, T	-	1		
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	19		
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	-	6		
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	3		
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	2	1		
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	1-ph	RI	6	-		
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	10	-		
Eunotia arcus Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	1-ph	-	-	1		
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	1-ph	RB, O, T	-	1		
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	1-ph	RB, O	2	-		
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	-	2		
Frustulia rhomboides (Ehr.)De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P	-	1		
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	-		
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	1	6		
Gomphonema clevei var. inaequilongum H. Kobayashi	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	1		
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	-	2		
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	U	-	-	1		
Gomphonema quadripunctatum (Oestrup.)Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K, T	-	1		
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	15	1		
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V. Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	1	-		
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	8	-		
Navicula saxophila Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-		
Navicula tokyoensis H. Kobayashi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	1	-		
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	RB, U	3	-		
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	1	-		
Pinnularia streptoraphe Cleve	Ogh-hob	ac-il	1-ph	-	-	1		
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	1-ph	-	-	1		
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	1	2		
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	5	4		
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K, T	1	5		
Stauroneis acuta W. Smith	Ogh-ind	al-il	1-ph	-	-	1		
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-		
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	4		
Stauroneis phoenicenteron var. hattori Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1		
Synedra inaequalis H. Kobayashi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J, K, T	-	1		
Synedra ulna (Kuetz.)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	11		
Synedra spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	1	-		
Stephanodiscus spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	4	4		
Tabellaria fenestrata (Lyngb.)Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O, T	-	1		
海水生種合計					0	0		
海水-汽水生種合計					0	0		
汽水生種合計					0	0		
淡水生種合計					126	149		
珪藻化石総数					126	149		

凡例

H. R. : 塩分濃度に対する適応性

pH:水素イオン濃度に対する適応性

C. R. : 流水に対する適応性

Ogh-hil:貧塩好塩性種

al-bi:真アルカリ性種

l-bi:真正水性種

Ogh-ind:貧塩不定性種

al-il:好アルカリ性種

1-ph:好止水性種

Ogh-hob:貧塩嫌塩性種

ind:pH不定性種

ind:流水不定性種

Ogh-unk:貧塩不明種

ac-il:好酸性種

r-ph:好流水性種

unk:pH不明種

r-bi:真流水性種

unk:流水不明種

環境指標種

J:上流性河川指標種 K:中～下流性河川指標種 M:湖沼浮遊性種 O:沼澤湿地付着生種

P:高層湿原指標種 (以上は安藤, 1990)

S:好汚濁性種 U:広適応性種 T:好清水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)

RI:陸生珪藻 (RA:A群, RB:B群、伊藤・堀内, 1991)

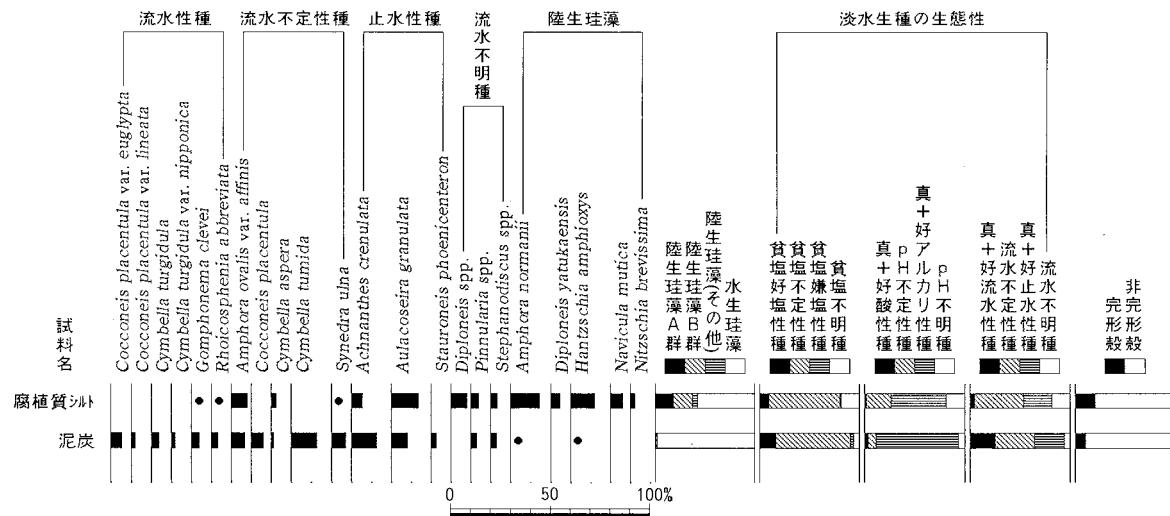


図 1 主要珪藻化石群集
海水～汽水～淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。
なお、●は1%未満の試料について検出した種類を示す。

標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2%以上の主要な種類について、主要珪藻化石の層位分布図を作成する。また、産出した化石が現地性の化石か他の場所から運搬・堆積した異地性の化石かを判断する目安として完形殻の出現率を求め考察の際に考慮した。堆積環境の解析にあたっては、海～汽水生種については小杉（1988）、水生珪藻については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai, K.& Watanabe, T. (1995)の環境指標種を参考とする。

3. 結果

結果を表2・図1に示す。2試料とも100個体以上の珪藻化石を産出した。しかし、完形殻の出現率は10~20%と非常に低い。産出種の全ては淡水生種から構成され、産出分類群数は21属52種類である。以下に産出種の特徴を述べる。

腐植質シルトは、池沼や河などの一般水域に生育する水生珪藻と陸上の多少の湿り気を保持した好気的環境に生育する陸生珪藻とが混在する組成である。水生珪藻では、流水不定性の *Amphora ovalis* var. *affinis*、好止水性の *Achnanthes crenulata*、真止水性の *Aulacoseira granulata* が多産する。陸生珪藻では水域にも認められるB群の *Amphora normanii*、耐乾性の強いA群の *Hantzschia amphioxys* が多産

し、A群の *Navicula mutica*、未区分陸生珪藻の *Diploneis yatukaensis*等を伴う。

泥炭では大部分が水生珪藻から構成され、その生態性の特徴は、塩類に対しては貧塩不定性種、水素イオン濃度に対しては真・好アルカリ性種が優占する。流水に対しては、真+好流水性種、流水不定性種、真+好止水性種がほぼ同率で産出する。

4. 考察

珪藻分析の結果、いずれの試料も複数の環境指標種が混在し、優占種が認められない。このような組成は、いわゆる混合群集と呼ばれるものである。しかし、2試料を比較すると、産出している種類および生態性に違いが認められ、堆積環境に違いがあったことが推定される。

腐植質シルトでは、陸生珪藻が優占し、流水不定性種や止水性種を伴う。このような群集組成は、堀内ほか（1996）でパターン2に定義された群集に対応する。パターン2の群集は、洪水後の乾いた表層や、ある程度の期間地表として露出した時期があることを示すと考えられている。このことは、本試料の花粉分析結果で、ほとんど花粉化石が認められなかったこととも調和的である。粒径がシルト質であることは、氾濫源からやや離れた場所であることを示すと考えられる。

一方、泥炭では、流水性種～止水性種まで様々な

水域環境を指標する珪藻化石がほぼ同率で混在することを特徴とする。本層は、花粉化石が多産する事からも、一過性の堆積物ではなく、ある程度の時間をかけて堆積したことが推定される。高層湿原などの泥炭層の珪藻分析では、種類数が少ないが、流れ込みの影響が大きい場合には混合群集が認められることがある（田中ほか, 1996）。本遺跡の地形環境、化石の保存状況等を考慮すると、泥炭層の珪藻化石群集は流水の影響を強く受けていることが推定される。河川中流域の流水中の珪藻分析では、1リットルあたり遺骸が103～104個に対し、生体が10～30個との報告例もある（堀内ほか, 1996）。本遺跡でもこうした流水によって上流域の様々な環境に生育していた珪藻の遺骸が堆積したことが推定される。

IV. 古植生の推定

1. 試料

(1) 花粉分析

花粉分析試料は、年代測定試料と同一のB区腐植シルトと泥炭層の2点である。

(2) 樹種同定

試料は、年代測定試料と同一のB区旧河道内から出土した木材1点である。

2. 方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は、各種類毎の一覧表として示す。また、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総花粉・胞子数から不明花粉を除いたものをそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(2) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉

末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

(1) 花粉分析

結果を表3図2に示す。「腐植質シルト」の方は化石の保存が悪く、種類数・個体数共に少なかったが、「泥炭層」の方は比較的多く検出された。「泥炭層」の花粉化石組成は、木本花粉の割合が高く、コナラ属アカガシ亜属、モミ属、マツ属などが検出される。

(2) 樹種同定

木材はムクノキに同定された。解剖学的特徴を以下に記す。

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon)
ニレ科ムクノキ属

散孔材で横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性II型、1～5細

表3 花粉分析結果

種類	試料名	腐植質シルト	泥炭
木本花粉			
マキ属	-	8	
モミ属	-	71	
ツガ属	-	3	
マツ属	3	26	
スギ属	-	7	
ヤマモモ属	-	1	
クルミ属	-	2	
クマシデ属ーアサダ属	-	2	
ハシバミ属	-	1	
コナラ属コナラ亜属	-	6	
コナラ属アカガシ亜属	1	133	
シイノキ属	-	7	
ニレ属ーヶヤキ属	-	7	
エノキ属ムクノキ属	-	3	
キハダ属	-	6	
アカメガシワ属	-	1	
ツタ属	-	1	
ツバキ属	-	1	
スイカズラ属	1	-	
草本花粉			
イネ科	1	5	
マメ科	-	1	
ヨモギ属	-	1	
不明花粉	1	2	
シダ類胞子			
シダ類胞子	143	112	
合計			
木本花粉	5	286	
草本花粉	1	7	
不明花粉	1	2	
シダ類胞子	143	112	
総計(不明を除く)	149	405	

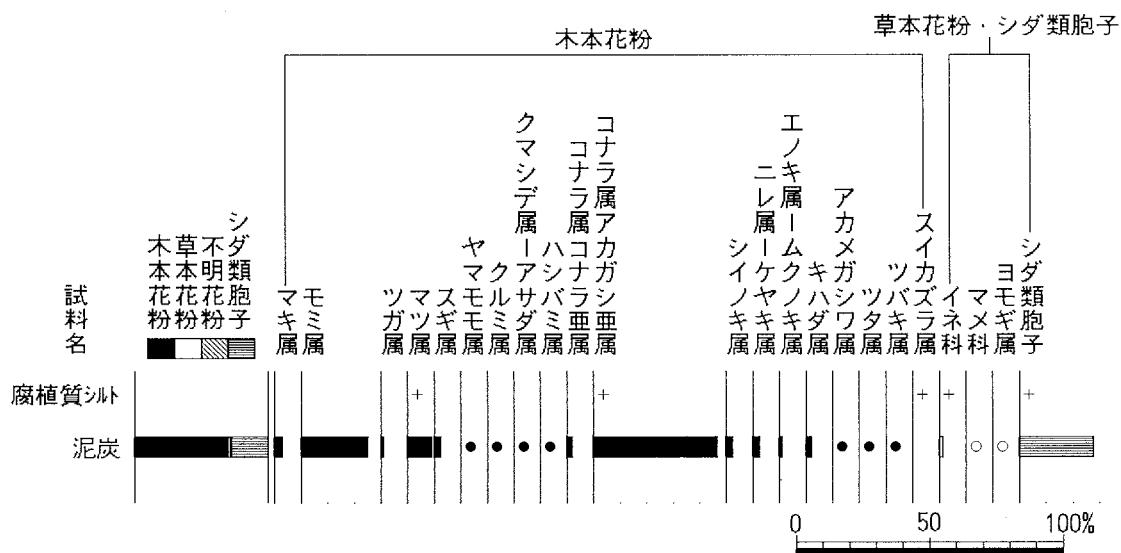


図 2 B 地区の花粉化石群集

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の種類を示す。

胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状およびターミナル状。

4. 考察

花粉分析の結果では、コナラ属アカガシ亜属が多い。宮脇（1985）等を参考にすると、本地域の植生帶は暖温帶に属するが、アカガシ亜属は暖温帶常緑広葉樹林の主要な構成要素であることから、当時周辺の森林の中で多くみられたと推定される。また、花粉化石群集中にみられるマキ属、ヤマモモ属（おそらくヤマモモであろう）やシイノキ属、ツバキ属、アカメガシワ属や、自然木にみられたムクノキも暖温帶林に特徴的にみられる分類群であることから、当時周辺に生育していたものと考えられる。また、花粉化石で比較的多いモミ属の中には多くの種類があるが、その中でもモミは暖温帶～温帶に生育する種類である。花粉化石で検出されたモミ属は、おそらくモミに由来するものであり、温帶針葉樹林を構成していたものと考えられる。宮脇（1985）等をもとに遺跡周辺の現存植生ならびに潜在自然植生図をみると、沿岸部にはシイ・カシ類などの暖温帶林が、山間部にはモミ・ツガなどの温帶針葉樹林が成立していたとされる。これは、今回の花粉分析の結果とも調和的である。このことから、当時の森林植生は、現在の周辺植生の中でも特に自然度の高い森林景観

と近似するものであったと考えられる。

V. 炭化材の樹種

1. 試料

試料は、焼失家屋（SH1186）から出土した、住居構築材と考えられる炭化材26点（SH1186 No.1, 2, 4～14, 16～20, 23～26, 28～31）である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表4に記した。

2. 方法

試料の3断面（木口・柾目・板目）について割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表4に示す。保存状態が悪いために樹種の同定に至らない炭化材が多かった。これらの炭化材については、観察できた範囲での結果を記した。その他の炭化材は、広葉樹3種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・スダジイ）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で孔圈部は1~2列、孔圈外で急激に管径

表4 炭化材の樹種同定結果

遺構名	番号	用途	樹種
SH1186(焼失家屋)	1	住居構築材	コナラ属アカガシ亜属
	2	住居構築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	4	住居構築材(垂木)	広葉樹
	5	住居構築材(垂木)	コナラ属アカガシ亜属
	6	住居構築材(垂木)	スダジイ
	7	住居構築材(垂木)	コナラ属アカガシ亜属
	8	住居構築材	コナラ属アカガシ亜属
	9	住居構築材	スダジイ
	10	住居構築材(垂木)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	11	住居構築材(垂木)	スダジイ
	12	住居構築材(垂木)	コナラ属アカガシ亜属
	13	住居構築材	コナラ属アカガシ亜属
	14	住居構築材(垂木)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	16	住居構築材	広葉樹
	17	住居構築材	コナラ属アカガシ亜属
	18	住居構築材(垂木)	スダジイ
	19	住居構築材(垂木)	広葉樹
	20	住居構築材(垂木)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	23	住居構築材(垂木)	広葉樹
	24	住居構築材(垂木)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	25	住居構築材	広葉樹
	26	住居構築材(垂木)	コナラ属アカガシ亜属
	28	住居構築材(垂木)	広葉樹
	29	住居構築材(垂木)	コナラ属アカガシ亜属
	30	住居構築材(垂木)	広葉樹
	31	住居構築材(垂木)	広葉樹

を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

- ・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科 放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は短接線状および散在状。

- ・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイノキ属

環孔材～放射孔材で孔圈部は3～4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

4. 考察

住居構築材と考えられる炭化材には、3種類の広

葉樹材が確認された。いずれもブナ科に属し、堅く強度が高い材質を有する。このことから、住居構築材には強度の高い木材が選択されていたことが推定される。

住居構築材については、関東地方の調査例から、遺跡周辺の植生を反映することが指摘されている（高橋・植木, 1994）。本遺跡で行われた花粉分析結果を見ると、アカガシ亜属を中心とした植生が推定されており、樹種同定結果も調和的である。このことから、遺跡周辺に生育していた中から適材を選択していたことが推定される。

VI. 土坑の内容物の検証

1. 試料

試料は、4基の土坑 (SK1189, 1194, 1209, 1211) の覆土から採取された土壤試料合計100点である。

2. 方法

リン酸は硝酸・過塩素酸分解一バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは過塩素酸分解-原子吸光光

度法、腐植はチューリン法でそれを行った（土壤養分測定法委員会、1981）。以下に各項目の方法を示す。

(1) リン酸、カルシウム

試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105°C、5時間）により測定する。風乾細土試料2.00 gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO₃）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO₄）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P₂O₅）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン含量（P₂O₅mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

(2) 有機炭素量

風乾細土試料の水分を加熱減量法（105°C、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉碎し、0.5mmφのふるいを全通させる（微粉碎試料）。

微粉碎試料0.100～0.500 gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200°Cの砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて、腐植含量（%）を算出する。

3. 結果

分析結果を表5に示す。以下、各遺構別に結果を記す。

(1) SK1189

リン酸含量は同一層位においても大きく変動している。層位間における明瞭な差異は認められないが、わずかに第2層の灰茶褐色粘質土層において高い傾向が認められる。カルシウム含量は6.0～7.0mg/gと大きな変動は認められないが、第1層のNo.5、第2層のNo.15において高い傾向が認められる。腐植含量は

全試料ともに1.0～2.0%の範囲である。

(2) SK1194

リン酸含量は、SK1189と同様に同一層位においても大きく変動しており、層位間における明瞭な差異は認められないが、わずかに第2層の茶褐色粘質土層において高い傾向が認められる。カルシウム含量は、4.5～7.4mg/gと変動がある。腐植含量は全試料ともに1.0～2.0%の範囲内である。

(3) SK1209

リン酸含量は、他の遺構と比較すると全体的に低い。同一層位における変動が大きく、層位間における明瞭な差異は認められないが、第4層の灰黒色粘質土と比べ、上位層でわずかに高い傾向が認められる。カルシウム含量は、4.5～7.1mg/gと変動がある。腐植含量は、全試料ともに0.8～2.2%の範囲内にある。

(4) SK1211

リン酸含量は同一層位においても大きく変動しているが、第1層、第2層、特に第2層において高い傾向が認められる。一方、カルシウム含量は、逆に第3層、第4層、第5層において比較的高い値となっている。腐植含量は、カルシウムと同様に第3層、第4層、第5層において高い傾向が認められる。

4. 考察

土壤中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen, 1983; Bolt・Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P₂O₅mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P₂O₅mg/g（川崎ほか, 1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壤では6.0P₂O₅mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1～50CaOmg/g（藤貫, 1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい。

今回の結果をみると、いずれの遺構でもリン酸含量が天然賦存量を上回っている試料がみられ、最も高いのはSK1211の試料番号35（12.80mg/g）である。各遺構別に見ると、SK1189およびSK1194では層位間

表5 土壤理化分析結果（1）

遺構名	試料番号	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO (mg/g)	腐植含量 (%)	土色	土性
SK1189	2	4.10	6.90	1.40	10YR4/2灰黄褐	HC
	3	4.60	6.20	1.30	10YR4/2灰黄褐	HC
	4	4.20	6.40	1.20	10YR4/3にぶい黄褐	HC
	5	3.50	8.10	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	6	4.00	6.90	1.40	10YR4/1褐色	HC
	7	4.80	6.80	1.30	10YR4/2灰黄褐	HC
	8	4.20	6.80	1.50	10YR4/2灰黄褐	HC
	12	4.70	6.80	1.60	10YR4/1褐色	HC
	13	6.10	6.20	1.40	10YR4/1褐色	HC
	14	5.30	6.30	1.30	10YR4/1褐色	HC
	15	4.50	9.30	1.60	10YR4/1褐色	HC
	16	5.10	6.20	1.30	10YR4/2灰黄褐	HC
	17	4.60	6.40	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	18	3.40	6.30	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	21	5.20	6.30	1.40	10YR4/1褐色	HC
	22	4.40	5.90	1.30	10YR4/1褐色	HC
	23	2.30	6.30	1.20	10YR4/1褐色	HC
	24	3.40	6.40	1.40	10YR4/2灰黄褐	HC
	25	3.20	6.00	1.30	10YR4/2灰黄褐	HC
	27	3.50	5.90	1.30	10YR4/2灰黄褐	HC
	28	3.30	6.20	1.80	10YR4/2灰黄褐	HC
	29	3.30	5.90	1.10	10YR4/2灰黄褐	HC
	30	4.00	6.40	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	32	5.00	6.50	1.30	10YR4/1褐色	HC
	33	4.50	7.10	1.40	10YR4/1褐色	HC
SK1194	1	4.20	7.40	1.10	10YR4/2灰黄褐	HC
	2	3.50	4.50	1.10	10YR4/2灰黄褐	HC
	3	4.10	5.90	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	6	4.60	5.50	1.40	10YR4/2灰黄褐	HC
	7	8.30	5.70	1.60	10YR4/2灰黄褐	LIC
	8	5.40	5.70	1.60	10YR4/2灰黄褐	HC
	9	3.50	5.80	1.40	10YR4/2灰黄褐	HC
	10	6.10	5.50	1.30	10YR4/2灰黄褐	HC
	11	4.60	5.90	1.50	10YR4/2灰黄褐	HC
	12	3.10	6.00	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	14	2.20	6.20	1.50	10YR4/1褐色	HC
	15	2.30	5.70	1.60	10YR4/1褐色	HC
	16	1.90	5.30	1.00	10YR4/2灰黄褐	HC
	17	4.90	5.90	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	18	3.20	6.30	1.50	10YR4/2灰黄褐	HC
	19	3.70	5.70	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC
	21	2.30	6.00	1.30	10YR4/1褐色	HC
SK1209	1	2.60	4.90	1.10	10YR4/2灰黄褐	HC
	2	3.40	4.70	1.00	10YR4/2灰黄褐	HC
	3	4.40	4.70	0.80	10YR4/3にぶい黄褐	HC
	4	2.40	5.30	1.10	10YR4/2灰黄褐	HC
	5	4.70	5.00	0.90	10YR4/3にぶい黄褐	HC
	6	1.60	5.00	1.00	10YR4/2灰黄褐	HC
	8	2.20	5.40	1.20	10YR4/2灰黄褐	HC

表5 土壤理化分析結果（2）

遺構名	試料番号	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO (mg/g)	腐植含量 (%)	土色	土性
SK1209	9	1.50	5.20	1.20	10YR4/2灰黃褐	HC
	10	1.50	5.10	1.50	2.5Y4/2暗灰黃	LIC
	11	2.10	4.50	1.50	10YR4/2灰黃褐	HC
	12	1.80	5.10	1.20	10YR4/2灰黃褐	HC
	13	2.60	5.70	1.80	10YR4/2灰黃褐	HC
	14	2.10	5.40	1.20	10YR4/2灰黃褐	HC
	15	1.50	5.80	1.10	10YR4/2灰黃褐	HC
	16	1.90	5.60	1.80	10YR4/3にぶい黃褐	HC
	18	1.00	5.70	1.90	10YR4/1褐灰	HC
	19	1.00	7.10	2.20	10YR4/1褐灰	HC
	20	1.50	6.10	1.50	5Y3/1オリーブ黒	HC
	23	2.20	5.80	1.20	10YR4/2灰黃褐	HC
	24	2.00	4.70	1.00	10YR4/3にぶい黃褐	HC
	25	2.40	4.70	1.20	10YR4/3にぶい黃褐	HC
	26	2.30	6.80	1.90	10YR4/3にぶい黃褐	HC
SK1211	2	3.00	6.00	1.50	10YR4/2灰黃褐	LIC
	3	4.10	6.40	1.20	10YR4/2灰黃褐	LIC
	4	4.40	6.60	2.70	10YR4/1褐灰	HC
	10	7.50	5.50	1.50	10YR4/2灰黃褐	HC
	11	3.60	5.70	1.60	10YR4/2灰黃褐	HC
	12	3.40	6.20	2.10	10YR3/2黒褐	HC
	13	5.90	4.50	1.10	10YR3/2黒褐	HC
	14	4.70	4.70	1.50	10YR3/2黒褐	LIC
	15	4.30	4.80	1.60	10YR4/2灰黃褐	HC
	16	2.80	5.30	1.50	10YR3/2黒褐	HC
	17	6.00	5.30	1.40	10YR3/2黒褐	HC
	18	8.60	5.60	1.30	10YR3/2黒褐	HC
	19	8.20	5.70	1.40	10YR3/2黒褐	HC
	23	2.50	5.30	1.30	2.5Y4/2暗灰黃	HC
	24	1.60	6.10	2.00	2.5Y4/1黃灰	HC
	25	2.50	7.40	2.70	2.5Y3/1黒褐	HC
	26	2.50	6.10	1.80	2.5Y4/1黃灰	HC
	28	0.70	7.10	2.60	2.5Y4/1黃灰	HC
	30	0.70	7.40	7.50	2.5Y3/1黒褐	HC
	31	0.60	7.70	4.80	2.5Y2/1黒	HC
	32	0.60	6.70	4.30	2.5Y2/1黒	HC
	33	1.60	7.20	5.20	2.5Y2/1黒	HC
	34	4.00	5.70	1.30	2.5Y3/3暗オリーブ褐	HC
	35	12.80	5.00	1.40	2.5Y3/2黒褐	HC
	37	3.80	4.80	1.20	2.5Y4/2暗灰黃	HC
	38	5.10	5.20	1.30	2.5Y4/2暗灰黃	HC
	39	2.00	6.40	2.00	2.5Y2/1黒	HC
	40	1.40	6.50	1.70	2.5Y4/2暗灰黃	HC
	42	1.60	6.00	3.50	2.5Y3/1黒褐	HC
	43	2.10	5.90	3.60	2.5Y3/2黒褐	HC
	45	1.30	6.60	6.50	2.5Y4/1黃灰	HC
	46	0.90	7.70	5.10	2.5Y4/1黃灰	HC
	47	1.50	6.30	4.10	2.5Y4/1黃灰	HC
	48	2.70	6.20	4.90	2.5Y3/1黒褐	HC

表5 土壤理化分析結果（3）

遺構名	試料番号	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO (mg/g)	腐植含量 (%)	土色	土性
SK1211	49	2.10	7.10	4.50	2.5Y2/1黒	HC
	50	1.80	6.90	3.60	2.5Y2/1黒	HC

注. (1) 土色: マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修, 1967)による。

(2) 土性: 土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編, 1984)の野外土性的判定法による。

S …砂土(ほとんど砂ばかりで、ねばり気を全く感じない。)

L …壤土(砂と粘土を半々に感じる。)

CL …埴壤土(わずかに砂を感じるが、かなりねばる。)

HC …重埴土(ほとんど砂を感じないので、よくねばる。)

の明瞭な差が認められないが、リン酸含量は全体的に高い。一方、SK1209のリン酸含量は、SK1189, SK1194と比較して全体的に低い値となっている。また、SK1211では、層位間における差異が比較的明瞭に認められる。一方、カルシウム含量は、いずれも天然賦存量の範囲内であるものの、SK1189の試料番号5および15、SK1211の第3層、第4層、第5層において比較的高い傾向がある。さらに腐植含量は、SK1211でカルシウムと同じ第3層、第4層、第5層において高い傾向がある。

これらの結果から、いずれの遺構においてもリン酸が富化しているといえる。従来の調査事例を考慮すれば、ヒトを含む動物遺体埋納による富化の可能性がある。各遺構における各成分の含量に違いが認められた背景には、遺体を埋納した場所とそうでない場所の差異や、埋納後の土壤水による成分の移動等が考えられる。

引用文献

天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信(1991)中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.28-36.

安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, p.73-88.

Asai,K.&, Watanabe,T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.

Bowen,H.J.M. (1983) 環境無機化学－元素の循環と生化学－. 浅見輝男・茅野充男訳, 297p., 博友社

[Bowen,H.J.M. (1979) *Environmental Chemistry of Elements*].

Bolt,G.H. · Bruggenwert,M.G.M. (1980) 土壤の化学.

岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽 捷行訳,

309p., 学会出版センター [Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M. (1976) *SOIL CHEMISTRY*].

土壤養分測定法委員会編(1981) 土壤養分分析法.

440p., 養賢堂.

堀内誠示・高橋 敦・橋本真紀夫(1996) 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について－混合群集の認定と堆積環境の解釈－. 日本文化財科学会第13回大会研究発表要旨集, p.62-63.

石河寛昭(1977) 最新液体シンチレーション測定法. 189p., 南山堂.

伊藤良永・堀内誠示(1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23-45.

川崎 弘・吉田 澄・井上恒久(1991) 九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省 農林水産技術会議事務局編「土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.23-27.

小杉正人(1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p.1-20.

Krammer,K. and Lange-Bertalot, H. (1986)

Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae.

Band 2 / 1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.

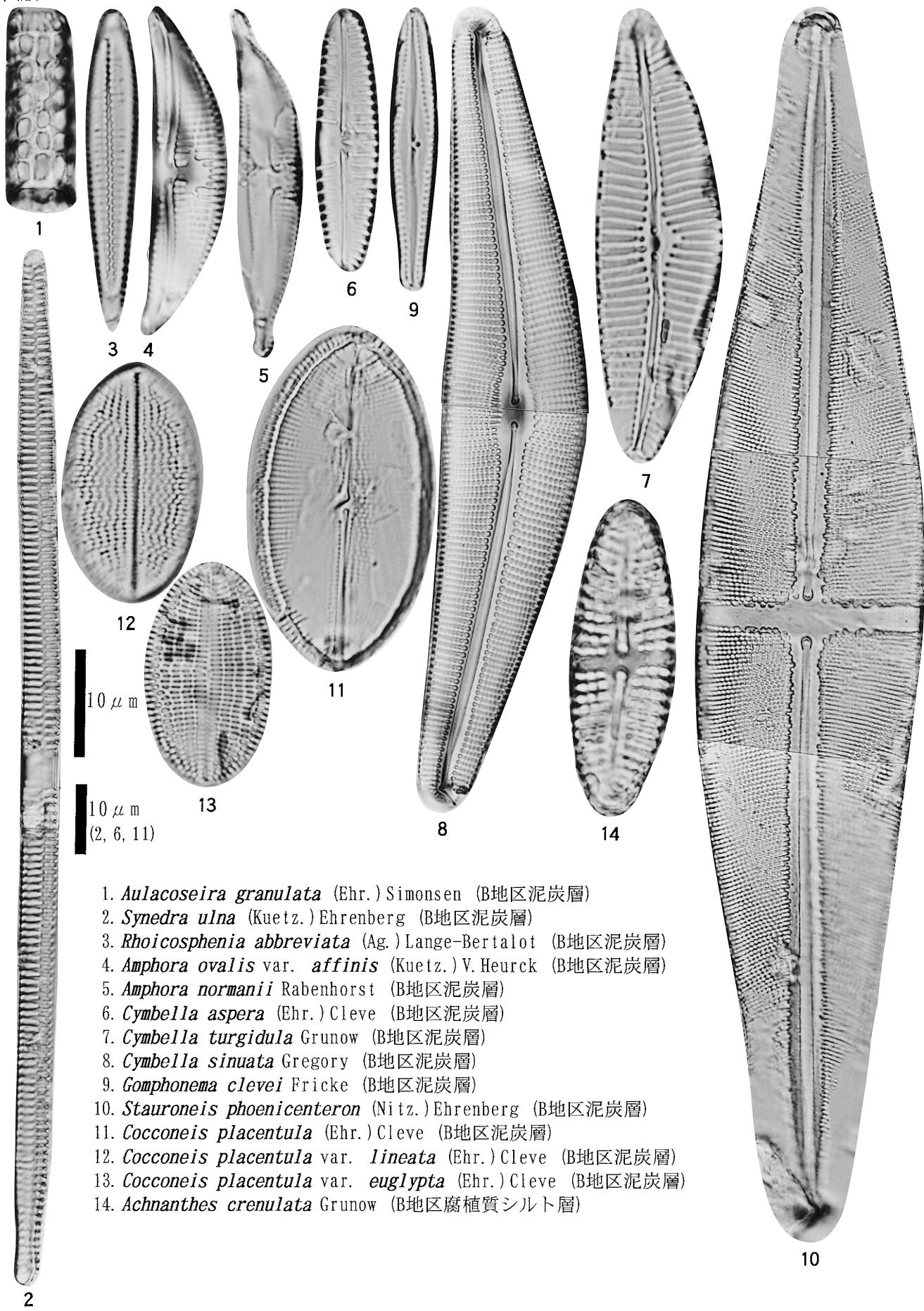
Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988)

Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae,

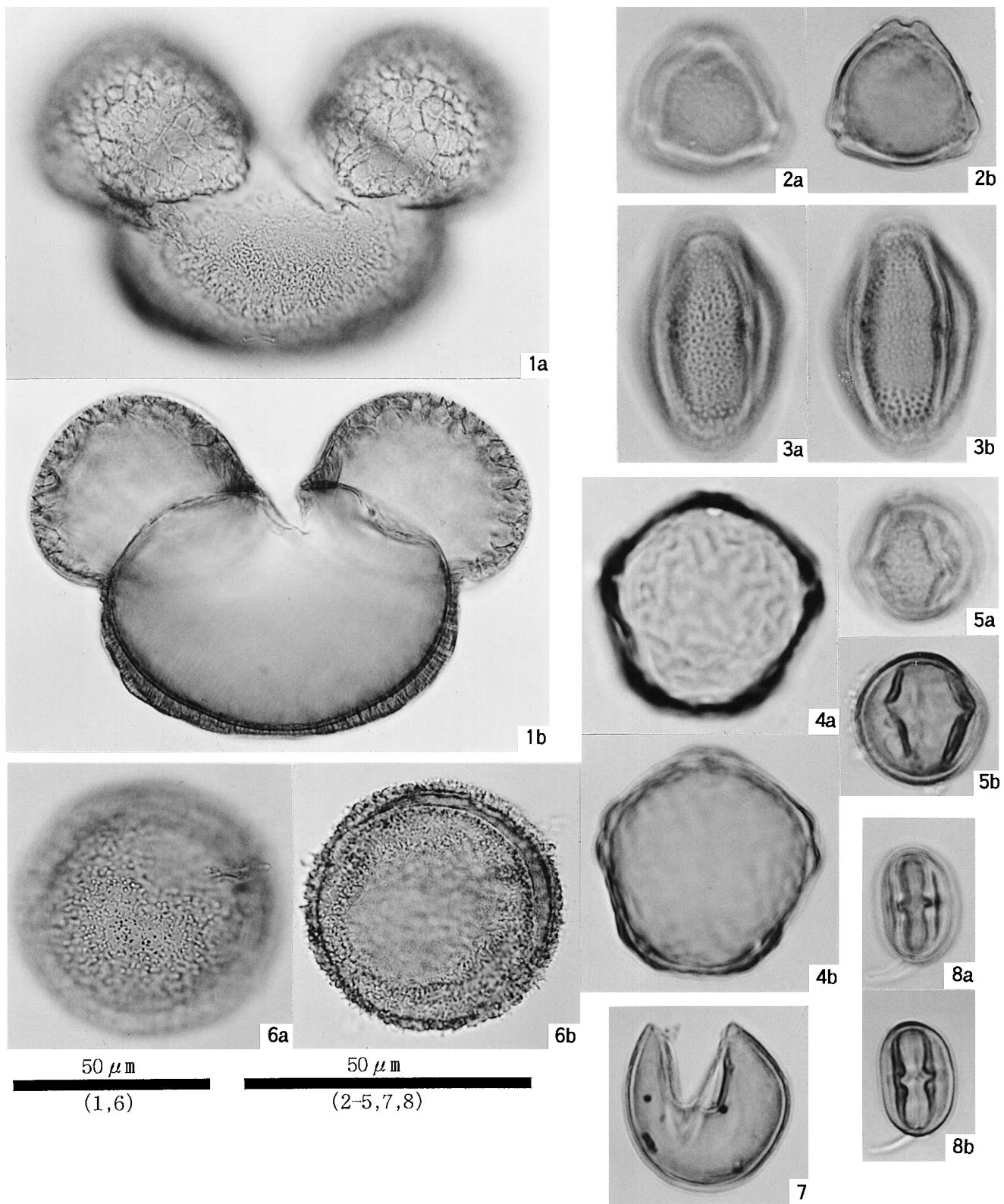
Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2 / 2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.

- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a)
 Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales,
 Fragilariaeae, Eunotiaceae. Band 2 / 3 von: Die
 Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p.,
 Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b)
 Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritische
 Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gom-
 phonema. Band 2/4 von: Die Suesswasserflora von
 Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine
 Monographie der europäischen Taxa.
 BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND
 26. p.1-353. BERLIN · STUTTGART.
- 日本化学会編(1976)同位体,年代測定.「新実験化学
 講座10 宇宙地球科学」,p.337-353,丸善.
- 日本粘土学会編(1987)粘土ハンドブック 第二版.
 1289p., 技報堂出版.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修(1967)新版標準
 土色帖.
- 宮脇 昭編著(1985) 日本植生誌 中部. 604p.,
 至文堂.
- ペドロジスト懇談会編(1984) 土壤調査ハンドブック
 ク. 156p., 博友社.
- 田中義文・堀内誠示・矢作健二・橋本真紀夫(1996)
 栃木県栗山地域の古植生変遷. 栃木県立博物館研
 究報告書, 14, p.1-36.
- 高橋 敦・植木真吾(1994) 樹種同定からみた住居
 構築材の用材選択. PALYNO, 2, p.5-18.
- 富樫茂子・松本英二(1983) ベンゼン-液体シンチ
 レーションによる¹⁴C年代測定法. 地質調査所月報,
 34, p.513-527.

図版 1 珪藻化石

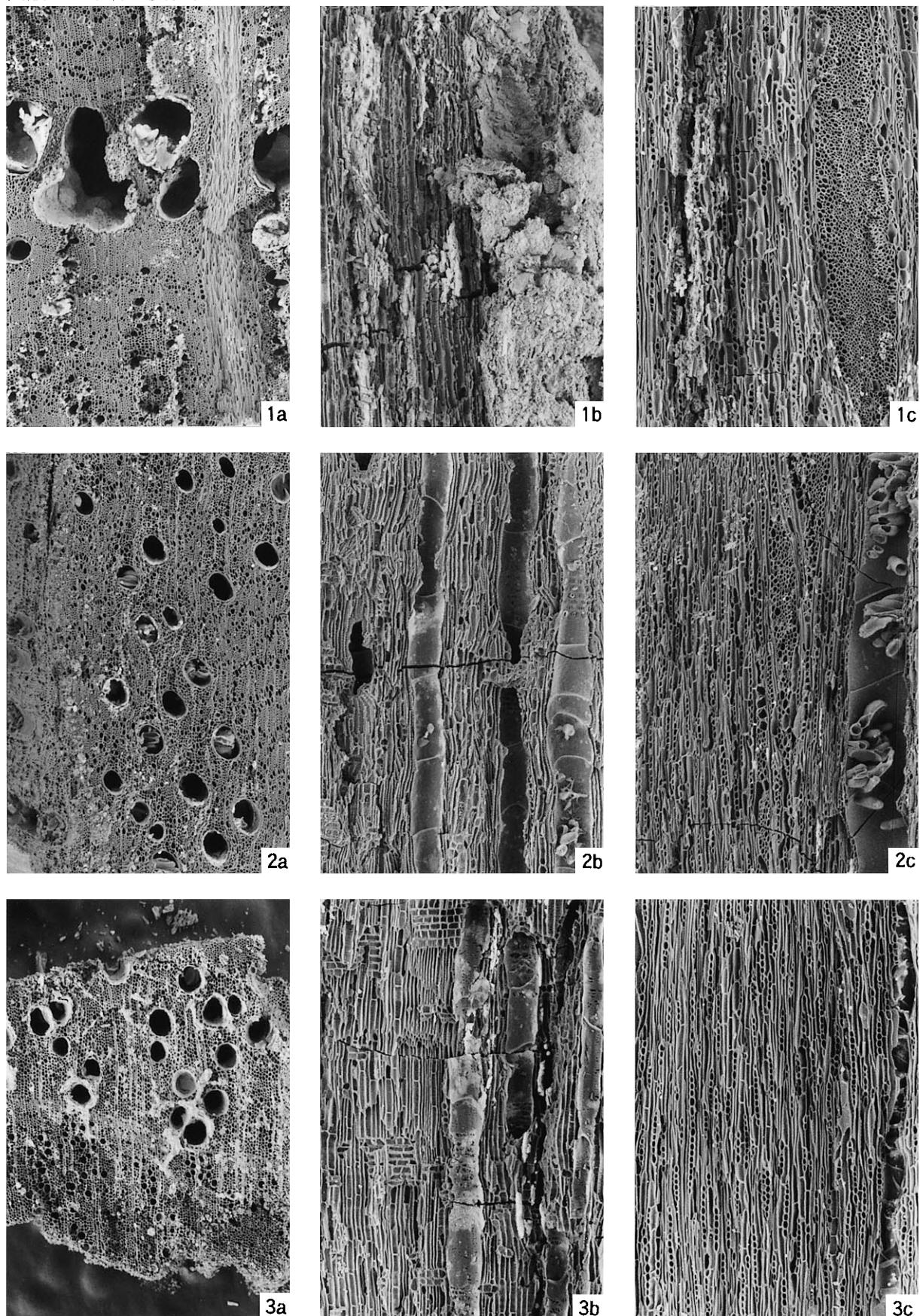


図版2 花粉化石



- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. モミ属 (B地区泥炭層) | 2. ヤマモモ属 (B地区泥炭層) |
| 3. ツタ属 (B地区泥炭層) | 4. ニレ属-ケヤキ属 (B地区泥炭層) |
| 5. コナラ属アカガシ亜属 (B地区泥炭層) | 6. ツガ属 (B地区泥炭層) |
| 7. スギ属 (B地区泥炭層) | 8. シイノキ属 (B地区泥炭層) |

図版3 木材・炭化材(1)



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料番号24)

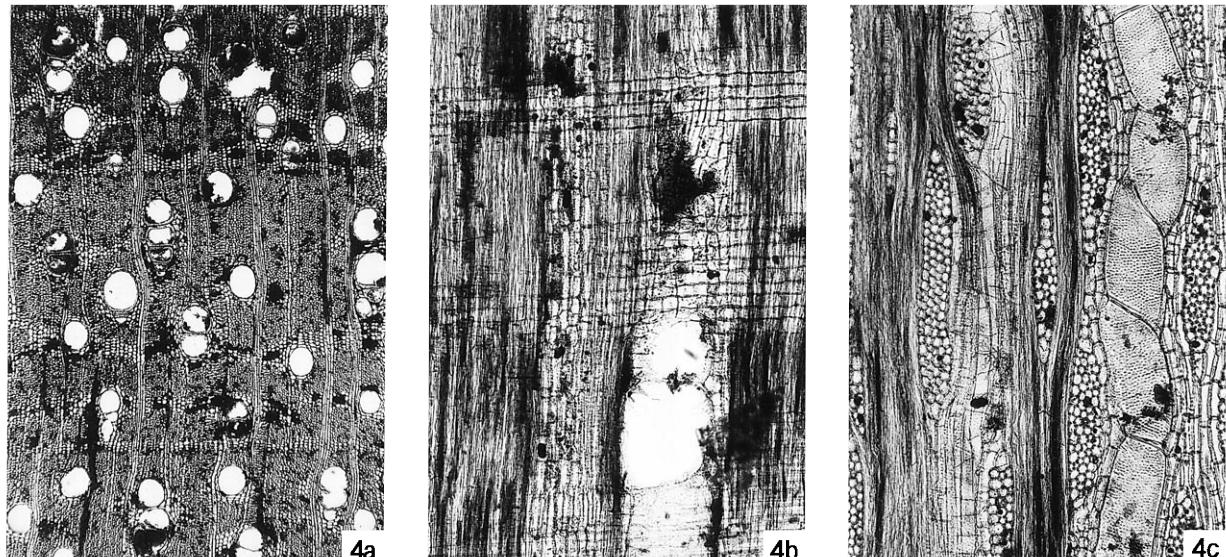
2. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号29)

3. スダジイ (試料番号9)

a : 木口, b : 柾目, c : 板目

— 200 μ m : a
— 200 μ m : b, c

図版4 木材・炭化材(2)



4. ムクノキ (B地区泥炭層) a : 木口, b : 柱目, c : 板目

■ 200 μ m : a
■ 200 μ m : b, c

報告書 遺構 番号	報告 地区	調査時遺構情報			時 期	長さ	幅	深さ	備 考 (概 報)
		調査 年次	調査 地区	小地区		(m)	(m)	(cm)	
SD1101	A	1 次	A	M・N 49~51	SD1	-	(9.2)	(2.8)	38
SD1102	A	1 次	A	I 48~51,J 47・48	SD2	古墳後期	(15.8)	0.6	13
SD1103	A	1 次	A	J 47~49	SD3	-	-	-	-
SD1104	A	1 次	A	F45,G 45・46	SD4	弥生中期	(5.1)	2.7	15 (溝2)
SD1105	A	1 次	A	G45,H 44・45	SD5	-	(5.1)	1.6	14
SD1106	A	1 次	A	H 44~46,I44	SD6	平安後~鎌倉初	(6.3)	2.1	56 (溝3)
SD1107	A	1 次	A	G・H 45	SD7	-	(2.5)	0.5	20
SD1108	A	1 次	A	F 44・45,G45	SD8	-	(5.9)	0.5	12
SD1109	A	1 次	A	F・H 44,I 45・46	SD9	弥生	(17.5)	4.2	100 (溝1)
SK1110	B	1 次	B	I38	SK10	弥生中期	1.6	0.7	40
SK1111	B	1 次	B	I 38・39	SK11	弥生中期	6.4	1.1	20
SD1112	B	1 次	B	H40,H~U 41~49	SD12	平安	(61.4)	4.1	135 (旧河道)
SE1113	B	1 次	B	J 37・38	SE13	平安	2.8	2.5	131 (井戸3)
SK1114	B	1 次	B	J 35・36	SD14	弥生中期	3.2	0.9	23
SD1115	B	1 次	B	I~T 34~45	SD15	古墳後期	(68.9)	1.3	29 (溝1)
SD1116	B	1 次	B	I~Q 32~34	SD16	-	(29.5)	(8.2)	(50)
SK1117	B	1 次	B	J36	SK17	弥生中期	1.5	1.0	17
SD1118	B	1 次	B	I36	SD18	-	2.1	0.4	5
SD1119	B	1 次	B	J35	SD19	-	(2.5)	(0.4)	(9)
SK1120	B	1 次	B	I・J 35	SK20	弥生 II	(4.1)	1.2	40 (土坑1)
SD1121	B	1 次	B	I~L 36・37	SD21	-	(10.5)	2.4	18
SK1122	B	1 次	B	K・L 37	SK22	-	1.2	1.0	29
SK1123	B	1 次	B	K37	SK23	-	1.1	0.6	15
SK1124	B	1 次	B	K・L 38・39	SK24	弥生 II	5.8	1.0	39
SK1125	B	1 次	B	J 36・37	SK25	弥生 III	1.9	1.1	18 (土坑2)
SK1126	B	1 次	B	M35	SK26	弥生 III	4.1	1.4	32
SK1127	B	1 次	B	M36	SK27	弥生 III	1.2	0.6	30 (土坑3)
SK1128	B	1 次	B	L・M 37	SK28	弥生中期	1.3	0.5	25
SK1129	B	1 次	B	M37	SK29	弥生 III	1.3	1.2	54
SK1131	B	1 次	B	N38	SK31	弥生 III	2.7	0.7	31
SK1132	B	1 次	B	M 37・38	SK32	弥生 II	1.4	1.1	9
SK1133	B	1 次	B	K35	SK33	-	1.2	1.0	27
SK1134	B	1 次	B	M38	SK34	弥生 II	2.4	0.9	18
SK1135	B	1 次	B	N 38	SK35	-	0.6	0.3	6
SK1136	B	1 次	B	O36	SK36	弥生 III	2.4	0.9	26
SD1137	B	1 次	B	O~R 34・35	SD37	-	9.5	0.7	21
SK1138	B	1 次	B	O・P 34・35	SK38	弥生 III	7.0	1.0	8
SK1139	B	1 次	B	O・P 36	SK39	弥生 III	1.9	1.0	33
SK1140	B	1 次	B	P・Q 35	SK40	弥生中期	1.7	1.6	46
SK1141	B	1 次	B	O 37・38	SK41	-	3.4	0.7	16

第2表 遺構一覧表1

報告書 遺構 番号	報告 地区	調査時遺構情報			時 期	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	備 考 (概 報)
		調査 年次	調査 地区	小地区					
SK1142	B	1 次	B	P37,Q 36・37,R37	SK42	弥生III	5.0	2.2	26
SK1143	B	1 次	B	O38	SK43	弥生III	1.9	0.9	71 (土坑5)
SK1144	B	1 次	B	P 40・41,O41	SK44	弥生III	4.9	2.3	27
SK1145	B	1 次	B	P41	SK45	弥生III	1.5	0.6	21
SK1146	B	1 次	B	O・P 41・42	SK46	弥生II	4.1	1.6	45
SK1147	B	1 次	B	O42	SK47	弥生III	1.5	1.1	35
SK1148	B	1 次	B	O42	SK48	弥生III	1.0	1.0	9
SK1149	B	1 次	B	O・P 42・43	SK49	弥生II	(3.0)	1.9	32
SE1150	B	1 次	B	P43	SK50	古墳前期	2.1	1.9	90 (井戸2)
SK1151	B	1 次	B	P 44・45	SK51	弥生III	2.0	0.9	22
SD1152	B	1 次	B	L 44・45	SD52	-	(3.3)	0.5	19
SD1153	B	1 次	B	L 44・45	SD53	鎌倉	(5.5)	1.0	30
SD1154	B	1 次	B	M 46,N 46・47	SD54	-	(3.0)	0.6	41
SD1155	B	1 次	B	N46	SD55	-	2.5	0.8	16
SD1156	B	1 次	B	N～O 46・47	SD56	-	(2.8)	0.4	21
SD1157	B	1 次	B	O47	SD57	-	(1.7)	0.3	21
SD1158	B	1 次	B	O 46・47	SD58	鎌倉	(4.9)	1.4	56
SD1160	B	1 次	B	Q～U 40～42	SD60	平安	(29.5)	0.6	29
SD1161	B	1 次	B	O46,P・Q 47	SD61	平安	(10.5)	1.0	14
SD1162	B	1 次	B	O・P 43・44	SD62	-	6.2	0.4	10
SD1163	B	1 次	B	O～U 43・44	SD63	平安	(18.5)	0.6	9
SD1164	B	1 次	B	P43	SD64	-	1.5	0.3	11
SK1165	B	1 次	B	Q 39・40	SK65	弥生III	1.4	0.7	15 (土坑11)
SD1166	B	1 次	B	O～Q 46・47	SD66	-	27.0	0.8	34
SD1167	B	1 次	B	L～O 45・46	SD67	-	(23.5)	(0.8)	(20)
SD1168	B	1 次	B	Q・R 32～42	SD68	平安	(37.1)	0.6	8
SD1169	B	1 次	B	Q～S 32～42	SD69	平安	(42.4)	0.4	4
SK1170	B	1 次	B	Q 34・35	SK70	弥生III	2.5	1.8	73
SK1171	B	1 次	B	Q・R 34・35	SK71	弥生中期	4.5	1.2	46
SK1172	B	1 次	B	M38	SK72	弥生II	2.0	0.3	30 (土坑4)
SH1173	B	1 次	B	R 43・44	SK73	弥生III	(3.8)	(2.5)	(18) (堅穴2)
SK1174	B	1 次	B	O44	SK74	弥生III	(0.7)	(0.4)	(11)
SK1175	B	1 次	B	O44	SK75	弥生III	0.9	0.6	14
SK1176	B	1 次	B	O44	SK76	弥生III	(1.3)	(0.7)	(13)
SD1177	B	1 次	B	R・S 34～41	SD77	鎌倉	(48.0)	0.8	(5)
SK1178	B	1 次	B	R45	SK79	弥生中期	(1.2)	(0.7)	7
SH1179	B	1 次	B	R～S 44～46	SH80	弥生II	4.9	3.5	14 (堅穴5)
SD1180	B	1 次	B	Q～S 43・44	SD81	-	13.7	0.4	8
SK1181	B	1 次	B	S・T 46・47	SK82	弥生III	2.2	1.1	38
SD1183	B	1 次	B	T 46・47	SD84	鎌倉	(2.1)	(0.5)	4

第3表 遺構一覧表2

報告書 遺構 番号	報告 地区	調査時遺構情報			時 期	長さ	幅	深さ	備 考 (概 報)
		調査 年次	調査 地区	小地区		(m)	(m)	(cm)	
SH1184	B	1 次	B	S・T 44・45	SK85	弥生III	(7.1)	(3.8)	20 (堅穴3)
SK1185	B	1 次	B	T45	SK86	弥生III	2.7	1.8	43
SH1186	B	1 次	B	T・U 45・46	SH87	弥生III	(4.5)	4.7	15 (堅穴4)
SK1187	B	1 次	B	U・T 47	SK88	弥生III	(4.0)	1.3	57
SK1188	B	1 次	B	T44	SK89	弥生III	2.2	1.9	36
SK1189	B	1 次	B	T 41・42	SK90	弥生III	2.6	1.3	24
SK1190	B	1 次	B	S・T 41・42	SK91	弥生II	1.6	1.1	8
SE1191	B	1 次	B	T41	SK92	古墳前期	1.2	1.2	130 (井戸1)
SK1192	B	1 次	B	S 42・43	SK93	弥生III	2.6	1.6	33
SK1193	B	1 次	B	S 40・41	SK94	弥生III	(2.7)	1.3	12
SK1194	B	1 次	B	R・S 40	SK95	弥生III	2.4	0.9	16
SK1195	B	1 次	B	S39	SK96	弥生中期	1.4	1.3	50
SH1196	B	1 次	B	S~U 37~39	SK97	弥生III	8.7	8.2	28 (堅穴1)
SK1197	B	1 次	B	R38	SK98	古墳前期	2.0	0.8	50 (土坑9)
SK1198	B	1 次	B	U41	SK99	弥生III	1.2	0.9	40
SK1199	B	1 次	B	T41	SK100	弥生III	1.7	0.8	16
SK1200	B	1 次	B	S41	SK101	弥生III	1.5	0.7	14
SK1201	B	1 次	B	T45	SK102	弥生中期	1.5	0.8	41
SE1202	B	1 次	B	S 37・38	SE103	平安	3.2	2.8	117 (井戸4)
SK1203	B	1 次	B	S38	SK104	-	0.8	0.8	18
SK1204	B	1 次	B	R39	SK105	弥生III	1.8	0.7	52
SD1205	B	1 次	B	U 40・41	SD106	-	3.4	0.5	6
SK1206	B	1 次	B	R37	SK107	弥生III	1.5	1.0	44 (土坑6)
SK1207	B	1 次	B	Q・R 36・37	SK108	弥生III	3.1	0.8	33
SK1208	B	1 次	B	Q35	SK109	古墳前期	1.3	0.9	8 (土坑10)
SK1209	B	1 次	B	S 36・37	SK110	弥生III	3.1	1.0	24
SK1210	B	1 次	B	T35	SK111	弥生III	2.5	1.4	23 (土坑7)
SK1211	B	1 次	B	T39	SK112	弥生III	3.4	1.5	24
SK1212	B	1 次	B	T 37・38	SK113	弥生III	1.8	1.8	68
SK1213	B	1 次	B	U 35・36	SK114	弥生II	(2.5)	2.3	41
SD1214	B	1 次	B	O~U 32・33	SD115	平安	(26.0)	2.5	79
SD1215	B	1 次	B	U 36~38	SD116	鎌倉	(8.5)	0.5	8
SD1216	B	1 次	B	U 36・37	SD117	-	(7.5)	0.7	7
SK1217	B	1 次	B	U 36・37	SK118	-	1.3	0.5	17
SK1218	B	1 次	B	U39	SK119	弥生III	1.2	0.5	8
SK1219	B	1 次	B	U39	SK120	弥生中期	1.4	0.7	13
SK1220	B	1 次	B	T 38・39	SK121	弥生中期	1.6	0.8	29
SK1222	B	1 次	B	T35	SK123	弥生III	1.5	0.7	20
SK1223	B	1 次	B	T36	SK124	弥生III	1.4	0.7	20 (土坑8)
SK1224	B	1 次	B	N・O 38	SK125	弥生中期	1.1	0.7	19

第4表 遺構一覧表3

報告書 遺構 番号	報告 地区	調査時遺構情報				時 期	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	備 考 (概 報)
		調査 年次	調査 地区	小地区	遺構					
SK1225	B	1 次	B	P37	SK126	弥生中期	2.0	0.7	9	
SK1226	B	1 次	B	R39	SK127	弥生Ⅲ	2.7	0.8	23	
SB1227	B	1 次	B	I・J 36・37	-	古墳前期	5.3	5.2	-	N18°E 南北棟 (掘立柱建物 1)
SB1228	B	1 次	B	M～O 35・36	-	平安後～鎌倉初	7.3	4.7	-	E28°S 東西棟 (掘立柱建物 2)
SB1229	B	1 次	B	N～P 36・37	-	平安後～鎌倉初	6.6	(4.0)	-	E2°N 東西棟 (掘立柱建物 3)
SB1230	B	1 次	B	L・M 39・40	-	平安後～鎌倉初	5.0	4.2	-	N25°E 南北棟 (掘立柱建物 4)
SB1231	B	1 次	B	O～Q 37・38	-	平安後～鎌倉初	5.5	3.7	-	E33°S 東西棟 (掘立柱建物 5)
SB1232	B	1 次	B	S～U 36・37	-	平安後～鎌倉初	6.2	3.6	-	E21°S 東西棟 (掘立柱建物 6)
SB1233	B	1 次	B	S・T 38～40	-	平安後～鎌倉初	7.2	4.2	-	N23°E 南北棟 (掘立柱建物 7)
SB1234	B	1 次	B	R～T 42～44	-	平安後～鎌倉初	6.5	4.4	-	E7°N 東西棟 (掘立柱建物 8)
SB1235	B	1 次	B	R46	-	平安後～鎌倉初	3.5	2.6	-	E6°S 東西棟 (掘立柱建物 9)
SD1236	C	2次	C	F～T 28・29	SD1	-	(48.1)	6.6	96	(SD5)
SD1237	C	2次	C	F・G 27	SD2	-	(5.2)	0.8	34	(SD4)
SD1238	C	2次	C	G・H 25	SD3	-	4.8	0.5	15	
SD1239	C	2次	C	F～T 23～25	SD4	弥生Ⅲ	(58.2)	1.4	48	(SD1)
SK1240	C	2次	C	H 25～27	SK5	弥生中期	7.3	2.1	43	(SK1)
SK1241	C	2次	C	I27	SK6	弥生Ⅲ	2.1	1.9	13	
SD1242	C	2次	C	I・J 25～27	SD7	弥生Ⅲ	8.1	0.4	7	
SK1243	C	2次	C	J26	SK8	-	1.2	1.2	10	
SD1244	C	2次	C	J～Q 25～28	SD9	弥生Ⅲ	32.2	2.2	43	(SD2)
SD1245	C	2次	C	I～K 24	SD10	-	3.7	0.4	5	
SK1246	C	2次	C	L・M 23	SK11	平安後期	1.2	1.0	65	(SK2)
SD1248	C	2次	C	P・Q 25～28	SD13	平安後期	14.6	2.9	34	(SD3)
SK1249	C	2次	C	L27	SK14	-	(1.7)	1.1	20	
SK1250	C	2次	C	I28	SK15	古墳中期	1.2	1.0	95	
SK1251	C	2次	C	R26	SK16	-	3.4	2.3	23	
SB1252	C	2次	C	Q～S 23～26	-	平安後～鎌倉初	11.5	(8.4)	-	N28°E 南北棟 (SB1)
SE1253	D	1次	D	A 7・8	SK1	平安後～鎌倉初	3.4	3.2	124	(井戸1)
SK1254	D	1次	D	y・A 5	SK2	平安後～鎌倉初	3.1	2.1	13	(土坑1)
SK1256	D	1次	D	x・y 6・7	SK4	平安後～鎌倉初	3.1	0.9	90	
SE1257	D	1次	D	C・D 7	SK5	平安後～鎌倉初	2.1	2.0	131	(井戸2)
SK1259	D	1次	D	D・E 5	SK7	平安後～鎌倉初	(3.6)	(0.7)	10	
SD1260	D	1次	D	F～I 6	SD8	平安後～鎌倉初	13.8	0.4	28	
SD1261	D	1次	D	K・L 6・7	SD9	平安後～鎌倉初	13.5	0.3	15	
SE1262	D	1次	D	B・C 4	SK10	平安後～鎌倉初	1.6	1.4	107	(井戸3)
SD1264	D	1次	D	H～M 9～11	SD12	平安後～鎌倉初	25.1	0.4	6	
SD1265	D	1次	D	M8	SD13	平安後～鎌倉初	1.7	0.4	12	
SD1266	D	1次	D	L～M 7～10	SD14	平安後～鎌倉初	11.8	0.9	47	
SK1267	D	1次	D	M 7・8	SK16	平安後～鎌倉初	2.9	2.2	23	(土坑2)

第5表 遺構一覧表4

報告書 遺構 番号	報告 地区	調査時遺構情報			時 期	長さ	幅	深さ	備 考 (概 報)	
		調査 年次	調査 地区	小地区		(m)	(m)	(cm)		
SK1268	D	1次	D	M7	SK17	平安後～鎌倉初	2.5	0.5	12	
SD1269	D	1次	D	M10	SD18	平安後～鎌倉初	3.2	0.3	7	
SD1270	D	1次	D	J～N 9	SD19	平安後～鎌倉初	16.7	0.6	19	
SD1271	D	1次	D	N・O 11	SD20	平安後～鎌倉初	5.4	0.4	9	
SD1272	D	1次	D	F～J 14	SD21	平安後～鎌倉初	(13.5)	0.5	15	
SD1273	D	1次	D	F～T 15・16	SD22	平安後～鎌倉初	(56.7)	0.8	39	(SD4)
SD1274	D	1次	D	F～T 15～17	SD23	平安後～鎌倉初	(56.5)	0.5	15	(SD5)
SD1276	D2	2次	D2	R 8～10	SD25	平安後～鎌倉初	7.2	0.6	13	(SD3)
SD1277	D2	2次	D2	U 9	SD26	平安後～鎌倉初	1.8	0.3	9	
SB1278	D2	2次	D2	T・U 9・10	SB27	平安後～鎌倉初	(3.8)	(3.7)	-	N23°E 南北棟 (SB1)
SE1279	D2	2次	D2	T 10・11	SE28	平安後～鎌倉初	5.9	(1.5)	39	(SE3)
SB1280	D	1次	D	u～y 3・4	-	平安後～鎌倉初	14.9	2.1	-	E26°S 東西棟
SB1281	D	1次	D	v・w 3・4	-	平安後～鎌倉初	4.3	4.2	-	N28°E 南北棟
SB1282	D	1次	D	w～y,A 3・4	-	平安後～鎌倉初	12.8	4.4	-	E31°S 東西棟 (掘立柱建物1)
SB1283	D	1次	D	w～y 4～6	-	平安後～鎌倉初	12.8	4.2	-	E24°S 東西棟
SB1284	D	1次	D	U・V 5・6	-	平安後～鎌倉初	6.5	4.5	-	N26°E 南北棟
SB1285	D	1次	D	U・V 5・6	-	平安後～鎌倉初	4.2	(2.2)	-	N29°E 南北棟
SB1286	D	1次	D	v～x 6・7	-	平安後～鎌倉初	8.2	(2.0)	-	E54°S 東西棟
SB1287	D	1次	D	w・x 7	-	平安後～鎌倉初	-	6.4	-	E46°S 東西棟
SB1288	D	1次	D	w～y 7	-	平安後～鎌倉初	8.3	(2.4)	-	E31°S 東西棟
SB1289	D	1次	D	E・F 5・6	-	平安後～鎌倉初	6.5	(2.3)	-	N35°E 南北棟
SB1290	D	1次	D	E・F 6・7	-	平安後～鎌倉初	4.1	4.1	-	N34°E 南北棟
SB1291	D	1次	D	D～F 7～9	-	平安後～鎌倉初	(9.7)	7.1	-	N35°E 南北棟
SB1293	D	1次	D	I～L 5～8	-	平安後～鎌倉初	12.6	(6.4)	-	N32°E 南北棟 (掘立柱建物2)
SB1294	D	1次	D	K・L 6～8	-	平安後～鎌倉初	(6.4)	6.2	-	N32°E 南北棟
SB1310	D	1次	D	I～L 7～9	-	平安後～鎌倉初	9.5	6.8	-	E35°S 東西棟
SA1311	D	1次	D	w～y,A 6	-	平安後～鎌倉初	13.7	-	-	E29°S 東西棟 (柵)
SR1312	D	1次	D	F・G 15	-	平安後～鎌倉初	4.5	1.7	-	
SD1295	D1下	2次	D1下	K 7・8,L8,L～P 9	SD1	古墳後期	25.6	1.2	23	(SD2/SD1)
	D2下		D2下	Q～S 9,T・U 10			16.5	1.1	24	
SK1296	D1下	2次	D1下	K・L 6	SK2	古墳以前	(1.0)	3.0	13	
SK1297	D1下	2次	D1下	J8	SK3	古墳以前	1.0	0.7	15	
SD1298	D1下	2次	D1下	H～K 8	SD4	古墳以前	12.3	0.8	12	
SD1299	D1下	2次	D1下	N～P 7～8	SD5	弥生後期	9.2	0.7	21	(SD1)
SD1300	D2下	2次	D2下	R・S 8・9	SD6	古墳後期	4.0	0.5	12	(SD2)
SE1301	D2下	2次	D2下	P・Q 8	SE7	奈良後期	2.0	1.9	190	(SE2)
SE1302	D2下	2次	D2下	Q8	SE8	奈良後期	1.6	1.2	161	(SE1)
SD1303	D2下	2次	D2下	Q8	SD9	-	1.4	0.2	8	
SK1304	D2下	2次	D2下	Q8	SK10	-	0.9	0.7	9	

第6表 遺構一覧表5

遺構番号	時期	棟方向	桁行 (m)	柱間寸法 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m)	備考
SB1227	古墳前期	N18°E 南北棟	5.3	1.7×1.7×1.9	5.2	2.6×2.6	
SB1228	平安後～鎌倉初	E28°S 東西棟	7.3	2.5×2.2×2.6	4.7	2.3×2.4	
SB1229	平安後～鎌倉初	E2°N 東西棟	6.6	1.8×2.5×2.3	(4.0)		
SB1230	平安後～鎌倉初	N25°E 南北棟	5.0	1.5×3.5	4.2	2.3×1.9	
SB1231	平安後～鎌倉初	E33°S 東西棟	5.5	1.8×1.9×1.8	3.7	1.8×1.9	
SB1232	平安後～鎌倉初	E21°S 東西棟	6.2	2.2×1.9×2.1	3.6	1.9×1.7	
SB1233	平安後～鎌倉初	N23°E 南北棟	7.2	2.9×2.2×2.1	4.2	2.1×2.1	
SB1234	平安後～鎌倉初	E7°N 東西棟	6.5		4.4	2.2×2.2	
SB1235	平安後～鎌倉初	E6°S 東西棟	3.5	1.8×1.7	2.6	1.3×1.3	
SB1252	平安後～鎌倉初	N28°E 南北棟	11.5	2.1×2.5×2.4×2.4× 2.1	(8.4)	?×2.1×2.2×2.0	
SB1278	平安後～鎌倉初	N23°E 南北棟	(3.8)	1.9×1.9×?	(3.7)	1.8×1.9?	
SB1280	平安後～鎌倉初	E26°S 東西棟	14.9	1.9×2.3×2.1×2.2× 2.1×2.1×2.2	2.1		SB1281より古い
SB1281	平安後～鎌倉初	N28°E 南北棟	4.3	2.3×2.0	4.2	2.1×2.1	SB1280より新しい
SB1282	平安後～鎌倉初	E31°S 東西棟	12.8	2.0×2.0×2.0×2.4× 2.2×2.2	4.4	2.2×2.2	
SB1283	平安後～鎌倉初	E24°S 東西棟	12.8	2.2×2.1×2.1×2.1× 2.1×2.2	4.2	2.2×2.0	
SB1284	平安後～鎌倉初	N26°E 南北棟	6.5	2.2×2.1×2.2	4.5	2.2×2.3	
SB1285	平安後～鎌倉初	N29°E 南北棟	4.2	2.1×2.1	(2.2)	?×2.2	
SB1286	平安後～鎌倉初	E54°S 東西棟	8.2	2.1×1.8×2.0×2.3	(2.0)	?×2.0	
SB1287	平安後～鎌倉初	E46°S 東西棟	?		6.4	2.1×2.2×2.1	
SB1288	平安後～鎌倉初	E31°S 東西棟	8.3	1.9×2.0×2.2×2.2	(2.4)	?×2.4	
SB1289	平安後～鎌倉初	N35°E 南北棟	6.5	2.2×4.3	(2.3)	2.3×?	
SB1290	平安後～鎌倉初	N34°E 南北棟	4.1	2.0×2.1	4.1	2.1×2.0	
SB1291	平安後～鎌倉初	N35°E 南北棟	(9.7)	?×2.5×2.5×2.5×2.2	7.1	2.4×2.3×2.4	
SB1293	平安後～鎌倉初	N32°E 南北棟	12.6	2.1×2.0×2.2×2.0× 2.1×2.2	(6.4)	2.1×2.1×2.2×?	
SB1294	平安後～鎌倉初	N32°E 南北棟	(6.4)	2.1×2.1×2.2×?	6.2	2.0×1.9×2.3	
SB1310	平安後～鎌倉初	E35°S 東西棟	9.5	2.4×2.3×2.3×2.5	6.8	2.4×2.3×2.1	
SA1311	平安後～鎌倉初	E29°S 東西棟	13.7	1.9×2.8×2.2×2.1 ×2.2×2.5	-	-	

第7表 掘立柱建物一覧表

V まとめ

第1節 遺構について

今回、報告する第1次および第2次調査では縄文時代の遺構遺物は確認されなかったが、第6次調査のL区やN区では突帯文土器が確認されている。また、弥生時代前期^①についても遺構遺物は確認されていないため、替田遺跡における本格的な人々の営みがはじまるのは弥生時代中期前葉Ⅱ期からである。

この時期には安濃川の左岸でも蔵田遺跡や松ノ木遺跡で集落の形成が始まっており、前期からの集落である納所遺跡から当遺跡を含めてこれらの遺跡への拡散がみられたのであろう。

B地区の調査ではⅡ期でも古い段階の竪穴住居SH1179が検出されている。住居の平面形態は、北側の一辺が4mに対して南側の一辺は3mと台形で定形化した方形ではない。替田遺跡では平面形態が円形と方形の竪穴住居が混在しており、必ずしも円形住居が方形住居に先行するとはいえないとして指摘されている^②が、B地区でも中期中葉Ⅲ期に平面形態円形の竪穴住居（SH1196など）と方形の住居（SH1186）が混在している。隣接する第6次調査L区で検出された竪穴住居はすべてⅢ期の住居である。B地区と合わせるとⅡ期の住居は1棟しかなく平面形態方形、Ⅲ期の住居は平面形態方形が6棟、円形が4棟でどちらかが優勢ということなく、まさしく混在の状況を示し、複数の集団の存在が想定される。しかし、中期後葉Ⅳ期になると集落は衰退し、遺構遺物ともみられなくなる。これは今回の調査だけではなく、替田遺跡全体の傾向であり、なおかつ、安濃川流域ではⅣ期になると左岸の長遺跡や山籠遺跡、右岸では上村遺跡などといった低地部の背後にある丘陵に遺跡が立地する傾向もうかがえる。

弥生時代後期の遺構もこれまでの調査ではほとんどみられなかったが、今回はD地区でSD1299が検出されている。ただし、ほかには遺構がほとんどなくこの時期の全体像は不明である。

古墳時代のまとまった遺構はみられないが、B地区的調査ではSB1227、SE1150・1191、方形の区

画を想定できるSD1115が検出されている。SE1150は半分ほど埋没して窪んだ状態の時に4世紀前半の土師器壺・甕・器台などが一括廃棄されている。古墳時代の集落の継続についてははっきりしないが、旧河道SD1112抽出資料中にはSE1150よりやや新しい資料もみうけられる。古墳時代中後期の遺物も出土しているもののその時期の遺構は判然としない状況である。

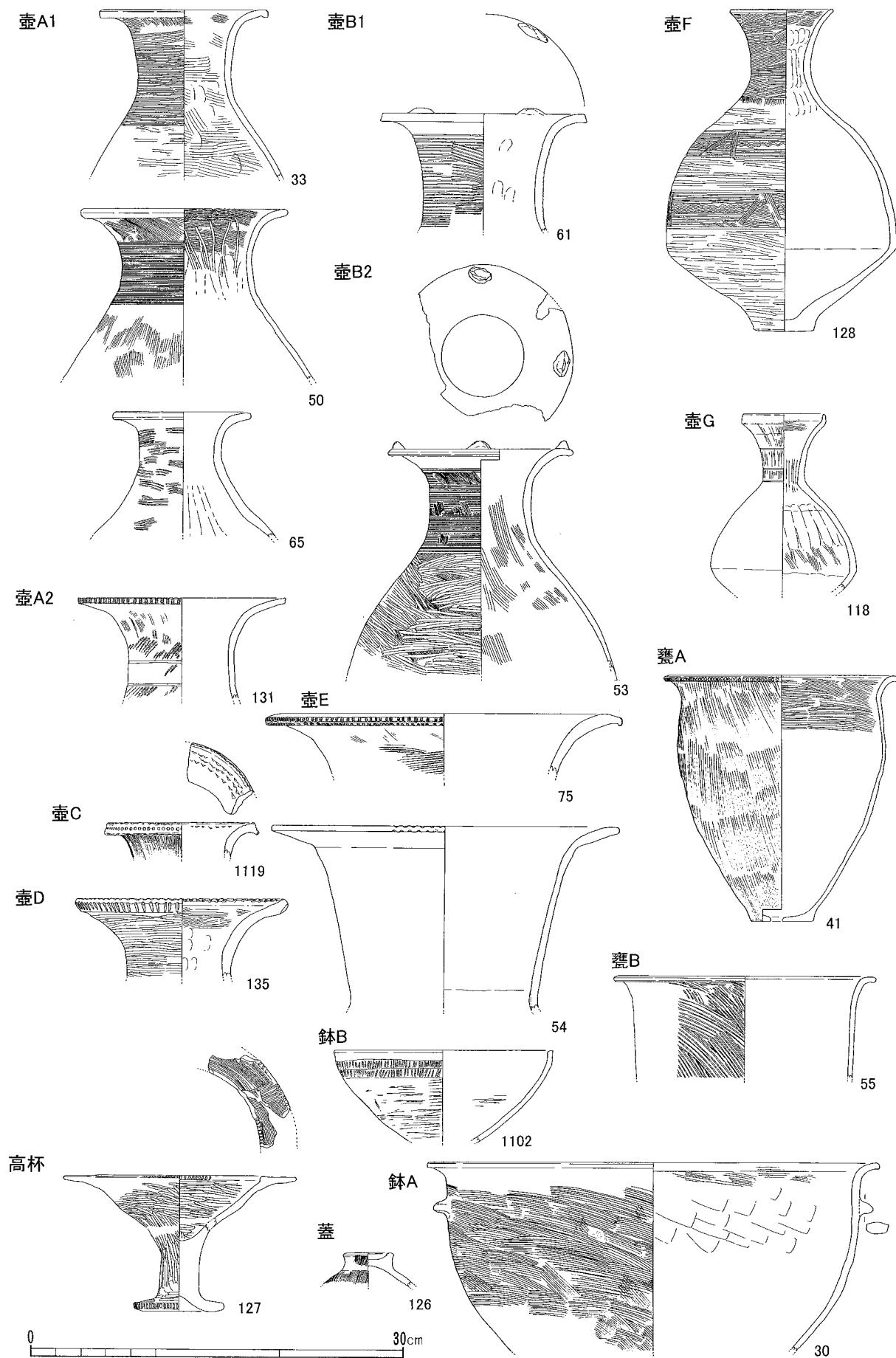
奈良時代の遺構は替田遺跡でも北に位置するD地区で井戸が2基検出されているのみである。ほかの遺構は検出されていないが、この2基の井戸は重複して検出されていることから、一定の期間、周辺で人々の生活が営まれていたことが想定される。ただし、替田遺跡全体で検出されている奈良時代の建物は第6次調査L地区のSB345のみであるため、集落形成といった状況は不明である。

平安時代以降については、10世紀代、11世紀代の井戸や溝があるが、まとまった遺構は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての掘立柱建物・土坑・井戸・溝である。D地区でも調査区北端に集中して検出されている。ほ場整備以前の安濃川下流域の沖積平野では条里制の方格地割の残存が認められており、N30度Eの条里プランの復元が示されている^③。これまで周辺の蔵田遺跡・位田遺跡・式ノ坪遺跡では条里プランに沿った方向の遺構が確認されているが、今回D地区的調査で検出された掘立柱建物群や溝、道路状遺構にもほぼ条里プランに沿ったものがみられる。

第2節 遺物について

今回の調査ではB地区を中心に弥生時代中期のまとまった資料が確認されている。中期前葉Ⅱ期にあたる資料は少なく、Ⅲ期の資料が大半である。以下、Ⅱ期を2小期、Ⅲ期を3小期に細分し^④、遺物報告のまとめとして器種分類を行い、遺構単位での出土遺物については一覧表に示すこととする。

壺形土器は大きくは太頸壺、広口壺、細頸壺に分



第94図 弥生時代中期土器 器種分類

遺構番号	時期	出土遺物																
		壺	壺A1	壺A2	壺B1	壺B2	壺C	壺D	壺E	壺F	壺G	壺H1	壺H2	甕A	甕B	鉢A	鉢B	高杯
SK1120	弥生 II	○												○		○		
SK1124	弥生 II	○	○		○				○					○				
SK1132	弥生 II	○												○				
SK1134	弥生 II	○	○		○									○				
SK1143	弥生 II	○	○		○	○								○				
SK1146	弥生 II	○	○											○				
SK1149	弥生 II	○			○				○					○				
SK1172	弥生 II	○												○				
SH1179	弥生 II	○	○											○				
SK1190	弥生 II	○	○											○				
SK1125	弥生 III	○												○				
SK1126	弥生 III	○												○				
SK1127	弥生 III	○												○				
SK1129	弥生 III	○												○				
SK1131	弥生 III	○	○											○				
SK1136	弥生 III	○	○											○				
SK1138	弥生 III	○				○								○				
SK1139	弥生 III	○												○				
SK1142	弥生 III	○	○		○				○					○		○		○
SK1144	弥生 III	○	○		○	○			○					○		○		
SK1145	弥生 III	○							○					○		○		○
SK1147	弥生 III	○												○		○		
SK1148	弥生 III	○												○		○		
SK1151	弥生 III	○												○		○		
SK1165	弥生 III	○				○	○							○		○		
SK1170	弥生 III	○												○				
SH1173	弥生 III	○												○				
SK1174	弥生 III	○												○				
SK1175	弥生 III	○												○				
SK1176	弥生 III	○												○				
SK1181	弥生 III	○	○						○					○				
SH1184	弥生 III	○							○					○		○		
SK1185	弥生 III	○			○				○					○		○		
SH1186	弥生 III	○	○					○						○				
SK1187	弥生 III	○	○						○					○		○		
SK1188	弥生 III	○								○				○		○		
SK1189	弥生 III	○												○		○		
SK1192	弥生 III	○	○	○	○									○		○		
SK1193	弥生 III	○												○		○		
SK1194	弥生 III	○							○					○		○		
SH1196	弥生 III	○	○				○	○						○		○		○
SK1198	弥生 III	○																
SK1199	弥生 III	○							○									
SK1200	弥生 III	○												○		○		
SK1204	弥生 III	○			○									○		○		
SK1206	弥生 III	○			○									○		○		
SK1207	弥生 III	○				○												
SK1209	弥生 III	○																
SK1210	弥生 III	○	○															
SK1211	弥生 III	○					○							○		○		○
SK1212	弥生 III	○	○						○	○								
SK1213	弥生 II	○			○													
SK1218	弥生 III	○																
SK1222	弥生 III	○							○									
SK1223	弥生 III	○	○															
SK1226	弥生 III	○																
SD1239	弥生 III	○								○								
SK1241	弥生 III	○																
SD1242	弥生 III	○	○											○		○		
SD1244	弥生 III	○	○			○	○			○								
SD1104	弥生中	○												○				
SK1110	弥生中	○												○				
SK1111	弥生中	○												○				
SD1112	弥生中	○								○				○		○		
SK1114	弥生中	○								○				○		○		
SK1117	弥生中	○								○				○		○		
SK1128	弥生中	○												○				
SK1140	弥生中	○												○				
SK1171	弥生中	○												○				
SK1178	弥生中	○												○				
SK1195	弥生中	○												○				
SK1201	弥生中	○												○				
SK1219	弥生中	○												○				
SK1220	弥生中	○												○				
SK1224	弥生中	○												○				
SK1225	弥生中	○												○				
SK1240	弥生中	○												○				

第8表 弥生時代中期出土遺物一覧表

類される。この中でも細分が可能で以下に示す。

太頸壺は直立気味の頸部から口縁部が大きく外反する資料を壺A 1とする。頸部と体部の2カ所に複帶構成の文様帯がみられるのが一般的である。替田遺跡の資料ではこの文様帯は櫛描直線文で構成されるものが大半で、施文具として二枚貝腹縁を使うものは少ないのが特徴的である。この頸部文様帯が消失し、頸部に沈線の入る資料を壺A 2とした。また、口縁部内面に瘤状突起を貼り付ける資料をBとし、細長い形状の突起を内面の端に貼り付ける資料を壺B 1、突起が丸くやや内側に貼り付けられる資料を壺B 2とした。このほか口縁端部に面を持ち拡張がみられる資料を壺Cとした。さらに器壁が厚く口縁部がやや受け口気味に広がる資料を壺Dとした。

壺A 1はⅡ期の段階ではS H1179出土(33)のように頸部が細く長いが、Ⅲ期に入るとSK1142出土(50)のように頸が太く、短くなる傾向がある。壺A 2・C・DはⅢ-2期から出現する。

広口壺は口縁部が外反しながら大きく開き、口径の大きい資料を壺Eとする。SK1212出土(75)が一般的である。SK1142出土(54)のように太くて長い頸部をもち、口縁部のみ屈曲するように開く資料はあまりみられない。いずれもⅢ-1期の資料であるがⅡ期から存在する。

細頸壺は細い頸部に幅の広い直線文帯を施す壺である。SK1222出土(128)のような単純口縁の壺FとSH1196出土(118)のような受口状口縁の壺Gがある。128の体部はハケ調整の後に複帶構成の直線文を施し、その上に波状文などを重ねる。直線文帯の上下端にはヘラ描沈線文を加え、最後に文様帯の間をヘラミガキしている。第8表の弥生時代中期出土遺物一覧表ではこのような体部文様構成をもつ資料を壺H 1とし、上下端のヘラ描沈線文を省略する資料を壺H 2として示した。壺FはⅡ-2期から出現し、壺GはⅢ期から出現する。また、壺H 1はⅢ-1期から、壺H 2はⅢ-2期からの資料である。

鉢はSK1120出土(30)のような遠賀川系の大形鉢を鉢A、SK1210出土(1102)のような小形の資料を鉢Bとする。鉢Aは弥生時代前期から継続するものでⅢ期までは継続しない。一方、鉢BはⅢ期以降にみられる。

甕はSK1124出土(41)のような口縁部内面にヨコハケ、体部外面にタテハケ、口縁端部に刻み目を施す大和形甕を甕Aとした。Ⅱ期からⅢ期にかけて継続的にみられ、替田遺跡の甕では主体をなす。SK1149出土(70)のように口縁部内面のヨコハケが欠落するものやSH1144出土(68)のように体部内面にまでヨコハケを施すものもみられる。また、口縁部の刻み目は施さないものも数多く、数カ所に押圧が施されるものもみられる。口縁部の屈曲の仕方やその長さ、体部の張り出しなどにより細分は可能であるが煩雑になるためここでは甕Aとして一元化した。甕Bは二枚貝腹縁を施文具とした条痕を施す甕である。替田遺跡の資料ではSK1142出土(55)一点のみである^⑤。SK1142出土資料では壺B 2(53)も頸部文様の施文具は二枚貝腹縁である。

壺、鉢、甕のほかには高杯、蓋がみられる。

弥生時代の遺物について付け加えるならば、これまで替田遺跡では報告例の少なかった伐採・加工用の磨製石斧類が一定量みされることである。

以上、比較的良好な遺構遺物がみられる弥生時代についてのみまとめとした。

【註】

①弥生時代の年代について、従来、弥生時代前期は紀元前3世紀、中期は紀元前1・2世紀、後期は紀元後1・2世紀と考えられていた。最近の研究では北部九州の前期は紀元前8世紀まで、中期は紀元前4世紀まで遡る考え方方が示されている。また、伊勢湾地方に西日本の弥生文化が到達したのは紀元前5世紀頃とされている。今回の替田遺跡の遺構の中心である弥生時代中期は従来の考え方では今から約2200年前から200年の間を前葉・中葉・後葉と3つに分けていくことになる。弥生時代の年代観については今後も研究が進められることであろうが、替田遺跡において年代を与えるのは現状では難しいことである。なお、これらの年代については大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館『弥生はいつから！？－年代研究の最前線－』2007を参考にした。

②三重県埋蔵文化財センター『替田遺跡（第5次～8次）発掘調査報告』2007

③仲見秀雄・谷岡武雄『伊勢湾岸地域の古代条里制』東京堂出版 1979

④上村安生「弥生土器編年概観」『三重県史』資料編 考古1
三重県 2005

⑤小瀬学、石井智大の両氏にご教示いただいた。

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	291-01	弥生土器 甕	G46 SD1104	底6.6	内:ナデ 外:ハケ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	底完存	
2	292-03	須恵器 杯	H45 SD1106	底10.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰N6/	底3/4	
3	292-04	須恵器 杯	I45 SD1102	底12.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	やや密	良	明赤褐2.5YR5/6	底小片	
4	292-05	土師器 皿	I46 SD1102	口10.8 器高1.9	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ナデ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	1/4	
5	291-05	須恵器 杯蓋	L59 包含層	口13.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰白N7/	1/3	
6	291-03	須恵器 杯身	L49 包含層	口11.1 器高4.4	ロクロナデ	密	良	灰白N7/	3/4	
7	291-04	須恵器 杯身	K58 包含層	口13.1	ロクロナデ	密	良	にぶい橙5YR7/3	口1/3	
8	291-06	須恵器 長頸壺	G48 包含層	—	ロクロナデ	密	良	灰白N8/	頸完存	
9	291-02	須恵器 甕	K55-L51・ L57 包含層	口21.0	ロクロナデ	密	良	灰N5/	口1/3	
10	292-01	土師器 高杯	L50 包含層	底8.6	内:ナデ、ヨコナデ 外:ヨコナデ、オサエ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	台2/3	
11	290-01	灰釉陶器 椀	G49 包含層	底8.3	内外:ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y8/1	底1/2	
12	290-04	陶器 山茶椀	I45 包含層	底7.1	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y8/1	底2/3	墨書
13	290-11	土師器 鍋	K57 包含層	—	調整不明	やや粗	良	赤褐5YR4/6	小片	清郷型
14	290-08	陶器 小皿	I45 包含層	口7.7 底4.9 器高1.7	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	灰白7.5Y8/1	完存	
15	290-06	陶器 山茶椀	G49 包含層	底6.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白5Y7/1	底完存	糊般痕
16	290-03	陶器 山茶椀	K59 包含層	底6.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y8/1	底完存	
17	290-02	陶器 山茶椀	H50 包含層	底6.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y8/1	底1/2	
18	290-05	陶器 山茶椀	I45 包含層	底6.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y8/1	底完存	糊般痕
19	290-09	陶器 壺	K61 包含層	底9.1	内:ロクロナデ 外:ケズリ、ナデ、ロクロナデ	密	良	灰白5Y8/1	底1/3	
20	290-07	陶器 山茶椀	L45 包含層	底6.3	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y8/1	底1/2	糊般痕
21	292-07	土製品 土錘	K55 包含層	4.3×1.4 重さ6.40g	ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/2	完存	黒斑あり
22	292-08	土製品 土錘	L58 包含層	5.2×1.5 重さ9.20g	ナデ	密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	黄橙7.5YR7/8	完存	
23	292-06	土製品 土錘	I49 包含層	5.9×1.6 重さ13.40g	ナデ	やや密	良	灰黄2.5Y7/2	ほぼ完存	
24	293-01	泥人形	H46 包含層	—	—	密	良	灰白7.5YR8/1	一部欠損	
25	138-01	弥生土器 甕	J35 SK1120	底6.8	内:ナデ 外:ミガキ、キザミ突帯文	粗	良	橙7.5YR7/6	底完存	体部焼成後穿孔1
26	168-02	弥生土器 甕	J35 SK1120	底6.0	調整不明	粗	良	灰白2.5Y8/1	底完存	
27	139-02	弥生土器 甕	J35 SK1120	底7.0~8.0	内:剥離 外:ハケ、ミガキ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	底完存	ハケ8~9本/cm 黒変
28	166-01	弥生土器 甕	J35 SK1120	口25.8	口:ハケ、キザミ 内:摩耗 外:ハケ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR6/4	口1/2	
29	168-04	弥生土器 甕	J35 SK1120	底4.5	内:ハケ 外:ハケ、ナデ	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	橙2.5YR7/6	底ほぼ完存	ハケ7本/cm
30	139-01	弥生土器 大形鉢	J35 SK1120	口47.6	口:ヨコナデ 内:ハケ、工具ナデ 外:ナデ、ハケ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口1/2	ハケ7本/cm 外面スス付着
31	140-01	弥生土器 壺	J35 SK1120	底18.8	内:ナデ、一部ハケ 外:ハケ	粗	良	橙2.5Y6/6	底3/8	一部黒変
32	168-03	弥生土器 壺	N38 SK1131	口16.6	ヨコナデ、ハケ	粗	良	黄灰2.5Y6/1	口7/8	
33	158-02	弥生土器 壺	SH1179	口17.0	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:ハケ、櫛描直線文、ミガキ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/6	ハケ8本/cm 直線文8本/単位
34	158-03	弥生土器 壺	SH1179	底5.5	内:調整不明 外:ハケ	やや密	良	浅黄橙10YR8/4	底完存	ハケ5~6本/cm
35	158-01	弥生土器 甕	S45 SH1179	口20.3	口:ヨコナデ 内:ハケ、オサエ 外:ハケ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/4	口1/4	ハケ5~6本/cm
36	158-04	弥生土器 甕	S45 SH1179	底6.0	内:オサエ 外:ハケ	粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	底完存	底部焼成後穿孔1 黒変
37	142-01	弥生土器 壺	L38 SK1124	口17.6	口:ヨコナデ 内:ハケ、ナデ、オサエ 外:ハケ、櫛描直線文	粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口3/8	口縁部瘤状突起 内ハケ9本/cm 外ハケ6本/cm 直線文8本/単位
38	141-01	弥生土器 壺	L38 SK1124	底5.7~6.0	内:調整不明 外:ハケ、ミガキ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	底完存	一部黒変
39	141-02	弥生土器 甕	L38 SK1124	口26.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口1/8	黒変
40	133-04	弥生土器 甕	L38 SK1124	口21.8	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ハケ	粗	良	明褐灰7.5YR7/2	口6/12	外面スス付着
41	165-01	弥生土器 甕	K39 SK1124	口23.6 底6.0	口:キザミ、ハケ、ナデ 内:ハケ、ナデ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	黒褐10YR3/1	1/4	底部焼成後穿孔1 ハケ6~8本/cm
42	144-01	弥生土器 甕	J36 SK1125	底7.5	内:ナデ? 外:ハケ、ナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	底完存	内外面スス付着
43	145-02	弥生土器 甕	J37 SK1125	底6.5	内:工具ナデ 外:ハケ、板ナデ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR6/4	底完存	ハケ5本/cm 外面スス付着

第9表 出土遺物観察表（土器）1

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
44	145-01	弥生土器 甕	J36 SK1125	底4.1	調整不明	粗	良	明赤褐5YR5/6	底完存	赤変 報45と同一個体か?
45	145-01	弥生土器 甕	J36 SK1125	口18.6	調整不明、口縁一部キザミ	粗	良	明赤褐5YR5/6	口1/4	報44と同一個体か?
46	180-01	弥生土器 甕	M36 SK1127	底9.7	内:調整不明 外:ミガキ	粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	底ほぼ完存	
47	146-01	弥生土器 甕	M36 SK1127	口20.6	口:ヨコナデ、ハケ、キザミ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/4	口ほぼ完存	外面スス付着 ハケ7本/cm
48	146-02	弥生土器 甕	M36 SK1127	底4.8	内:ナデ 外:ハケ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	底完存	底部焼成後穿孔1
49	143-01	弥生土器 甕	M35 SK1126	口19.9	口:ヨコナデ、ハケ、キザミ 内:オサエ 外:ハケ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/4	ハケ7本/cm
50	126-02	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	口21.4	口:ヨコナデ 内:ハケ、ミガキ、オサエ 外:櫛描直線文、ハケ	粗 ~9.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/6	口1/2	ハケ6本/cm 直線文13本/単位
51	149-01	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	一	内:ハケ、ナデ、オサエ 外:櫛描直線文、ミガキ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR6/4	頸完存	直線文7本/単位
52	148-01	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	底7.2	調整不明	粗	良	橙2.5Y6/8	底完存	
53	125-01	弥生土器 甕	P37 SK1142	口19.0	口:ヨコナデ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ後二枚貝による直線文、ナデ、ミガキ	粗 ~5.5mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/2	口縁部瘤状突起 直線文13本/単位
54	221-01	弥生土器 甕	PQ37 SK1142 No6	口37.0	口:キザミ 内外:調整不明	粗 ~8.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	口1/2	
55	171-01	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	口28.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ後貝殻条痕	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰褐7.5YR6/2	口1/3	ハケ3本/cm
56	220-03	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	口20.0	口:キザミ 内:ナデ 外:調整不明	粗 ~3.5mmの砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	口1/3	
57	147-02	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	口24.1	口:ヨコナデ、ハケ、キザミ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ	粗	良	橙5YR7/6	口1/4	ハケ5本/cm
58	147-01	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	口26.8	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや粗	良	明褐7.5YR5/6	口1/4	ハケ6本/cm 外面スス付着
59	126-01	弥生土器 甕	PQ37 SK1142	底6.0	内:調整不明 外:ハケ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	底完存	
60	133-03	弥生土器 甕	O38 SK1143	口18.0	口:ナデ、刺突文 内:ハケ、ナデ 外:ハケ、ナデ、櫛描直線文	粗	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/2	口縁部瘤状突起 ハケ6本/cm 直線文4本/cm
61	219-01	弥生土器 甕	O38 SK1143	口21.4	口:調整不明 内:調整不明、一部オサエ 外:櫛描直線文	粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	口1/4	口縁部瘤状突起 直線文4本/cm
62	219-02	弥生土器 甕	O38 SK1143	底6.5	内:調整不明 外:ハケ、ミガキ	粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	底完存	ハケ6本/cm
63	219-05	弥生土器 甕	O38 SK1143	口24.0	口:ハケ、キザミ 内:調整不明 外:ハケ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR5/3	口1/4	ハケ5本/cm
64	219-03	弥生土器 甕	O38 SK1143	底6.3	調整不明	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	褐灰5YR4/1	底完存	底部焼成後穿孔1
65	222-01	弥生土器 甕	SK1144	口14.0	口:ナデ 内:ナデ、調整不明 外:櫛描直線文、調整不明	粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口ほぼ完存	報66と同一個体か?
66	222-02	弥生土器 甕	SK1144	底5.4	調整不明	粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	底1/2	報65と同一個体か?
67	234-01	弥生土器 甕	SK1144	底7.2	内:ハケ、オサエ 外:ハケ	粗 ~6.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/6	底1/4	外面スス付着
68	238-01	弥生土器 甕	P40 SK1144	口21.0 底6.1 器高18.5	口:ヨコナデ 内外:ハケ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/6	4/5	内ハケ5~6本/cm 外ハケ6本/cm
69	242-01	弥生土器 甕	O42 SK1149	口26.3 底6.1	口:ナデ 内:ハケ 外:ハケ、ミガキ、ナデ	粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	底完存	内ハケ11本/cm 外ハケ6本/cm
70	235-01	弥生土器 甕	O43 SK1149	口27.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰褐7.5YR5/2	口1/3	外面スス付着
71	219-04	弥生土器 甕	SK1148	口17.6	口:調整不明 内:ハケ 外:ハケ	粗 ~3.5mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/4	報72と同一個体か? 内ハケ5本/cm 外ハケ7本/cm
72	219-04	弥生土器 甕	SK1148	底6.0	内:ハケ 外:調整不明	粗 ~3.5mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	底完存	報71と同一個体か? 内ハケ7本/cm
73	217-01	弥生土器 甕	O42 SK1146	口29.0	口:キザミ、ハケ、ヨコナデ 内外:ハケ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口ほぼ完存	内ハケ4~5本/cm 外ハケ6本/cm
74	220-04	弥生土器 甕	O41-42 P41-42 SK1146	底7.4	内:ナデ 外:ハケ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰褐7.5YR6/2	底完存	ハケ6~7本/cm 内面炭化物付着
75	229-01	弥生土器 甕	T37-38 SK1212	口34.8	口:キザミ、ナデ、ハケ、ミガキ 内:ナデ、オサエ、摩滅 外:櫛描直線文、ミガキ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	淡橙5YR8/3	口1/4	直線文5本/cm
76	244-02	弥生土器 甕	T37-38 SK1212	口25.7	口:ヨコナデ 内外:ハケ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	褐灰10YR5/1	口2/3	内ハケ6本/cm 外ハケ8本/cm
77	239-01	弥生土器 甕	T37-38 SK1212	口23.4	口:ヨコナデ、キザミ 内:ナデ、ハケ 外:ハケ	やや粗 ~1.5mmの砂粒含む	良	褐灰7.5YR5/1	口7/8	内ハケ5本/cm 外ハケ6本/cm
78	244-01	弥生土器 甕	T37-38 SK1212	口25.0	口:ヨコナデ 内:オサエ 外:ハケ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	褐灰10YR4/1	口1/5	ハケ8本/cm

第10表 出土遺物観察表（土器）2

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
79	243-02	弥生土器 壺	T37・38 SK1210	口32.4	口:キザミ、ハケ 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	口1/4	ハケ4本/cm
80	226-01	弥生土器 壺	T37・38 SK1210	口33.0	口:ヨコナデ、キザミ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ、櫛描直線文	やや粗	良	褐灰10YR4/1	口1/2	直線文3本/cm
81	241-01	弥生土器 壺	T37・38 SK1210	口21.8 底5.2 器高22.9	口:ナデ 内:ナデ、オサエ、工具ナデ 外:ハケ	粗	良	にぶい褐7.5YR5/3	口3/12	底部焼成後穿孔1
82	241-03	弥生土器 壺	T35 SK1210	底5.5	内:ナデ 外:ハケ、ナデ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	淡赤橙2.5YR7/4	底ほぼ完存	ハケ8本/cm
83	241-02	弥生土器 壺	T35 SK1210	底6.0	内:ナデ 外:ハケ、ナデ	粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	底完存	ハケ7本/cm
84	243-01	弥生土器 壺	T35 SK1210	口24.8	口:ヨコナデ、キザミ 内:摩耗 外:ミガキ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	灰褐7.5YR6/2	口1/6	
85	157-03	弥生土器 壺	T39 SK1211	底6.9	内:ハケ 外:ハケ、ミガキ、ナデ	やや密	良	浅黄2.5Y7/3	底完存	内ハケ5本/cm 外ハケ6本/cm
86	157-02	弥生土器 壺	T39 SK1211	口14.4	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	やや粗	良	にぶい黄褐10YR5/3	口1/2	ハケ4本/cm
87	157-01	弥生土器 壺	T39 SK1211	口12.8	口:キザミ、ハケ 内:調整不明 外:櫛描直線文	粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口1/2	直線文7本/cm
88	133-01	弥生土器 壺	M38 SK1134	口22.1	口:ハケ、刺突文 内:ハケ 外:櫛描直線文	粗	良	灰黄褐10YR6/2	口完存	直線文10本/単位 ハケ6~7本/cm 口縁部瘤状突起
89	170-02	弥生土器 壺	O35 SK1138	口16.4	口:ナデ、ハケ、ミガキ 内:ナデ 外:ハケ、ミガキ、刺突文?	やや粗 ~8.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	口3/4	口縁部瘤状突起
90	183-01	弥生土器 壺	SK1223	口20.0	口:ナデ 内外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	口1/3	ハケ5本/cm
91	177-01	弥生土器 壺	T45 SH1184	口26.0	ヨコナデ、ミガキ、波状文、キザミ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/4	
92	176-02	弥生土器 壺	T44 SH1184	底6.5	内:ナデ 外:ナデ、ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	底完存	
93	170-01	弥生土器 壺	O36 SK1136	口33.2	口:キザミ、ハケ、ナデ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/9	ハケ4本/cm
94	231-02	弥生土器 壺	T・U47 SK1187	口23.0	口:ハケ、ナデ 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰褐7.5YR4/2	口1/3	
95	167-01	弥生土器 壺	M38 SK1172 SK1132	口25.5	口:キザミ、ハケ、ヨコナデ 内外:ハケ、ナデ	粗	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/3	ハケ5本/cm 底部焼成後穿孔1
96	176-01	弥生土器 壺	M38 SK1172	底6.6	内:ナデ 外:ナデ、ハケ	粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	褐灰7.5YR4/2	底2/3	底部焼成後穿孔1
97	177-02	弥生土器 壺	R43 SH1173	口20.0	口外:ハケ 内:ナデ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5YR8/2	口1/4	
98	176-03	弥生土器 壺	R43 SH1173	底6.2	内:ナデ、ハケ 外:ミガキ、ナデ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	底完存	
99	173-01	弥生土器 壺	R43 SH1173	口22.6	口:ナデ、キザミ 内外:ハケ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	口1/2	ハケ6本/cm
100	183-05	弥生土器 壺	SK1226	—	ナデ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	小片	
101	233-04	弥生土器 壺	T44 SK1188	口7.0	ナデ、刺突文	やや粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5YR8/2	口完存	
102	233-03	弥生土器 壺	T44 SK1188	底5.2	内:ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~8.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	底2/3	底部焼成後穿孔1
103	232-01	弥生土器 壺	T44 SK1188	口27.8	口:キザミ、ハケ 内:ハケ、オサエ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/6	
104	232-03	弥生土器 壺	T44 SK1188	口12.6	口:ヨコナデ、キザミ、ナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~5.0mmの 砂粒含む	良	黄灰2.5Y4/1	口1/6	ハケ6本/cm
105	153-01	弥生土器 壺	Q35 SK1170	口20.6	ハケ、キザミ、ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口1/6	ハケ8本/cm 外面スス付着
106	228-01	弥生土器 壺	R39 SK1204	口19.8	口:刺突文 内:ナデ 外:ハケ、繩目	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5Y8/2	口1/4	ハケ7~8本/cm
107	228-02	弥生土器 壺	R39 SK1204	口22.8	口内:ナデ 外:ハケ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/6	
108	172-01	弥生土器 壺	O36 SK1139	底5.3	内:ナデ 外:ハケ、ミガキ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	底完存	ハケ5本/0.6cm
109	169-01	弥生土器 壺	O36 SK1139	口19.0	口:キザミ、ナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	口1/2	
110	168-01	弥生土器 壺	PO36 SK1139	口19.0	ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR7/1	口1/3	外面スス付着
111	169-02	弥生土器 壺	O39 SK1139	口28.8	口:ハケ、キザミ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/2	
112	183-04	弥生土器 壺	SK1209	底6.0	内:ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~7.0mmの 砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR6/3	底完存	底部焼成後穿孔1
113	183-02	弥生土器 壺	SK1209	底6.7	ナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	底完存	

第11表 出土遺物観察表（土器）3

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考	
114	183-03	弥生土器 甕	T38・39 SK1220	底4.8	ナデ	粗 ~9.0mmの 砂粒含む	良	明褐色7.5YR7/2	底完存		
115	220-02	弥生土器 高杯	SK1145	底9.5	調整不明	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	浅黃橙10YR8/3	底3/4		
116	156-01	弥生土器 壺	T38 SH1196 Ⅲ層落ち 込み	口20.0	口:ヨコナデ、キザミ、ハケ 内:ナデ、ハケ 外:ハケ	粗 良	橙7.5YR7/6	口1/2	ハケ8~9本/cm		
117	182-02	弥生土器 甕	SH1196	底4.8	調整不明	粗 ~7.0mmの 砂粒含む	良	明赤褐2.5YR5/6	底ほぼ完存		
118	134-01	弥生土器 壺	U38 SH1196	口8.8	内:ハケ、ナデ 外:ハケ、ミガキ	粗 やや不良	にぶい黄橙10YR7/4	2/3			
119	182-01	弥生土器 大形鉢	SH1196	口36.6	口:ヨコナデ 内:摩耗 外:ナデ、摩耗	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	口1/8		
120	155-01	弥生土器 甕	T39 SH1196 Ⅲ層落ち 込み	口21.4	口:ヨコナデ、キザミ、ハケ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 良	にぶい黄橙10YR6/3	口1/4	ハケ9本/cm		
121	156-02	弥生土器 甕	T39 SH1196 Ⅲ層落ち 込み	口23.4	口:ヨコナデ、キザミ、ハケ 内:ナデ、ハケ 外:ハケ	粗 良	にぶい黄橙10YR7/4	口1/4	ハケ6本/cm		
122	181-02	弥生土器 甕	U38 SH1196	口24.8	口:ヨコナデ、キザミ 内:摩耗 外:ハケ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/8	ハケ7本/cm	
123	154-01	弥生土器 甕	T39 SH1196 Ⅲ層落ち 込み	口14.8	調整不明	粗 良	橙7.5YR6/6	口1/2			
124	181-03	弥生土器 甕	U38 SH1196	底4.5	内:ナデ 外:ナデ、ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	底完存	ハケ10本/cm	
125	181-04	弥生土器 甕	U39 SH1196	底4.6	内:ナデ 外:ナデ、ハケ、ヨコナデ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR5/2	底ほぼ完存	ハケ4本/cm	
126	181-01	弥生土器 蓋	T38 SH1196	口4.2	内:調整不明 外:ナデ、ハケ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙2.5Y6/6	口1/2	ハケ15本/cm	
127	154-02	弥生土器 高杯	T39 SH1196 Ⅲ層落ち 込み	口24.6 底7.6	口:ハケ、キザミ、ナデ 内:ミガキ 外:ミガキ、オサエ、キザミ、ナデ	やや粗 良	にぶい黄橙10YR6/4	口1/5			
128	246-01	弥生土器 壺	SK1222 No.1	口10.5 底6.0 器高34.6	口:ハケ 内:オサエ、ナデ 外:櫛描直線文、ハケ、ミガキ、波状文	粗 ~4.5mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	3/5	直線文7本/単位 ハケ7~8本/cm 波状文5~6本/cm	
129	239-02	弥生土器 甕	SK1222 No.2	口20.3	口:キザミ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰褐7.5YR6/2	口1/3	ハケ5本/cm	
130	245-01	弥生土器 甕	SK1222 No.3	口21.6	口:キザミ、ハケ、ナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	口1/4	ハケ5本/cm	
131	133-02	弥生土器 壺	R37 SK1206	口22.0	口:ナデ、刺突文 内:ナデ 外:ハケ、ナデ、縄目	やや粗 良	にぶい黄橙10YR7/4	口1/4			
132	218-02	弥生土器 壺	O42 SK1147	口8.0	内:ナデ 外:縄文	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/2		
133	218-01	弥生土器 壺	O42 SK1147	—	内:ナデ 外:縄文、ミガキ	粗 ~7.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	体2/3		
134	234-02	弥生土器 甕	O42 SK1147	口25.0	口:ヨコナデ、ハケ 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~7.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	口1/3	内面黒斑あり	
135	152-01	弥生土器 甕	Q40 SK1165	口21.8	口:ヨコナデ、ハケ 内:オサエ 外:ハケ、櫛描直線文	粗 良	橙7.5YR6/6	口1/2	直線文4本/単位 ハケ5本/cm 一部黒変		
136	152-03	弥生土器 甕	Q40 SK1165	口18.4	口:ヨコナデ、刺突文 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 良	橙7.5YR6/6	口1/8	ハケ5本/cm		
137	152-02	弥生土器 甕	Q40 SK1165	口9.2	口:ヨコナデ 内:調整不明 外:ナデ、櫛描直線文	粗 良	明赤褐5YR5/8	口完存	直線文5本/単位		
138	227-01	弥生土器 甕	T41・42 SK1189	口17.2 底5.2 器高19.6	口:ヨコナデ 内:外:調整不明、ナデ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	2/3		
139	230-01	弥生土器 壺	S41 SK1200	—	内:摩滅 外:縄文	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黃橙7.5YR8/3	頸3/4		
140	231-01	弥生土器 壺	S43 SK1192	口21.8	口:調整不明 内:ナデ? 外:ハケ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	浅黃橙10YR8/4	口1/4		
141	232-02	弥生土器 甕	S43 SK1192	口20.8	口:波状文、ナデ 内:外:ハケ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/4	ハケ6本/cm	
142	233-02	弥生土器 甕	S42 SK1192	底5.4	内:ナデ 外:ハケ、ナデ	やや密 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	底完存	ハケ6本/cm 底部焼成後穿孔1	
143	233-01	弥生土器 高杯	S42 SK1192	底9.0	内:ナデ 外:オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	底ほぼ完存		
144	151-03	弥生土器 壺	P44 SK1151	口7.3	内:オサエ 外:ハケ	やや粗 良	橙7.5YR6/6	口3/4	ハケ6本/cm		
145	151-01	弥生土器 甕	P44 SK1151	口20.6	口:ヨコナデ、ハケ 内:ナデ? 外:ハケ	粗 良	にぶい黄橙10YR6/4	口3/4	ハケ7~9本/cm		
146	231-03	弥生土器 甕	S41 SK1193	口25.8	口:ナデ、キザミ、ハケ 内:ハケ、ナデ、オサエ 外:ハケ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/4	口1/8		

第12表 出土遺物観察表（土器）4

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
147	188-04	弥生土器 長頸壺	U48 SD1112	口9.0	口内:ナデ 外:櫛描直線文、ミガキ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/4	直線文8本/cm
148	193-05	弥生土器 壺	K42 SD1112 I層	底7.0	内:ハケ 外:ケズリ、ミガキ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	底完存	ハケ5~6本/cm 木葉痕
149	213-04	弥生土器 壺	S35 III層	底8.2	内:工具ナデ 外:ヨコナデ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	底ほぼ完存	木葉痕
150	188-05	弥生土器 甕	S47 SD1112	底7.5	内:ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	底1/2	底に木葉痕
151	212-04	弥生土器 甕	L34 III層	底7.5	内:ハケ、工具ナデ 外:ハケ、ヨコナデ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	底完存	内ハケ6本/cm 外ハケ7本/cm 木葉痕 底部焼成後穿孔1
152	249-04	弥生土器 甕	N44 SD1112 II層	口39.4	口:キザミ、ナデ 内外:ナテ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/10	
153	249-03	弥生土器 甕	O45 SD1112	口37.0	口:ヨコナデ、キザミ、ハケ 内:ハケ 外:ハケ、オサエ	粗 ~8.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR7/1	口1/4	
154	247-01	弥生土器 甕	M43 SD1112	口21.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/1	口5/6	ハケ9本/cm
155	250-01	弥生土器 甕	T48 SD1112	口39.0	口:鋸齒文、キザミ 内:ハケ、ナデ 外:ナデ、ハケ、波状文	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口2/12	
156	210-02	弥生土器 壺	O36 III層	—	内:ナデ 外:流水文	粗	良	浅黄橙10YR8/3	小片	
157	284-02	弥生土器 壺	O44 III層遺構 面	口19.0	口:刺突文 内:ミガキ、ナデ 外:ハケ、櫛描直線文	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口1/6	ハケ7本/cm 直線文7本/単位
158	209-01	弥生土器 壺	T36 III層	口18.8	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	口1/2	
159	213-02	弥生土器 壺	P33 III層	口15.8	口:刺突文、ハケ、ナデ 内:ナデ 外:ハケ、ヘラ描直線文	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口1/6	ヘラ描き直線文3本/cm
160	216-01	弥生土器 甕	M34 III層	口37.2	口:ハケ、ナデ 内:ナデ 外:ハケ、貼付けナデ	やや粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/4	
161	284-03	弥生土器 甕	P38 III層遺構 面	口34.0	口:キザミ、波状文、ナデ 内:ハケ、波状文 外:キザミ、ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	淡橙5YR8/3	口1/6	ハケ3本/cm 波状文6本/cm
162	214-02	弥生土器 甕	T36 III層	口25.6	口:キザミ、ハケ、ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	粗 ~4.5mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口1/8	ハケ5本/cm 口縁部スス付着
163	210-01	弥生土器 甕	O36 III層	口26.4	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/10	
164	284-01	弥生土器 甕	T39 III層落ち 込み	口22.0	口:キザミ 内外:調整不明	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	灰褐7.5YR6/2	口1/2	
165	215-01	弥生土器 甕	L33 III層	口29.4	口:キザミ、ハケ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/6	ハケ4本/cm
166	155-02	弥生土器 甕	T39 III層土坑 埋土	口21.5	口:キザミ 内外:ハケ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/3	ハケ3~4本/cm 赤変
167	273-01	弥生土器 甕	T34 III層	口22.6	口:キザミ、ハケ、ナデ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR5/3	口1/2	ハケ5本/cm
168	212-01	弥生土器 甕	K35 III層	口22.9	調整不明	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	口1/8	底部焼成後穿孔1
169	286-01	弥生土器 甕	T34 III層	口25.0	口:キザミ、ナデ、波状文 内:ナデ 外:波状文	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい赤橙10R6/4	口1/4	波状文5本/cm
170	273-02	弥生土器 甕	O36 III層	口30.9	口:キザミ 内外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口1/2	口縁部浮文
171	282-01	弥生土器 甕	N40 包含層	口20.0	調整不明	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	口1/4	口縁部浮文
172	275-01	弥生土器 甕	N42 包含層	底6.1	内:摩耗のため調整不明 外:櫛描直線文、刺突文	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	底完存	直線文5本/cm
173	283-01	弥生土器 甕	N42 包含層	底6.8	内:ナデ、ハケ、ミガキ、オサエ 外:ミガキ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	底完存	
174	280-01	弥生土器 甕	I39 包含層	口29.8	口:ヨコナデ、キザミ 内外:調整不明	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	口1/7	
175	282-05	弥生土器 高杯	P44 包含層	底9.0	内:ナデ、ハケ 外:ハケ、ヨコナデ、キザミ、ミガキ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	台完存	
176	137-01	土師器 壺	P43 SE1150	口18.0 底7.3 器高18.0	口:ナデ 内:ナデ 外:ハケ、櫛描直線文、波状文	やや粗	良	灰白7.5YR8/2	1/2	ハケ9本/cm 直線文11本/cm
177	128-01	土師器 壺	P43 SE1150	底8.9	内:ナデ、ハケ 外:ハケ、櫛描直線文、ミガキ、ナデ、波状文	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	胴完存	ハケ7本/cm 直線文6本/cm
178	129-01	土師器 壺	P43 SE1150	口13.8 底6.7 器高23.7	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ、ハケ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	体完存	
179	131-01	土師器 壺	P43 SE1150	底6.5~7.0	摩耗はげしく調整不明	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5YR8/2	胴完存	黒変 体部焼成後穿孔1
180	171-02	土師器 小形鉢	P43 SE1150	口9.3	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ナデ、ケズリ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	2/3	

第13表 出土遺物観察表（土器）5

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
181	225-02	土師器壺	P43 SE1150	—	内:調整不明、ナデ 外:調整不明、ミガキ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	体完存	
182	178-01	土師器壺	P43 SE1150	口13.5 底7.0 器高21.6	調整不明	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	1/2	
183	132-01	土師器壺	P43 SE1150	口14.0 底4.9 器高25.2	摩耗はげしく調整不明	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	胴完存	
184	150-01	土師器壺	P43 SE1150	口11.8 底3.7 器高17.7	調整不明	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/4	4/5	
185	127-01	土師器甕	P43 SE1150	口18.8 底5.2 器高20.5	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙2.5YR6/6	9/12	
186	236-01	土師器台付甕	P43 SE1150	口13.6	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/4	ハケ5本/cm 外面スス付着
187	130-01	土師器台付甕	P43 SE1150	口13.6 底9.3 器高22.3	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	2/3	外面スス付着
188	225-01	土師器台付甕	P43 SE1150	口15.5	口:ヨコナデ、ナデ、オサエ 内:ナデ 外:櫛描直線文、ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR7/1	口3/5	ハケ5本/cm 直線文11本/2.3cm
189	135-02	土師器台付甕	P43 SE1150	口12.0 底8.2 器高20.0	口内:剥離のため調整不明 外:ナデ、ハケ	密 細砂粒	やや不良	にぶい黄橙10YR6/4	9/12	ハケ8本/cm
190	179-01	土師器台付甕	P43 SE1150	口12.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口ほぼ完存	ハケ6~7本/cm
191	223-01	土師器台付甕	P43 SE1150	口18.0	口:ヨコナデ 内:オサエ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口1/2	ハケ4~5本/cm
192	174-01	土師器台付甕	P43 SE1150	口16.9	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	口1/4	ハケ5~6本/cm
193	224-01	土師器台付甕	P43 SE1150	口13.2	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/2	ハケ4~5本/cm
194	225-03	土師器台付甕	P43 SE1150	口13.0	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ、櫛描直線文	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口3/4	ハケ6~8本/cm 直線文9本/1.5cm
195	164-03	土師器台付甕	P43 SE1150	底6.0	内:工具ナデ、ナデ、オサエ 外:ナデ、ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰褐7.5YR5/2	台3/4	ハケ7本/cm
196	172-02	土師器台付甕	P43 SE1150	底8.6	内:ナデ、オサエ 外:ハケ	粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	底完存	ハケ6本/cm
197	164-01	土師器台付甕	P43 SE1150	底14.0	内:ナデ、オサエ 外:ハケ、ナデ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい赤褐5YR5/3	台3/4	ハケ6本/cm
198	175-02	土師器台付甕	P43 SE1150	口6.7 底4.5 器高11.7	口:ナデ 内:ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/1	2/3	ハケ7本/cm
199	135-01	土師器器台	P42 SE1150	口20.4	剥離のため調整不明	密	良	橙7.5YR6/6	7/12	3方透孔
200	164-04	土師器小形器台	P43 SE1150	口13.8	調整不明	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	口1/3	
201	171-03	土師器小形器台	P43 SE1150	底15.5	調整不明	粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	脚4/5	3方透孔
202	164-02	土師器小形器台	P43 SE1150	口10.0	調整不明、ミガキ	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	1/3	3方透孔
203	175-01	土師器高杯	P43 SE1150	口9.2	口:ナデ 内:オサエ、工具ナデ 外:ハケ、ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	1/3	3方透孔
204	279-01	土師器壺	J37 Ⅲ層	口12.0	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ナデ	やや粗	良	灰褐7.5YR6/2	2/3	
205	267-02	土師器壺	M33 Ⅲ層土器 集中部	底5.6	内:ナデ 外:ミガキ、ナデ	やや密	良	橙5YR7/6	底完存	
206	257-01	土師器壺	T48 Ⅲ層溝上	口18.5	調整不明	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	1/2	
207	264-01	土師器壺	M33 Ⅲ層土器 集中部	底7.4	内:ナデ 外:ナデ、ハケ	やや粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	底完存	
208	265-03	土師器壺	K33 Ⅲ層土器 集中部	口17.6	口:ヨコナデ、ハケ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	口2/3	
209	212-02	土師器壺	K37 Ⅲ層	口16.4	口:ヨコナデ 内:ミガキ、ナデ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/8	
210	214-01	土師器壺	T35 Ⅲ層	口19.0	口:ヨコナデ 内:羽状文、ヨコナデ、ナデ、オサエ 外:羽状文、ヨコナデ、ハケ	粗 ~6.5mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口ほぼ完存	ハケ6本/cm
211	272-01	土師器小形丸底壺	K34 Ⅲ層	口8.7 器高8.7	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	4/5	
212	265-02	土師器小形丸底壺	K33 Ⅲ層土器 集中部	口10.4 器高8.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ケズリ、ナデ	やや密 ~4.0mmの 砂粒含む	良	褐灰7.5YR6/1	ほぼ完存	
213	272-02	土師器小形丸底壺	G40 Ⅲ層 (排水溝)	口6.9 底4.3 器高7.3	口:ヨコナデ 内:ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	体完存	
214	272-03	土師器小形丸底壺	I37 Ⅲ層	—	オサエ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	1/2	

第14表 出土遺物観察表（土器）6

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
215	272-04	土師器 小形丸底壺	L34 III層	口19.4 器高8.1	口内:ナデ 外:ケズリ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	1/2	
216	285-04	手捏ね土器	S38 III層落ち 込み	口4.0 器高2.5	オサエ、ナデ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	ほぼ完存	
217	213-01	土師器 台付甕	L35 III層	口11.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙2.5YR6/4	口1/2	内外面スス付着 ハケ5本/cm
218	265-04	土師器 台付甕	M33 III層土器 集中部	口19.6	口内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	淡黄2.5Y8/3	口1/6	
219	278-03	土師器 高杯	K33 III層	口22.0 底14.0 器高22.5	口:ヨコナデ 内:ミガキ、ハケ 外:ミガキ、櫛描直線文、ナデ	やや密	良	にぶい褐7.5YR6/3	脚ほぼ完存	3方透孔 ハケ8本/cm 直線文3~4本/cm
220	260-01	土師器 高杯	K33 III層土器 集中部	口24.1 底12.1 器高16.4	口:ヨコナデ 内:ミガキ、ナデ、オサエ 外:ミガキ、ケズリ、ヨコナデ	密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	4/5	3方透孔
221	263-02	土師器 高杯	M33 III層土器 集中部	底13.4	内外:ミガキ、ナデ	やや密	良	橙5YR7/6	脚2/3	4方透孔
222	270-01	土師器 高杯	M33 III層土器 集中部	底11.2	内外:ミガキ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	脚完存	3方透孔
223	267-04	土師器 高杯	K33 III層土器 集中部	—	内:ミガキ、ケズリ 外:ミガキ	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	脚柱完存	3方透孔
224	285-01	土師器 高杯	J33 III層上部	口16.6	調整不明	やや粗	良	にぶい橙7.5YR7/3	杯完存	
225	272-05	土師器 高杯	S38 III層	—	内:ミガキ、ケズリ 外:ミガキ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	脚柱1/2	3方透孔
226	261-01	土師器 高杯	R40 III層土器 一括	口20.9	ミガキ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	杯3/4	
227	269-01	土師器 高杯	J33 III層土器 集中部	口19.3 底10.8 器高12.2	調整不明	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	3/4	3方透孔
228	266-01	土師器 高杯	M33 III層土器 集中部	底14.7	内:ナデ 外:ミガキ	やや粗	良	橙5YR6/6	底3/4	3方透孔
229	269-04	土師器 高杯	L33 III層土器 集中部	底11.4	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	脚2/3	
230	270-04	土師器 高杯	M33 III層土器 集中部	底13.3	内外:ナデ、ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	脚1/2	3方透孔
231	262-01	土師器 高杯	M33 III層土器 集中部	底12.0	内:ミガキ、ナデ 外:ミガキ	やや密	良	淡橙5YR8/4	脚3/4	3方透孔
232	267-03	土師器 高杯	K33 III層土器 集中部	口11.8 底8.0 器高8.3	口外:ミガキ 内:ミガキ、ヨコナデ	やや粗	良	橙5YR7/6	3/4	3方透孔
233	260-02	土師器 高杯	M33 III層土器 集中部	底6.0	内:ミガキ、ナデ 外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/8	脚完存	
234	261-02	土師器 高杯	J33 III層土器 集中部	口12.8 底8.4 器高10.1	口外:ミガキ 内:ナデ、ミガキ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	4/5	
235	270-02	土師器 高杯	M33 III層土器 集中部	口12.0 底9.4 器高9.1	調整不明	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	4/5	4方透孔
236	266-04	土師器 器台	M33 III層土器 集中部	口内外:ミガキ	やや密	良	淡赤橙2.5Y7/4	口1/3	3方透孔	
237	271-05	土師器 器台	K35 III層	口8.4	内:調整不明、一部ケズリ 外:ミガキ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	杯ほぼ完存	
238	267-01	土師器 高杯	K33 III層土器 集中部	口21.6	ミガキ	やや粗	良	にぶい橙5YR7/4	杯2/3	
239	260-03	土師器 高杯	K33 III層土器 集中部	—	内:ナデ 外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	1/2	3方透孔
240	268-02	土師器 高杯	T48 III層溝上	口16.6 底11.0 器高14.0	調整不明	やや密 ~5.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	2/3	
241	271-01	土師器 高杯	J37 III層	口17.3 底10.8 器高11.6	口:ナデ 内:ナデ、ヨコナデ 外:ナデ、オサエ、ヨコナデ	やや粗 ~7.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR6/4	4/5	
242	252-03	土師器 甕	T48 SD1112	口17.0	口:ヨコナデ、刺突文 内:ハケ 外:櫛描直線文、ハケ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/4	直線文3~4本/cm
243	195-02	土師器 高杯	H42 SD1112 青灰色層	底10.6	内:ナデ、オサエ 外:ミガキ、ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/3	脚1/2	
244	248-01	土師器 壺	J41 SD1112	口17.0	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/1	口1/2	
245	252-01	土師器 甕	T48 SD1112	口14.3	口:ヨコナデ 内:ケズリ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/4	ハケ6本/cm
246	186-01	土師器 壺	S48 SD1112	口20.0	内:ナデ、羽状文 外:ハケ、羽状文	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	口1/4	
247	194-02	土師器 壺	T48 SD1112	口20.5	内:羽状文 外:羽状文、波状文、ハケ、櫛描直 線文	粗 ~3.5mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	口1/6	ハケ5~6本/cm 波状文11本/単位 直線文10本/cm
248	248-03	土師器 壺	H40 SD1112	口10.6	口:ヨコナデ、ハケ 内:オサエ、ハケ、ナデ 外:ナデ、オサエ、ハケ	やや粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/3	外面スス付着 黒斑あり

第15表 出土遺物観察表（土器） 7

報告番号	実測番号	器種	出土地区 遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
249	193-03	土師器 壺	I42 SD1112 青灰色層	底6.8	内:工具ナデ ハケ、ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/3	台完存	ハケ6~7本/cm
250	187-03	土師器 小形丸底壺	J41 SD1112	口10.0	口:ヨコナデ 内:ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	1/4	外面スス付着
251	132-02	土師器 小形丸底壺	T48 SD1112	口9.8 器高7.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	3/4	ハケ10本/cm
252	187-01	土師器 小形丸底壺	S48 SD1112	—	ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	体4/5	
253	187-06	土師器 小形丸底壺	T48 SD1112	口8.0 器高6.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白10YR7/1	2/3	
254	188-01	土師器 小形丸底壺	K42 SD1112	口6.6 器高7.9	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完存	体部焼成後穿孔1
255	187-05	土師器 小形丸底壺	K42 SD1112	—	ナデ	やや粗 ~1.5mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	体完存	外面スス付着
256	187-02	土師器 小形壺	SD1112	口8.4	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ミガキ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/6	口1/4	
257	188-03	土師器 小形丸底壺	J41 SD1112	口5.4 器高6.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	完存	
258	188-02	土師器 小形丸底壺	J41 SD1112	口4.5 器高6.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや密 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完存	
259	187-04	土師器 小形丸底壺	T48 SD1112	—	内:ナデ、オサエ 外:ナデ	やや粗 ~3.5mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	体完存	
260	253-03	土師器 台付甕	S48 SD1112	口13.3	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口1/4	
261	198-01	土師器 台付甕	H41 SD1112 青灰色層	口18.0	口:ヨコナデ 内:オサエ、工具ナデ 外:ハケ	やや密	良	灰白10YR7/1	口1/2	ハケ3本/cm 外面スス付着
262	253-02	土師器 台付甕	T48 SD1112	口13.6	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/2	
263	252-02	土師器 台付甕	I41 SD1112	口11.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口1/4	ハケ4本/cm
264	253-01	土師器 台付甕	P45 SD1112	口15.2	口:ナデ 内外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	口1/4	
265	248-02	土師器 台付甕	T48 SD1112	底6.5	内:工具ナデ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰褐7.5YR4/2	底ほぼ完存	ハケ4本/cm
266	197-01	土師器 台付甕	H41 SD1112 青灰色層	口18.5 底9.7 器高32.2	口:ヨコナデ 内:工具ナデ ケズリ、ナデ 外:ハケ、ナデ	やや密	良	灰白5Y7/1	3/4	ハケ3本/cm 外面スス付着
267	252-05	土師器 台付甕	P45 SD1112	口12.8	口:ナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/4	ハケ5本/cm
268	249-01	土師器 甕	I41 SD1112	口16.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/6	
269	184-01	土師器 高杯	K42 SD1112	口17.6 底10.8 器高13.4	口:ヨコナデ 内:ナデ、ケズリ 外:ヨコナデ、ナデ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	3/4	脚部欠損
270	184-02	土師器 高杯	S48 SD1112	口19.2	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	杯1/4	
271	195-04	土師器 高杯	T48 SD1112	口18.0	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	1/3	
272	185-03	土師器 高杯	K42 SD1112	口13.8 底8.9 器高9.5	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ヨコナデ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	7/8	
273	195-03	土師器 高杯	K42 SD1112	口15.6	ナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	杯3/4	
274	196-01	土師器 高杯	J41 SD1112	口15.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ヨコナデ、オサエ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	杯完存	
275	184-03	土師器 高杯	K42 SD1112	底10.8	内:シボリ、ナデ、ヨコナデ 外:ナデ、ヨコナデ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	脚4/5	
276	193-06	土師器 高杯	K42 SD1112	口24.3	ヨコナデ、ナデ、ハケ	やや粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR6/3	口1/4	
277	185-02	土師器 高杯	M43 SD1112	口20.4	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	灰黄2.5Y7/2	杯1/4	
278	195-01	土師器 高杯	I42 SD1112 青灰色層	口18.5	口外:ナデ 内:ナデ、オサエ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR6/4	杯3/4	
279	185-01	土師器 高杯	K42 SD1112	口15.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	4/5	
280	185-04	土師器 器台	T48 SD1112	口9.4	口:ヨコナデ 内外:ナデ	粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	杯1/2	
281	196-04	土師器 器台	T48 SD1112	口8.5	口:調整不明 内:ミガキ、オサエ 外:ミガキ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5YR8/2	2/3	3方透孔?
282	196-02	土師器 高杯	J42 SD1112 I層	口12.4 底8.6 器高7.3	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ヨコナデ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5YR8/2	1/2	

第16表 出土遺物観察表（土器）8

報告番号	実測番号	器種	出土地区 遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
283	193-04	土師器 高杯	J42 SD1112 I層	底8.5	調整不明	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰白10Y8/1	脚ほぼ完存	
284	193-01	須恵器 杯蓋	T48 SD1112	口12.8 器高3.7	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	完存	
285	191-02	須恵器 杯身	M44 SD1112 II層	口12.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密 ~6.0mmの 砂粒含む	良	灰N5/	1/5	
286	193-02	須恵器 杯身	T48 SD1112	口12.0 器高5.1	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~4.0mmの 砂粒含む	良	明青灰5PB7/1	ほぼ完存	
287	192-02	須恵器 杯蓋	J42 SD1112 I層	口12.2	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り	密 ~4.0mmの 砂粒含む	良	灰N5/	1/3	
288	190-03	須恵器 杯蓋	J42 SD1112	口12.5 器高3.9	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ	密 ~0.3mmの 砂粒含む	良	灰N6/	3/4	
289	190-05	須恵器 杯蓋	J43 SD1112 I層 褐色層	口14.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白N7/	1/6	
290	191-05	須恵器 杯身	S48 SD1112	口11.3 器高3.7	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り	密	良	灰白N7/	1/2	
291	192-03	須恵器 杯身	SD1112 A層	口13.6 器高4.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白5Y7/1	1/4	
292	192-01	須恵器 杯蓋	O45 SD1112 I層	口13.0 器高3.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	3/4	
293	191-01	須恵器 杯	O45 SD1112 I層	口17.1 底12.2 器高5.9	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ナデ	密	良	灰白5Y7/1	1/4	
294	190-04	須恵器 壺	P46 SD1112 上	—	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ケズリ	密 ~0.5mmの 砂粒含む	良	灰7.5Y4/1	体完存	
295	190-01	須恵器 長頸壺	T48 SD1112	口10.8	ロクロナデ	密 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰5Y6/1	口1/4	
296	259-01	須恵器 甕	J42 SD1112	口23.8 器高39.2	口:ロクロナデ、波状文 内:ナデ 外:タタキ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白N8/	1/2	波状文6本/0.7cm
297	189-01	土師器 杯	M43 SD1112 II層	口12.4 器高2.6	口:ヨコナデ、ミガキ 内:ミガキ 外:オサエ、ナデ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/6	1/4	放射状暗文 螺旋暗文
298	189-04	土師器 杯	L43 SD1112 II層	口14.0 器高3.3	口:ヨコナデ 内外:ナデ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	1/4	
299	189-02	土師器 杯	O45 SD1112 下層	口12.8	口:ヨコナデ、オサエ 内外:ナデ、オサエ	やや粗	良	にぶい橙5YR7/4	1/3	
300	189-03	土師器 皿	M43 SD1112 II層	口16.3	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	1/3	螺旋暗文 スス付着
301	189-05	土師質土器 小皿	J42 SD1112 I層	口10.5 器高2.1	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	2/3	
302	184-04	土師器 高杯	T48 SD1112	—	内:ナデ、ヨコナデ 外:ケズリ、ヨコナデ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3	脚柱完存	面取り12角
303	186-02	土師器 高杯	I41 SD1112	—	内:ナデ 外:ヨコナデ、ケズリ	やや密	良	灰白10YR8/2	脚柱完存	面取り11角
304	248-04	土師器 甕	Q46 SD1112	口11.7	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/4	ハケ4~5本/cm 外面スス付着
305	252-04	土師器 甕	J42 SD1112	口14.0	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや密	良	暗灰黄2.5Y5/2	口1/4	
306	191-04	灰釉陶器 椀	N44 SD1112 II層	口10.6 底5.8 器高3.5	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り	やや粗 ~1.5mmの 砂粒含む	良	素地:灰5Y6/1 釉:灰白10Y7/2	3/4	輪花1
307	191-03	灰釉陶器 皿	J42 SD1112 I層	口12.1 底6.3 器高2.5	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り	密	良	素地:灰白N7/ 釉:灰オーリーブ7.5Y6/2	3/4	
308	203-02	陶器 山茶碗	N44 SD1112 II層	底8.4	内:ナデ 外:ロクロナデ、ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	底1/3	墨書「大大」
309	190-02	陶器 山茶碗	SD1112	口13.3 底6.0 器高4.7	口外:ロクロナデ 内:ロクロナデ、ナデ	粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	1/4	
311	203-04	土製品 土鉢	T38 SD1112	4.0×1.1 重さ4.51g	ナデ	密	良	灰白10YR8/2	ほぼ完存	
312	205-01	土製品 土鉢	O45 SD1112	3.7×1.0 重さ4.42g	ナデ	密	良	灰白5Y8/1	完存	
313	194-01	平瓦	O45 SD1112 I層	—	内:縄目痕 外:布目痕	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	不良	灰白7.5Y8/1		
314	199-01	土師器 甕	P45 SD1115	口24.4	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/6	ハケ5本/cm
315	199-02	須恵器 杯蓋	J35 SD1115	口12.6 器高4.1	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	1/2	
316	199-03	須恵器 杯身	K37 SD1115	口10.3 器高4.1	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	3/4	
317	256-01	須恵器 甕	K37 SD1115	—	内:ロクロナデ、タタキ 外:タタキ、カキメ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	体1/2	
318	254-03	土師器 杯	T33 SD1214	口12.0 器高3.0	調整不明	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	1/3	
319	255-01	須恵器 杯	T33 SD1214	口11.3 器高2.8	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰N6/	1/3	

第17表 出土遺物観察表（土器）9

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
320	255-06	灰釉陶器 椀	Q32 SD1214	底6.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1	底完存	墨書
321	255-04	灰釉陶器 椀	T33 SD1214	口14.0 底7.0 器高3.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1	1/6	
322	255-05	灰釉陶器 椀	Q33 SD1214	口14.4 底6.8 器高4.4	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1	底2/3	墨書
323	255-03	陶器 山茶碗	R34 SD1168	底8.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	やや密	良	灰白2.5Y8/1	底1/3	
324	203-05	土製品 土錐	R38 SD1168	(5.0)×1.2 重さ(6.08g)	ナデ	やや密 ~2.5mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/1	ほぼ完存	
325	247-02	土師器 甌	J33 SD1116	口18.5 器高17.6	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:調整不明	粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	1/2	ハケ9~10本/cm
326	254-02	土師器 甌	O46-47 SD1158	口16.0	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや密	良	灰白10YR8/1	口1/7	ハケ4本/cm
327	254-05	須恵器 杯身	R48 SD1161	口12.0 器高4.5	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ	やや密	良	灰赤10R6/2	ほぼ完存	
328	255-02	須恵器 杯	Q47 SD1161	口11.0 器高3.2	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰N6/	1/4	
329	254-01	土師器 甌	Q47 SD1161	口20.0	口:ヨコナデ、ハケ 内外:ハケ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口1/3	内ハケ5本/cm 外ハケ10本/cm
331	159-02	土師器 皿	S37 SE1202	口8.9 器高2.1	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	3/4	
332	159-04	土師器 皿	S37 SE1202	口9.0 器高1.9	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	2/3	
333	159-03	土師器 皿	S37 SE1202	口8.6 器高1.7	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/4	2/3	
334	136-02	土師器 皿	S37 SE1202	口9.0 器高1.8	ナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完存	
335	159-01	土師器 皿	S37 SE1202	口8.4 器高2.1	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完存	
336	136-03	土師器 杯	T37 SE1202	口15.3 器高3.5	口内:ヨコナデ 外:ナデ、オサエ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3	1/3	
337	159-05	土師器 椀	J37 SE1113	底7.7	内:ハケ 外:オサエ、ナデ	密	良	灰白10YR8/2	底完存	外面スス付着
338	136-06	土師器 甌	T37 SE1202	口19.0	調整不明	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	口1/3	
339	136-01	土師質土器 小皿	S38 SE1202	口10.0 底4.8 器高1.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	やや不良	にぶい黄橙10YR7/4	完存	
340	136-05	灰釉陶器 椀	S37 SE1202	口12.8 底5.4 器高3.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密	良	灰白2.5Y7/1	2/3	
341	136-04	灰釉陶器 椀	T37 SE1202	口16.0 底7.5 器高5.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密	良	灰白10YR8/2	2/3	
342	201-01	弥生土器 甌	S46 Pit8	口14.2 底4.7 器高19.5	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ミガキ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	4/5	
343	200-03	弥生土器 甌	N38 Pit2	底7.4	内:オサエ 外:ナデ?	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	底5/8	底部焼成後穿孔1
344	202-03	弥生土器 甌	I37 Pit3	—	内:ナデ 外:ナデ、ケズリ、刺突文	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/6	体1/3	
345	282-03	土師器 小形丸底甌	I37 Pit3	器高(5.7)	内:ナデ 外:調整不明	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	胴ほぼ完存	
346	200-05	土師器 台付甌	I37 Pit3	口18.0	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ハケ	粗 ~6.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/10	ハケ3本/cm
347	201-03	土師器 台付甌	I38 Pit1	底8.5	内:ナデ、オサエ 外:ハケ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/2	台ほぼ完存	
348	202-01	土師器 高杯	T39 Pit3	底10.0	ナデ	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	脚完存	
349	201-02	土師器 高杯	I37 Pit3	底12.5	調整不明	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	明赤褐2.5YR5/6	脚4/5	
350	200-04	土師器 甌	T37 Pit6	口16.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR6/3	口1/6	ハケ7本/cm 外面スス付着
351	200-01	須恵器 壺	T43 Pit16	口8.1	ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	口3/8	
352	200-02	陶器 山茶碗	T37 Pit2	底8.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	底1/4	
353	202-02	土師器 甌	T37 Pit9	口18.1	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口1/4	ハケ10本/cm 外面スス付着
354	210-03	須恵器 杯蓋	L33 III層	口13.0 器高4.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白5Y7/1	口1/4	
355	209-05	須恵器 杯蓋	N35 III層	口13.5 器高3.7	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	青灰5PB6/1	口1/9	
356	288-02	須恵器 杯身	I24 II III層	口11.9 器高4.5	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	浅黄2.5Y7/3	口1/4	
357	210-04	須恵器 杯身	T44 III層	口10.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白N8/	口1/4	
358	209-04	須恵器 杯身	P34 III層	口10.6 器高3.6	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白5Y7/2	1/2	
359	209-06	須恵器 杯	T43 III層	口12.4 器高4.6	口:ロクロナデ 内:ナデ 外:ヘラ切り後ナデ	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	底完存	

第18表 出土遺物観察表（土器）10

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
360	211-01	須恵器 壺	T43 III層	口16.8	口:ロクロナデ 内:当て具痕 外:カキメ、タタキ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰7.5Y6/1	口1/8	
361	211-02	須恵器 把手	M34 III層	—	内:当て具痕 外:ナデ、カキメ、タタキ	やや密	良	灰黒2.5Y7/2	小片	
362	203-03	縄釉陶器 椀	T38 III層	口13.8	施釉	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口1/12	
363	209-03	灰釉陶器 椀	K36 III層	底6.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕、貼付けナデ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底3/4	
364	203-01	灰釉陶器 椀	K34 III層	底7.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	淡黄2.5Y8/2	底完存	墨書
365	209-02	土師質土器 皿	Q33 III層	口12.6 底5.2 器高3.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/2	
366	208-05	土師器 杯	K35 III層	口13.0 器高5.0	調整不明	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	4/5	
367	208-06	土師器 杯	K35 III層	口13.4 器高4.0	調整不明	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	2/3	
368	208-02	土師器 杯	P36 III層	口12.6 器高3.2	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:オサエ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	淡橙5YR8/3	ほぼ完存	
369	271-02	土師器 杯	K36 III層	口12.6 器高2.7	ナデ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/3	
370	208-03	土師器 杯	U35 III層	口13.0 器高2.7	口:ヨコナデ、ナデ 内:ナデ 外:調整不明	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	1/2	
371	208-07	土師器 杯	P37 III層	口13.0 器高3.0	調整不明	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	4/5	
372	208-04	土師器 杯	P36 III層	口13.0 器高3.1	口:ヨコナデ、ナデ 内:ナデ 外:調整不明	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	1/2	
373	271-03	土師器 杯	L35 III層	口13.0 器高2.9	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/2	
374	265-01	土師器 杯	M33 III層土器 集中部	口12.7 底5.3 器高4.3	口内:ナデ 外:工具ナデ、ナデ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	4/5	
375	213-03	黒色土器 椀	R33 III層	口15.4 底8.0 器高6.9	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:ミガキ、ナデ、貼付けナデ	やや粗 ~2.5mmの砂粒含む	良	内:黒N2/ 外:浅黄橙10YR8/4	3/4	ハケ5本/cm
376	271-04	土師器 皿	K33 III層	口12.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	1/6	内面螺旋暗文
377	208-01	土師器 高杯	K35 III層	口12.1	ナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	口1/6	
378	212-03	土師器 甕	L33 III層	口16.4	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/6	口1/4	ハケ3本/cm
379	288-01	土師器 甕	N33 III層	口17.0	口:ナデ、ハケ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~4.0mmの砂粒含む	良	淡黄2.5Y8/3	口1/6	
380	278-02	土師器 甕	P37 III層	口15.3	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	やや密	良	にぶい橙5YR7/3	口1/4	ハケ7本/cm
381	285-02	土師器 甕	P36 III層遺構 面一括	口18.5	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	口1/5	
382	287-02	土師器 甕	P36 III層	口18.0	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/4	
383	279-02	土師器 甕	Q33 III層	口15.0	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:オサエ、ケズリ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	口1/2	
384	287-01	土師器 甕	T33 III層	口15.8	口:ナデ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ	やや密 ~7.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	口1/4	
385	279-03	土師器 甕	S33 III層	口19.4	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:オサエ、ハケ	やや密	良	淡黄2.5Y8/2	口1/4	
386	204-01	土製品 土錐	R39 III層	4.1×1.7 重さ11.48g	ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ完存	
387	204-02	土製品 土錐	S47 III層	(6.4)×1.7 重さ(17.85g)	ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	ほぼ完存	
388	276-05	須恵器 杯蓋	J34 II層	口13.2	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰N6/	1/6	
389	277-01	土師器 甕	J35 II層	—	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:タタキ、ナデ	やや密	良	にぶい黄2.5Y6/4	口小片	
390	276-02	土師器 甕	L36 II層	口16.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	密	良	にぶい橙5YR7/4	口1/3	
391	276-01	土師器 甕	M33 II層	口25.8	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/12	ハケ8~10本/cm
392	276-03	土師器 羽釜	O33 II層	口32.0	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや粗 ~3.5mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/6	穿孔あり 外面スス付着
393	204-03	土製品 土錐	J34 II層	(4.1)×2.3 重さ(14.85g)	ナデ	密	良	淡黄2.5Y8/4	3/5	
394	281-01	弥生土器 甕	R39 耕作土	口31.4	口:ヨコナデ、キザミ 内外:ハケ	粗 ~8.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/3	
395	274-03	弥生土器 甕	L40 包含層	口16.2	調整不明	粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	口1/3	

第19表 出土遺物観察表（土器）11

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
396	289-01	土師器 台付甕	M41 包含層	口14.3	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密	良	浅黄橙10YR8/4	口3/4	ハケ4本/cm
397	206-01	須恵器 杯身	試掘H Gトレンチ	口11.8 器高3.6	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密 ~5.0mmの砂粒含む	良	青灰5PB5/1	1/4	
398	274-02	須恵器 杯身	O45 包含層	口13.2 器高3.8	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白N8/	1/3	
399	206-03	須恵器 杯身	東トレンチ	口12.8	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	紫灰5P5/1	口1/3	
400	283-02	須恵器 壺	P46 包含層	口10.1	ロクロナデ	密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白N8/	口1/3	
402	282-02	土師器 甕	O46 包含層	口22.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	口1/4	ハケ5本/cm
403	274-01	土師器 甕	N45 包含層	口25.4	口:ヨコナデ 内:調整不明 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	口1/6	ハケ4本/cm
404	275-02	須恵器 杯	O45 包含層	口13.2 器高3.2	口:ロクロナデ 内:ナデ 外:摩耗のため調整不明	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	不良	灰白7.5Y8/1	1/5	
405	281-02	土師器 杯	P45 包含層	口13.0 器高3.7	口:ヨコナデ 内:ナデ	やや密	良	橙5YR7/6	1/3	
406	283-03	土師器 杯	N44 包含層	口12.5 器高3.1	口:ヨコナデ 内:調整不明 外:ミガキ?	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口1/3	放射状暗文
407	206-05	土師器 杯	P36 トレンチ	口12.4	口:ヨコナデ 内:ナデ、カキメ 外:オサエ、ナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	3/4	
408	206-04	土師器 皿	J36 トレンチ	口14.0 器高2.3	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ヘラケズリ	密 ~3.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	1/2	螺旋暗文 放射状暗文
409	280-02	陶器 山茶椀	R41 耕作土	口12.4	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	1/2	墨痕
410	207-03	土製品 土鉢	試掘	重さ10.57g	ナデ	密 ~1.5mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完存	
411	207-04	土製品 鳥形	試掘	重さ57.85g	ナデ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR7/3	ほぼ完存	
412	205-04	土製品 土鉢	耕作土	(9.0)×3.4 重さ(98.70g)	ナデ	密	良	灰白7.5Y8/1	ほぼ完存	
413	207-02	土製品 土鉢	試掘	7.1×3.1 重さ(56.14g)	ナデ	密	良	灰白10YR8/2	3/4	
414	205-05	土製品 土玉	J35 包含層	3.6×3.6 重さ38.76g	ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/3	ほぼ完存	
415	205-02	土製品 土鉢	H41 包含層	6.0×2.1 重さ26.63g	ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完存	
416	204-05	土製品 土鉢	Q45 包含層	(5.6)×1.9 重さ(16.01g)	ナデ	密	良	褐灰10YR6/1	ほぼ完存	
417	044-03	弥生土器 壺	J27 SD1244	口38.0	口:波状文 内:ヨコナデ、オサエ、ナデ	粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/4	波状文8本/1.5cm
418	007-01	弥生土器 壺	N26 SD1244	口20.0	口:ナデ、ヘラ描沈線文 内:ナデ、オサエ、ナデ 外:ハケ、オサエ、ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	口1/8	棒状浮文1個のみ残存 口縁部沈線2本 外面沈線4本
419	043-03	弥生土器 壺	N26 SD1244	口15.8	内:ハケ、ナデ 外:ハケ、ナデ、刺突文	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/4	内:ハケ4本/cm 外:ハケ5本/cm 2個1対の浮文
420	044-02	弥生土器 壺	J28 SD1244	—	ナデ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙2.5YR6/8	小片	口縁部浮文
421	043-01	弥生土器 甕	N26 SD1244	底6.0	ナデ、オサエ	粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	底1/2	
422	007-02	弥生土器 壺	H-I25 SD1239	口17.9	口:ナデ、櫛描波状文、ヘラ描鋸歯文 内:ハケ、ナデ 外:タテハケ、櫛描直線文	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口1/4	直線文11本/単位
423	043-04	弥生土器 甕	K24 SD1239	—	ナデ、ハケ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	小片	
424	043-02	弥生土器 甕	G25 SD1239	—	内:ハケ、オサエ、ナデ 外:ヨコナデ、キザミ、ハケ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	褐灰5YR4/1	小片	
425	051-01	弥生土器 壺	H27 SK1240	底4.4	調整不明、ナデ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	体~底3/5	
426	051-05	弥生土器 甕	H27 SK1240	—	ヨコナデ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR5/3	小片	
427	051-04	弥生土器 壺	I27 SK1241	—	口:ヨコナデ、ナデ、キザミ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	小片	
428	051-03	土師器 台付甕	I28 SK1250	—	ヨコナデ、ナデ、ハケ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	小片	
429	008-01	土師質土器 小皿	口10.5 底5.0 器高3.0	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	軟	灰白10Y8/2	1/3		
430	052-01	土師器 甕	SK1246	口14.8	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:ハケ、オサエ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口1/4	外面スス付着
431	052-02	土師器 甕	SK1246	口16.4	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:工具ナデ、オサエ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5Y8/1	口1/4	
432	051-02	土師器 甕	SK1246	1~4層	ヨコナデ、ナデ、オサエ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	小片	

第20表 出土遺物観察表（土器）12

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
433	052-03	土師器 甕	SK1246	口16.3	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:オサエ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/3	
434	050-05	灰釉陶器 椀	SK1246 1~4層	底5.2	ロクロナデ、糸切り痕	粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	灰白5Y7/1	底4/5	
435	050-03	灰釉陶器 椀	SK1246 1~4層	底7.0	ロクロナデ、ナデ	やや密	良	灰白7.5Y7/1	底ほぼ完存	糊殻痕
436	050-04	灰釉陶器 椀	SK1246 1~4層	底6.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	灰白10Y8/1	底1/2	
437	050-01	灰釉陶器 椀	SK1246	口14.3 底7.1 器高4.6	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰7.5Y6/1	2/3	糊殻痕
438	050-02	陶器 山茶碗	SK1246	口13.6 底7.4 器高5.2	ロクロナデ、ナデ	密	良	灰白7.5Y7/1	1/5	
439	045-04	土師器 蓋	Q24 SD1248	—	ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	つまみのみ	
440	045-01	須恵器 杯身	Q27 SD1248	口13.0	ロクロナデ、ロクロケズリ	密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	口1/12	
441	047-04	須恵器 壺	Q25 SD1248	口15.0	ロクロナデ	密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰N6/	口1/4	
442	047-02	須恵器 甕	Q26 SD1248	口23.0	ロクロナデ	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰白10Y7/1	口1/12	
443	048-02	須恵器 甕	P27 SD1248	口20.2	口:ロクロナデ 内:ナデ 外:タタキ、カキメ	やや粗 ~1.5mmの 砂粒含む	良	にぶい橙2.5YR6/4	口1/12	
444	048-01	須恵器 甕	Q24 SD1248	口25.0	ロクロナデ	密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰5Y6/1	口1/12	
445	047-03	須恵器 壺	Q26 SD1248	底13.2	ロクロナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	底1/4	
446	049-01	須恵器 壺	Q25 SD1248	底15.5	内:ロクロナデ 外:ロクロケズリ	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰7.5Y6/1	底1/4	
447	006-02	手捏土器	Q28 SD1248	口2.4	オサエ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白5Y8/2	完形	
448	045-05	土師器 高杯	Q27 SD1248	—	ナデ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	脚柱1/2	面取り8角
449	046-03	土師器 鍋	Q27 SD1248	—	ナデ、オサエ	粗 ~7.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/8	小片	清郷型
451	047-01	黒色土器 椀	Q26 SD1248	口15.8 底8.4 器高5.4	口:ヨコナデ 内:ハケ、ミガキ 外:オサエ	やや粗 ~1.5mmの 砂粒含む	良	褐灰10YR4/1	1/3	
452	045-02	黒色土器 椀	P26 SD1248	底8.0	内:ミガキ 外:ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/6	底1/2	
453	045-03	黒色土器 椀	Q26 SD1248	底10.0	内:ミガキ 外:ナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	底1/2	
454	046-01	土師器 甕	Q26 SD1248	口14.9	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	淡橙5YR8/3	口1/6	ハケ4本/cm
455	006-04	土師器 甕	P26 SD1248	口14.0	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/3	ハケ6本/cm
456	046-02	土師器 甕	Q27 SD1248	口17.0	口:ヨコナデ 内:ナデ、ハケ 外:ハケ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	口1/4	ハケ5本/cm 外面スス付着
457	048-03	灰釉陶器 椀	P28 SD1248	底6.8	ロクロナデ、糸切り痕	密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白5Y8/1	底完存	
458	048-04	灰釉陶器 椀	P27 SD1248	底7.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白N8/	底1/2	
459	006-05	縁釉陶器 皿	P26 SD1248	口10.9 底6.1 器高1.9	内:ミガキ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰オリーブ7.5Y4/2	1/2	輪花2
460	048-06	灰釉陶器 椀	P27 SD1248	底7.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰白5Y8/1	底完存	
461	048-05	灰釉陶器 椀	P27 SD1248	底8.3	ロクロナデ、糸切り痕	密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白5Y8/1	底1/3	
462	006-01	灰釉陶器 椀	Q26 SD1248	口12.6	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白5Y8/1	2/3	
463	006-06	土製品 土錘	P26 SD1248	4.1×1.1 (4.5)×1.6 重さ4.60 g	ナデ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	ほぼ完存	
464	046-04	土製品 土錘	P28 SD1248	5.5×1.0 (4.5)×1.6 重さ(10.20) g	—	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰N4/	2/3	
465	046-05	土製品 土錘	Q27 SD1248	5.5×1.0 重さ4.20 g	—	密	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完存	
466	006-03	土製品 土玉	P28 SD1248	3.5×3.6 重さ41.00 g	ナデ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5Y8/1	ほぼ完存	
467	020-02	土師器 竈	Q25 SD1248	—	ナデ、ハケ、オサエ	やや密 ~0.5mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	小片	
468	022-04	土師器 甕	Q27 SD1248	—	—	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	小片	

第21表 出土遺物観察表（土器）13

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
470	049-02	丸瓦	Q25 SD1248	—	タタキ、ナデ、布目痕	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰白5Y7/1	—	
471	011-05	弥生土器 壺	J28 SD1236	口7.5	内:ヨコナデ 外:波状文、簾状文、櫛描直線文、 ミガキ	やや粗 微砂粒	良	暗灰N3/	口1/5	直線文7本/cm 波状文8本/cm
472	001-04	弥生土器 壺	C M29 SD1236 上層	口10.2	口:ヨコナデ、貝殻刺突文 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	口1/2	ハケ17本/cm 浮文
473	010-05	弥生土器 甕	J28 SD1236	底6.2	ナデ	粗 ~2.5mmの 砂粒多く含 む	良	赤橙10R6/6 黄灰2.5Y6/1	底完存	
474	026-03	弥生土器 甕	T28 SD1236 3層	底5.1	オサエ、ナデ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	オリーブ黒5Y2/2	底完存	底部焼成後穿孔1
475	024-04	弥生土器 甕	T28 SD1236 3層 土器群2	底4.0	内:工具ナデ 外:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底1/2	
476	011-07	弥生土器 甕	SD1236	—	口:キザミ 内外:ハケ	粗 ~1.5mmの 砂粒多く含 む	良	褐灰10YR4/1	小片	
477	011-06	土師器 甕	I28 SD1236	—	内外:ヨコナデ、ハケ	やや粗	良	灰白2.5Y7/1	小片	
478	009-07	弥生土器 甕	J28 SD1236	口16.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ、キザミ	やや密	良	灰白7.5YR8/1	口1/6	ハケ3本/cm 外面スス付着
479	036-02	土師器 壺	T30 SD1236 東壁レンチ	口16.2	内:ナデ、ミガキ 外:キザミ、ミガキ、櫛描直線文	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	口1/4	
480	034-01	土師器 壺	T30 SD1236 東壁レンチ	口15.0	内:ナデ、ケズリ 外:キザミ、ミガキ、オサエ、ナデ	やや密 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/2	
481	023-01	土師器 壺	T28 SD1236 2層 土器群1	口18.3	ヨコナデ、ナデ	粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR5/2	口1/3	
482	027-03	土師器 壺	T29 SD1236 3層 土器群2	口16.1	内:ヨコナデ、ナデ 外:刺突文、ヨコナデ、ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	口縁ほぼ完存	ハケ10本/cm
483	001-01	土師器 壺	C J28 SD1236	口16.5	口:ヨコナデ、羽状文 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~7.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口5/6	ハケ9~10本/cm 朱塗り
484	023-02	土師器 壺	T28 SD1236 2層 土器群1	—	内:ミガキ 外:ヨコナデ、ミガキ、刺突文	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	頬完存	
485	011-04	土師器 壺	J28 SD1236	口20.5	内:ヨコナデ、羽状文 外:ハケ、オサエ、ナデ	やや粗 細砂粒	良	淡橙5YR8/3	口1/7	ハケ8本/cm
486	027-02	土師器 壺	T29 SD1236 3層 土器群2	口22.2	内外:ミガキ、ヨコナデ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	口2/3	
487	003-03	土師器 壺	T28 SD1236 3層	口24.3	口内:ミガキ、ヨコナデ 外:ミガキ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰黄2.5Y7/2	口1/3	
488	036-01	土師器 壺	T29 SD1236	口23.8	摩耗はげしく調整不明	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	口1/2	
489	030-01	土師器 壺	S28 SD1236 粗砂	口18.6	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	口1/4	ハケ10本/cm
490	034-02	土師器 壺	T29 SD1236	口13.9	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ミガキ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口1/6	
491	027-01	土師器 壺	T29 SD1236 3層 土器群2	口18.0	内:ヨコナデ、羽状文 外:ヨコナデ、羽状文、ハケ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口3/4	ハケ8本/cm
492	041-03	弥生土器 甕	K27 SD1236	口23.2	内:調整不明 外:ヨコナデ、羽状文、ハケ	粗 ~3.5mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	口1/6	
493	031-01	土師器 壺	T28 SD1236 粗砂	底7.0	内:ナデ、ハケ、板ナデ 外:ハケ、ケズリ	やや粗 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR5/2	底完存	
494	031-02	土師器 壺	S28 SD1236 粗砂	底5.8	内:ナデ 外:ハケ、工具ナデ	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/1	底完存	
495	030-05	土師器 壺	S28 SD1236 粗砂	底6.9	内:調整不明 外:ナデ、ミガキ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	底完存	
496	028-01	土師器 壺	T28 SD1236 3層 土器群3	底7.6	ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	底完存	
497	024-02	土師器 壺	T28 SD1236 3層 土器群2	底7.0	内:ハケ 外:ナデ	粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5Y8/3	底完存	
498	030-04	土師器 壺	S28 SD1236 粗砂	底6.2	内:ナデ 外:調整不明	粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	底完存	
499	030-03	土師器 壺	S28 SD1236 粗砂	底7.2	内:ナデ 外:ミガキ、オサエ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	暗灰N3/	底3/4	

第22表 出土遺物観察表（土器）14

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
500	028-02	土師器 壺	T28 SD1236 3層 土器群3	底6.3	内:工具ナデ、オサエ 外:オサエ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	底3/4	
501	032-01	土師器 壺	S28 SD1236 粗砂	口17.1	口:ヨコナデ 内外:ミガキ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口1/6	
502	021-03	土師器 壺	T28 SD1236 1層	口12.2	口:ヨコナデ 内外:ミガキ	やや密 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰黄2.5Y6/2	口1/2	
503	005-02	土師器 小形壺	T28 SD1236	口8.7	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口完存	
504	024-05	土師器 小形丸底壺	T28 SD1236 3層 土器群2	口11.0	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/1	口1/6	
505	010-07	手掘土器	J29 SD1236	頸8.1	ナデ、オサエ	やや密 微砂粒	良	灰白2.5Y8/2	頸1/3	
506	025-02	土師器 小形丸底壺	SD1236 3層 土器群2	口9.8 底3.0 器高7.5	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/6	
507	002-02	土師器 小形壺	C T28 SD1236 II層 土器群1	口6.1 底2.4 器高6.4	口:ミガキ、ナデ 内:ナデ、オサエ 外:ミガキ、ナデ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR6/4	ほぼ完存	
508	005-01	土師器 小形丸底壺	T28 SD1236	口9.1 器高6.9	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、ケズリ	やや粗	良	橙7.5YR6/6	完存	
509	032-08	土師器 小形丸底壺	S28 SD1236 粗砂	—	内:ナデ 外:ナデ、ケズリ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/3	底ほぼ完存	
510	010-08	土師器 ミニチュア土器	M28 SD1236	口6.8 底3.2 器高6.8	ナデ、オサエ	やや粗 ~1.5mmの 砂粒多く含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	ほぼ完存	外面スス付着
511	032-06	土師器 ミニチュア土器	T28 SD1236 粗砂	口8.0	内外:オサエ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	2/3	外面スス付着
512	024-03	土師器 ミニチュア土器	T28 SD1236 3層	底4.6	ナデ、オサエ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	黄灰2.5Y6/1	底完存	
513	032-07	土師器 ミニチュア土器	T28 SD1236 粗砂	底5.0	内外:オサエ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底3/4	
514	023-06	土師器 ミニチュア土器	T29 SD1236 2層 土器群1	口5.2 器高3.8	オサエ、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完存	
515	010-06	土師器 ミニチュア土器	J28 SD1236	口3.2 器高4.2	ナデ、オサエ	やや密 微砂粒	良	浅黄橙10YR8/4	1/2	
516	003-01	土師器 高杯	C T28 SD1236 III層 土器群2	口24.1 底14.1 器高15.3	口:ミガキ、ヨコナデ 内:ミガキ、ナデ、ケズリ、ヨコナデ 外:ミガキ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰黄2.5Y7/2	5/6	3方透孔
517	004-01	土師器 高杯	T28 SD1236 粗砂	口15.8	口:ミガキ 内外:ミガキ、ケズリ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	2/3	3方透孔
518	032-03	土師器 高杯	S28 SD1236 粗砂	口13.8	口:ナデ 内外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	杯1/4	
519	034-04	土師器 高杯	T30 SD1236 東壁トレンチ	口13.4	口:ヨコナデ 内外:ミガキ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/4	
520	023-05	土師器 高杯	T28 SD1236 2層 土器群1	口13.6	口:ヨコナデ 内外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口1/8	
521	032-02	土師器 高杯	T28 SD1236 粗砂	口14.0	口:ナデ 内外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/1	杯1/3	
522	035-04	土師器 高杯	T30 SD1236 東壁トレンチ	底12.1	内:工具ナデ 外:ミガキ、ナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	脚2/3	3方透孔
523	033-02	土師器 高杯	S28 SD1236 粗砂	底13.0	内:ハケ 外:ミガキ、ヨコナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5YR8/2	脚1/6	3方透孔
524	035-02	土師器 高杯	T29 SD1236	底11.6	内外:工具ナデ、ナデ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	脚1/2	3方透孔
525	025-06	土師器 高杯	T28 SD1236 3層 土器群2	底10.6	ナデ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	脚1/5	3方透孔
526	026-01	土師器 高杯	S28 SD1236 3層	底10.8	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	良	灰黄2.5Y6/2	脚1/2	3方透孔
527	033-07	土師器 高杯	S28 SD1236 粗砂	底10.2	内:ハケ、ケズリ 外:ミガキ、ナデ	やや密	良	褐灰5YR5/1	底1/4	透孔1 ハケ8本/cm
528	010-01	土師器 高杯	SD1236	底11.7	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	良	にぶい黄橙10YR3/6	脚1/4	3方透孔
529	033-01	土師器 高杯	S28 SD1236 粗砂	底16.0	内:ケズリ、ナデ 外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5Y8/2	底1/6	3方透孔
530	005-03	土師器 脚付杯	U28 SD1236	口6.5	口:ヨコナデ 内:ナデ、ケズリ 外:ナデ、ミガキ	密	良	灰白10YR8/2	4/5	

第23表 出土遺物観察表（土器）15

報告番号	実測番号	器種	出土地区 遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
531	032-05	土師器 器台	S28 SD1236 粗砂	口9.7	口:ナデ 内外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	淡黄5YR8/4	杯1/3	
532	001-02	土師器 器台	C J28 SD1236	口8.4	口:ヨコナデ、ミガキ 内:ナデ、ヨコナデ 外:ナデ、ミガキ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/4	
533	025-04	土師器 高杯	T29 SD1236 3層 土器群2	底7.6	内:ナデ 外:ハケ、ミガキ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	脚ほぼ完存	
534	035-03	土師器 高杯	T30 SD1236 東壁トレンチ	底7.6	内:ナデ 外:ナデ、ミガキ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	脚4/5	
535	024-06	土師器 椀	T28 SD1236 3層	口10.0	内外:ミガキ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/6	
536	033-03	土師器 壺	S28 SD1236 粗砂	口12.2	内外:ミガキ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/4	
537	021-01	土師器 高杯	S28 SD1236	口19.4	口:ヨコナデ 内:ミガキ 外:オサエ、調整不明	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	杯1/2	
538	026-04	土師器 高杯	S28 SD1236 3層	—	内:ナデ 外:ミガキ、ナデ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄2.5Y7/3	脚柱完存	
539	035-01	土師器 高杯	U29 SD1236	底10.9	内:工具ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	脚1/2	
540	010-02	土師器 高杯	G28 SD1236	底11.0	内:ハケ、ナデ 外:ナデ	やや密 ~1.0mmの 砂粒多く含む	良	灰白2.5Y7/1	脚1/3	
541	005-04	土師器 小形丸底鉢	T28 SD1236 東壁トレンチ	口13.2	口:ナデ 内:ナデ 外:ケズリ	やや密	不良	橙5YR7/6	口3/4	
542	023-03	土師器 台付甕	T28 SD1236 2層 土器群1	口16.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	口1/6	ハケ5本/cm
543	004-02	土師器 台付甕	S28 SD1236 粗砂	口13.6	口:ナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口1/6	内ハケ10本/cm 外ハケ6本/cm
544	009-06	土師器 台付甕	J28 SD1236	口10.0	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ハケ	やや密	良	灰白10YR8/1	口1/3	ハケ9本/cm
545	003-02	土師器 台付甕	C S29 SD1236 1層3層	口14.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口2/3	ハケ6本/cm 外面スス付着
546	024-01	土師器 台付甕	S28 SD1236 3層	口15.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰5Y4/1	口3/4	ハケ3本/cm
547	034-03	土師器 台付甕	T30 SD1236 東壁トレンチ	口17.0	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/4	
548	021-05	土師器 台付甕	T28 SD1236 1層	口15.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR4/2	口1/4	ハケ5本/cm
549	021-04	土師器 台付甕	T28 SD1236 1層	口14.2	口:ヨコナデ 内:調整不明	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	口1/2	
550	004-03	土師器 台付甕	S28 SD1236 粗砂	底9.8	内:ナデ、オサエ 外:ハケ、ナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	底1/2	炭化物付着
551	010-03	土師器 台付甕	J28 SD1236	底9.3	内:オサエ、ナデ 外:ナデ、ハケ	やや粗	良	灰黄褐10YR6/2	底4/5	
552	039-03	土師器 台付甕	T30 SD1236 東壁トレンチ	底11.0	内:ナデ 外:ハケ、ナデ、ヨコナデ	やや粗	良	褐灰10YR6/1	台1/2	外面スス付着
553	025-05	土師器 台付甕	T28 SD1236 3層	底7.6	内:ハケ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	台ほぼ完存	ハケ6本/cm
554	025-03	土師器 台付甕	T28 SD1236 3層 土器群2	底9.4	内:オサエ、ナデ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	底1/4	
555	010-04	土師器 台付甕	J28 SD1236	底6.7	内:オサエ、ナデ 外:ナデ、ハケ	やや密	良	灰白10YR7/1 褐灰10YR5/1	底1/2	ハケ6本/cm
556	021-02	土師器 台付甕	T28 SD1236	底5.2	内:ケズリ、ナデ 外:ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	不良	灰5Y5/1	台2/3	
557	025-01	土師器 台付甕	T28 SD1236 3層 土器群2	—	内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	脚柱完存	ハケ5本/cm
558	026-02	土師器 台付甕	T28 SD1236 3層	底8.0	内:ナデ、オサエ 外:オサエ、ミガキ、ナデ	やや粗	良	灰黄2.5Y7/2	脚完存	
559	037-05	須恵器 杯蓋	O28 SD1236	口12.5 器高3.4	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.5mmの 砂粒、細砂 粒含む	良	灰白10Y7/1	1/6	
560	009-04	須恵器 杯蓋	G29 SD1236	口13.6	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白N7/	1/3	
561	009-05	須恵器 杯蓋	G29 SD1236	口13.8	ロクロナデ	密	良	灰N6/	口1/6	
562	037-06	須恵器 杯蓋	N28 SD1236	口12.5	ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/	1/4	
563	009-02	須恵器 杯身	G29 SD1236	口10.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白N7/	口1/6	
564	009-03	須恵器 杯身	SD1236	口10.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰N5/	口1/6	

第24表 出土遺物観察表（土器）16

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
565	009-01	須恵器 杯身	M28 SD1236	口11.5 器高3.7	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ	密	良	灰白N7/	1/2	
566	012-01	須恵器 杯身	SD1236	口12.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~6.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	1/4	
567	012-03	須恵器 杯身	H29 SD1236	口12.0 器高4.1	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~3.0mmの 砂粒含む	良	オリーブ灰2.5GY6/1	5/12	
568	012-02	須恵器 杯身	SD1236	口11.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラケズリ	密 微砂粒	良	灰白N7/	1/3	
569	012-04	須恵器 杯身	N28 SD1236	口11.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラケズリ	密 微砂粒	良	灰10Y6/1	1/4	
570	037-04	須恵器 杯身	K28 SD1236	口11.5	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	1/4	
571	013-01	須恵器 杯	H29 SD1236	底9.4	ロクロナデ	やや密 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰5Y5/1	底1/3	
572	041-04	須恵器 杯	L27 SD1236	底10.8	ロクロナデ	粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	底1/4	
573	002-01	須恵器 杯	C S28 SD1236 2層	底11.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	密	良	オリーブ灰2.5GY6/1	底完存	墨書
574	037-03	須恵器 杯	I28 SD1236	口11.0	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰白N7/	1/4	
575	039-01	須恵器 平瓶	H28 SD1236	—	ロクロナデ	密	良	灰N5/	頸1/2	
576	014-05	須恵器 高杯	G28 SD1236	—	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、カキメ	密 微砂粒	良	灰N6/	杯1/3	
577	039-02	須恵器 甕	K29 SD1236	口36.0	ロクロナデ、波状文	密	良	灰N6/	口1/14	波状文5本/0.8cm
578	012-05	須恵器 壺	I29 SD1236	口13.0	ロクロナデ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	口1/4	
579	030-02	須恵器 壺	S28 SD1236 粗砂	口21.0	摩耗はげしく調整不明	粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白5Y7/1	口1/6	
580	037-01	須恵器 甕	SD1236	口20.0	ロクロナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰N4/	口1/4	
581	037-02	須恵器 壺	I29 SD1236	底14.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	底1/6	
582	013-04	須恵器 壺底部	SD1236	底13.0	内:ロクロナデ 外:ロクロケズリ、ナデ	密 微砂粒	良	黄灰2.5Y5/1	底1/3	
583	012-06	須恵器 甕	J28 SD1236	口20.2	ロクロナデ	密 微砂粒	良	灰7.5Y6/1	口1/6	
584	038-06	土師器 杯	G29 SD1236	口12.3 器高3.3	口:ヨコナデ 内:ミガキ 外:ナデ	やや密	良	明褐色7.5YR7/2	1/12	放射状暗文
585	038-03	土師器 杯	I28 SD1236	口11.5 器高3.2	口:ヨコナデ 内外:ミガキ	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	1/2	放射状暗文
586	015-04	土師器 杯	G29 SD1236	口15.6	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/7	放射状暗文
587	016-03	土師器 杯	SD1236	底11.2	内:ナデ、ミガキ 外:ナデ、ミガキ	やや密	良	橙5YR7/6	底1/3	螺旋暗文 放射状暗文 内面底部へラ記号
588	014-02	土師器 杯	J28 SD1236	口13.4	口:ヨコナデ 内外:ナデ	密 微砂粒	良	にぶい黄橙10YR6/3	1/4	
589	013-05	土師器 杯	G28 SD1236	口13.4	口内:ヨコナデ 外:ナデ	やや密 ~1.5mmの 砂粒含む	良	淡黄2.5Y8/3	口1/6	
590	015-01	土師器 杯	G29 SD1236	口14.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ケズリ、ナデ	やや粗 微砂粒	良	灰白10YR8/2	口1/4	
591	014-03	土師器 杯	G29 SD1236	口14.2	口:ヨコナデ 内外:ナデ	密 微砂粒	良	灰黄褐10YR6/2	1/6	
592	015-03	土師器 皿	SD1236	口15.2	口:ヨコナデ 内外:ナデ	密	良	淡橙5YR8/4	1/6	
593	041-01	土師器 甕	K29 SD1236	口14.4	口:ハケ、ヨコナデ 内外:ハケ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	口1/4	ハケ9本/cm
594	016-05	土師器 甕	I28 SD1236	口17.8	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ、ハケ	密	良	灰白10YR8/2	口1/6	
595	038-05	土師器 甕	I29 SD1236	口21.0	口:ヨコナデ 内:ハケ	やや密 微砂粒	良	灰白10YR8/1	口1/5	ハケ8本/cm
596	029-01	土師器 長脛甕	S28 SD1236	口25.4	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口3/4	内ハケ5~6本/cm 外ハケ5本/cm
597	040-01	須恵器 鉢	N28 SD1236	口39.8	口:ヨコナデ 内:ナデ、ハケ 外:タタキ	やや粗 ~3.5mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/6	ハケ3~12本/cm
598	017-04	土師器 甑	J28 SD1236	底22.0	内:ハケ、ナデ 外:ハケ、オサエ、ナデ	やや粗	良	灰黄褐10YR6/2	底1/6	内ハケ6本/cm 外ハケ5本/cm
599	038-01	土師器 高杯	O28 SD1236	—	内:ヨコナデ 外:ケズリ	やや密	良	淡橙5YR8/3	脚柱のみ完存	面取り11角
600	017-03	製塙土器 鉢	G28 SD1236	—	ナデ、オサエ	粗	良	にぶい橙5YR7/4	小片	
602	017-02	須恵器 三足盤	G28 SD1236	—	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰白5YR8/1	底1/6	
603	019-03	灰釉陶器 椀	H28 SD1236	底8.0	ロクロナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底1/4	
604	018-05	灰釉陶器 椀	J29 SD1236	底8.3	ロクロナデ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白5Y7/1	底1/3	
605	018-01	陶器 山茶椀	G28 SD1236	口16.8 底6.7 器高5.4	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~5.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	1/2	糊痕痕
606	015-02	陶器 山茶椀	H29 SD1236	口17.0	ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口1/6	内外面スス付着

第25表 出土遺物観察表（土器）17

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
607	019-01	陶器 山茶椀	SD1236	底7.2	ロクロナデ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底ほぼ完存	糊般痕
608	018-04	陶器 山茶椀	N28 SD1236	底7.2	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	底完存	糊般痕
609	018-06	陶器 山茶椀	H29 SD1236	底7.2	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白5YR8/1	底完存	糊般痕
610	019-04	灰釉陶器 椀	H28 SD1236	底6.7	ロクロナデ	やや密 ~5.0mmの砂粒含む	良	灰白5YR8/1	底完存	
611	018-03	陶器 山茶椀	J28 SD1236	底7.0	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	灰白5Y8/1	底完存	
612	018-02	陶器 山茶椀	J28 SD1236	底8.0	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~3.5mmの砂粒含む	良	灰白10Y8/1	底1/3	
613	040-03	陶器 山茶椀	I28 SD1236	底8.0	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	底4/5	
614	029-02	陶器 山茶椀	T28 SD1236	底8.4	ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y7/1	底1/4	
615	040-02	陶器 小椀	N28 SD1236	底5.7	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	黄灰2.5Y6/1	底ほぼ完存	糊般痕
616	019-05	陶器 小椀	H28 SD1236	口10.2 底4.1 器高2.7	ロクロナデ、糸切り痕、貼付けナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	1/2	
617	019-06	陶器 小椀	G29 SD1236	口9.1 底4.4 器高2.9	ロクロナデ	やや密	良	灰白7.5Y8/1	1/3	
618	015-05	土師質土器 小皿	H29 SD1236	口9.6 底4.9 器高1.9	ロクロナデ	やや粗	良	灰黄2.5Y7/2	1/3	
619	016-01	青磁 椀	J28 SD1236	口16.8	ロクロナデ、施釉	密	良	素地:灰白7.5Y8/1 釉:灰白7.5Y7/1	口1/9	
620	021-06	白磁 椀	S28 SD1236 1層	—	ロクロナデ、施釉	密	良	素地:灰白7.5Y7/1 釉:灰白5Y7/2	口小片	
621	001-03	土師器 杯	C H29 SD1236	口12.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや密	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完存	
622	038-04	土師器 皿	J29 SD1236	口10.4 器高1.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや密 微砂粒	良	灰黄褐10YR6/2	1/2	
623	038-08	土師器 皿	K29 SD1236	口11.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや密	良	灰白2.5Y8/1	1/4	
624	015-07	土師質土器 小皿	J28 SD1236	口10.8 底5.5 器高2.1	ロクロナデ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	1/2	
625	011-03	土師器 鍋	N28 SD1236	—	ヨコナデ、ナデ	粗 ~2.5mmの砂粒多く含む	良	にぶい橙5YR6/4	小片	清郷型
626	016-06	土師器 甕	SD1236	口22.2	口:ヨコナデ 内外:ハケ	密	良	にぶい橙5YR7/4	口1/6	内ハケ3~4本/cm 外ハケ4~8本/cm 内面スス付着
627	016-04	土師器 甕	N28 SD1236	口21.8	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:ナデ	やや粗 ~6.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/1	口1/12	ハケ6~7本/cm 外面スス付着
628	042-02	土製品 土錘	N28 SD1236 中層	(3.6)×0.9 重さ(3.37g)	ナデ	密 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完存	
629	015-08	土製品 土錘	G29 SD1236	(4.2)×1.0 重さ(3.17g)	ナデ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	2/3	
630	042-01	土製品 土錘	M28 SD1236	6.0×1.3 重さ11.28g	ナデ	粗 ~2.5mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	完存	
631	042-03	土製品 土錘	H27 SD1236	(4.1)×1.3 重さ(5.39g)	ナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	1/2	
632	022-01	土製品 土錘	S28 SD1236 1層	4.9×1.5 重さ10.29g	調整不明	やや粗 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	ほぼ完存	
633	040-04	土製品 土錘	L28 SD1236	5.6×2.0 重さ19.10g	ナデ	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	不良	灰黄2.5Y7/2	ほぼ完存	
634	053-04	須恵器 杯蓋	T9 包含層	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰5Y5/1	1/4	
635	054-01	土師器 杯	Q25・26 包含層	口12.6 器高2.9	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	口1/2	
636	054-02	土師器 杯	R26 包含層	口13.0	調整不明	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	口1/3	
637	054-06	土師器 皿	K26 カクラン	口6.8 器高1.0	ナデ、オサエ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	1/3	
638	251-01	土師器 竈	R27 包含層	口21.2	口:ヨコナデ、ハケ 内:ハケ、オサエ 外:ハケ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口1/5	
639	053-06	縦軸陶器 椀	P25 包含層	底8.0	ロクロナデ、施釉	やや密	良	素地:灰白2.5Y7/1 釉:オリーブ灰10Y4/2	底1/4	
640	054-04	土師器 椀	M23 包含層	底7.3	ナデ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	底ほぼ完存	内面黒変
641	053-02	土師器 杯	K29 包含層	口12.8 底8.0 器高3.7	ロクロナデ	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	灰黄2.5Y6/2	2/3	

第26表 出土遺物観察表（土器）18

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
642	054-03	陶器 山茶碗	P27 包含層	底4.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4		
643	053-01	灰釉陶器 皿	Q25 包含層	口12.7 底6.5 器高2.8	ロクロナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/1	1/3	
644	053-03	陶器 山茶碗	M23 包含層	底6.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	底完存	底部墨痕か?
645	055-07	土製品 土錘	Q25 包含層	(2.5)×1.1 重さ(3.70g)	ナデ	やや密 ~0.5mmの砂粒含む	やや不良	にぶい黄橙10YR7/2	1/2	
646	055-05	土製品 土錘	R20 包含層	3.5×1.5 重さ5.96g	ナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰黄2.5Y7/2	ほぼ完存	
647	055-06	土製品 土錘	R20 包含層	3.3×1.4 重さ4.86g	ナデ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰黄2.5Y7/2	2/3	
648	055-03	土製品 土錘	Q22 包含層	4.2×0.9 重さ2.52g	ナデ	やや粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙5YR6/4	ほぼ完存	
649	054-05	弥生土器 壺	表土	—	内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	頸1/2	頸部浮文6
650	053-05	須恵器 皿	表土	口17.8 器高2.3	ロクロナデ、ナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白5Y7/2	1/12	
651	054-07	白磁 椀	表土	底5.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	素地:灰白5YR8/2 釉:灰白2.5GY8/1	底1/3	
652	054-08	青磁 椀	表土	—	施釉、ロクロナデ	密	良	素地:灰白7.5Y7/1 釉:灰オリーブ7.5Y6/2	小片	
653	055-01	土製品 土錘	表土	5.3×1.55 重さ9.74g	ナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	ほぼ完存	
654	055-02	土製品 土錘	表土	(5.0)×1.0 重さ(4.18g)	ナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/1	ほぼ完存	
655	055-04	土製品 土錘	表土	(4.3)×2.2 重さ(16.80g)	ナデ、オサエ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/1	2/3	
656	160-01	弥生土器 高杯	O8 SD1299	口24.0	口:ヨコナデ 内外:ミガキ	粗	良	浅黄橙10YR8/3	杯2/3	
657	103-08	土師器 台付甕	Q8 SE1302 3層	—	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	口小片	ハケ7本/cm
658	103-04	須恵器 杯身	Q8 SE1302	—	ロクロナデ	やや粗	良	灰N6/	口小片	
659	102-01	土師器 壺	Q8 SE1302 3層下層	—	内:ナデ、ハケ 外:ハケ	やや密 ~2.5mmの砂粒含む	良	灰黄褐10YR4/2	胴完存	内ハケ4本/cm 外ハケ6本/cm 内面有機物付着か?
660	096-03	須恵器 杯蓋	SD1295 下層	口14.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰10Y6/1	口1/6	
661	096-01	須恵器 杯蓋	SD1295 下層	口14.2 器高3.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰N5/	1/6	
662	096-02	須恵器 杯身	SD1295 下層	口11.6 器高3.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰N5/	口1/4	
663	103-02	土師器 高杯	S10 SD1295	—	内外:ナデ、オサエ	やや粗	良	橙5YR7/6	脚柱2/3	
664	102-02	土師器 壺	R9 SD1295	—	内:ナデ、ハケ、工具ナデ 底:ナテ、ケズリ、ナテ	やや粗 ~2.5mmの砂粒含む	良	淡黄2.5Y8/3	胴完存	
665	103-03	土師器 底部	Q9 SD1295	底12.0	ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/2	底1/4	
666	118-03	須恵器 杯蓋	T10 SD1295	口15.1	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰N6/	口1/10	
667	118-02	須恵器 杯身	T10 SD1295	口12.1	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mmの砂粒含む	やや不良	灰N5/	1/4	
668	102-03	須恵器 甕	S9 SD1295 下層	口22.5	ロクロナデ、波状文	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	明青灰5B7/1	口1/7	
669	161-03	土師器 台付甕	SD1295	底8.8	ケズリ、オサエ	やや粗	やや不良	黄橙7.5YR8/8	台完存	
670	162-01	須恵器 杯蓋	SD1295	口14.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	青灰10BG6/1	2/5	内面青海波文
671	162-02	須恵器 杯蓋	SD1295	口13.2	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	青灰10BG6/1	1/3	
672	162-03	須恵器 杯身	SD1295	口12.0	ロクロナデ	やや密	良	青灰10BG6/1	口1/6	
673	103-07	土師器 甕	Q8 SE1301 2層	—	口:ヨコナデ 内:ハケ、ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口小片	内外面スス付着
674	103-05	須恵器 杯蓋	Q8 SE1301	—	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰白7.5Y7/1	小片	
675	118-01	土師器 杯	Q8 SE1301	口12.4 底3.1	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	口2/12	底部ヘラ記号
676	086-05	土師器 皿	Y5 SK1254	底6.7	内:ナデ 外:ロクロナデ	やや密 ~2.5mmの細砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	底1/4	
677	057-03	土師器 甕	E5 SK1259	口19.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ナデ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口1/6	
678	059-01	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.4 底4.7 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	褐灰10YR4/1	7/12	
679	059-09	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.8 底4.8 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	1/2	底部穿孔?

第27表 出土遺物観察表（土器）19

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
680	060-02	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.5 底5.3 器高1.6	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	2/3	有機物付着
681	108-05	土師質土器 小皿	SE1262	口9.8 底5.6 器高1.4	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	7/8	
682	060-05	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.6 底5.0 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	1/2	有機物付着
683	059-02	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.8 底6.4 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	1/3	外面有機物付着
684	059-04	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口10.0 底6.0 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	褐灰7.5YR5/1	1/3	
685	108-08	土師質土器 小皿	SE1262	口9.8 底5.4 器高1.6	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	1/2	
686	107-04	土師質土器 小皿	SE1262	口10.0 底5.5 器高1.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙10YR8/3	1/2	黒斑あり
687	059-08	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.5 底5.0 器高1.7	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	1/3	内面有機物付着
688	060-01	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.4 底4.3 器高1.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	1/2	有機物付着
689	107-10	土師質土器 小皿	SE1262	口10.0 底5.6 器高1.7	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/4	
690	107-09	土師質土器 小皿	SE1262	口10.0 底5.4 器高1.5	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/2	
691	107-07	土師質土器 小皿	SE1262	口10.3 底5.6 器高1.5	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/3	
692	060-03	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.2 底5.2 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	2/3	有機物付着
693	060-08	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.3 底5.4 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	1/2	有機物付着
694	107-06	土師質土器 小皿	SE1262	口9.8 底5.5 器高1.7	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	4/5	
695	108-01	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口10.1 底4.8 器高1.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	完存	
696	059-07	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.4 底4.5 器高1.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	1/2	内外面有機物付着
697	059-10	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口10.5 底5.8 器高1.7	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	1/2	有機物付着
698	060-10	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口10.2 底5.2 器高1.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～1.0mmの 砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/2	1/2	有機物付着
699	060-07	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.3 底5.0 器高1.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	1/3	有機物付着
700	059-03	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.8 底5.8 器高1.6	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/3	5/12	外面有機物付着
701	107-05	土師質土器 小皿	SE1262	口10.1 底5.2 器高1.7	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	4/5	
702	060-09	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口10.5 底5.4 器高1.7	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	7/12	有機物付着
703	107-02	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口10.2 底5.7 器高1.6	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	3/4	
704	108-04	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.7 底4.9 器高1.9	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	7/8	
705	107-01	土師質土器 小皿	SE1262	口10.0 底5.0 器高1.9	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	にぶい橙7.5YR8/6	2/5	
706	060-06	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.5 底4.6 器高1.4	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	1/3	有機物付着
707	108-06	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.2 底5.8 器高1.5	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	3/4	
708	059-05	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.8 底4.7 器高1.7	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	7/12	外面有機物付着
709	108-03	土師質土器 小皿	SE1262	口9.6 底4.7 器高1.7	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	7/8	
710	060-04	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.5 底5.0 器高1.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	淡橙5YR8/4	1/2	有機物付着
711	059-06	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口9.8 底5.8 器高1.6	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	5/12	外面有機物付着
712	108-07	土師質土器 小皿	B·C4 SE1262	口10.2 底5.8 器高1.6	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	1/2	
713	108-02	土師質土器 小皿	SE1262	口9.7 底5.3 器高1.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	ほぼ完存	

第28表 出土遺物観察表（土器）20

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
714	107-03	土師質土器 小皿	C4 SE1262	口110.1 底5.1 器高2.0	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	にぶい橙7.5YR7/3	2/3	
715	057-01	灰釉陶器 椀	C4 SE1262	底8.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底1/12	
716	107-11	土師質土器 皿	SE1262	底6.5	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	1/2	
717	107-08	土師質土器 皿	C4 SE1262	口14.4 底6.0 器高4.0	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	1/6	
718	109-04	土師質土器 皿	SE1262	口15.2 底6.7 器高3.1	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	淡黄橙10YR8/3	1/4	黒斑あり
719	109-05	土師質土器 皿	SE1262	底6.8	内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	1/4	
720	109-03	土師質土器 皿	SE1262	口13.7 底6.0 器高3.1	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~4.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	1/3	黒斑あり
721	109-01	土師質土器 皿	SE1262	口14.0 底5.9 器高3.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	1/2	黒斑あり
722	109-06	土師質土器 皿	SE1262	口14.6 底6.4 器高3.6	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	口1/8	
723	109-02	土師質土器 皿	SE1262	口15.4 底6.4 器高3.8	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	1/4	
724	057-02	青磁 椀	D7 SE1257	口14.0	施釉、ロクロナデ	密	良	素地:灰白5Y7/1 釉:灰オリーブ5Y6/2	口1/12	
725	057-05	陶器 山茶椀	P7 SE1257	口15.4 底6.6 器高4.7	ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	やや粗 ~8.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	7/12	
726	058-03	陶器 山茶椀	SE1253	口13.4 底6.5 器高4.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	素地:灰5Y6/1 釉:灰オリーブ7.5Y6/2	1/3	
727	056-02	陶器 山茶椀	B8 SE1253	口15.6 底6.7 器高4.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	2/3	糊般痕
728	056-01	陶器 山茶椀	B8 SE1253 中層	口16.6 底7.9 器高5.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	2/3	糊般痕
729	058-02	灰釉陶器 椀	SE1253	底6.4	ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底1/4	
730	056-03	灰釉陶器 椀	B8 SE1253	底8.1	内:ロクロナデ 外:貼付けナデ、糸切り痕	密	良	黄灰2.5Y6/1	底1/4	重ね焼き痕
731	056-04	白磁 碗	B8 SE1253	—	施釉	密	良	素地:灰白7.5Y7/1 釉:灰白5Y7/2	小片	
732	056-05	土師器 甕	B8 SE1253 上層	—	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	黄灰2.5Y6/1	小片	ハケ4本/cm
733	063-03	土師器 皿	L7 SD1261	口17.4 器高2.2	口:ヨコナデ 内外:ナデ	密 微砂粒	良	淡橙5YR8/4	1/3	螺旋暗文
734	062-02	土師器 甕	N7 SD1261	口18.5	口:ヨコナデ、ハケ 内外:ハケ	やや密 ~2.5mmの砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	口1/8	
735	061-05	陶器 山茶椀	L7 SD1261	底7.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底1/4	
736	061-03	陶器 山茶椀	L7 SD1261	底8.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5Y7/1	底1/2	
737	063-05	土製品 土錘	SD1261	(4.7)×0.9 重さ(4.09g)	ナデ	密 微砂粒	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完存	
738	061-06	須恵器 杯	M8 SD1266	口16.7 器高5.0	口:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	口1/12	
739	064-04	土師器 甕	M8 SD1266	—	ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	小片	
740	063-02	土師器 甕	M8 SD1266	口22.0	ヨコナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	口1/8	
741	063-06	陶器 山茶椀	M8 SD1266	底4.3	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ナデ、糸切り痕	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白5Y7/1	底5/12	
742	063-01	陶器 山茶椀	M8 SD1266	底5.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密 微砂粒	良	にぶい橙7.5YR7/4	底2/3	
743	063-04	土製品 土錘	M8 SD1266	(4.8)×1.5 重さ(10.40g)	ナデ	やや粗 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	ほぼ完存	
744	119-01	土師器 甕	R9 SD1276	口19.4	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや粗	良	灰白5YR8/2	口1/8	
745	119-02	灰釉陶器 椀	R9 SD1276	底5.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕、貼付けナデ	密	良	灰白N7/1	底1/2	
746	062-01	土師器 甕	L7 SD1263	口16.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや粗 ~6.0mmの砂粒含む	良	明褐灰7.5YR7/1	口1/6	外面スス付着
747	064-01	土師器 甕	M10 SD1269	口22.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口1/6	ハケ4本/cm
748	101-01	土師器 甕	S16 SD1273	口18.7	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:オサエ、ハケ	やや密	良	明褐灰5YR7/2	口1/5	ハケ7本/cm 外面スス付着
749	064-05	土師質土器 小皿	G15 SD1273	底5.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ナデ、糸切り痕	やや粗 ~3.5mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	底3/4	
750	064-02	陶器 山茶椀	J15 SD1273	底7.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白5Y8/1	底4/5	

第29表 出土遺物観察表（土器）21

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
751	064-03	土製品 土錘	J15 SD1274	(3.2)×1.0 重さ(1.96g)	ナデ	やや密 ～1.5mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	2/3	
752	113-03	黒色土器 椀	L10 SD1264	口15.0 底7.0 器高5.7	口:ヨコナデ 内:ミガキ 外:ナデ、オサエ	やや密	良	浅黄橙10YR8/4	1/4	
753	062-03	土師器 甕	L10 SD1264	—	ヨコナデ、ナデ	やや密 ～3.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR4/2	小片	
754	061-01	陶器 山茶碗	M10 SD1264	口16.9 底7.2 器高4.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切 り痕	やや粗 ～8.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	口完存	
755	061-02	陶器 山茶碗	L10 SD1264	底6.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切 り痕	密 微砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底5/12	
756	061-04	陶器 山茶碗	L10 SD1264	底8.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切 り痕	やや粗 ～1.5mmの 砂粒含む	良	灰白5Y8/1	底1/4	
757	080-02	土師器 甕	排水溝	口32.0	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや密 ～2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/1	口1/6	内ハケ6本/cm 外ハケ8本/cm
758	113-01	土師器 甕	排水溝 Pit	口13.5	口:ヨコナデ 内:ハケ、ケズリ 外:ハケ、オサエ、ケズリ	やや密	良	灰白2.5Y8/2	口完存	ハケ7本/cm
759	086-03	土師質土器 小皿	排水溝	口8.8 底4.9 器高1.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ～1.5mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完存	
760	083-04	土師器 甕	M7 排水溝	—	内:ナデ 外:ハケ、ケズリ、ナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	小片	
761	074-01	須恵器 杯蓋	排水溝	口12.7 器高4.4	口:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	灰10Y6/1	10/12	
762	089-03	灰釉陶器 台付皿	M7 排水溝	口15.0 底7.5 器高2.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	素地:灰白2.5Y8/1 釉:灰白10Y7/1	底1/2	
763	058-04	陶器 山茶碗	B8 溝	底7.6	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ～2.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	ほぼ完存	
764	075-01	須恵器 瓶	D4 トレンチ	口11.2	口:ロクロナデ 内:オサエ、ナデ 外:タタキ、カキメ、ロクロナデ、 ロクロケズリ	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	灰N6/	5/12	
765	110-01	白磁 椀	U4 Pit1	口15.5 底6.6 器高5.9	施釉	密	良	灰白7.5Y8/1	1/4	SB1280
766	110-02	白磁 椀	E7 Pit7	口16.0 底6.4 器高6.8	口内:施釉 外:施釉、ロクロケズリ、ロクロナ デ	密	良	灰白10Y8/1	1/12	SB1290
767	067-02	土師器 甕	D8 Pit2	口27.4	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:ハケ、ナデ	やや粗 ～2.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	口1/8	SB1289 内ハケ16本/1.4cm 外ハケ14本/cm
768	065-04	土師器 小皿	W5 Pit3	口9.7 器高2.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや密 ～1.5mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完存	SB1285
769	066-02	土師質土器 小皿	X5 Pit1	口8.8 底4.2 器高1.8	口:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	1/3	SB1285
770	065-05	土師質土器 皿	W5 Pit3	口14.8 器高4.3	口:ヨコナデ 内外:調整不明	やや粗 ～4.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	1/3	SB1283
771	067-04	土師器 杯	I6 Pit1	口10.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや粗 ～1.5mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	ほぼ完存	SB1293
772	067-03	土師質土器 皿	I6 Pit2	—	口:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口小片	SB1293
773	066-06	灰釉陶器 皿	Y7 Pit1	口11.0 底6.6 器高1.8	口:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕、貼付けナ デ	やや密 ～3.0mmの 砂粒含む	良	素地:灰白2.5Y7/1 釉:オリーブ灰10YR6/2	3/4	SB1288
774	066-03	土師質土器 皿	V6 Pit12	底5.8	内:剥離 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切 り痕	やや粗 ～1.5mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	底1/2	SB1284
775	096-05	土師器 高杯	K8 P11 下層	口16.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、オサエ	やや密 ～3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	口1/4	
776	098-01	土師器 高杯	L9 P2	底10.0	内:オサエ、ナデ、シボリ、ヨコナ デ 外:オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや粗 ～2.5mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	底1/8	
777	117-05	須恵器 杯蓋	G7 Pit1	口14.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	良	褐灰10YR6/1	2/3	
778	066-01	須恵器 甕	M9 Pit1	—	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密 ～1.5mmの 砂粒含む	良	黄灰2.5Y6/1	底完存	円孔1
779	111-01	須恵器 甕	L8 Pit12	口22.8	ロクロナデ、ハケ、ナデ	密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	灰N7/	口1/8	
780	065-01	須恵器 杯	K9 Pit2	口17.6 底9.0 器高5.0	口:ロクロナデ 内:ロクロナデ、ナデ 外:ロクロナデ、貼付け高台	粗 ～3.0mmの 砂粒含む	良	灰N5/	1/3	
781	111-03	土師器 皿	K7 Pit9	口16.0	口内:ヨコナデ 外:ナデ	やや密 ～1.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口1/10	
782	112-03	土師器 皿	A4 Pit2	口13.8 器高3.0	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	2/3	
783	111-05	土師器 皿	X5 Pit5	口13.2 器高3.2	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ	やや粗 ～1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	1/4	
784	117-03	土師器 杯	T10 Pit1	口10.2	ナデ	密	良	淡黄橙10YR8/3	1/4	
785	117-02	土師器 杯	T10 Pit2	口11.4	口:ヨコナデ 内:ナデ	密	良	淡橙5YR8/3	口1/8	
786	066-05	土師質土器 皿	Y7 Pit1	底5.4	内外:ロクロナデ、ナデ	密 ～0.5mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	底完存	

第30表 出土遺物観察表（土器）22

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
787	101-06	土師器 椀	T10 Pit2		内:ハケメ 外:ナデ、貼付けナデ	やや密 微砂粒	良	褐色7.5YR5/1	小片	
788	112-04	黒色土器 椀	L8 Pit6	口14.8	内:ナデ 外:ミガキ	密	良	内:黒 外:灰白10YR8/2	口1/3	
789	067-01	灰釉陶器 椀	E7 Pit3	底6.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	底1/4	
790	112-02	陶器 山茶椀	E8 Pit1	底7.3	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	密	良	灰白N7/	底完存	
791	111-02	灰釉陶器 椀	L7 Pit15	底7.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白5Y7/1	底1/3	
792	112-06	綠釉陶器 椀	K6 Pit1	底7.3	施釉	密	良	素地:7.5YR7/6 釉:暗オリーブ7.5Y4/3	底完存	
793	066-04	陶器 山茶椀	Y6 Pit7	底7.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、糸切り痕	密 ~0.5mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	底1/3	
794	065-02	灰釉陶器 椀	K7 Pit5	底6.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、糸切り痕	密 ~0.5mmの砂粒含む	良	灰白5Y8/1	底1/2	
795	113-04	陶器 山茶椀	F8 Pit3	口16.4 底7.7 器高5.2	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~6.0mmの砂粒含む	良	灰白N8/	ほぼ完存	糊殻痕
796	111-06	土師質土器 小皿	D6 Pit1	口9.2 底5.1 器高2.2	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	1/2	
797	111-07	土師質土器 小皿	E9 Pit4	口10.1 底5.0 器高2.1	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	1/3	
798	111-04	土師質土器 小皿	A5 Pit2	口8.7 底4.6 器高1.5	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完存	
799	117-04	土師質土器 小皿	I6 Pit2	口18.7 底4.2 器高1.5	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	完存	
800	065-03	土師器 小皿	W4 Pit8	口9.2 底3.6 器高1.7	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	密 ~0.5mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/6	1/2	
801	113-02	土師質土器 小皿	V5 Pit4	口9.0 底3.6 器高2.3	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	密	良	橙5YR6/6	ほぼ完存	
802	112-05	土師質土器 小皿	E9 Pit11	口16.2 底7.4 器高3.6	口内外:ロクロナデ 底:糸切り痕	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	褐灰10YR6/1	底完存	
803	117-01	土師器 甕	T10 Pit1	口14.9	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口1/4	内ハケ5~9本/cm 外ハケ5本/cm
804	065-06	土製品 土錘	M8 Pit6	4.6×1.2 重さ5.94g	ナデ	密 ~1.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/4	ほぼ完存	
805	112-07	土製品 土錘	X7 Pit4	(3.2)×1.5 重さ(5.60g)	ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	1/2	
806	112-01	土製品 土錘	E8 Pit2	(4.8)×1.2 重さ(4.80g)	ナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完存	
807	069-02	土師器 壺	P11 表土	口15.9	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:工具ナデ、ナデ	やや密 細砂粒	良	灰白2.5Y8/1	口1/2	
808	085-05	土師器 椀	N11 表土	口15.0	口:ナデ 内:ナデ、オサエ 外:ナデ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	1/4	
809	087-03	土製品 土錘	K11 表土	5.1×2.3 重さ25.25g	ナデ	やや粗 ~2.0mmの細砂粒含む	良	褐灰10YR4/1	完存	
810	088-07	土製品 土錘	G15 表土	4.1×2.2 重さ16.31g	ナデ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	褐灰10YR4/1	完存	
811	088-06	土製品 土錘	H14 表土	4.0×1.7 重さ8.78g	ナデ	粗 ~3.5mmの砂粒含む	良	灰黄2.5Y6/2	完存	
812	091-05	陶器 小椀	O11 表土	口8.7 底4.1 器高2.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~2.0mmの細砂粒含む	良	灰白N8/	1/2	
813	081-04	須恵器 壺	M16 表土	底11.1	ロクロナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底1/4	
814	073-05	須恵器 甕	O11 表土	底14.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ケズリ、ナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰N6/1	底1/6	火だしき
815	120-01	灰釉陶器 椀	表土	口13.9 底5.9 器高5.7	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	密	良	灰白5Y7/1	1/2	
816	120-02	灰釉陶器 椀	表土	口15.8 底6.8 器高4.9	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	密	良	灰白5Y8/1	1/4	
817	093-04	陶器 山茶椀	N11 表土	口15.8 底6.9 器高5.6	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~4.0mmの砂粒含む	良	灰白5Y8/1	4/5	糊殻痕
818	093-03	陶器 山茶椀	N11 表土	口16.2 底8.8 器高4.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~5.0mmの砂粒含む	良	灰5Y6/1	3/5	糊殻痕
819	097-02	土師器 壺	L7 包含層 下層	—	口:刺突文 内:ヨコナデ 外:ミガキ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/6	小片	
820	122-01	土師器 壺	Q8 北トレンチ	口9.9 底5.0 器高21.8	口:ミガキ 内:オサエ、ナデ、ハケ 外:ハケ、ミガキ、ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/4	4/5	ハケ7~8本/cm スス付着 黒斑あり
821	071-01	土師器 壺	N8 包含層	口17.5	口:ミガキ 内:ナデ、オサエ 外:ミガキ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口2/3	
822	069-01	土師器 壺	O9 包含層	口23.0	口:ヨコナデ 内:ナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	口1/2	

第31表 出土遺物観察表（土器）23

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
823	070-03	土師器 高杯	L9 包含層	—	内:ナデ 外:ナデ、沈線文	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	淡橙5YR8/4	脚柱2/3	3方透孔(2ヶずつ)
824	103-01	土師器 高杯	R10 包含層	—	内:ナデ 外:ミガキ、櫛描直接文	やや粗	良	にぶい橙7.5YR7/4	脚注1/2	3方透孔 直線文6本/0.8cm
825	098-03	土師器 高杯	M9 包含層 下層	底7.3	内:ナデ、シボリ 外:ナデ、オサエ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	底1/6	
826	104-01	弥生土器 体部	S13 包含層 下層	—	内:ナデ、オサエ 外:波状文、ハケ、ナデ、櫛描直線文	やや粗 ~4.5mmの 砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR6/3	小片	直線文2~3本/cm
827	104-02	弥生土器 体部	Q8 包含層 下層	—	内:ナデ 外:刺突文、櫛描直線文、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	小片	直線文6本/cm
828	070-02	土師器 台付甕	Y4 耕作土	口15.1	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~2.5mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/5	ハケ5本/cm
829	097-05	土師器 台付甕	L8 包含層 下層	口11.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~1.5mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/6	ハケ8本/cm
830	161-04	土師器 台付甕	J8 包含層	底10.0	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ、ハケ	密	良	灰黄2.5Y7/2	台7/10	
831	072-02	土師器 甕	O8 包含層	口14.0	口:ヨコナデ 内:ナデ、ケズリ 外:ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	口8/12	黒斑あり
832	070-05	土師器 小形無頸鉢	O8 カクラン	口11.1 底5.6 器高8.0	内:ミガキ、ナデ 外:ミガキ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	3/4	
833	069-03	土師器 壺	OP9 包含層	口14.5	口:ヨコナデ 内:工具ナデ、オサエ 外:ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/8	口1/12	
834	102-04	土師器 壺	T9 SD1295 下層	口20.0	ヨコナデ、ナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	淡黄2.5Y8/3	口1/5	
835	070-04	土師器 壺	O8 包含層	口21.7	ナデ	やや粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	口1/6	
836	068-05	土師器 小形無頸鉢	P9 包含層	口7.5	口:ヨコナデ 内:工具ナデ 外:ナデ	やや密	良	橙5YR7/6	口1/3	
837	161-07	土師器 小形無頸鉢	N8 包含層	口5.8 器高4.9	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ	やや密	良	浅黄2.5Y8/3	3/5	
838	163-01	土師器 小形丸底壺	L9 包含層	口10.0 器高7.9	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ	密	良	灰白10YR8/2	ほぼ完存	底部櫛状工具で施文 か?
839	161-06	土師器 小形丸底壺	K9 包含層	口9.2 器高7.8	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ	やや密 ~4.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	3/5	
840	068-04	土師器 小形壺	O9 包含層	口8.9 器高8.4	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ハケ	やや密	良	淡橙5YR8/3	10/12	
841	068-01	土師器 高杯	O9 包含層	口14.5 底10.5 器高11.7	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/4	2/3	
842	098-02	土師器 高杯	M9 包含層 下層	口14.0 底10.8 器高12.2	口:ヨコナデ 内:ナデ、シボリ、ヨコナデ 外:ナデ、オサエ、ヨコナデ	やや粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/12	
843	068-03	土師器 高杯	K7 包含層	底10.8	内:シボリ、ヨコナデ 外:工具ナデ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR7/6	脚4/5	
844	102-05	土師器 高杯	T8, T9, S9 包含層、北 トレンチ	底12.5	内:ケズリ、ナデ 外:ナデ、工具ナデ	やや粗 ~3.5mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	脚4/5	
845	096-04	土師器 台付甕	H8 包含層 下層	口14.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗	良	橙5YR6/6	口1/4	ハケ3本/cm
846	161-01	土師器 台付甕	J9 包含層	口17.4	ヨコナデ、ハケ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/4	
847	072-01	土師器 台付甕	J7 包含層	口14.0	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ハケ	やや粗 ~3.5mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口1/2	ハケ6本/cm
848	070-06	土師器 台付甕	O9 包含層	口11.4	口:ヨコナデ 内:ナデ、オサエ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/4	ハケ5~6本/cm
849	070-01	土師器 台付甕	P9 包含層	口11.7	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~6.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口1/2	ハケ5本/cm
850	105-04	土師器 台付甕	S9 包含層	底7.5	内:ナデ 外:ケズリ、ナデ、オサエ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/4	底完存	
851	068-02	土師器 高杯	O9 包含層	口12.5	口:ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ 外:オサエ、ヨコナデ	やや密	良	にぶい橙5YR7/4	1/2	
852	071-02	土師器 高杯	O9 包含層	口13.5 底7.8 器高8.0	ナデ、オサエ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/6	1/3	
853	120-04	土師器 高杯	R9 包含層	底9.0	内:ナデ、オサエ 外:ナデ	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/6	脚ほぼ完存	
854	074-02	須恵器 杯蓋	W6 耕作土	口12.5 器高5.0	口:クロナデ 内:クロナデ 外:クロナデ、ロクロケズリ	密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白10Y7/1	1/4	
855	099-05	須恵器 杯蓋	S9 包含層	口14.0	ロクロナデ	やや密 微砂粒	良	灰N6/	口1/8	
856	074-06	須恵器 杯蓋	M9 包含層	口13.4	口:クロナデ 内:クロナデ 外:クロナデ、ロクロケズリ	やや密 微砂粒	良	灰白N7/	口1/6	
857	105-03	須恵器 杯身	T8 北トレンチ	口10.0	ロクロナデ	密	良	灰白N7/	口1/6	
858	105-08	須恵器 杯身	北壁	口12.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	灰白N7/	口1/9	

第32表 出土遺物観察表（土器）24

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
859	099-04	須恵器 杯身	T18 包含層	口11.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰N5/	1/3	
860	074-07	須恵器 杯身	OP9 包含層	口10.4	ロクロナデ	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	紫灰5P6/1	口1/5	
861	105-07	須恵器 杯身	T9 包含層	口11.4 器高5.3	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	明青灰10BG7/1	口3/4	
862	105-05	須恵器 杯身	T9 包含層	口13.1	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰N6/	口1/8	
863	098-04	須恵器 杯身	M9 包含層 下層	口11.4	ロクロナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰N6/	口1/4	
864	073-03	須恵器 高杯	J7 包含層	底8.0	ロクロナデ	やや粗 ~2.5mmの砂粒含む	良	灰白N8/	台1/3	3方透孔
865	114-03	須恵器 壺	L8-K9- J11-M9- M10 包含層	口16.5 底9.3 器高16.5	ロクロナデ	粗	良	明青灰10BG7/1	1/2	
866	099-02	須恵器 壺	Q15 包含層	口19.8	内:ロクロナデ 外:カキメ	やや密	良	灰N4/	口1/6	
867	105-01	須恵器 壺	R9 包含層	口23.4	ロクロナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰N4/	口1/12	内面ヘラ記号
868	099-01	須恵器 壺	U10 カクラン	口25.0	内:ロクロナデ 内:青海波 外:カキメ	やや密	良	灰白N7/	口1/3	
869	073-01	須恵器 壺	K9 包含層	口22.4	ロクロナデ、タタキ、カキメ	密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白N7/	口1/6	
870	081-01	須恵器 壺	L8 包含層	口25.1	内:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:タタキ	やや密	良	灰7.5Y6/1	口5/12	
871	105-06	須恵器 底部	T17 包含層	底16.8	内:ナデ、ヨコナデ 外:タタキ、ケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰N6/	底1/12	
872	081-02	須恵器 壺	M9 包含層	底11.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、ナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	褐灰7.5YR5/1	口1/7	
873	099-03	陶器 山茶碗	北東隅 褐色土	—	内:ナデ 外:ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/	底1/2	
874	106-01	須恵器 壺	O9 包含層	—	内:ロクロナデ、青海波 外:タタキ、カキメ、ハケ	やや密	良	灰白2.5Y7/1	体1/3	
875	105-02	須恵器 壺	S9 包含層	—	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、カキメ	やや密	良	灰N6/	胴完存	カキメ14~21本
876	081-03	須恵器 壺	M9 包含層	底6.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ、ロク ロケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	底完存	
877	092-04	陶器 山茶碗	L8 包含層	底6.6	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~5.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	底完存	
878	073-04	須恵器 壺	G8 耕作土	口8.2	ロクロナデ、カキメ	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白N4/	口1/12	
879	081-05	須恵器 壺	L12 包含層	—	—	やや密	良	明オリーブ灰2.5GY7/1	脚2/3	
880	077-01	須恵器 杯蓋	H7 耕作土	口14.8 器高3.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰7.5Y5/1	3/4	
881	100-01	須恵器 杯蓋	S18 包含層	口14.5 器高2.3	内:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白N8/	口1/8	
882	078-02	須恵器 杯蓋	L9 包含層	口13.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰白N7/	1/12	
883	076-02	須恵器 杯蓋	M9 包含層	口14.0	ロクロナデ	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰10Y6/1	口1/3	
884	078-01	須恵器 杯蓋	L8 包含層	口15.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	口1/3	
885	076-04	須恵器 杯蓋	N10 包含層	口24.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰5Y6/1	口1/6	
886	074-04	須恵器 杯	M9 包含層	口15.2	内:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白N7/	1/5	
887	076-03	須恵器 杯	N9 包含層	底12.0	内:ロクロナデ、ナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰N6/	底1/3	
888	078-03	須恵器 杯	L8 包含層	口13.0 底8.2 器高3.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切りナデ、貼 付けナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白5Y8/1	口2/3	
889	114-02	須恵器 杯	L8-K9- J11-M9- M10 包含層	口14.2 底8.9 器高4.6	内:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	青灰5B6/1	2/3	
890	077-02	須恵器 杯	I8 包含層	底10.8	内:ロクロナデ、ナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り	やや密 ~4.0mmの砂粒含む	良	灰5Y6/1	底1/3	
891	077-03	須恵器 杯	J9 包含層	底10.1	内:ロクロナデ、ナデ 外:ロクロナデ、ヘラ切り	密	良	灰7.5Y6/1	底1/3	
892	076-01	須恵器 杯	M9 包含層	口16.4 底11.4 器高6.4	内:ロクロナデ 内:ナデ 外:ナデ、ケズリ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白10Y7/1	1/4	
893	124-01 124-02	土師器 壺	M9 包含層	底49.0 器高34.0	内:ヨコナデ 内外:ハケ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	淡黄2.5YR8/3	1/3	ハケ7本/cm

第33表 出土遺物観察表（土器）25

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
894	161-05	土師器 椀	L8 包含層	口12.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ナデ	密	良	灰白10YR8/2	2/3	
895	098-05	土師器 杯	N9 包含層 下層	口17.1	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ、ナデ、ハケ、ケズリ	やや密 ~3.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口1/2	
896	085-02	土師器 杯	N10 包含層	口13.6 器高4.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/8	1/4	
897	084-08	土師器 杯	M7 包含層	口12.9 器高3.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ	やや粗	良	橙5YR6/6	1/2	
898	084-06	土師器 杯	L8 包含層	口18.4 器高4.9	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	1/8	螺旋暗文 放射状暗文
899	085-01	土師器 杯	E8 包含層	口13.4 器高3.4	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	橙5YR7/8	口10/12	螺旋暗文 放射状暗文
900	077-04	土師器 皿	J9 包含層	口15.6 器高2.0	口:ヨコナデ 内外:ナデ	密	良	灰白5Y8/1	口1/6	
901	084-07	土師器 皿	M10 包含層	口19.2 器高2.3	口:ヨコナデ 内外:ナデ	密	良	橙5YR6/6	1/6	
902	084-04	黒色土器 椀	J13 包含層	底7.2	内:ミガキ 外:ナデ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	外:淡黄2.5Y8/3 内:黒2.5Y2/1	底完存	
903	084-05	黒色土器 椀	L6 包含層	底7.4	内:ミガキ 外:ナデ	やや粗	良	外:にぶい橙5YR7/3 内:赤黒2.5YR1.7/1	底完存	
904	120-05	黒色土器 椀	T9 包含層	底8.8	内:ミガキ 外:ナデ?	密	良	内:黒2.5GY2/1 外:灰黄褐10YR6/2	底1/3	
905	114-01	須恵器 椀	M9-10 包含層	口18.0 底12.6 器高6.9	口:ロクロナデ 内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	良	灰N6/	2/5	
906	123-01 123-02	土師器 竈	MN9 カクラン	底49.0 器高37.0	口:ヨコナデ 内外:ナデ、ケズリ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3	1/5	
907	097-04	土師器 甕	L8 包含層 下層	口9.8	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄褐10YR5/3	口1/4	ハケ6本/cm
908	079-02	土師器 甕	L8 包含層	口13.0	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい橙5YR7/3	口1/4	ハケ8本/cm
909	071-03	土師器 甕	J8 包含層	口12.2	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ、ケズリ 外:工具ナデ、オサエ	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口1/4	
910	082-04	土師器 甕	Y6 耕作土	口16.0	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや粗	良	淡赤橙2.5YR7/4	口1/4	ハケ6本/cm
911	097-03	土師器 甕	L6 包含層 下層	口15.6	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/4	口1/6	ハケ6本/cm
912	082-02	土師器 甕	M10 包含層	口14.1 器高14.2	口:ヨコナデ 内:摩耗 外:ハケ、摩耗	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/3	8/12	ハケ4本/cm
913	082-01	土師器 甕	K9 包含層	口17.7	口:ヨコナデ 内:ナデ、ハケ 外:ハケ	やや粗	良	灰白7.5YR8/2	口1/4	ハケ6本/cm
914	079-01	土師器 甕	M9 包含層	口20.9	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/6	口1/4	ハケ7本/cm
915	095-01	土師器 甕	K8 包含層 下層	口20.0	口:ヨコナデ 内:オサエ 外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口1/3	ハケ5~9本/cm
916	094-01	土師器 長胴甕	I7 包含層	口21.8	口:ヨコナデ 内:オサエ 外:ハケ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	褐灰7.5YR5/1	1/4	ハケ7本/cm
917	083-01	土師器 甕	M10 包含層	口28.0	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや粗	良	灰白2.5Y8/1	口1/4	内ハケ6~7本/cm 外ハケ6本/cm
918	079-04	土師器 甕	L8 包含層	口23.7	口:ヨコナデ、オサエ 内外:ハケ	やや粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5YR8/2	口1/4	ハケ5本/cm
919	080-01	土師器 甕	M9 包含層	口28.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ハケ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口1/4	ハケ7本/cm
920	079-03	土師器 甕	M9 包含層	口24.6	口:ヨコナデ、オサエ 内外:ハケ	やや粗 ~4.5mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	口1/4	ハケ7~8本/cm
921	080-03	土師器 甕	J10 包含層	口23.8	口:ヨコナデ 内外:ハケ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	灰白7.5YR8/2	口1/5	ハケ5本/cm
922	083-03	土師器 把手	O13 包含層	—	ナデ	やや粗	良	橙5YR7/6	把手のみ	
923	085-06	土師器 高杯	J10 包含層	底10.8	内:ナデ、ケズリ 外:ケズリ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	淡橙5YR8/3	脚3/5	面取り8角
924	085-07	土師器 高杯	K9 包含層	底14.9	内:ナデ、ケズリ 外:ケズリ、ヨコナデ	やや粗 ~6.0mmの砂粒含む	良	橙5YR6/8	脚3/5	面取り7角
925	082-05	土師器 甕	N9 包含層	口15.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:オサエ	やや粗	良	橙2.5YR6/6	口1/6	
926	083-02	土師器 甕	G9 包含層	口16.5	口:ヨコナデ 内:調整不明 外:オサエ、ケズリ	やや粗	良	淡橙5YR8/4	1/5	
927	087-02	土師器 鍋	J9 包含層	口26.0	ヨコナデ、ナデ、オサエ	粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい褐7.5YR5/4	口1/10	清郷型
928	087-01	土師器 羽釜	J11 包含層	口24.3	口:ヨコナデ 内:オサエ、ハケ 外:ナデ、オサエ	粗 ~5.0mmの細砂粒含む	良	橙5YR6/6	口1/10	ハケ13本/cm
929	084-03	土師器 皿	K9 包含層	口10.0 器高1.8	口:ヨコナデ 内外:ナデ	やや密	良	灰白10YR8/2	2/3	
930	084-01	土師器 皿	L8 包含層	口10.4 器高2.1	口:ヨコナデ 内外:ナデ	粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	ほぼ完存	

第34表 出土遺物観察表（土器）26

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
931	084-02	土師器皿	L7 包含層	口10.3 器高2.2	口:ヨコナデ 内:ナデ 外:ナデ、オサエ	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	1/2	
932	086-02	土師質土器小皿	U4 耕作土	口10.8 底4.8 器高1.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~1.5mmの砂粒含む	良	橙5YR6/8	4/5	
933	115-01	土師器皿	C4 包含層	口10.3 器高1.9	オサエ、ヨコナデ	やや密	良	淡黄2.5Y8/3	1/4	
934	115-02	土師器皿	C4 包含層	口9.8 器高1.4	オサエ、ヨコナデ	やや密	良	淡橙5YR8/3	1/2	
935	086-01	土師質土器小皿	F9 包含層	口9.7 底6.4 器高1.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~1.5mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/2	ほぼ完存	
936	059-11	土師質土器小皿	C4 SE1262	口9.4 底5.0 器高1.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙7.5YR8/3	1/2	有機物付着
937	086-04	土師質土器小皿	U5 耕作土	口17.6 底9.6 器高1.8	ロクロナデ、糸切り痕	密 ~0.5mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/3	1/4	
938	092-01	陶器山茶碗	D7 耕作土	口15.8 底7.3 器高4.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~4.0mmの砂粒含む	良	灰白5Y7/1	1/2	
939	090-06	灰釉陶器碗	B6 耕作土	底7.0	ロクロナデ、糸切り痕	密	良	灰白5Y7/1	底1/3	
940	089-01	陶器山茶碗	M9 包含層	口15.8 底7.0 器高5.9	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 細砂粒	良	灰白7.5Y7/1	口1/6	
941	097-01	灰釉陶器碗	L6 包含層 下層	底8.0	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰5Y6/1	底3/4	
942	089-02	陶器山茶碗	北壁セクション 包含層	口14.7 底7.6 器高5.7	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	灰白5Y8/1	口1/4	
943	120-03	灰釉陶器碗	R9 包含層	口16.5 底7.2 器高5.0	口内:ロクロナデ 外:ロクロナデ、貼付けナデ	密	良	灰白5Y7/1	1/8	
944	089-04	陶器山茶碗	L10 包含層	底7.0	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 細砂粒	良	灰白7.5Y7/1	底3/4	
945	089-06	灰釉陶器碗	P15 包含層	底7.0	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 細砂粒	良	素地:灰白2.5Y8/1 釉:灰白5Y8/1	底2/3	
946	100-04	綠釉陶器碗	S9 包含層	—	施釉	やや密	良	素地:灰白2.5Y8/1 釉:黄緑	小片	
947	093-02	陶器山茶碗	M10 包含層	底7.5	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~7.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底完存	糊般痕
948	093-01	陶器山茶碗	M7 包含層	底6.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや粗 ~7.0mmの砂粒含む	良	灰白2.5Y8/1	底完存	糊般痕
949	091-06	陶器小碗	O10 包含層	口7.8 底3.5 器高2.3	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 細砂粒	良	灰白N8/	3/5	
950	091-03	陶器小碗	G9 包含層	口8.3 底4.5 器高2.8	ロクロナデ、糸切り痕	やや密 細砂粒	良	灰白5Y7/1	3/5	
951	091-02	陶器小碗	K9 包含層	口9.5 底4.8 器高3.1	ロクロナデ、糸切り痕	やや密	良	灰5Y6/1	1/3	
952	120-06	土製品土錘	R9 包含層	5.3×2.8 重さ39.60g	オサエ	やや粗 ~1.0mmの砂粒含む	良	褐灰10YR4/1	完存	
953	088-10	土製品土錘	K9 包含層	6.6×1.4 重さ9.85g	ナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	浅黄橙10YR8/4	完存	
954	088-01	土製品土錘	L8 包含層	(5.3)×1.2 重さ(7.23g)	ナデ	やや密 ~2.0mmの砂粒含む	良	灰黃褐10YR5/2	2/3	
955	088-08	土製品土錘	下層 トレンチ東	(5.6)×1.4 重さ(9.23g)	ナデ	やや密 ~1.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR6/6	2/3	
956	088-03	土製品土錘	A7 包含層	4.8×1.8 重さ12.45g	ナデ	やや密 ~0.5mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	完存	
957	088-02	土製品土錘	L8 包含層	(4.2)×1.4 重さ(6.87g)	ナデ	粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	2/3	
958	088-04	土製品土錘	J9 包含層	(4.6)×1.1 重さ(4.54g)	ナデ	やや密 ~0.5mmの砂粒含む	良	灰黃褐10YR5/2	2/3	
959	088-09	土製品土錘	W5 包含層	(4.2)×1.3 重さ(9.23g)	ナデ	密	良	褐灰10YR5/1	2/3	
960	087-05	土製品土錘	L8 包含層	(3.0)×1.9 重さ(3.26g)	ナデ	密	良	褐灰10YR4/1	2/3	
961	101-07	土製品土錘	R17 包含層	3.5×1.6 重さ(7.09g)	ナデ	やや密	良	淡橙5YR8/3	2/3	
1099	356-02	弥生土器壺	BT35 SK1210	体部最大24.0	内:オサエ、ナデ 外:ミガキ、櫛描沈線文、櫛描直線文、風化大調整不明瞭	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	体1/5	直線文5本/cm
1100	357-04	弥生土器壺	BT37-38 SK1210	—	内:ナデ 外:ミガキ、ヘラ描沈線文、櫛描直線文、ヘラ描孤状文	粗 ~6.0mmの砂粒多く含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	体小片	直線文7本/cm
1101	358-03	弥生土器壺	BT35 SK1210	—	内:ハケ 外:ヘラ描沈線文、繩文	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
1102	356-01	弥生土器鉢	BT35 SK1210	口23.3	口:ヨコナデ 内:ミガキ 外:ハケ、ミガキ、刺突文 風化大調整不明瞭	やや粗 ~2.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	1/2	
1103	357-01	弥生土器壺	BT35 SK1210	底6.5	内:ナデ 外:ミガキ、ナデ、オサエ 表面剥離調整不明瞭	粗	良	灰白10YR8/2	底完存	黒斑あり

第35表 出土遺物観察表（土器）27

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
1104	357-03	弥生土器 壺	BT37・38 SK1210	底5.4	内:ナデ 風化大調整不明	粗 ~4.0mmの 砂粒多く含む	良	灰白10YR7/1	底1/3	
1105	355-01	土師器 甕	BT35 SK1210	口22.2	口:ヨコナデ 内:オサエ、ナデ 外:タテハケ 風化大調整不明瞭	やや密 ~1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	口4/12	外面スス付着
1106	357-07	弥生土器 甕	BT35 SK1210	口19.8	口:キザミ 外:ハケ 風化大調整不明瞭	粗	良	褐灰10YR5/1	口6/12	ハケ6本/cm 口縁部押圧2
1107	358-02	弥生土器 甕	BT35 SK1210	口32.4	口:キザミ 内外:ハケ 風化大調整不明瞭	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	橙7.5YR7/6	口2/12	口縁部押圧2
1108	356-03	弥生土器 甕	BT37・38 SK1210	口29.2	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:ハケ 風化大調整不明瞭	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/8	口2/12 底6/12	
1109	357-06	弥生土器 甕	BS37 SK1210	—	口:キザミ 内:表面剥離調整不明 外:ハケメ	粗	良	灰黄褐10YR6/2	口縁小片	ハケ3本/cm
1110	357-05	弥生土器 甕	BT35 SK1210	口18.0	口:キザミ、ナデ、オサエ 風化大調整不明瞭	粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁1/4	
1111	358-01	弥生土器 甕	BT35 SK1210	口19.2	口:ヨコナデ 内:ハケ 外:ハケ	密	良	橙7.5YR6/6	口5/12	ハケ9本/cm
1112	357-02	弥生土器 甕	BT35 SK1210	底5.0	内:ナデ 外:ハケ、ナデ、オサエ 風化大調整不明瞭	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	底6/12	底部焼成前穿孔1
1113	363-07	弥生土器 甕	BT35 SK1210	—	内:ナデ、オサエ 外:ハケ	粗 ~4.0mmの 砂粒含む	良	黄灰2.5Y5/1	底1/2	底部焼成前穿孔1
1114	363-03	弥生土器 甕	BT38 SH1196	—	口:櫛描波状文、刺突文、櫛描直線文、ハケ?、ナデ	粗	良	にぶい橙7.5YR7/3	口小片	直線文3本/cm 波状文4本/cm
1115	362-03	弥生土器 甕	BU38 SH1196	頸部12.4	内:オサエ、ナデ 外:繩文、ヘラ描沈線文、突帯貼付け後キザミ、ミガキ?	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰黄褐10YR6/2	頸1/4	
1116	365-02	弥生土器 甕	BT38 Ⅲ層落込 SH1196	—	内:ナデ 外:ナデ、沈線文、ハケ	粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	頸小片	ハケ5本/cm
1117	362-02	弥生土器 甕	BU39 SH1196	口7.8	口:波状文 内:ヨコナデ、絞り痕 外:櫛描直線文	やや粗 ~1.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄褐10YR5/3	口1/12	直線文3本/単位 波状文7本/cm
1118	363-01	弥生土器 甕	BU38 SH1196	口12.2	口:櫛描波状文、ヨコナデ、ナデ、 オサエ、ハケ、櫛描直線文	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	口2/12	直線文6本/cm
1119	363-02	弥生土器 甕	BU38 SH1196	口15.2	口:刺突文、竹管文、ミガキ?	粗	良	明褐7.5YR5/6	口3/12	
1120	365-01	弥生土器 甕	BT35 Ⅲ層落込 SH1196	—	内:ナデ、絞り痕 外:櫛描直線文、波状文	やや粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	体小片	直線文8本/単位 波状文8本/単位
1121	363-04	弥生土器 甕	BU38 SH1196	—	口:キザミ、櫛描波状文、直線文、 ハケ	やや粗	良	にぶい褐7.5YR6/3	口小片	
1122	361-01	弥生土器 甕	BU38 SH1196	—	口:波状文、キザミ、ハケ、櫛描直 線文	密	良	にぶい褐7.5YR6/3	口小片	
1123	361-03	弥生土器 甕	BJ36 SK1117	—	口:刺突文、キザミ、ハケ 調整不明瞭	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口小片	
1124	361-02	弥生土器 甕	BO36 SK1136	—	内:ナデ 外:ハケ、櫛描直線文、櫛描波状文	やや粗	良	橙7.5YR7/6	体小片	直線文3本/cm 波状文4本/単位
1125	364-02	弥生土器 甕	BO43 SK1149	—	口:キザミ 内:ヨコナデ 外:ヨコナデ、櫛描直線文	やや粗 ~5.0mmの 砂粒含む	良	黑褐10YR3/2	口小片	直線文6本/cm 口縁部浮文1
1126	363-05	弥生土器 甕	BT42 SK1190	—	口:刺突文、櫛描波状文、櫛描直線文、 ハケ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR6/4	口小片	波状文5本/単位
1127	364-01	弥生土器 甕	BO43 SK1149	—	口:キザミ、波状文 内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	褐灰7.5YR4/1	口小片	波状文5本/単位
1128	364-05	弥生土器 甕	BU35 SK1213	—	口:波状文、ナデ、ヨコナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	橙5YR6/6	口小片	波状文5~7本/単位
1129	361-04	弥生土器 甕	BL38 SK1124	—	内:ハケ 外:ハケ、ミガキ、櫛描直線文	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	体小片	内外ハケ6~7本/cm 直線文6本/cm
1130	362-01	弥生土器 甕	B SK1124	—	内:ハケ、絞り痕 外:櫛描直線文、櫛描波状文、ハケ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白2.5Y7/1	体小片	内ハケ5本/cm 外ハケ9本/cm 直線文5本/cm
1131	363-06	弥生土器 甕	BT37・38 SK1212	口9.2	口:ナデ、貼付け浮文、オサエ、ハ ケ、櫛描直線文	やや密	良	灰黄褐10YR6/2	口4/12	直線文6本/cm
1132	364-04	弥生土器 甕	BT39 SK1211	—	口:波状文、ヨコナデ、ハケ	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口小片	波状文4~6本 ハケ5本/cm
1133	360-02	弥生土器 甕	BJ36 SK1117	—	口:ハケ、ナデ、刺突文、櫛描直線文	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/2	口小片	ハケ5本/cm 直線文8本/cm
1134	365-03	弥生土器 甕	BU87 SH1186	—	口:波状文、ナデ、ハケ	粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	灰白10YR8/2	口小片	ハケ5~6本/cm 波状文6本/cm
1135	364-03	弥生土器 甕	BJ36 Ⅲ層	—	口:キザミ、ハケ、刺突文、ナデ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	口小片	ハケ7本/cm
1136	360-01	弥生土器 甕	BT36 SK1223	—	口:ハケ、波状文、キザミ	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/3	口小片	ハケ3本/cm
1137	360-05	弥生土器 甕	BT36 SK1223	—	内:オサエ 外:ヘラ描沈線文、櫛描直線文	やや粗 ~8.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	体小片	直線文10本/単位
1138	359-01	弥生土器 甕	BT36 SK1123	—	口:ハケ、キザミ 内:ナデ 外:ハケ、櫛描直線文、波状文	粗 ~3.0mmの 砂粒含む	良	にぶい橙7.5YR7/4	口~体小片	直線文7本/cm ハケ7~8本/cm 波状文7本/cm
1139	360-04	弥生土器 甕	BT35 SK1222	—	口:ハケ、波状文、	やや粗 ~2.0mmの 砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR6/3	口小片	ハケ5~6本/cm 波状文4本/単位

第36表 出土遺物観察表（土器）28

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
1140	359-02	弥生土器 壺	BT35 SK1222	—	内:ナデ 外:ミガキ、ヘラ描沈線文、櫛描直線文、波状文、3組一対で櫛描文	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい褐7.5Y5/4	体小片	直線文11本/cm
1141	363-08	弥生土器 壺	BM36 SK1127	—	内:オサエ、ナデ 外:ヘラ描沈線文、縄文	やや粗	良	にぶい黄橙10YR6/3	体小片	内面黒変
1142	360-03	弥生土器 壺	BT39 SK1211	—	内:剥離調整不明 外:ミガキ、櫛描直線文、ヘラ描沈線文、櫛描弧状文	やや粗 ~5.0mmの砂粒含む	良	オリーブ黒5Y3/1	体小片	直線文10本/単位
1143	366-02	弥生土器 壺	BT36 第Ⅲ層	—	内:ナデ 外:ミガキ、ヘラ描沈線文、櫛描直線文、波状文	やや粗 ~3.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	体小片	直線文8本/単位 波状文7本/cm
1144	366-03	弥生土器 壺	BO41 第Ⅲ層	—	内:風化大調整不明 外:ミガキ、ナデ、ヘラ描沈線文、縄文、ヘラ描弧状文	粗 ~4.0mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙10YR7/3	体小片	外面浮文

第37表 出土遺物観察表（土器）29

番号	実測番号	種類・材質	名称	出土地区	層位・遺構	法量(cm)	重さ(g)	備考
601	3905	銅製品	鎔帶	J28	SD1236	2.70×2.50		
1099	12902	鉄製品	刀子	P43	SE1150	7.90×2.90	22.40	

第38表 出土遺物観察表（鉄製品）

番号	実測番号	名称	材質	小地区	遺構・層名	法量(cm)	重さ(g)	備考
310	35101	石帶	黒曜石	O45	SD1112	3.30×3.19×0.72	20.20	
330	31901	管玉	硬玉	P47	SD1161	3.16×0.90×4.30	4.30	
401	35001	石鋤	緑色凝灰岩	R43	耕作土	径8.00		
450	33502	紡錘車	滑石	P27	SD1248	4.30×(1.33)	(12.60)	
469	34302	石斧?	不明	Q23	SD1265	9.80×5.52×4.31	314.10	
962	30101	石鎌	サヌカイト	R45	SH1179	2.18×1.12×0.39	0.90	
963	30001	石鎌	サヌカイト	S45	SH1179	(2.68)×1.31×0.36	(1.20)	
964	30102	石錐	サヌカイト	S45	SH1179	3.03×1.18×0.60	2.30	
965	30002	磨製石斧	ハイアロクラストタイト	R45	SH1179	3.24×2.66×0.50	7.60	
966	30901	石鎌	サヌカイト	R43	SH1173	2.66×1.19×0.40	1.20	
967	30902	磨製石斧	サヌカイト	R74	SH1173	5.09×3.48×0.70	24.80	
968	35201	石鎌	サヌカイト	T38	第III層 SH1196	3.99×1.77×0.50	2.70	
969	30202	石鎌	サヌカイト	U39	SH1196	5.11×1.43×0.43	3.00	
970	31001	磨製石斧	ハイアロクラストタイト	T38	第III層 SH1196	(9.82×5.39×3.32)	(146.20)	
971	30201	削器	サヌカイト	U39	SH1196	4.00×6.45×0.94	22.40	
972	31301	RF	サヌカイト	U39	SH1196	3.13×5.14×0.80	12.80	
973	31302	磨製石斧	砂岩	S39	Ⅲ層落ち込み SH1196	(3.03×2.77×0.88)	(11.60)	
974	30702	石鎌	サヌカイト	M36	SK1127	2.70×1.31×0.53	1.60	
975	30701	石鎌	サヌカイト	T46	北Pit	(2.77)×1.67×0.36	(1.90)	
976	30301	石鎌	サヌカイト	T36	SK1223	4.02×1.74×0.59	3.90	
977	31601	石鎌	サヌカイト	R38	SD1168	2.72×1.22×0.44	1.40	
978	31701	石錐	サヌカイト	O43·P43	SD1164	8.20×1.91×0.90	9.40	
979	31501	石鎌	サヌカイト	O44	SD1160	1.64×1.19×0.38	0.60	
980	31502	石錐	サヌカイト	T43	SD1160	5.77×1.83×1.08	12.60	
981	30801	削器	サヌカイト	T46	SK1181	4.30×5.93×1.09	22.20	
982	32301	不明石製品	不明	I41	SD1112 青灰色土層	6.22×9.95×2.00	114.03	
983	31401	RF	サヌカイト	O38	SK1141	(2.78×4.21×0.89)	(9.70)	
984	31101	磨製石斧	ハイアロクラストタイト	U46	SH1186	(12.05)×7.01×4.03	(551.15)	
985	33301	石斧?	砂岩?	J37	SK1125	(3.79×4.04×1.89)	(18.99)	
986	30601	磨製石斧	砂岩	O44	北西隅土坑埋土	7.13×6.48×1.91	110.75	
987	31801	削器	サヌカイト	R45	SD1115	4.83×6.93×1.12	31.80	
988	32101	打製石包丁	片岩	I41	SD1112 青灰色土層	5.27×7.62×0.65	37.60	
989	31201	敲石	花崗岩	O38	SK1143	(7.88×9.68×6.89)	(562.50)	
990	32201	敲石	不明	K42	SD1112	(4.82×7.80×6.55)	(277.02)	
991	32001	凹石	砂岩	T48	SD1112	9.35×6.32×3.59	167.03	
992	29701	砥石	砂岩	N44	SD1112 II層	(9.45×7.40×3.80)	(345.61)	
993	32401	敲石	ハンレイ岩	O46·47	SD1158	(11.93)×5.01×3.59	(341.25)	
994	33201	敲石	不明		SD1112 B層	12.65×4.22×4.92	347.10	
995	33401	石鎌	サヌカイト	N38	II層	2.98×1.91×0.33	1.30	
996	30501	石鎌	サヌカイト	M41	Pit1	3.02×1.80×0.40	1.40	
997	29401	石鎌	サヌカイト	M41	包含層	2.45×1.70×0.50	1.40	
998	32701	石鎌	サヌカイト	Q41	III層	2.41×1.58×0.29	1.15	
999	32702	石鎌	サヌカイト	T48	III層	2.64×1.53×0.57	1.90	
1000	32901	石鎌	サヌカイト	U36	III層	3.10×1.23×4.08	1.50	
1001	29402	石鎌	サヌカイト	M41	包含層	3.45×1.20×0.80	3.50	
1002	33402	石鎌	サヌカイト	O37	II·III間層	(2.84)×1.05×0.49	(1.30)	
1003	32801	石包丁	片岩?	T37	III層	(3.46×6.41×0.54)	(11.60)	
1004	32601	楔	サヌカイト	P44	III層	2.67×3.95×1.06	8.60	

第39表 出土遺物観察表（石製品）1

1005	32602	楔	サヌカイト	Q38	Ⅲ層	2.68×3.57×0.93	8.70	
1006	32502	削器	サヌカイト	P37	Ⅲ層	2.97×4.86×0.89	13.60	
1007	29601	削器	サヌカイト	O38	Ⅱ層	3.20×5.70×0.90	15.40	
1008	30401	削器	サヌカイト	T40	Pit4	4.11×6.84×0.86	23.20	
1009	33101	磨製石斧	ハイアロクラス タイト	T36	Ⅲ層	(10.30×6.79×3.48)	(298.30)	
1010	29501	石斧	ハイアロクラス タイト	O41	耕作土	8.70×5.30×1.20	82.00	
1011	30402	磨製石斧	凝灰岩	T45	Pit1	6.13×1.59×1.08	33.00	
1012	32501	磨製石斧	サヌカイト	L35	Ⅲ層	4.82×2.79×0.55	13.20	
1013	29801	砥石	砂岩	R33	Ⅱ-Ⅲ層	(9.70×5.50×4.90)	(240.00)	
1014	33001	砥石	砂岩	S40	Ⅲ層	6.66×4.10×2.98	84.35	
1015	33002	不明石製品	不明	V33	Ⅲ層	(5.99×4.15)×1.07	(35.60)	
1016	29901	軽石	軽石	I36	Ⅱ層	5.50×3.70×3.50	33.40	
1017	35401	石槍	サヌカイト		SD1299	(9.61)×2.67×1.20	(35.60)	
1018	33501	石鏃	サヌカイト	I28	SD1236 1層上層	(1.38×1.36)×0.43	(1.25)	
1019	35301	石小刀	サヌカイト	J27	SD1244	5.55×0.52	5.70	
1020	34001	不明石製品	片岩	O28	SD1236	14.68×5.52×1.41	153.90	
1021	34501	石錐	不明	L7	SD1261	11.36×2.61×1.96	74.00	
1022	33801	砥石	砂岩		表土	(7.57×5.45)×1.37	(72.50)	
1023	34101	砥石	砂岩	N28	SD1236	7.28×4.30×3.32	111.50	
1024	33901	砥石	砂岩		SD1295 下層	7.68×5.99×3.71	236.90	
1025	34401	砥石	砂岩	T30	SD1236 東壁トレンチ	10.43×10.72×2.98	314.70	
1026	33601	砥石	緑色凝灰岩	K28	SD1236	10.30×3.99×1.90	78.50	
1027	34301	砥石	砂岩	O28	SD1236	8.50×3.75×4.80	102.10	
1028	34201	砥石	砂岩	T28	SD1236	6.87×3.85×1.72	48.20	
1029	34102	砥石	砂岩	N28	SD1236	5.92×3.26×2.80	53.50	
1030	33701	砥石	粘板岩	M28	SD1236	7.19×5.12×0.93	32.60	
1031	34601	凹石	砂岩	N9	包含層	9.89×13.29×5.04	1015.10	
1146	36601	磨製石斧	ハイアロクラス タイト	Q37	第Ⅲ層	(3.84)×2.67×0.80	(15.80)	扁平片刃 石斧の頭部か？

第40表 出土遺物観察表（石製品）2

番号	実測番号	分類・名称	地区	遺構・層位	法量(cm)			樹種	木取り等	備考
					全長	幅	厚さ			
1032	801	棒状木製品	T37	SE1202	(17.0)	2.0	1.2		辺材	
1033	802	容器	曲物底板	T37	SE1202	16.2		0.7		追柾目
1034	803		板材	T37	SE1202	22.8	5.6	0.7		追柾目
1035	804		棒状木製品	T37	SE1202	(21.7)	1.5	1.0		辺材
1036	805		棒状木製品	T37	SE1202	(25.7)	2.0	1.3		辺材
1037	2201	容器	曲物底板	N44	SD1112	(15.0)		0.7		柾目
1038	806		木錘	H41	SD1112	5.7				芯持ち材
1039	2202		杭	N44	SD1112	(7.6)		(2.1)		芯持ち材
1040	702		半截材	H41	SD1112	(25.7)	4.1	2.4		
1041	703		棒状木製品	S39	SK1195	(38.1)		0.9 ~1.2		辺材
1042	601		杭	H41	SD1112	(83.9)	8.0	3.6		追柾目
1043	701		不明材	H41	SD1112	(31.5)	(12.3)	(2.9)		板目
1044	602		不明材	T37・38	SK1212	(31.1)	(12.0)	(6.9)		追柾目
1045	2203		杭	K37	Ⅲ層	(10.4)	(2.6)	1.5		辺材
1046	2102		有孔不明板	L43	包含層	(68.7)	(12.8)	3.2		板目
1047	2101	建築材		G44	SD1109	(93.2)		5.4 ~10.0		芯持ち材
1048	502	容器	曲物底板	P23	SD1248	16.4		5.5		柾目
1049	503	容器	曲物底板	F~T 28・29	SD1236	14.9		7.0		追柾目
1050	501		鞘	L・M23	SK1246	23.4	2.6	5.5		追柾目
1051	1102		杭	J27	SD1244	(46.8)	5.0	3.0		芯持ち材
1052	1302		杭	J27	SD1244	(44.1)		4.1		芯持ち材
1053	1303		杭	J27	SD1244	(55.3)	4.7	5.1		芯持ち材
1054	1205		杭	J27	SD1244	(55.1)	6.5	6.4		芯持ち材
1055	1203		杭	J27	SD1244	(49.5)		6.0		芯持ち材
1056	1301		杭	J27	SD1244	(57.7)	3.6	4.3		芯持ち材
1057	1105		杭	J27	SD1244	(56.3)	7.3	4.6		辺材
1058	1401		杭	J27	SD1244	(101.3)	8.6	9.1		芯持ち材
1059	1104		杭	J27	SD1244	(26.5)	7.0	5.0		辺材
1060	1304		杭	J27	SD1244	(11.8)	(3.0)	(1.9)		芯持ち材
1061	1305		杭	T28	SD1244	(25.1)		3.2		芯持ち材
1062	1201		杭	J27	SD1244	(24.8)	4.4	4.3		芯持ち材
1063	1101		杭	J27	SD1244	(30.9)	5.8	3.0		辺材
1064	1204		杭	J27	SD1244	(40.2)	5.6	6.2		芯持ち材
1065	1202		杭	J27	SD1244	(41.1)	4.8	5.1		芯持ち材
1066	1103		杭	J27	SD1244	(42.2)		3.7		辺材
1067	901	井戸枠	曲物	T10	SE1279	径31.2	高さ 11.8	0.3 ~0.5		
1068	1001	井戸枠	曲物	J37	SE1123	径26.1				
1069	101	井戸枠	曲物	C4	SE1262	径51.9	高さ 30.4	0.3 ~0.6		
1070	201	井戸枠	曲物	C4	SE1262	径42.4	高さ 28.8	0.5 ~0.7		
1071	301	建築材	板材	C4	SE1262	78.0	11.0	1.5		板目
1072	302	建築材	板材	C4	SE1262	73.2	11.5	1.3		板目
1073	303	建築材	板材	C4	SE1262	71.5	12.8	1.2		板目
1074	304	建築材	板材	C4	SE1262	75.5	12.5	1.1		板目
1075	305	建築材	板材	C4	SE1262	60.7	11.7	1.2		板目
1076	401		斎串	C4	SE1262	33.0	2.0	0.2		板目
1077	2206		不明材	A7	SE1253	(39.8)	7.8	1.4		板目
1078	2207		不明材	A7	SE1253	(54.3)	7.6	1.6		板目

第41表 出土遺物観察表（木製品）1

1079	2204		杭	A7	SE1253	(14.1)		4.9		芯持ち材	
1080	1703	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(82.3)	18.5	2.9		板目	
1081	1902	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(79.6)	16.0	2.7		板目	
1082	2001	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(87.0)	14.0	1.5 ～3.0		板目	
1083	1503	井戸枠	横桟丸太材	Q8	SE1301	(69.8)		8.0		芯持ち材	
1084	1702	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(112.9)	16.9	1.6		板目	
1085	1803	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(89.6)	16.5	1.6		板目	
1086	1604	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(51.0)	17.0	1.3		板目	
1087	1601	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(56.4)	8.9	3.1		板目	
1088	1502	井戸枠	横桟	Q8	SE1301	75.5	8.7	4.3		柾目	
1089	1701	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(99.4)	13.8	3.5		板目	
1090	1802	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(100.8)	17.8	2.3		板目	
1091	1801	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(88.2)	13.5	1.7		板目	
1092	1901	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(79.8)	17.8	2.5		板目	
1093	1504	井戸枠	横桟丸太材	Q8	SE1301	82.4		8.0		芯持ち材	
1094	2002	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(87.5)	12.5	1.0 ～1.5		板目	
1095	1903	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(75.5)	13.6	2.6		板目	
1096	1602	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(65.1)	11.2	1.4		板目	
1097	1501	井戸枠	横桟丸太材	Q8	SE1301	78.0		8.8		芯持ち材	
1098	1603	井戸枠	たて板	Q8	SE1301	(54.5)	14.6	1.5		板目	

第42表 出土遺物観察表（木製品）2

写 真 図 版



B地区全景（南東から）



C地区全景

図版 2



D地区全景（北東から）



A 1地区全景（南から）



A 2地区全景（北から）



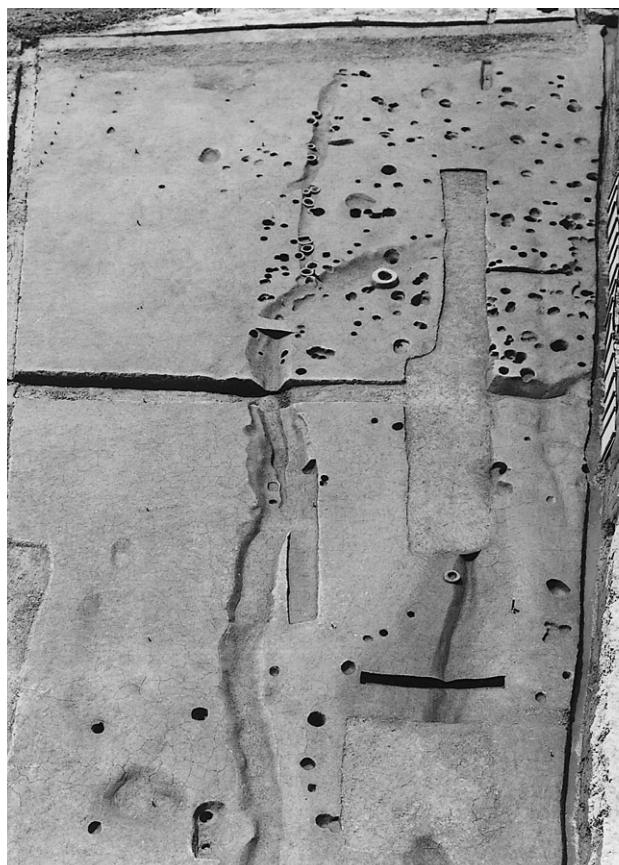
A 4地区全景（南から）



A 5地区全景（北から）



A 6 地区全景（東から）



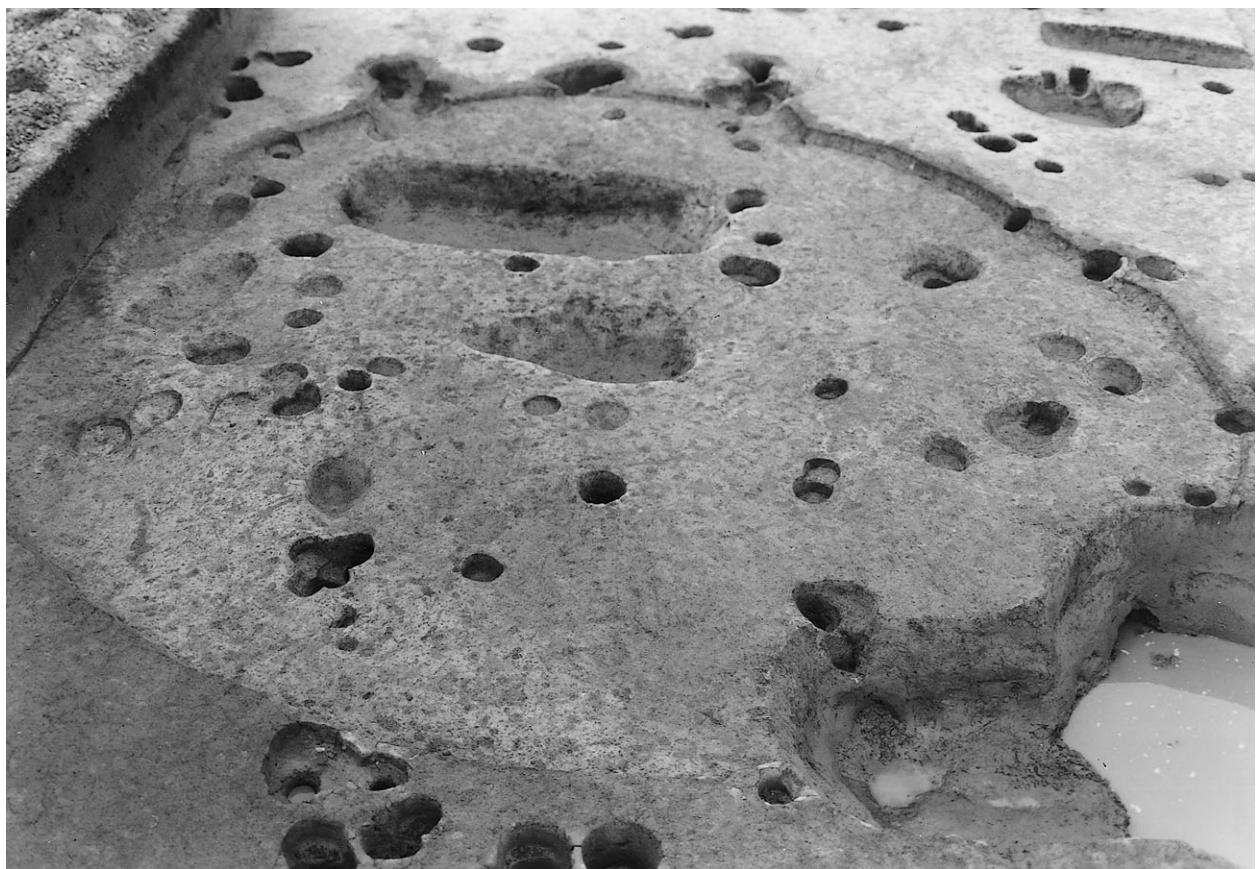
D 2 地区下層全景（西から）

D 地区下層全景（東から）



D 地区遠景（北から）

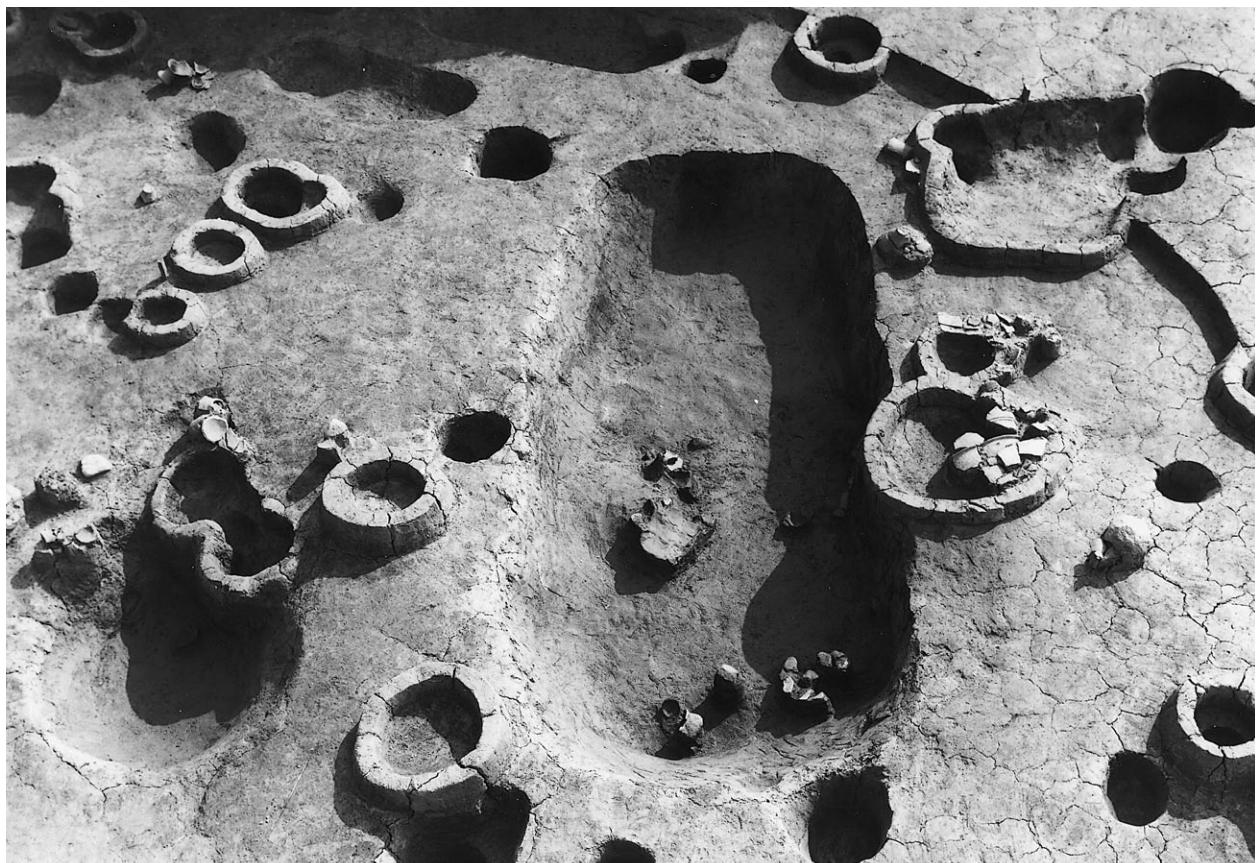
図版 4



SH1196 (北から)



SH1186 部材検出状況 (北から)



SH1196 遺物出土状況（西から）



SH1196 遺物出土状況（北から）



SH1196 遺物出土状況（西から）



SH1196 遺物出土状況（西から）



SH1196 遺物出土状況（北から）

図版 6



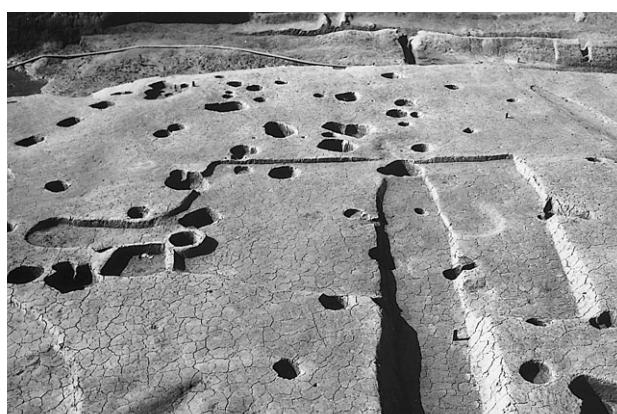
SH1186 炭化材検出状況（北から）



SH1186 完掘状況（西から）



SH1173（北西から）



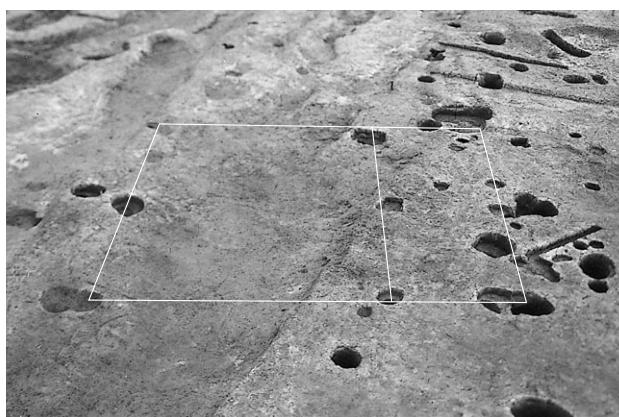
SH1179（東から）



SH1184, SK1185・1188（北から）



SB1227（北から）



SB1230（西から）



SB1228（西から）



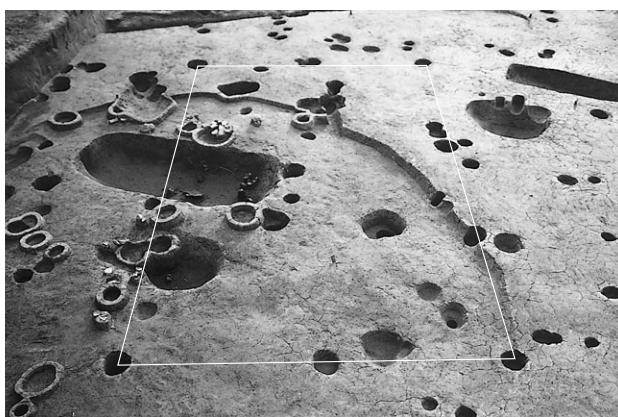
SB1229（西から）



SB1231（西から）



SB1232（西から）



SB1233（北から）



SB1234（北から）

図版 8



SB1235（北から）



SK1120（南東から）



SK1125（南から）



SK1127（北西から）



SK1124（北から）



SK1142（西から）



SK1146（北西から）



SK1147（北西から）



SK1145・1146・1147 完掘状況（西から）



SK1211（北から）



SK1212（東から）



SK1210（北から）



SK1136（南から）



SK1132（北から）



SK1139（北から）

図版 10



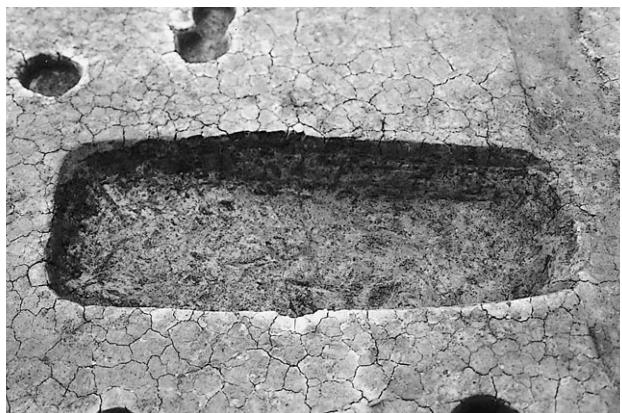
SK1209（西から）



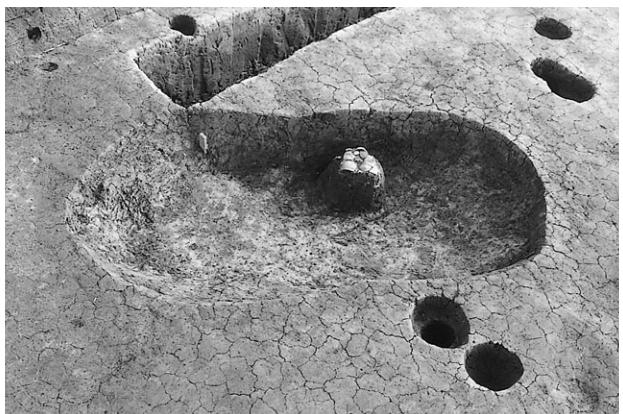
SK1222・1223（西から）



SK1165（西から）



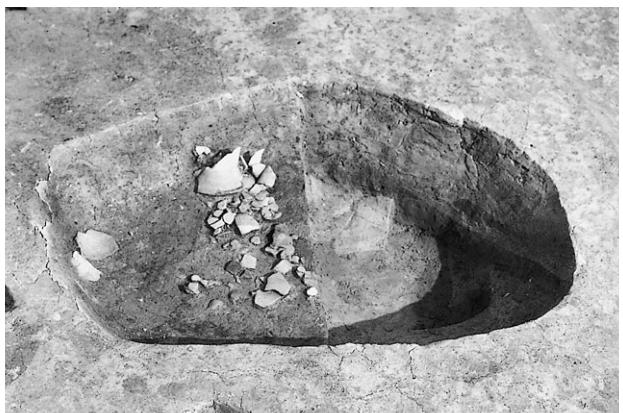
SK1194（北から）



SK1189（西から）



SK1151（東から）



SK1206（南から）



SK1206・1207 完掘状況（北から）



SK1190（西から）



SK1197（北から）



SK1208（北から）



SK1122・1123（北から）



SK1131（北から）



SK1143（北から）



SK1144（西から）



SK1148（北から）

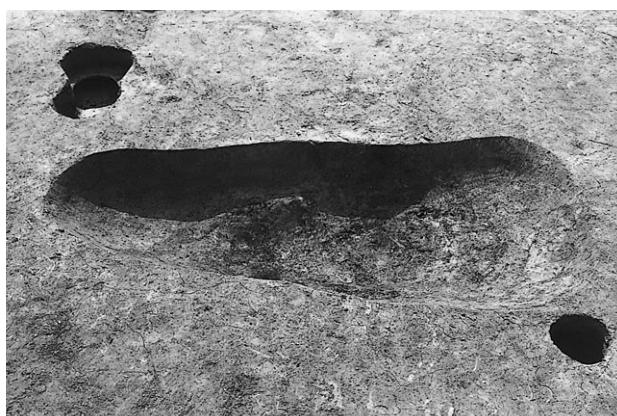
図版 12



SK1149（北から）



SK1170・1171（西から）



SK1181（北から）



SK1185（北から）



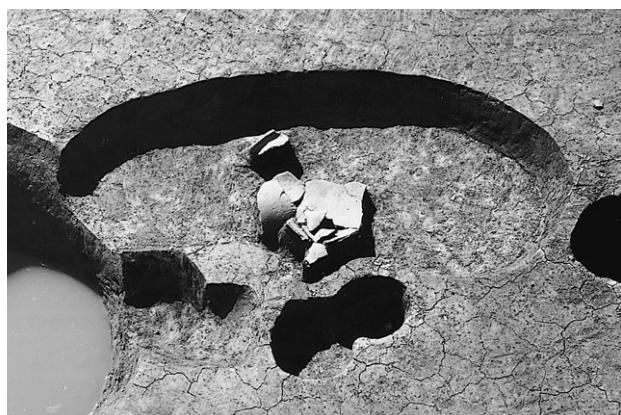
SK1188（南から）



SK1192（西から）



SK1193（北から）



SK1200（北から）



SK1204（北から）



SD1115（西から）

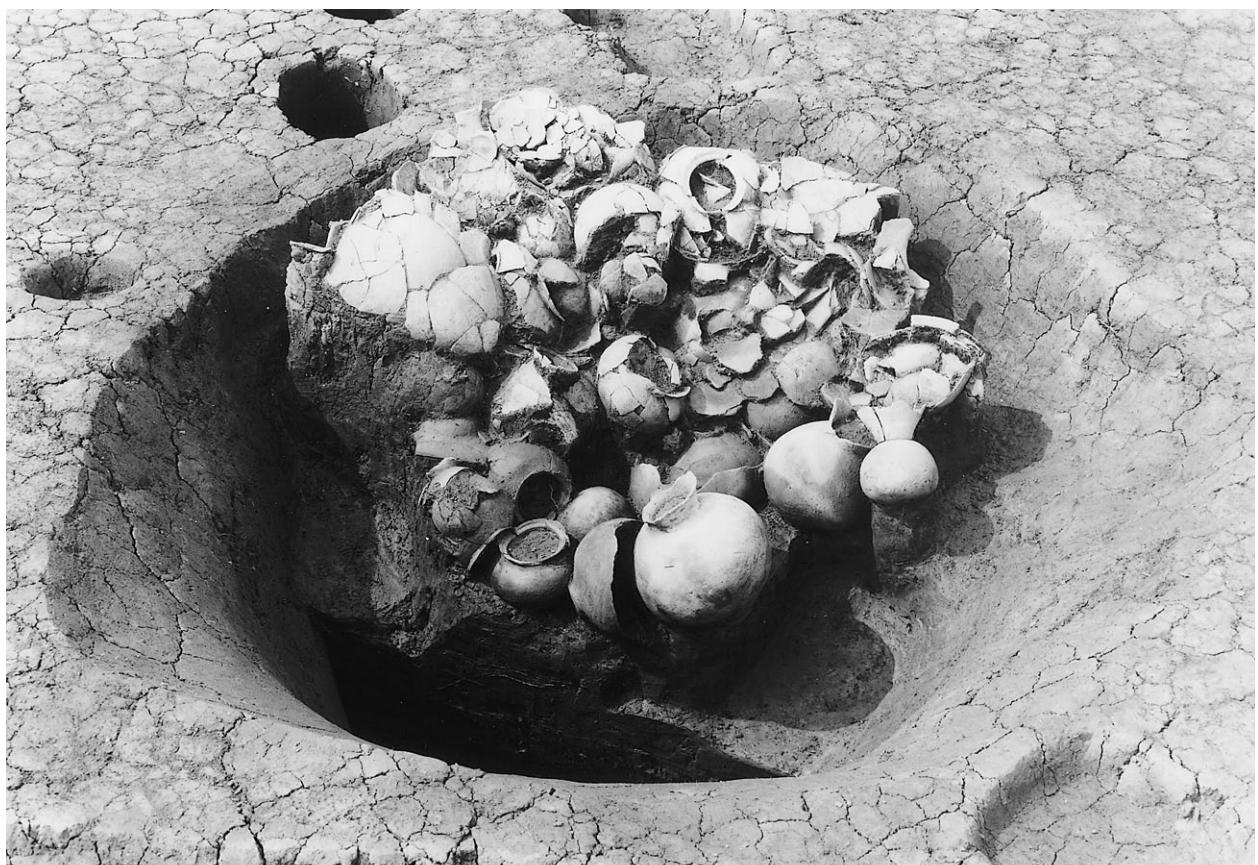


SD1112（西から）



SD1214（西から）

図版 14



SE1150 遺物出土状況（東から）



SE1150 遺物出土状況近景（南から）



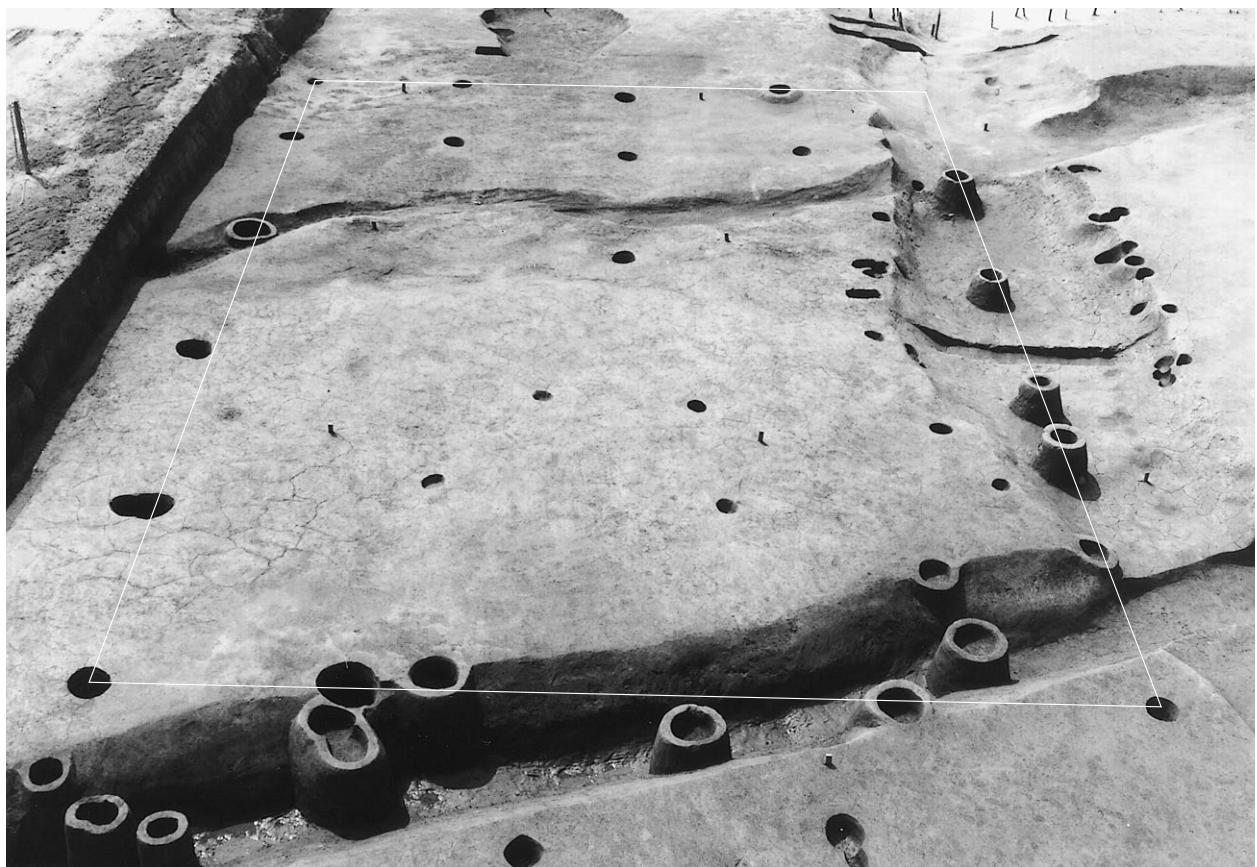
SE1150 作業風景（北から）



SE1150 完掘状況（東から）



SE1113 半截状況（南から）



SB1252 (北から)



SK1240 (北から)



SK1246 (北から)



SD1239 (北から)



SD1236 (西から)

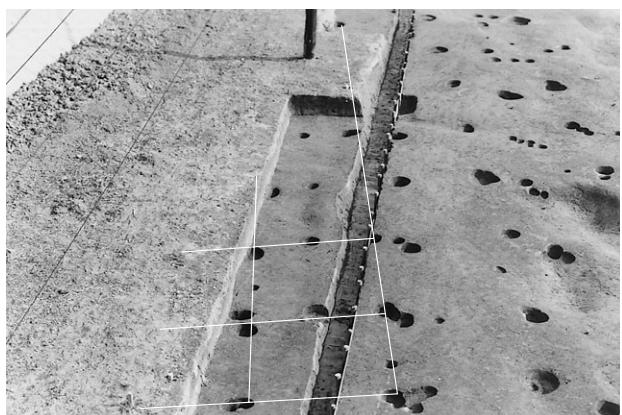
図版 16



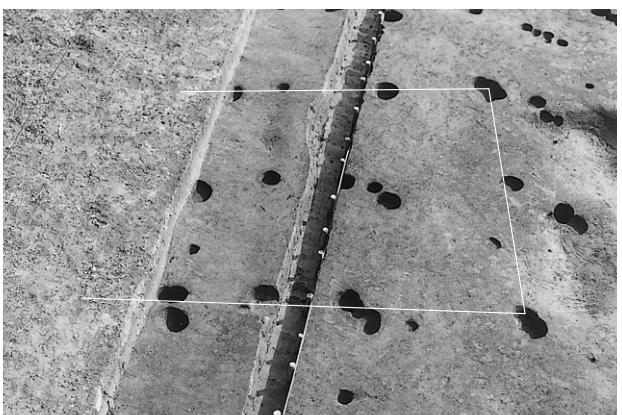
SD1244（西から）



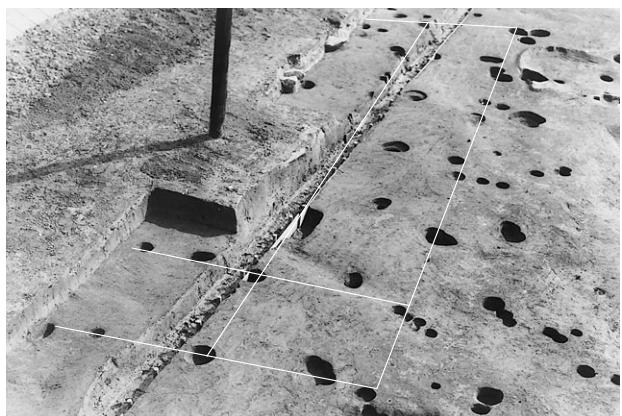
D地区北半部 挖立柱建物群（東から）



SB1280（西から）



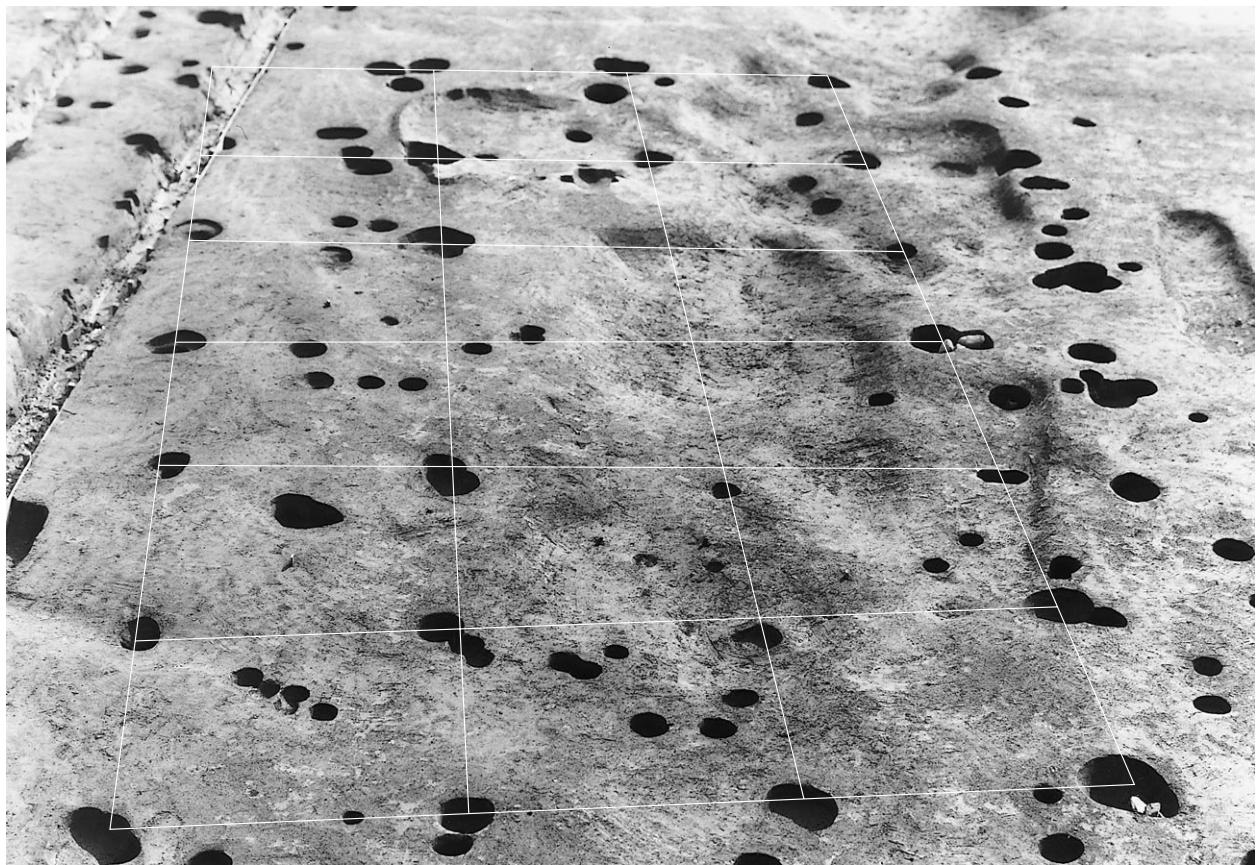
SB1281（西から）



SB1282（西から）

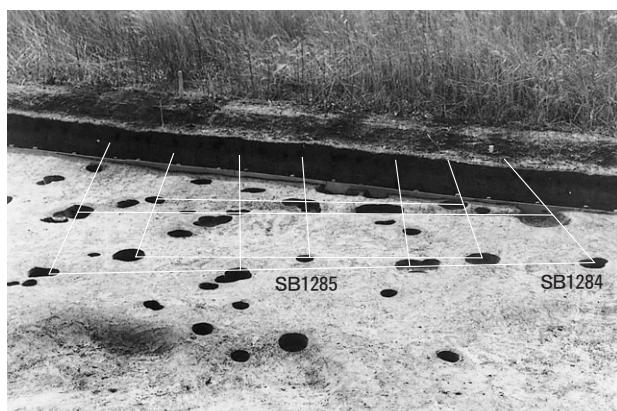


SA1311（西から）

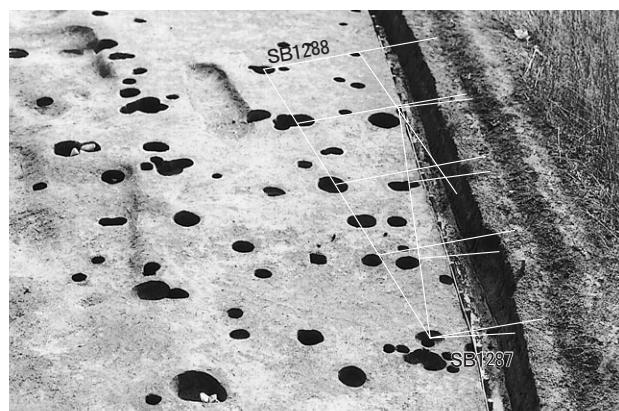


SB1283（西から）

図版 18



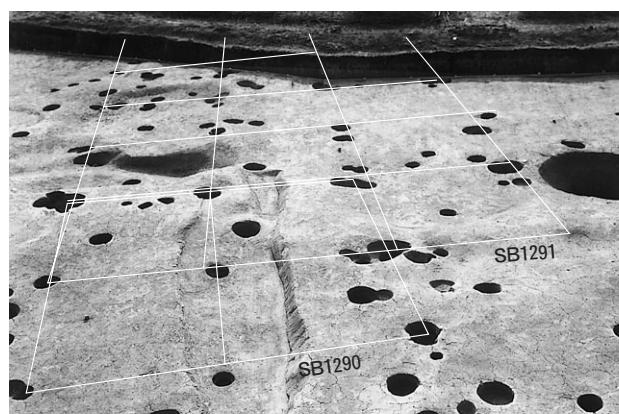
SB1284・1285（北から）



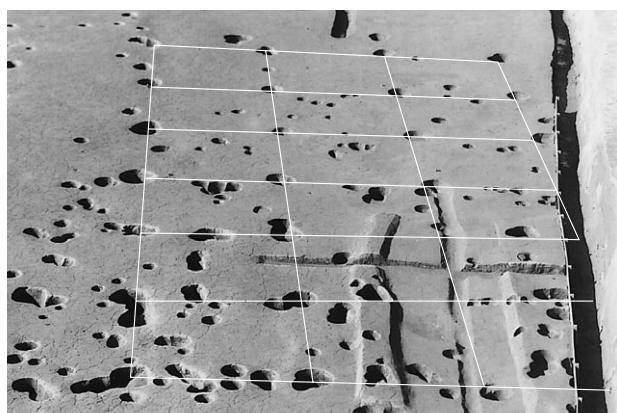
SB1287・1288（西から）



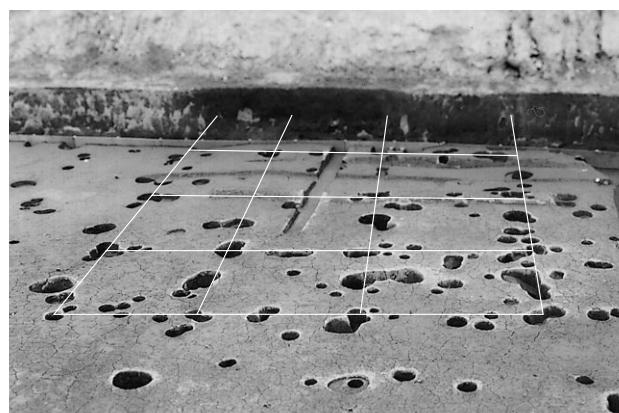
SB1289（北から）



SB1290・1291（北から）



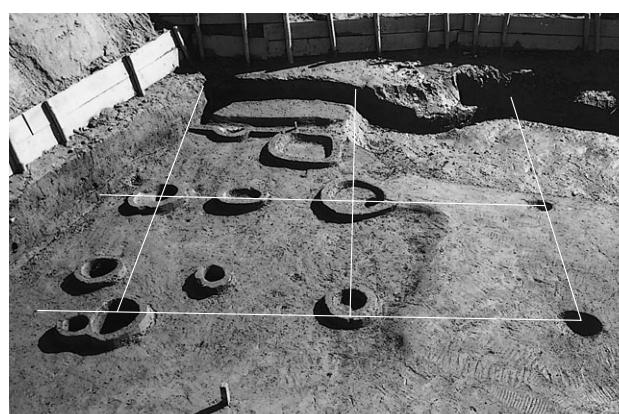
SB1293（東から）



SB1294（北から）



SB1310（東から）



SB1278（西から）



SE1262 半截状況（南から）



SE1262（南から）



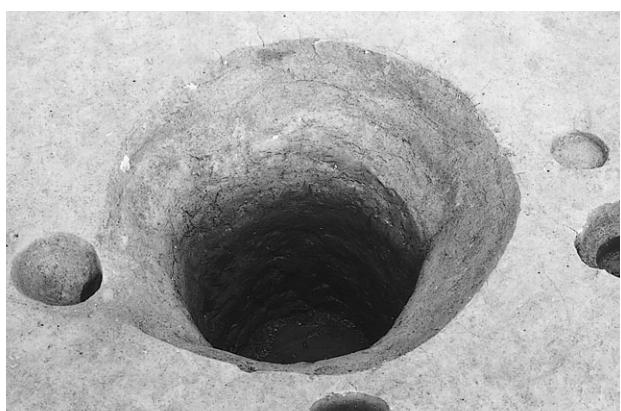
SE1279（北から）



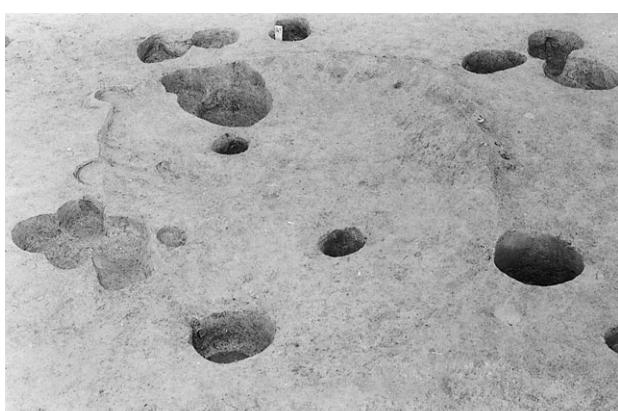
SE1301（西から）



SE1253（北から）



SE1257（南から）



SK1254（南から）

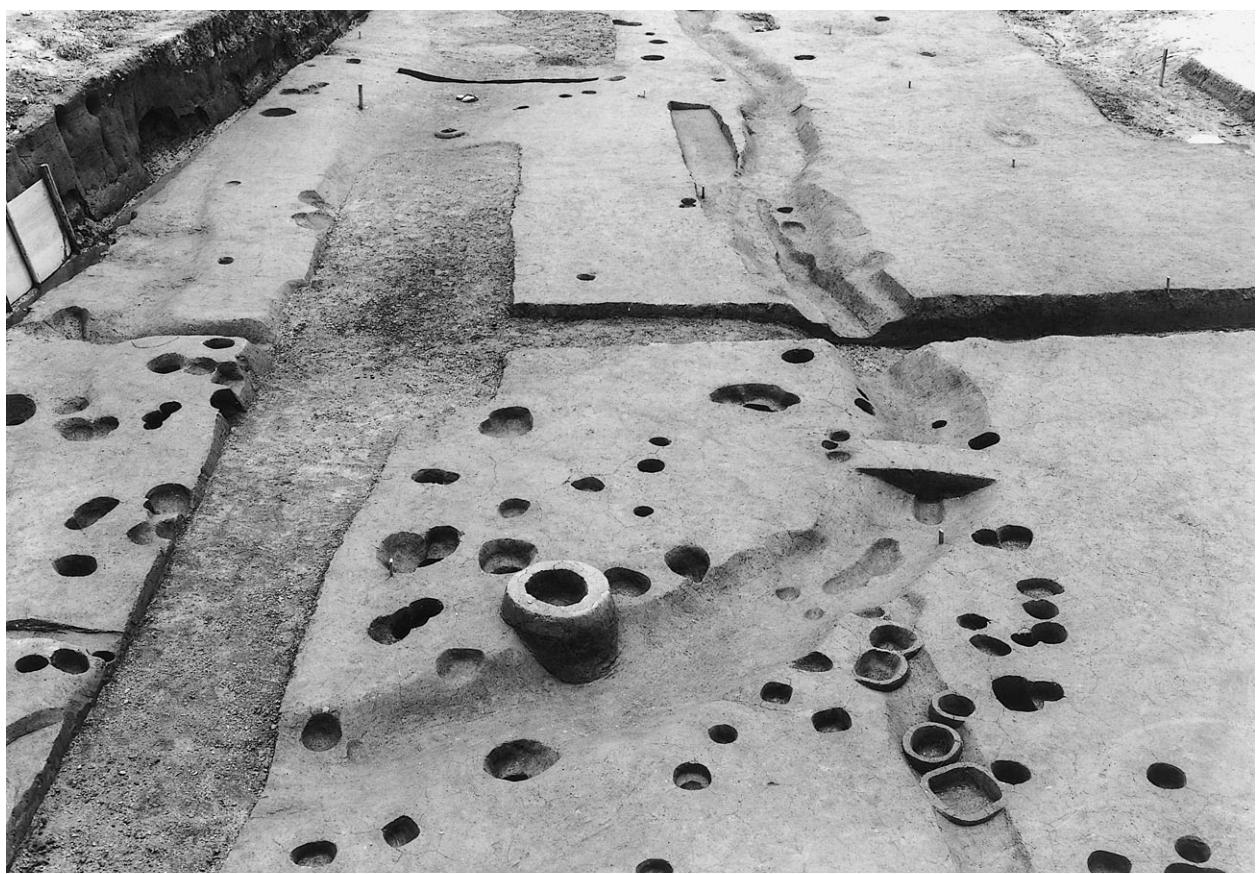


SD1276（西から）

図版 20



SD1273・1274（西から）



SD1295（西から）

图版 21



6



14



288



32



33



37



38



40

図版 22



41



43



41 底部



47



50



51



52



53

图版 23



57



60



61



65



68



73



76



77

図版 24



80



88



80 口縁部



89



106



109



118



130



127 口縁部



128



127



128 体部



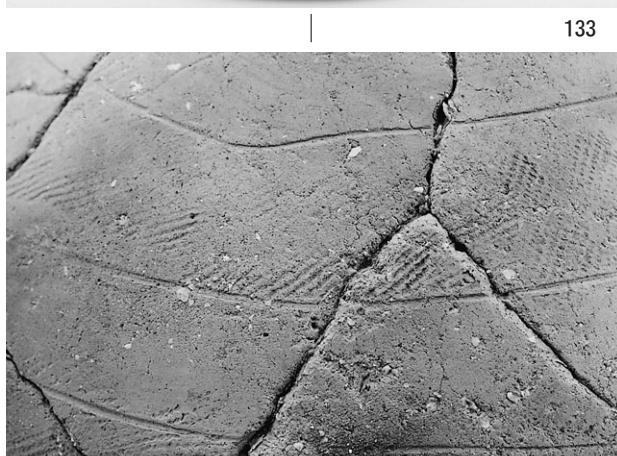
131



133



135



133 体部

図版 26



138



143



144



147



150 底部



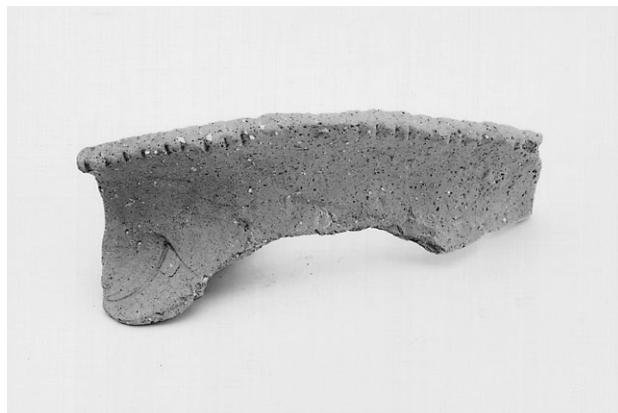
152



153



154



155



156



157



158



161 外面



164



161 内面



171

図版 28



172



173



175



176



177



178



179



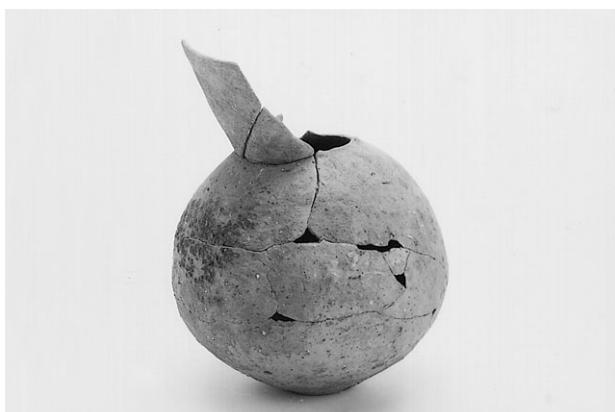
180



181



182



183



184



185



187



189



190

図版 30



196



197



198



199



200



201



202



203



204

图版 31



206



208



206



211



210



211



212



213

215

219

図版 32



220



222



224



227



229



232



230



234



235



239



236



239 杯部・脚部接合状况



240



241



244



245 体部内面

図版 34



247



248



250



251



252



253



254



255



256



257



258



259



265



266



269



272

図版 36



279



284



286



287



290



291



292



295



294



296



294 底部



297



298



299



300



301

図版 38



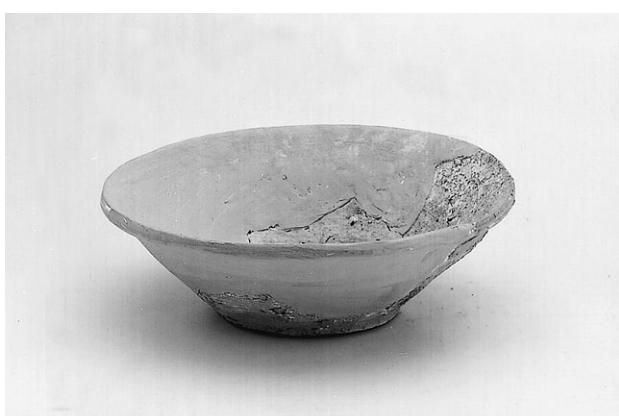
306



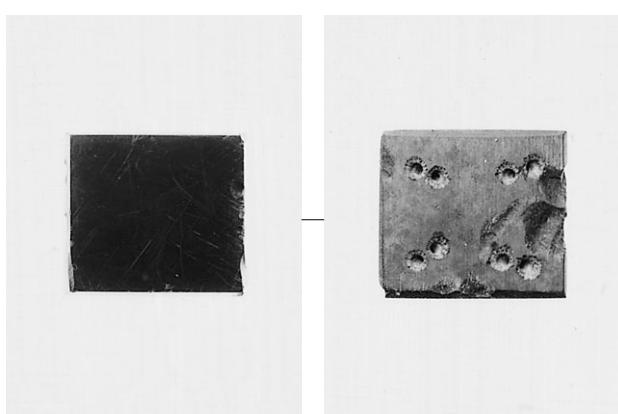
307



308



309



310 表面

310 裏面



315



316



317



318



319



321



325



328



330



358



359

図版 40



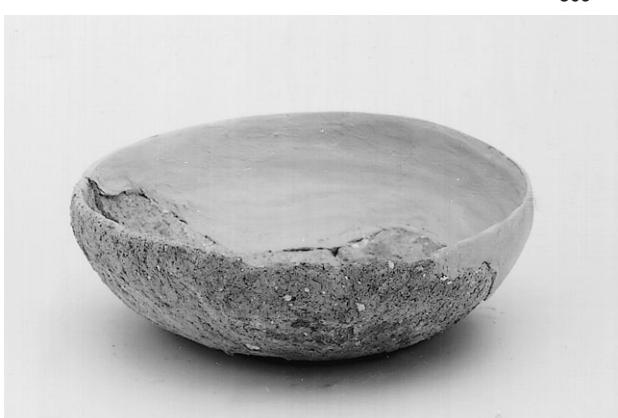
364



365



366



367



368



369



370



371

図版 41



374



375



398



400



401



402

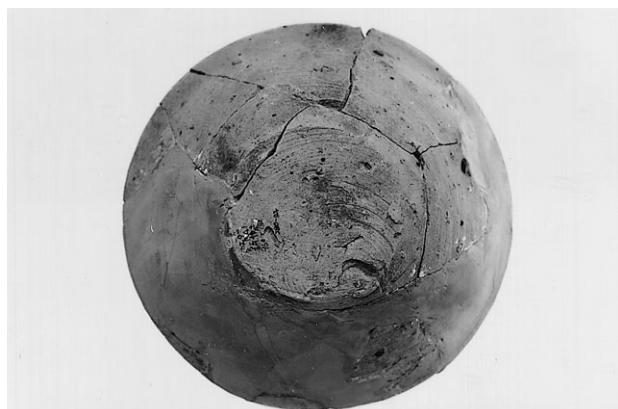


406



408

図版 42



409



410



411



410 下から



418



422



425



437



447



459



462



466



472



480



482



483

図版 44



486



491



503



507



508



510



511



514



516



524



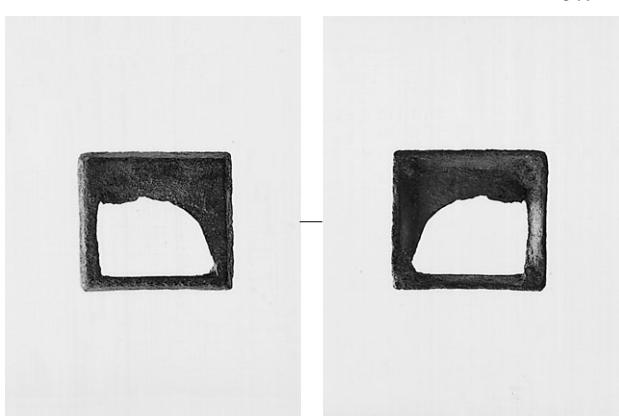
530



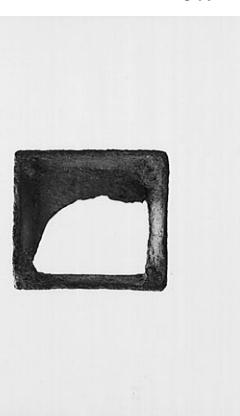
541



553



601 表面



601 裏面



621



656

図版 46



664



670



678



681



695



697



704



707



709



713



727



728



752



754



758



759

図版 48



761



764



765



766



768



771



773



777



780



782



792



795



796



798



799



801

図版 50



802



815



817



820



832



838



837



838 底部

图版 51



839



840



841



843



851



852



854



861

図版 52



864



865



868



875



880



885



889



892



894



895



899



905



912



915



916



927

図版 54



932



934



935



940



942



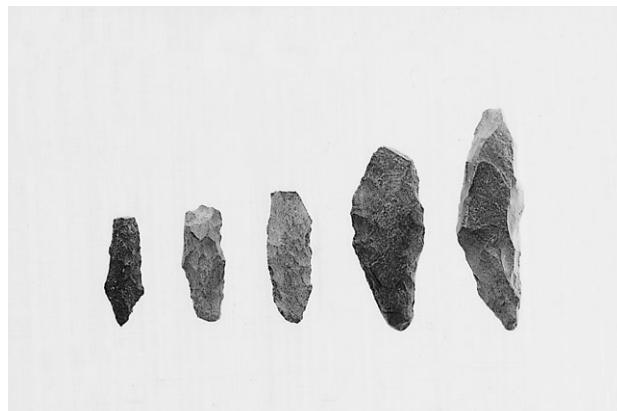
951



984



1009



1002・964・1001・978・980



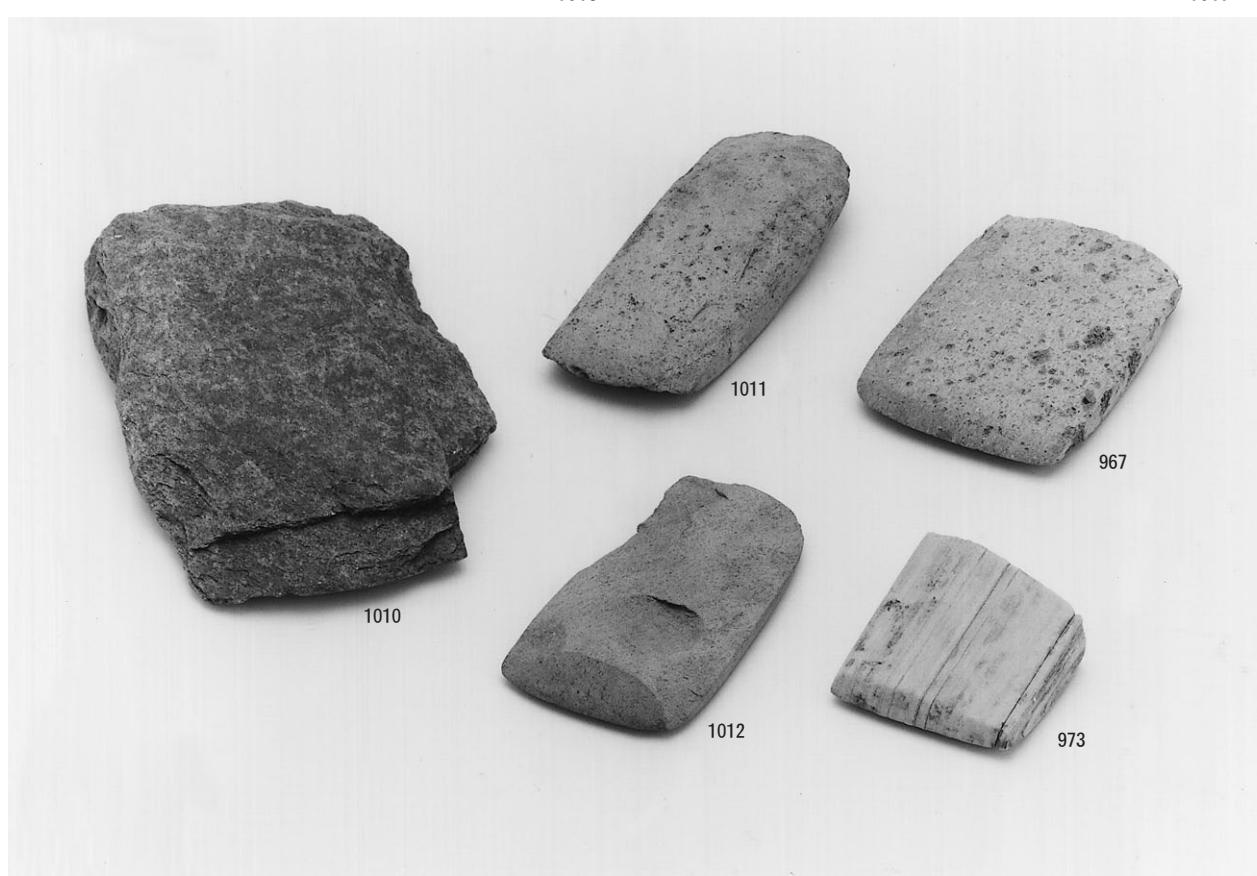
1007・1008



1019

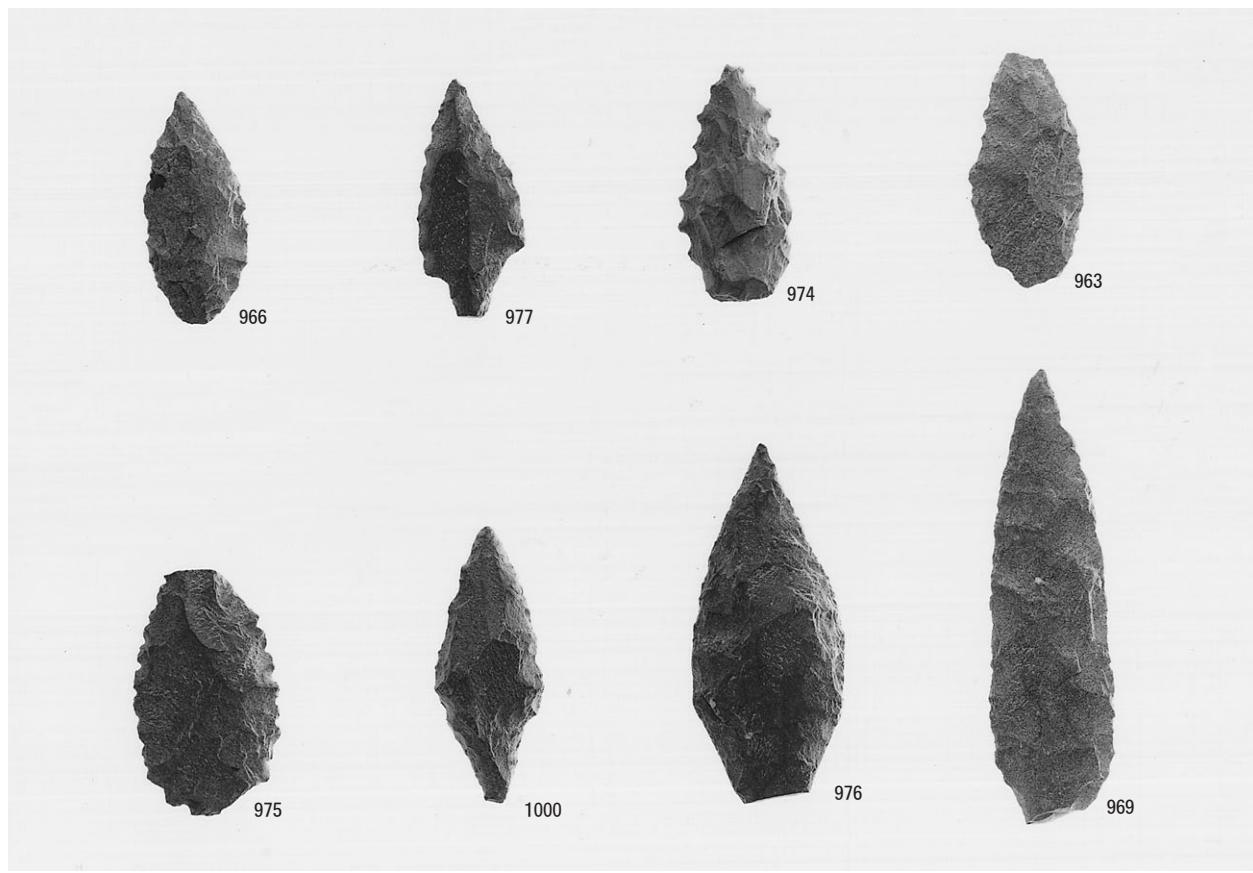


1017

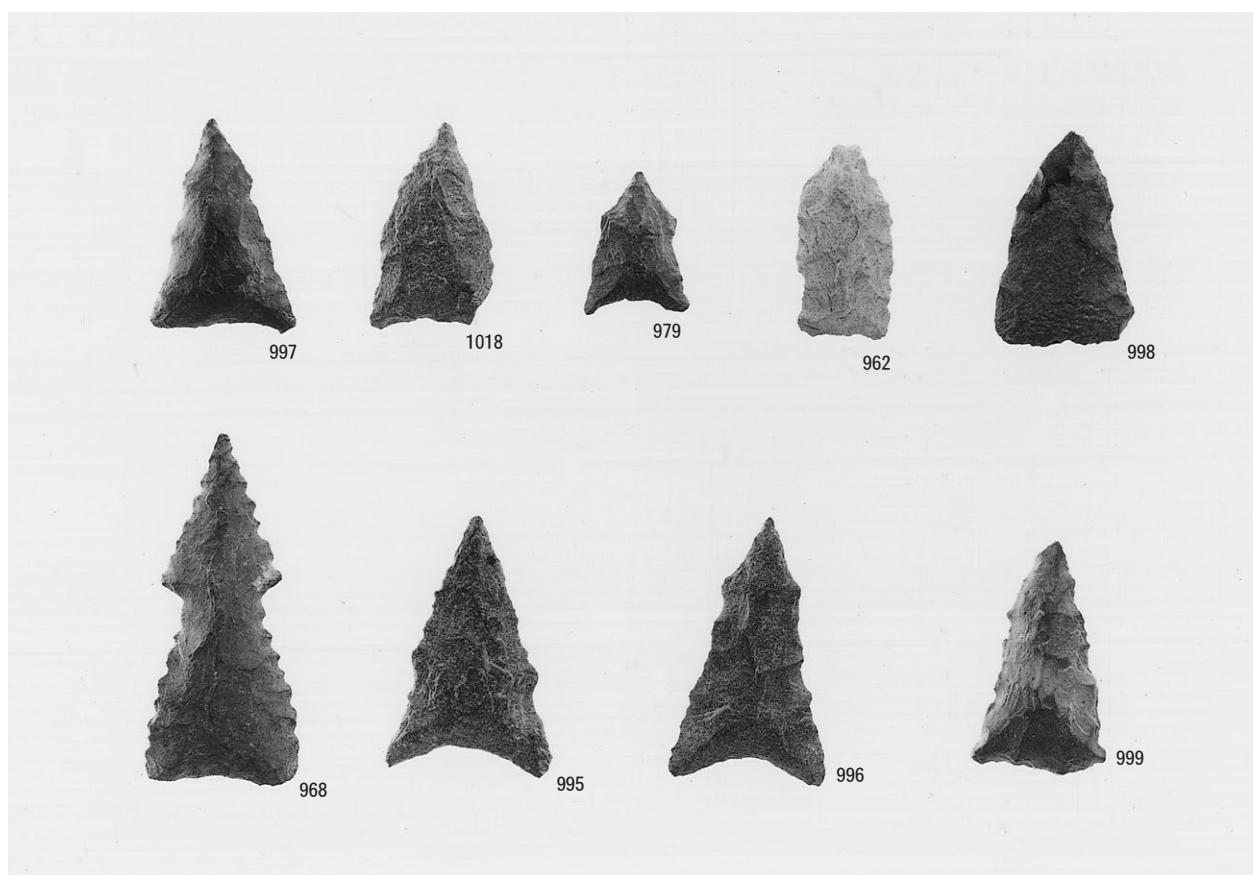


石斧

図版 56



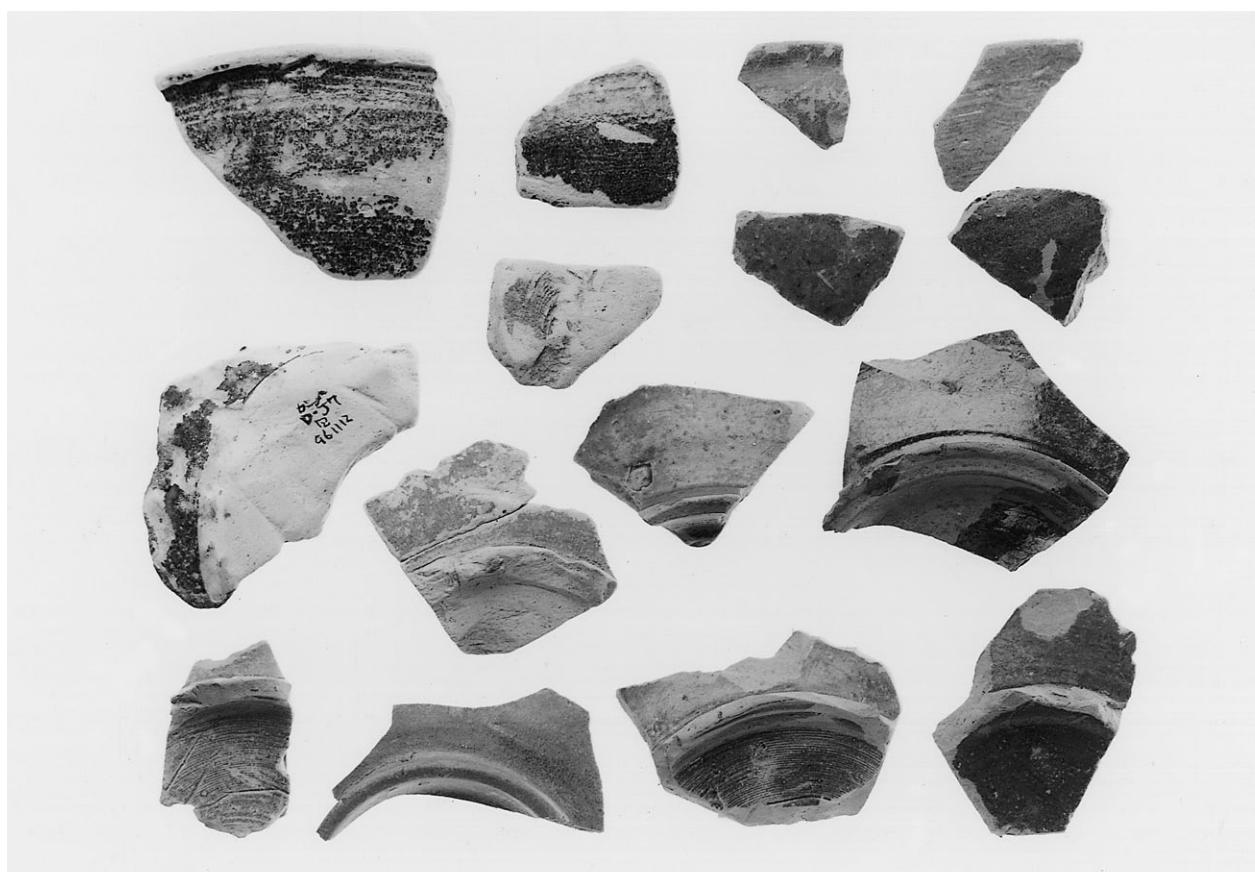
石鏃 1



石鏃 2

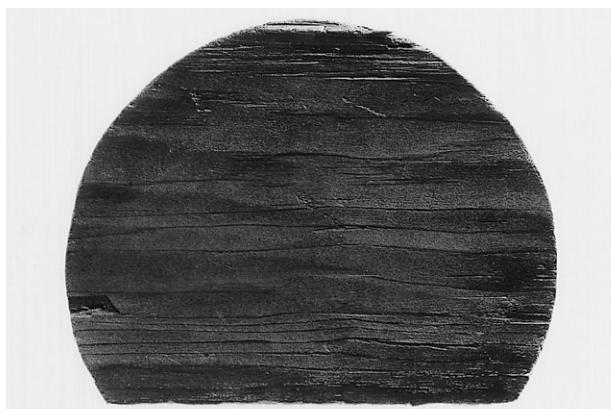


土錘

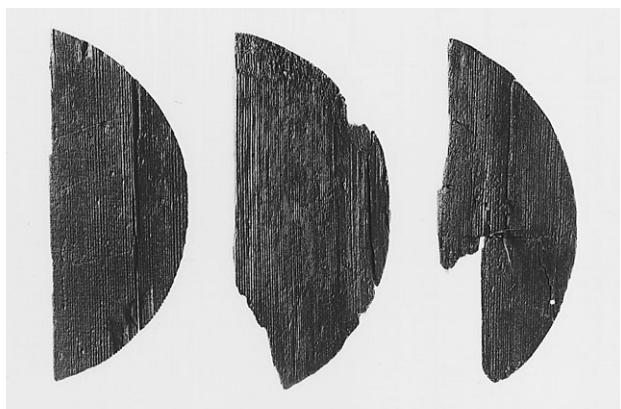


綠釉陶器

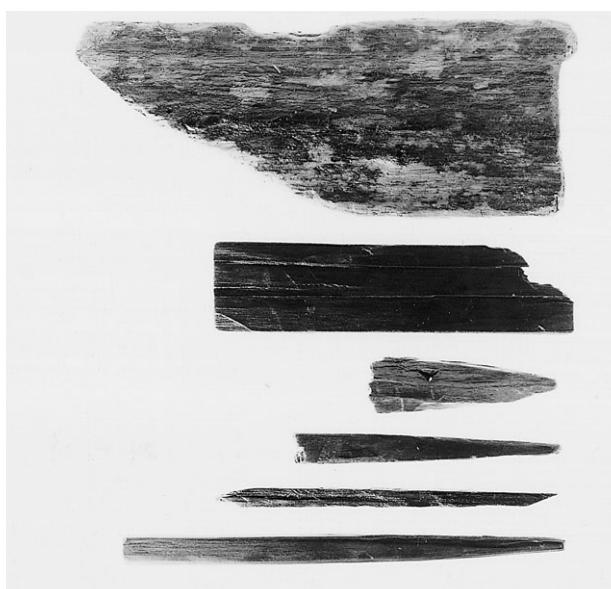
図版 58



1033



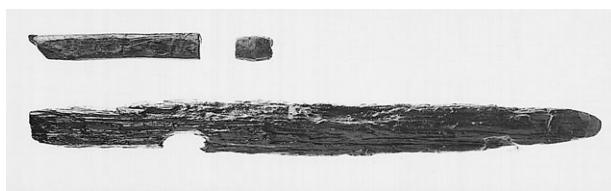
1037・1049・1048



1043・1034・1039・1032・1035・1036



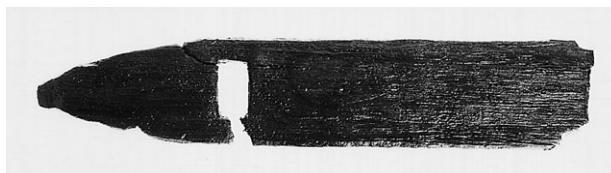
1067



1040・1038・1042



1069



1046



1070



1094・1082

報 告 書 抄 錄

付図

第95図 B地区遺構平面図(1:200)

第96図 C・D地区遺構平面図(1:200)

替田遺跡（第1・2次）発掘調査報告

2008（平成20）年3月

三重県埋蔵文化財調査報告 115-15

付図

第95図 B地区遺構平面図(1:200)

替田遺跡（第1・2次）発掘調査報告

2008（平成20）年3月

三重県埋蔵文化財調査報告 115-15



第95図 B地区平面図 (1:200)

付図

第96図 C・D地区遺構平面図(1:200)

椿田遺跡(第1・2次)発掘調査報告

2008(平成20)年3月

三重県埋蔵文化財調査報告 115-15



第96図 C・D地区平面図 (1:200)

三重県埋蔵文化財調査報告 115-15

一般国道23号中勢道路(10工区)建設事業に伴う
替田遺跡(第1・2次)発掘調査報告

2008(平成20)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印 刷 光出版印刷株式会社
